

AS/400

SC88-5342-00
(英文原典 : SC41-3735-00)

**システム/38 環境
プログラミング**

バージョン 3



AS/400

SC88-5342-00
(英文原典 : SC41-3735-00)

**システム/38 環境
プログラミング**

バージョン 3

注

本書の情報およびそれによってサポートされる製品を使用する前に、vページの『特記事項』に記載する一般情報を読んでおいてください。

- 1 本書は、IBM オペレーティング・システム/400 (プログラム番号 5763-SS1) , のバージョン 3 リリース 1モディフィケーション・レベル 0, およびそれ以降のすべてのリリースに適用されます。

原 典 : SC41-3735-00
Application System/400
System/38 Environment
Programming
Version 3
発 行 : 日本アイ・ピー・エム株式会社
担 当 : ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 1994.11

©Copyright International Business Machines Corporation 1994. All rights reserved.

Translation: ©Copyright IBM Japan 1994

目次

特記事項	v	言語	4-18
プログラミング・インターフェース	v		
商標およびサービス・マーク	v		
		第5章 AS/400 システムとの共存	5-1
本書について	vii	媒体の交換	5-1
本書の内容	vii	保管ファイル・データの交換	5-1
関連資料	vii	交換識別コード	5-1
本書の対象読者	vii	APPC	5-2
		パススルー	5-2
第1章 システム/38 環境への移行	1-1	オブジェクト配布	5-2
操作上の相違点	1-1	SNADS	5-2
移行援助ユーティリティー	1-2	通信ファイルまたは混合ファイルを使用する交換	5-2
移行援助ユーティリティーを使用しない場合のオブ ジェクトの移動	1-3	DDM を使用する交換	5-2
AS/400 システムでのシステム/38 オブジェクトの 復元	1-3	警報	5-5
主要な変更点	1-3	PC データの交換	5-5
システム/38 環境の定義方法	1-5	ジャーナル・オブジェクトの交換	5-5
システム/38 環境とは	1-6		
システムの操作方法	1-10	第6章 AS/400 システムでのシステム/38 適用業 務の保守	6-1
オブジェクト属性および原始仕様のタイプ	1-10	大部分の処理の自動化	6-3
例	1-14	機能別リスト	6-4
複数のシステム/38 から 1 つの AS/400 システ ムへの移行	1-15	APF	6-4
		CL	6-4
第2章 移行後に必要な変更	2-1	CL プログラム	6-4
オペレーティング・システム/400 プログラム	2-1	コマンド定義	6-4
ユーティリティーおよびその他のライセンス・プ ログラム	2-63	コミットメント制御	6-4
言語	2-68	データ記述仕様 (DDS)	6-4
		データベース	6-4
第3章 システム/38 環境から OS/400 プログラ ムへの変換	3-1	メッセージ処理	6-4
概要	3-1	プログラム	6-4
CL プログラムおよびジョブ・ストリーム	3-1	戻りコード	6-4
ファイルおよびデータ管理に関する変更	3-3	言語	6-5
言語	3-5	COBOL	6-5
データ・ファイル・ユーティリティー (DFU)	3-5	報告書作成プログラム (RPG)	6-5
QUERY	3-5		
原始仕様タイプの大量変更	3-5	第7章 移行に関する詳細の要約	7-1
		移行の前にシステム/38 で行うべきこと	7-1
第4章 OS/400 プログラムへの変換に必要な変更	4-1	システム/38 オブジェクトの復元の前	7-3
概要	4-1	システム/38 オブジェクトの移行	7-5
オペレーティング・システム/400 プログラム	4-2	QGPL の処理	7-5
ユーティリティーおよびその他のプログラム・プ ログラム	4-17	移行後に行うべきこと	7-5
		付録A. システム/38 のコマンドおよびコマンド 定義	A-1
		コマンド定義ステートメント	A-1

付録B. DDS キーワードの変更	B-1	3. ライブラリー所有者の検査	D-7
付録C. 表示装置ファイルおよび印刷装置ファイルの戻りコード	C-1	付録E. システム/38 から AS/400 システムへの RPG の変換	E-1
メジャーおよびマイナー戻りコードの一覧表（表示装置および印刷装置）	C-1	AS/400 システムへの変換	E-2
付録D. サンプル・プログラム	D-1	用語集	G-1
1. 装置構成印刷プログラム	D-1	参考文献	H-1
2. あるライブラリーから別のライブラリーへのユーザー・オブジェクトの移動	D-3	索引	X-1

特記事項

本書において、日本では発表されていない IBM 製品（機械およびプログラム）、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのような IBM 製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBM ライセンス・プログラムまたは他の IBM 製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等のプログラムまたは製品を使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する動作の評価および検査はお客様の責任で行っていただきます。

IBM および他社は、本書で説明する主題に関する特許権（特許出願を含む）、商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について本書で明示されている場合を除き、実施権、使用权等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用权等の許諾については、下記の宛先に、書面による照会状を送付してください。

〒106 東京都港区六本木 3 丁目 2-31
AP 事業所
IBM World Trade Asia Corporation
Commercial Relations

本書では、発表はされていても、まだ使用可能でないプロダクトに言及している場合があります。また、本書では、まだ発表はされていないプロダクトに言及している場合がありますが、これは、IBM がこれらのプロダクトを使用可能にしようとしていることを意味するものではありません。どのプロダクトを発表するか最終的な判断は、弊社の営業的および技術的な判断に基づいて行われます。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。できる限り具体的に示す目的で、それらの例には、個人、企業、商標、あるいは製品などの名前や名称が含まれている場合があります。それらの名前はすべて架空のものであり、また名称や住所が類似する企業が実在しても、それは偶然にすぎません。

本書には、説明のための簡単な例として小規模なプログラムが示されている場合があります。これらのプログラムは、すべての条件のもとで完全にテストしてあるわけではありません。したがって、これらのプログラムの信頼性、有用性、および機能について、IBM ではいっさい保証するものではありません。本書に含まれるプログラムはすべて単なる例として示しているにすぎません。市販性および特定目的への適合性について保証する意図はまったくありません。

プログラミング・インターフェース

システム/38 環境 プログラミングでは、システム/38 から OS/400 のシステム/38 環境への移行、OS/400 プログラムへの変換、および AS/400システムとの共存について説明します。本書には、ユーザー用プログラミング・インターフェースについての説明はありません。

商標およびサービス・マーク

本書で使用する以下の用語(アスタリスク (*) で示されます)は、米国 IBM Corp. の商標です。

Advanced Peer-to-Peer Networking	Operating System/400
Application System/400	OS/400
APPN	Personal System/55
AS/400	PROFS
Common User Access	PS/55
GDDM	RPG/400
IBM	SQL/400
IBMLink	System/370
NetView	System Application Architecture
OfficeVision/400	400

本書について

本書の内容

本書では、システム/38 から OS/400 のシステム/38 環境への移行、システム/38 環境から OS/400 プログラムへの変換、および AS/400 システムとの共存に固有の事項について説明します。

- システム/38 環境への移行

システム/38 環境への移行が終わったら、次の各事項についての説明をお読みください。

- システム/38 からの変更の内容

AS/400 システムとシステム/38 の間には、変更された点があります。変更には、ハードウェアの相違に基づく変更もあり、また、操作を容易にしシステムの統合性を高めるための変更もあります。これに関する概略については第1章で説明し、詳細については第2章で説明します。

- 移行援助ユーティリティ

移行援助ユーティリティは、システム/38 から AS/400 システムへの移行の手助けをします。概略については、第1章で説明します。

- システム/38 環境

これは、AS/400 システムに備わっている特殊なサポートであり、これを使用すると、システム/38 適用業務のほとんどを変更しないで実行することができます。システム/38 環境、およびその操作方法に関する推奨事項については、第1章で説明します。

- システム/38 環境から OS/400 プログラムへの変換

システム/38 環境でも AS/400 システムを操作することはできますが、AS/400 システムの新しい機能を効率よく使用することはできません。第3章では、適用業務を OS/400 プログラムに変換する方法について説明します。第4章では、考慮すべき変更の詳細、および OS/400 プログラムへの変換時に使用することができるいくつかの新しい機能について説明します。

- AS/400 システムとの共存

共存とは、記憶媒体の交換や通信回線によって、AS/400 システムおよびその他のシステムが同時に作動できることを意味します。共存については、次の2つの形態について考慮する必要があります。

- AS/400 システムとの通信および交換

たとえば、システム/38 から AS/400 システムへ（またはその逆に）データを送ることが必要な場合があります。その場合、記憶媒体を交換する方法と両システムを通信回線で結ぶ方法が考えられます。システム/38 を AS/400 で置き換える場合、システム/38 の通信相手となっていたシステムについても、変更を行わなければならない場合があります。交換に関する考慮事項については、第5章で説明します。

- システム/38 の原始コードの保守

たとえば、システム/38 と AS/400 システムの両方を併用し、両方の適用業務を保守するとします。この場合、OS/400 プログラムを使用すると、AS/400 システムでシステム/38 の適用業務を作成および開発することができます。これらの適用業務の保守については、第6章で説明します。

関連資料

特定項目の詳細について、IBM の他の資料を参照することが必要な場合があります。AS/400 資料概説 (SC88-5161)には、AS/400ライブラリーのすべての資料に関する情報を収めてあります。

関連資料のリストについては、H-1ページの『参考文献』を参照してください。

本書の対象読者

本書は、次のような方々を対象としています。AS/400 システムでシステム/38 の適用業務を保守したいユーザー、移行援助ユーティリティを使用して移行を終了し、オペレーティング・システム/400 (OS/400) のシステム/38環境で操作できるようにオブジェクトを変更しようとしているユーザー、および AS/400 システムとの共存モードで操作を行うシステム操作員。

OS/400 のシステム/38 環境に関して、次のようなシステム/38 の操作上の考慮事項について理解しておく必要があります

- 既存の装置およびその構成
- ファイルの構造および相互の関連
- 既存のライブラリーおよび関連のオブジェクト
- 修正を要するプログラム
- 影響を受けるデータ・ファイルおよび文書
- 基本的なシステム/38 のコマンド

- 機密保護に関するプロシージャおよび機能
- システム構造および関連のユーティリティー

共存モードでの操作またはシステム/38 の適用業務の保守を計画している場合には、システムの通信要件および必要なオブジェクトについて知っていなければなりません。場合によっては、本書の情報に基づいて、関連のファイル、プロシージャ、およびオブジェクトに変更を加える必要があります。

第1章 システム/38 環境への移行

AS/400* システムは、移行を容易にするために、システム/38 環境をサポートしています。この環境を使用すると、ほとんどの既存のプログラムを、変更しないで使用することができます。システム/38 環境では、次のことが可能になります。

- システム/38 から新しい AS/400 システムへの容易な移行
- システム/38 適用業務と新しい AS/400 システム機能との交換
- AS/400 システムでのシステム/38 適用業務のメンテナンス

この章では、OS/400 システム/38 環境の概略、および同環境下の操作に関する機能上の考慮事項について説明します。システム/38 とシステム/38 環境との間の主な相違点には次のものがあります。

ハードウェアの相違点: システム/38 と AS/400 システムとでは、処理装置およびそれに接続される装置のいくつか異なります。

操作上の相違点: ハードウェアの相違、互換性を確保するための変更、使いやすくするための変更、またはコマンド構文の相違による操作上の相違があります。

プログラミング上の相違点: プログラミング上の相違点のいくつかは、ハードウェアの相違点に起因するものです。最も変更の多い分野は、システムの操作と管理（たとえば保管および復元）に使用する適用業務です。エンド・ユーザー適用業務については、多くの場合、変更はあるとしてもわずかです。主な変更事項についてはこの章で説明し、その詳細については第2章で説明します。

操作上の相違点

システム/38 環境を使用すると、システム/38 用のほとんどのプログラムを実行することができます。

システム/38 環境と AS/400 システムとの間の主な相違点には、次のものがあります。

構文の変更: 修飾名の構文には、次のような違いがあります。

システム/38環境	CALL	PGM(PGMX.LIBY)
OS/400	CALL	PGM(LIBY/PGMX)

AS/400 システム・サポートは、システム/38 およびシステム/36 の両方の変換が可能となるように設計されています。システム/36 では、オブジェクト名の中にピリオドを使用することができます。システム/36 のオブジェクトの変換を可能にするために、AS/400 システムの名前内でも、ピリオドは有効な文字として扱われます。これには、新しい構文文字'/'を区切り文字として使用する（ピリオドの代わりにスラッシュを使用する）必要があります。

修飾名の構文だけが異なることに注意してください。非修飾名を使用する場合には、構文は同じになります。

システム/38環境	CALL	PGM(PGMX)
OS/400	CALL	PGM(PGMX)

コマンド名の変更: システム間の互換性を高めるために、コマンド名がいくつか変更されました（たとえば、STR や END などの動詞）。（変更の詳細なリストについては、付録Aを参照してください。）次に変更の例をいくつか示します。

システム/38 環境	AS/400 システム
CNLJOB	ENDJOB
CNLSPLF	DLTSPLF
EDTSRC	STRSEU
ENTDBG	STRDBG
RPLLIBL	CHGLIBL
STPCTLR	ENDCTLR
TRMSBS	ENDSBS

キーワードの変更: システム/38 のコマンドで、キーワードが削除されたり、パラメーター値が変更されたりしているものがいくつかあります。たとえば、アドレスの再生成が不要になったため、PWRDWN SYS ADDRGN パラメーターは削除されています。ほとんどのコマンドの場合、システム/38 環境では、このような削除されたパラメーターを指定することができますが、それらはコマンドの実行時には無視されます。

省略時値の変更: コマンド・パラメーターには、省略時値が変更されたものがいくつかあります。たとえば、SBMJOB コマンドの INLLIBL パラメーターの省略時値は、システム/38 環境では *JOBID ですが、OS/400 プログラムでは *CURRENT です。

システム/38 環境でのみサポートされるコマンド: たとえば、システム/38 における IDU の照会ユーティリティおよびデータ・ファイル・ユーティリティ (DFU) の機能は、システム/38 環境でのみサポートされます。AS/400 システムには、システム/38 における QUERY および DFU に類似した機能があります。

新しい機能: コマンド・ヘルプ機能は、OS/400 のコマンドについてのみ使用可能です。また、OS/400 プログラムでのみ使用できる新しいコマンドおよび機能があります。

移行援助ユーティリティ

AS/400 システムへのファイルおよびオブジェクトの移行は、移行援助ユーティリティを使用すると、容易に行うことができます。AS/400 システムでシステム/38 適用業務のメンテナンスを行うユーザー、および共存モードで操作を行うユーザーの方に、このユーティリティによって行われる移行タスクを理解していただくために、このユーティリティの機能と働きについて簡単に説明しておきます。

移行援助ユーティリティは、システム/38 のオブジェクトを AS/400 システムに移行する際に役立ちます。このユーティリティの一部はシステム/38 で作動し、一部は AS/400 システムで作動します。1 つまたは複数のライブラリーを同時に移行することも、オブジェクトを個別に移行することもできます。監査証跡報告書、要約報告書、および例外報告書が作成されます。

システム/38 移行援助ユーティリティは、AS/400 システムで作動しない機能を識別します。これらの機能を検討して変更してからでないと、システム/38 環境での操作を正しく行うことができません。

移行援助ユーティリティは、装置構成 (装置記述、制御装置記述、および回線記述が含まれる) およびユーザー・プロファイルの変換に役立ちます。ほとんどのオブジェクトについて、移行援助ユーティリティは、システム/38 からの保管操作および AS/400 システムでの復元操作を行います。プログラム・オブジェクトを移行するには、プログラムにプログラム・テンプレートが入っていない必要があります。プログラム・テンプレートの詳細については、2-36 ページの『保管および復元』を参照してください。移行援助ユーティリティは、ライブラリーの識別できないプログラム (すなわち、テンプレートのないプログラム) の識別に役立ちます。プログラム・テンプレートが除去されている場合、OS/400 でそのプログラムを再作成するために、原始プログラムを使用しなければなりません。システム/38 PASCAL プ

ログラムは、常に原始プログラムから再作成しなければなりません。

移行援助ユーティリティにより保管された装置構成オブジェクトは、AS/400 システムで移行援助ユーティリティを使用して復元されます。このユーティリティは、新しい AS/400 システム内部様式に合わせて、構成オブジェクトをマッピングします。サポートされない装置 (たとえば、ディスケット・マガジン装置など) の装置構成は、移行援助ユーティリティによって無視されます。

システム/38 と AS/400 システムとでは、機密保護上の権限の機能に関する定義が異なります。移行援助ユーティリティを使用すると、システム/38 バージョンからの権限の移行を、最小限の変更で行うことができます。この特殊な移行機能は、移行援助ユーティリティがないと使用できません。2-38 ページの『機密保護』を参照してください。

さらに、移行援助ユーティリティは、パーソナル・サービス/38 のオブジェクト (グループ予定表は除く) も移行します。

ただし、移行援助ユーティリティは、システム/38 のすべてのオブジェクトを移行するわけではありません。次のような事項については、手操作で変換を行わなければなりません。

- 一部のシステム値
- ネットワーク属性
- ジョブ会計ジャーナル
- システム・ネットワーク体系配布サービス (SNADS) 構成
- ユーザー補助記憶域プール (ASP)
- チェックサム

移行援助ユーティリティは、システム/38 とシステム/38 環境との間のすべての相違点を判別するわけではありません。ある種の操作上の相違点 (たとえば、使用する機能キーの違いなど) は、対話方式で実際に使ってみるまではわかりません。また、第2章で記述されている特定事項を見つけるために、原始仕様およびオブジェクトの一部を走査することが必要な場合もあります。

移行援助ユーティリティは、IBM*のライセンス・プログラムの移行は行いません。AS/400 システムには、AS/400 ライセンス・プログラムを導入する必要があります。

詳細については、システム/38-AS/400 移行援助プログラム 使用者の手引きと参照を参照してください。

移行援助ユーティリティーを使用しない場合のオブジェクトの移動

移行援助ユーティリティーは、AS/400 システムでサポートされない機能を識別します。この種の機能には、本書を使用し、原始仕様およびオブジェクトを走査することによって判別できるものもあります。

移行援助ユーティリティーは、機密保護、装置構成、およびパーソナル・サービス/38 オブジェクトの移行に重要な役割を果たします。この点を除けば、このユーティリティーの主な機能は、システム/38 での保管操作と AS/400 システムでの復元操作です。

システム/38 のディスク装置のハードウェアの移設を行って、そのディスク装置にあった情報を使用することはできません。AS/400 システムでは、9332 ディスク装置または 9335 ディスク装置を使用することができません。ただし、システム/38 で保管を行い、それらのディスク装置を初期設定してから、AS/400 システム上で復元コマンドを使用しなければなりません。

AS/400 システムの復元機能は、システム/38 の保管コマンド（たとえば SAVLIB）により保管されたオブジェクトを変換します。

プログラム・オブジェクトは、プログラム・テンプレートが含まれている場合にのみ復元することができます。プログラム・テンプレートの詳細については、2-36ページの『保管および復元』を参照してください。

システム/38 での SAVSYS 操作によって書き込まれたテープ媒体を使用して、ユーザー・プロファイルを復元することはできますが、権限 (2-38ページの『機密保護』を参照) は変換されません。装置構成および権限に関する情報は、システム/38 および AS/400 システムの両方で、移行援助ユーティリティーを使用しないと移行できません。

システム/38 から保管した QGPL ライブラリーを復元する際には、AS/400 システムの出荷時の初期値がオーバーレーされることになるため、十分に注意してください。代わりに、選択したオブジェクトのみを RSTOBJ コマンドにより復元するか、またはシステム/38 の QGPL ライブラリーを AS/400 システム上の別のライブラリーに復元する必要があります。QUSRSYS ライブラリーは復元してはなりません。第7章の推奨事項を参照してください。

AS/400 システムでのシステム/38 オブジェクトの復元

システム/38 のオブジェクトを AS/400 システムで復元すると、いくつかの変更が加えられます。（詳細については、第2章を参照してください。）

プログラムには、プログラム・テンプレートが含まれていなければならない、プログラムは新しい内部形式に変換されます。(2-36ページの『保管および復元』を参照してください)。

システム/38 から保管されたデータベース・アクセス・パスは、アクセス・パスの復元に関する要件が満たされていれば、復元されます（再作成はされません）。この要件は、基本的には、システム/38 におけるアクセス・パスの復元に関する要件と同じです。この要件は、AS/400 拡張バックアップおよび回復の手引きの保管および復元操作に関する章に示されています。

主要な変更点

システム/38 とシステム/38 環境との主な相違点は次のとおりです。以下の情報は、システム/38 環境への正常な移行に必要な変更のタイプを判断するために利用してください。以下の相違点および他の相違点の詳細については、第2章で説明します。

ハードウェアの相違点: サポートされる装置のリストについては、システム/38 移行計画を参照してください。主な装置および相違点については、この節で説明します。ハードウェアについては、次のような相違点も考慮に入れる必要があります。

- 62PC 内部ディスク装置および 3370 外部ディスク装置はサポートされません。9332 ディスク装置および 9335 ディスク装置はサポートされます。
- システム/38 に接続される 3410 および 3411 テープ装置はサポートされません。
- システム/38 の操作卓装置に相当するものではありません。ワークステーション装置のどれかを操作卓として使用しなければなりません（専用にする必要はありません）。
- ハードウェア制御パネルには大きな違いがありません。
- ディスケット・マガジン装置はサポートされません。1つのスロットをもつディスク装置は、オプションとして使用できます。

- システム接続印刷装置はサポートされません。ワークステーション印刷装置のみがサポートされます。
- 5251-1 型および 2 型 (12x80 表示装置) はサポートされません。
- 5252 (複式表示装置) はサポートされません。
- 2 バイト文字セット (漢字) 印刷装置 5224-12 型および 5225-11 型ならびに 12 型はサポートされません。
- 基本の無停電電源装置 (UPS) はサポートされますが、システム/38無停電電源装置計画の手引きで説明されている方式ではサポートされません。以前と同様の全面的なサポートがありますが、内容は変更されています。
- クライアント・アクセス/400 プロダクトは、以下のものをサポートしません。
 - 5294 遠隔制御装置を介しての接続。5394 遠隔制御装置を使用しなければなりません。
 - 5208 または RolmBridge を介しての非同期接続。非同期接続装置への直接接続を使用しなければなりません。

クライアント・アクセス/400 の詳細については、クライアント・アクセス/400 (拡張 DOS) セットアップを参照してください。

- 5424 カード装置はサポートされません。
- システム/370(System/370*) チャンネルに対する RPQ はサポートされません。
- 56KB DDSA 回線はサポートされません。

操作上の変更: 以下の変更は、必ずしもプログラムに影響を及ぼすとは限りませんが、再訓練が必要になる場合があります。

- 新しい操作制御パネルやテープ装置などのハードウェア関連の変更があります。
- システム画面および印刷出力が変更されました。システム画面のほとんどは、共通ユーザー・アクセス (Common User Access*(CUA)) に関するシステム・アプリケーション体系 (System Application Architecture*(SAA)) のガイドラインに従っています。コマンド・キーは再定義されています。ほとんどの画面で、コマンドおよびパラメーターの入力ができるようになっています。
- システムの操作に役立つシステム・メニューがあります。
- コマンド・プロンプターは、パラメーターの入力を容易にするために変更されました。複雑なコマンド

の場合には、まず少数のパラメーターが表示され、それらのパラメーターに入力した値に応じて、必要なパラメーターが次に表示されます。

- システムのサービス機能面が大幅に改善されました。問題の診断、弊社との連絡、プログラミング変更の受領などに役立つ機能が増えました。
- 弊社提供のメッセージ・テキストが変更されました。
- 省略時値が変更されたコマンドがいくつかあります。たとえば、システム/38 環境では、SBMJOB コマンドの RTGDTA パラメーターの省略時値は、*JOBID ではなく QCMD38 です。
- いくつかの機能については、エンド・ユーザーが少ない小規模の構成でのシステム操作を簡素化するための省略時値が設定されています。システム/38 との互換性を確保するためには、特定の省略時値を変更する必要があります。たとえば、システムの出荷時に、機密保護レベルは、サイン・オンにパスワードを必要としない状態になっています。
- パスワードによる保護が必要な場合、サポートされる唯一の方式は、2 レベルのサイン・オン (ユーザー名およびパスワード) です。単一レベルのサイン・オン・オプション (パスワードのみ) はサポートされません。
- システム/38 の CSNAP コマンドはサポートされません。

プログラミングに関する変更: 考慮に入れる必要がある重要なプログラミング上の変更には、次のものがあります。

- ハードウェアの変更に伴うプログラミングの変更。たとえば、任意選択のディスク装置は、単一スロットのみをサポートし、複数スロットはサポートしません。また、システム印刷装置は存在しないため、印刷イメージおよび CLNPRT コマンドは無意味です。
- 操作上の変更に伴うプログラミングの変更。たとえば、CPYSPLF を使用してシステムの印刷出力をデータベース・ファイルにコピーするプログラムがある場合、多くの場合に印刷出力の様式が変更されています。
- 装置構成コマンドの CRT および CHG は、全面的に置き換えられています。したがって、システム/38 のコマンドは、システム/38 環境では作動しません。
- テキスト管理ライセンス・プログラムも、パーソナル・サービス/38 の編集プログラムもサポートされ

ません。AS/400 テキスト管理/38 を使用すると、これらのほとんどの機能と同じ機能を使用することができます。これらの機能のいずれかを使用して作成された文書は、その文書自体および文書処理の方法をある程度変更すれば、オフィスビジョン/400 (OfficeVision/400*) 文書に移行することができます。

システム/38 テキスト管理とオフィス・ビジョン/400 との間の相違については、2-67ページの『テキスト管理 (5714-WP2)』、および *Using OfficeVision/400 Word Processing* を参照してください。オフィスビジョン/400 への文書の移行に関する詳細については、システム/38-AS/400 移行援助プログラム 使用者の手引きと参照を参照してください。

- クライアント・アクセス/400 を使用するすべてのパーソナル・コンピューターおよび PS/55* は、DOS レベル 3.3 またはそれ以上に更新しなければなりません。
- システム値およびネットワーク属性に対して削除および変更が加えられました。これらの事項には、移行援助ユーティリティによっては移行されないものもいくつかあります。これらの値を新しいシステムに移行するためのモデルとして使用できるプログラムの例については、システム/38-AS/400 移行援助プログラム 使用者の手引きと参照を参照してください。移行されない値は、手操作によって AS/400 システムに再入力しなければなりません。
- 機密保護の変更に伴って生じるプログラミング変更もあります。権限の処理方法についての変更がありました (2-38ページの『機密保護』を参照してください)。
- システム/38 と OS/400 の両方のプログラムの SBMJOB コマンドの省略時値が変更されました (2-62ページの『実行管理機能』を参照してください)。

システム/38 環境の定義方法

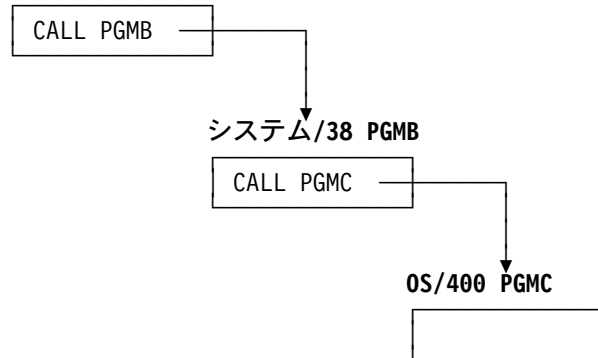
システム/38 環境は、プログラムまたはファイルの属性として具体化されます。システム/38 環境属性を備えたプログラムを実行した場合、そのプログラムは、システム/38 の構文、コマンド定義、および機能を使用します。

システム/38 オブジェクトを AS/400 システムで復元すると、いくつかのオブジェクトに、システム/38 環境オブジェクトとしてのマークが付けられます。原始ステ

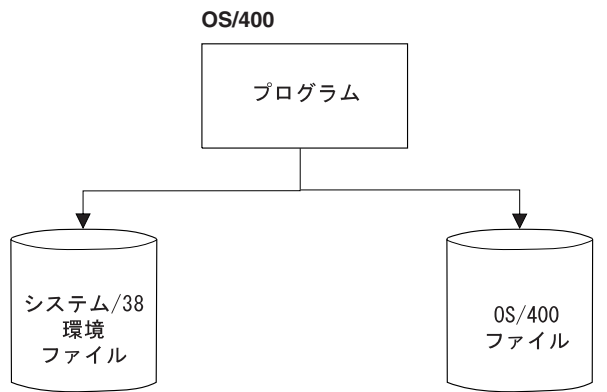
ートメント入力ユーティリティ (SEU) を使用すると、システム/38 の構文を入力することができます。AS/400 システムにシステム/38 環境オブジェクトを作成することができます。

システム/38 環境と OS/400 の両方のプログラムを、任意の組み合わせで実行することができます。

OS/400 PGMA



1 つのプログラムの実行中に、システム/38 または AS/400 システムのどちらのタイプのファイルでも使用することができます。たとえば、OS/400 またはシステム/38 のプログラムが、システム/38 環境のファイル、OS/400 のファイル、またはその両方にアクセスすることができます。



RV2W301-0

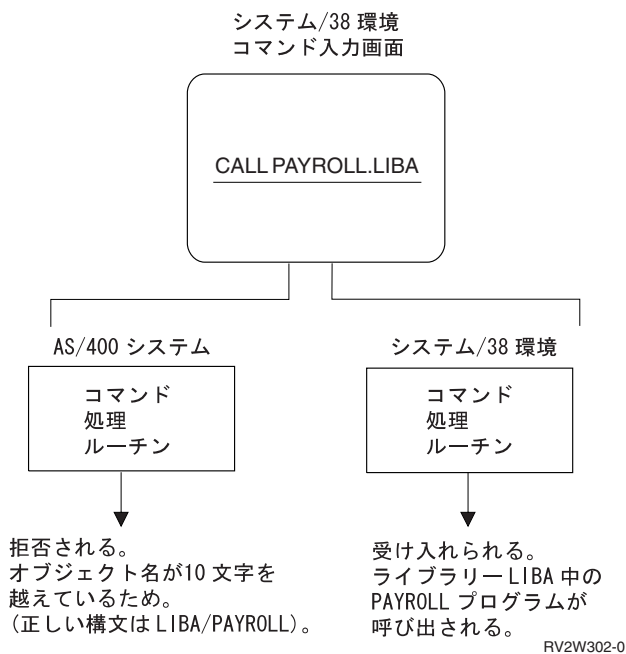
システム/38 のコマンド入力画面またはプログラマー・メニューで行う操作では、プログラムに渡すデータをユーザーが入力します。このデータは、ほとんどの場合、コマンドの形式をとります。これは、バッチ・ジョブを投入する場合も同じです。入力したコマンドは、経路指定ステップ・プログラムへの入力データとなります。

適用業務プログラムには、その適用業務プログラムが特にコマンドの処理ができるように書かれていない限り、コマンドの形式でデータを渡すことはできません。コマンドを処理するプログラムを書く場合には、必要な構文

規則（たとえば、必要なキーワード、または修飾名の指定方法など）に従って、プログラムを書かなければなりません。システム/38 環境のコマンド処理プログラムと OS/400 のコマンド処理プログラムは、類似した方法によって作動します。OS/400 プログラムとの整合性のないシステム/38 環境プログラムの場合には、それに適合した正しい構文でデータを入力するよう注意してください。

QCAEXEC	QCMDEXC
QCACHECK	QCMDCHK
--	QPGMMENU

プログラマー・メニュー (QPGMMENU) には、システム/38 環境バージョンはありません。システム/38 タイプの原始仕様の操作やシステム/38 環境オブジェクトの作成を要求することはできません。ただし、コマンド行にコマンドを入力する場合には、OS/400 の構文を使用しなければなりません。新しいプログラミング開発管理プログラムも、OS/400 の構文しか受け入れません。



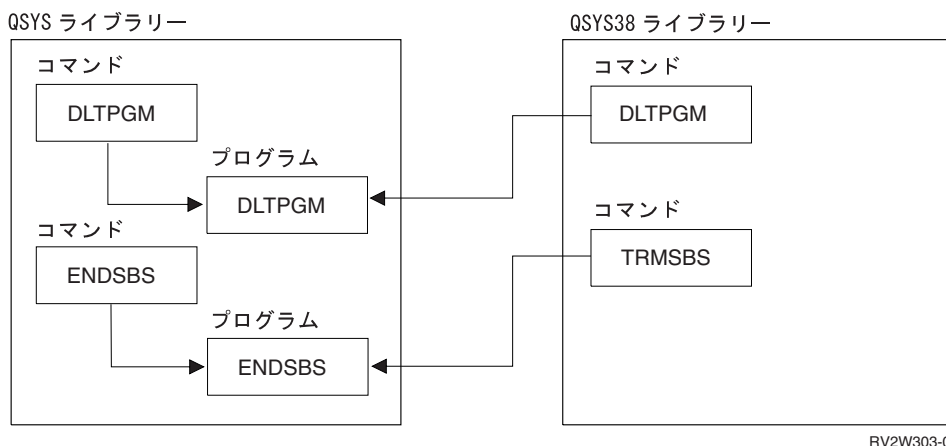
どちらの構文でもコマンドの入力ができるように、弊社提供のプログラムが用意されています。次に例を示します。

システム/38 環境	AS/400 システム
QCL	QCMD

システム/38 環境とは

OS/400 のコマンドはライブラリー QSYS に入っていますが、システム/38 環境のコマンドは、ライブラリー QSYS38 に入っています。QSYS38 ライブラリーには、システム/38 制御プログラム機能 (CPF) コマンドだけではなく、システム/38 環境の機能に関連したすべての弊社提供のコマンド定義が含まれています。たとえば、システム/38 環境のコマンドである CRTRPGPGM は、QRPG ライブラリーではなく、QSYS38 ライブラリーに入っています。

DLTPGM コマンドについて考えてみます。このコマンドのコマンド定義オブジェクトは、QSYS38 と QSYS の両方にあります。どちらのコマンドも、QSYS にある同じコマンド処理プログラムを使用します。TRMSBS コマンド定義オブジェクトは QSYS38 にありますが、OS/400 プログラムでのこのコマンドは ENDSBS に名前が変更されており、QSYS に入っています。どちらのコマンド定義も、QSYS にある同じコマンド処理プログラムを使用します。



実行するプログラムの属性 (AS/400 システムまたはシステム/38 環境) は、コマンド分析プログラムに渡されます。コマンド分析プログラムは、この属性に基づいて、同じコマンド処理プログラムが使用できるようにするために、パラメーターをどのようにマッピングするかを判断します。たとえば、ユーザーが次のように指定したとします。

```
システム/38環境      DLTPGM  PGM(PGMX.LIBY)
OS/400              DLTPGM  PGM(LIBY/PGMX)
```

コマンド分析プログラムは、コマンド処理プログラムに次のような共通の値が渡されるように、パラメーター・データを変換します。

```
'PGMX      LIBY      '
```

修飾名に関しては、コマンド定義ステートメントは同じ形式で示されます (たとえば、QUAL ステートメントは同じ順序で示されます)。コマンド定義ステートメントの詳細については、2-2ページの『コマンド定義』を参照してください。

コマンド・ヘルプ機能は、コマンド定義 QUAL 仕様にある順序で修飾名を表示します。したがって、プロンプターでは、修飾名は次のように表示されます。

```
削除するプログラム . . . _____
                      ライブラリー名 . . . . . *LIBL _____
```

SEU に情報を入力する場合、入力する原始仕様のタイプ (システム/38 または OS/400 のプログラム) によって、プロンプターから SEU に返されるデータの形式が決まります。OS/400 プログラムとシステム/38 環境では、原始仕様のタイプが異なります (たとえば OS/400 プログラムでは CLP, システム/38 環境では CLP38)。

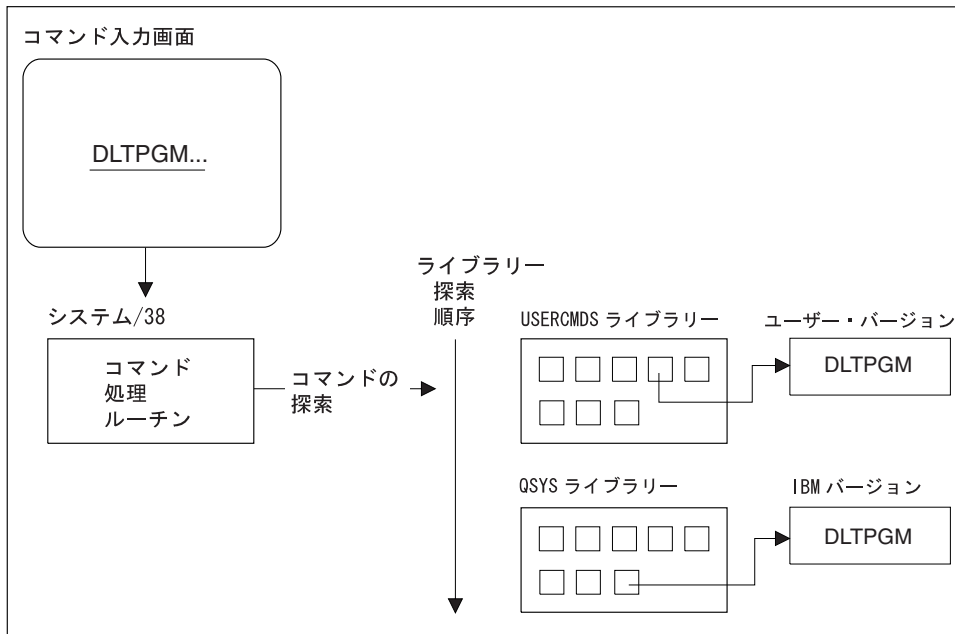
システム/38 では、FIELD.FILE の形式の修飾名も使用されます (たとえば OPNQRYF コマンド)。この構文も FILE/FIELD の形式に変更されています。

弊社提供のコマンドのいくつかを、ユーザー独自のバージョンで置き換えた場合には、QUSER38 ライブラリーを使用する必要があります。システム/38 のコマンドのユーザー独自のバージョンは、QUSER38 ライブラリーに入れてください (2-2ページの『コマンド定義』も参照)。

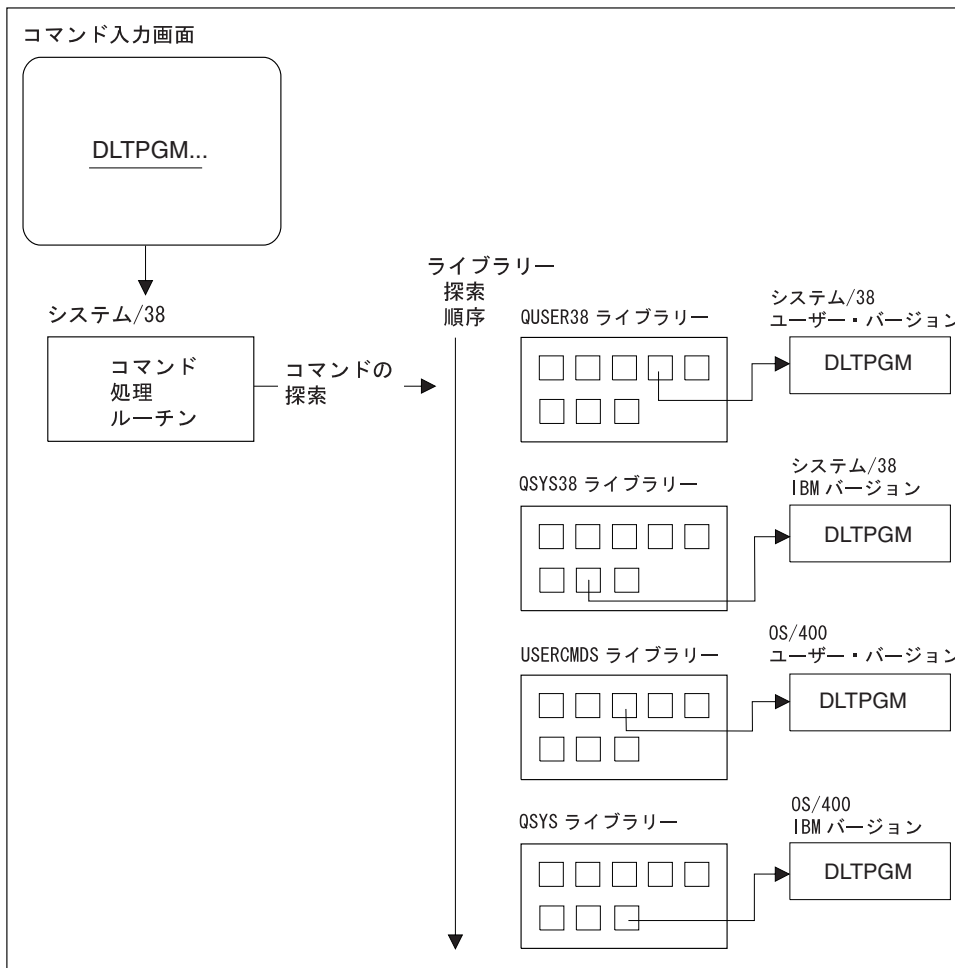
システム/38 環境属性を備えたプログラムを実行する (またはシステム/38 コマンド入力機能から操作を行う) 場合には、システムはまず、QUSER38ライブラリーからコマンド定義を見つけようとします。該当するコマンド定義が見つからないと、システムは QSYS38 ライブラリーを調べます。QUSER38 ライブラリーまたは QSYS38 ライブラリーのいずれにもコマンドが見つからなかった場合には、ライブラリー・リスト (QSYS を含む) が使用されます。

システム/38 では、DLTPGM コマンドの弊社提供のバージョンを置き換えたい場合には、そのコマンドを特定のライブラリーに入れ、システム・ライブラリー・リストを変更して、ユーザー・バージョンが見つけれられるようにしていました。QUSER38 ライブラリーも QSYS38 ライブラリーも、ジョブのライブラリー・リストには入りません。システムとともに出荷されるのは QSYS38 ライブラリーだけです。QUSER38 が必要な場合には、ユーザーがそれを作成しなければなりません。AS/400 システムでは、必要なコマンドは QUSER38 ライブラリーに入れ、ライブラリー・リストは変更しません。これらのライブラリーのいずれにもコマンドが見つからなかった場合には、ライブラリー・リスト (QSYS を含む) が使用されます。

システム38 方式



システム/38 環境方式



RV2W304-0

図 1-1. システム/38 およびシステム/38 環境でのコマンド処理

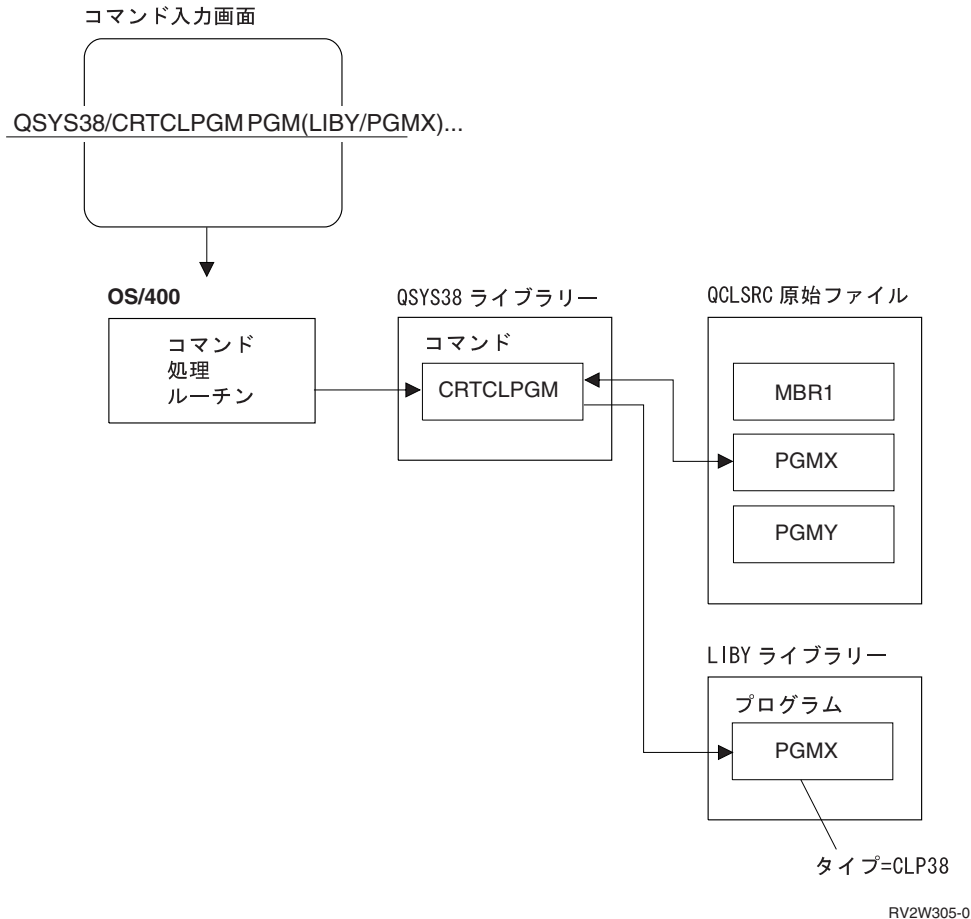


図 1-2. OS/400 コマンド入力画面からのシステム/38 プログラムの作成

QSYS38 ライブラリーおよび QUSER38 ライブラリーは、ライブラリー・リストに入れてはなりません。コマンドの探索時に、システム/38 環境を使用すると、暗黙指定でこれらのライブラリーが最初に探索されます。

したがって、システム/38 環境のプログラムでは、次のものを混合して使用することができます。

- システム/38 環境コマンドのユーザー・バージョン
- システム/38 環境コマンド
- OS/400 コマンドのユーザー・バージョン
- OS/400 コマンド
- ユーザー・コマンド

注: コマンドが OS/400 のみのコマンドであって、システム/38 には存在しないものであっても、それをシステム/38 環境プログラムで使用する場合は、システム/38 の構文(OBJ.LIB) に入力しなければなりません。

ライブラリー修飾子を使用すると、システム/38 のコマンドを OS/400 プログラムに入力することもできます。この場合は、OS/400 の構文を使用してコマンドを入力

しなければなりません。たとえば、OS/400 のコマンド入力画面で操作を行って、システム/38 環境 CL プログラムを作成するとします。この場合、QSYS38 内の CRTCLPGM コマンドを使用すると、プログラムにはシステム/38 環境プログラムとしてのマークが付けられます。

OS/400 プログラムで操作を行っている場合、または OS/400 プログラムを書いている場合には、ほとんどの弊社提供のコマンドが同じ機能を果たすため、特定のライブラリーで修飾する必要はありません。機能の中にはシステム/38 環境にしか存在しないものがあります（たとえば、システム/38 QUERY および DFU など）。このような機能に関するコマンドは、OS/400CL プログラムで使用する場合、次のようにライブラリー名で修飾する必要があります。

QSYS38/CHGDTA ...

システム/38 の構文を使用して、対話方式によりコマンドを入力したい場合には、QCL プログラムを呼び出す必要があります

CALL QCL

QCL プログラムは QSYS に入っているため、ライブラリー一名を使用する必要がありません。次に、システム/38 の構文を次のように入力します。

```
CRTCLPGM PGM(PGMX.LIBY)
```

システム/38 環境サポートによる QSYS38 の探索は、処理するコマンドを判別する場合に限定されます。たとえば、システム/38 環境プログラムで次のように指定した場合、DSPOBJD コマンドは QSYS38 で見つけられます。

```
DSPOBJD OBJ(*ALL.*LIBL) OBJTYPE(*CMD)
```

このコマンドの実行時に、QSYS38 はライブラリー・リストを使用して、すべてのコマンドを検索します。

QSYS38 はライブラリー・リストにないため、システム/38 環境のコマンドは見つけられません。

システムの操作方法

システム/38 環境は、それ自体では完全なシステム環境ではありません。OS/400 プログラムを完全に無視することはできません。画面やメッセージなどは、OS/400 のバージョンだけが表示されます。

コマンドを入力できる画面（たとえばプログラマー・メニュー）、またはリストの画面などのパラメーターを入力できる画面（たとえば DSPOUTQ）での入力には、OS/400 の構文を使用しなければなりません。また、新しい構文およびコマンド名などを知らないと、OS/400 プログラムが提供する新しい機能を使用することができません。コマンド入力画面は、OS/400 プログラム内で実行しなければなりません。

システム/38 での操作方法をそのまま使用することには限界があります。システム/38 環境のコマンド入力と OS/400 環境のコマンド入力とを頻繁に切り替えていると、混乱を招くことになります。構文、一部のコマンド名、および一部の機能キーに相違があるため、このような切替えを頻繁に行うのは得策とはいえません。

本書では、ユーザーが OS/400 サポートを使用してシステムを操作することを前提としています。ユーザーはおそらく、システム/38 用のプログラムおよびファイルの実行とメンテナンスを行うことが必要になります。そのため、システム/38 環境オブジェクトを OS/400 プログラムに変更しなければならぬ場合があります。OS/400 プログラムに変換したオブジェクトの数が多く

なるにつれて、コマンドの構文の入力およびスペルについての処理方法を切り替える必要が少なくなります。

また、他のシステム/38 との共存が必要になる場合もあります。AS/400 システムを使用すると、原始仕様の作成およびテストを行うことができます。この場合には、OS/400 方式からシステム/38 環境方式に処理方法を切り替えなければなりません。ただし、システム/38 の原始仕様を処理する場合は、OS/400 環境に留まったままで、システム/38 の環境を使用するだけですみます。この詳細については、1-14ページの『例』および第5章、『AS/400 システムとの共存』を参照してください。

オブジェクト属性および原始仕様のタイプ

AS/400 プログラムのどのプログラムおよびファイルにも、オブジェクト属性が備わっています。原始仕様をもとにして作成されたオブジェクトは、使用された作成コマンドによって属性が異なります。システム/38 環境コマンドによって作成されたオブジェクトは、次のように最後に 38 が付きます。

図 1-3. オブジェクト属性

説明	AS/400 システム	システム/38 環境
CL プログラム	CLP	CLP38
論理ファイル	LF	LF38
RPG	RPG	RPG38

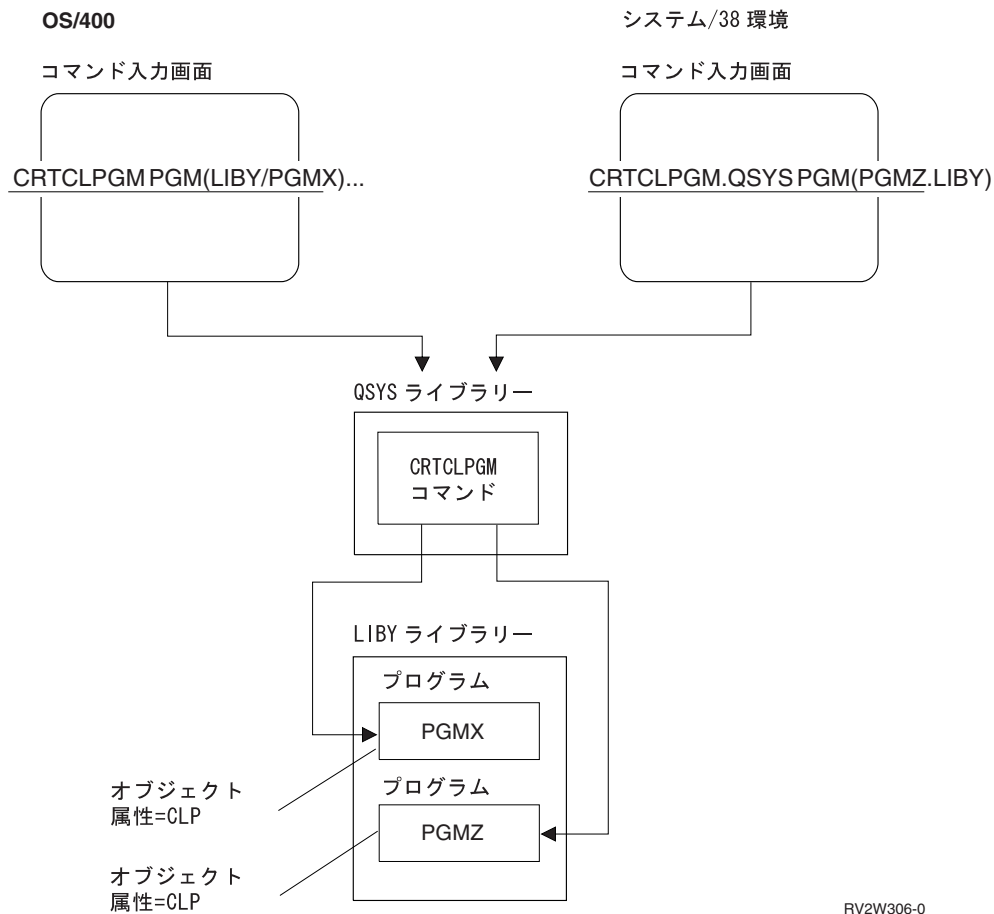
詳細なリストについては、2-24ページの『オブジェクト属性および原始仕様のタイプ』を参照してください。

システム/38 から保管されたオブジェクトを AS/400 システムで復元する場合には、ファイル（原始仕様をもとにして作成されたもの）およびプログラムのオブジェクト属性は、それがシステム/38 のものであることを示すように変更されます。AS/400 システムでオブジェクトを作成する場合には、ユーザーは、作成しようとしているのが OS/400 プログラムかシステム/38 プログラムであるのかを、使用するコマンドに指定します。

注: システム/38 オブジェクトも OS/400 オブジェクトも、AS/400 システムで保管して、システム/38 で復元することができません。AS/400 システムからシステム/38 へは、データ交換のみがサポートされます。

ユーザーが作成するオブジェクトの属性は、作成コマンドが実行される環境ではなく、どの作成コマンドを使用するかによって決まります。次の図は、OS/400 の構文

およびシステム/38 の構文の両方を使用して作成された 2 つの OS/400 プログラムを示しています。



RV2W306-0

システム/38 環境のコマンドは、ライブラリー QSYS によって修飾されているため、OS/400 のオブジェクト属性が割り当てられます。

DSPOBJD および DSPLIB コマンドを使用すると、オブジェクト属性が示されるため、オブジェクトの作成に使用されたコマンドを容易に判別することができます。ほとんどの場合、オブジェクト属性には、使用された原始仕様のタイプが反映されています。ただしこれには次のような例外があります。

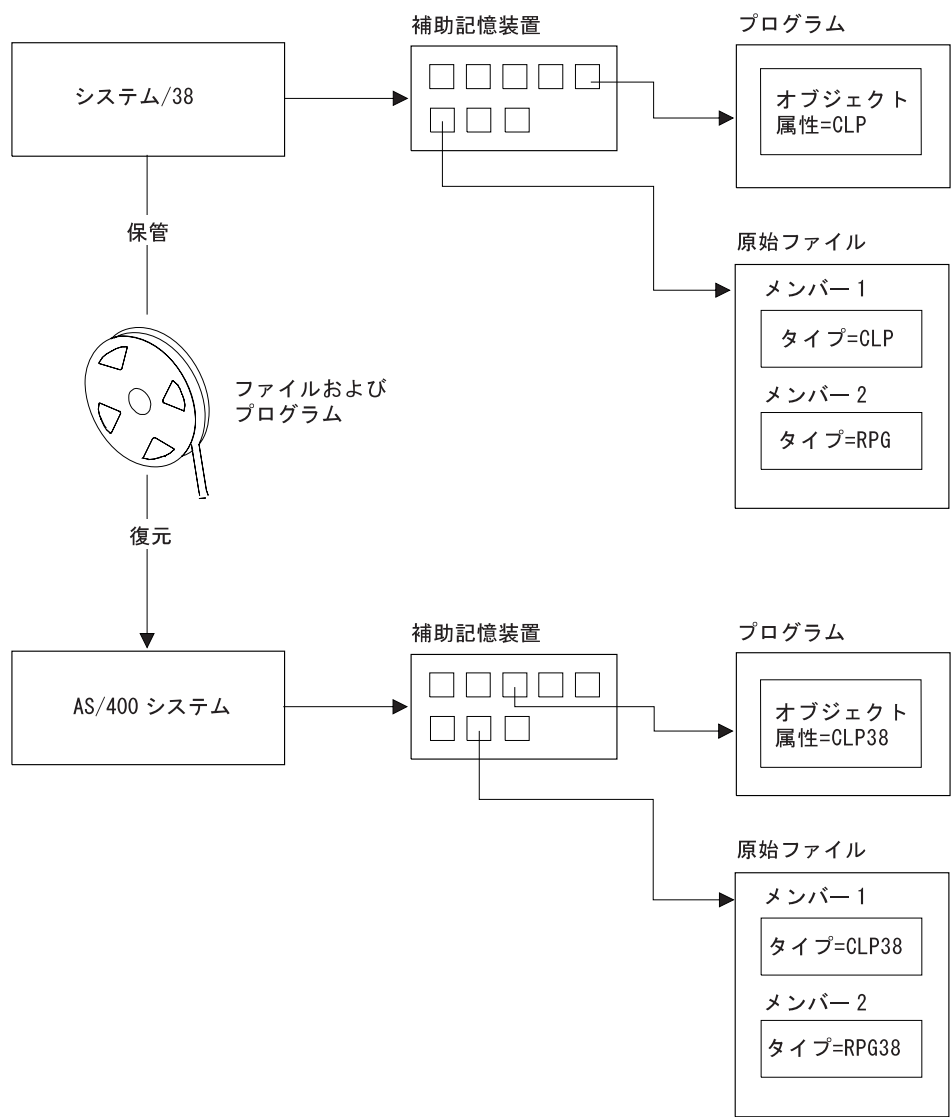
- 原始仕様がシステム/38 であっても、上記の図に示したように、QSYS 内の作成コマンドを使用して、OS/400 オブジェクト属性を作成することができます

す。エラーが発生しなければ、OS/400 オブジェクトを作成することができます。また、その逆も可能であり、システム/38 オブジェクト属性を、OS/400 の原始仕様を使って作成することもできます。

- 原始仕様を使用しない場合には、使用した作成コマンドに関係なく、結果のオブジェクトの属性は常に OS/400 の属性になります。

原始ファイル・メンバーには、原始仕様のタイプも含まれています。原始仕様のタイプは、システム/38 からの復元時に変換されます。DSPFD TYPE (*MBRLIST) を使用すると、原始メンバーのタイプが示されます。

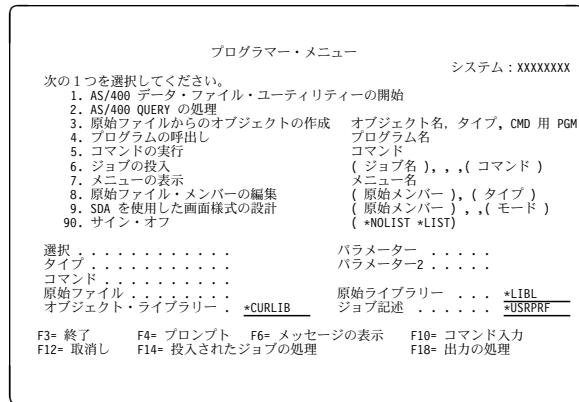
次の図は、オブジェクトおよび原始仕様がシステム/38からどのように保管され、AS/400 システムでどのように復元されるかを示しています。



RV2W307-0

注: オブジェクトの属性および原始仕様のタイプは、いずれも復元機能により変更されます。

プログラマー・メニューを使用すると、原始仕様のタイプを指定することができます。OS/400 原始仕様タイプまたはシステム/38 環境原始仕様タイプのいずれかを、タイプ・プロンプトに入力することができます。プログラマー・メニューは、システム/38 の場合とは多少異なっており、次のように表示されます。



注: 本書では、システム/38 ユーザーのほとんどがよく知っているものとして、プログラマー・メニューを説明しています。ただし、AS/400 適用業務開発ツールの一部である、新しいプログラミング開発管理プログラム (PDM) も考慮に入れる必要があります。

タイプ・プロンプトは、次の 2 つの目的に使用されます。

- SEU 機能 (選択項目 8) を指定する場合に、タイプ欄によって、使用される構文検査プログラムが決まります。したがって、OS/400 プログラムで操作を行っている場合でも、システム/38 CL 原始仕様を入力することができます。

ステートメントの追加、削除、または更新のための SEU 機能は、入力する原始仕様のタイプに関係なく同じです。SEU は、基本的にはシステム/38 の場合と同じ機能を備えています。ステートメントの妥当性検査にどの構文検査プログラムが使用されるかは、要求する原始仕様のタイプによって決まります。

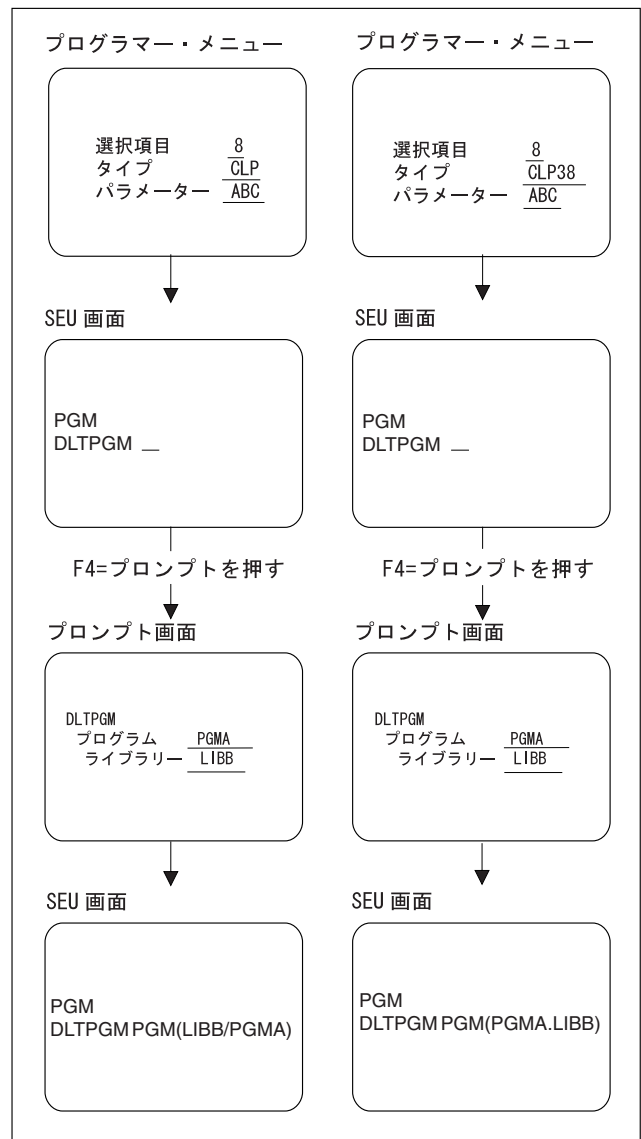
いずれの場合も、CL コマンドを入力しているときにコマンド・プロンプターを要求すると、OS/400 コマンドまたはシステム/38 環境コマンドのいずれを入力しているかに関係なく、OS/400 のプロンプター様式が表示されます。システムの存在するプロンプターは 1 つだけです。OS/400 のプロンプター・サポートは、システム/38 とは異なり、システム/38 の機能より多くの利点を備えています。さらに、OS/400 のコマンドに関するプロンプターを使用しているときには、コマンドおよびそのパラメー

ターについて説明するオンライン・ヘルプ情報を使用することができます。

SEU の使用中にプロンプターを使用する場合、原始仕様として保管されるコマンド・ストリングに使われる構文は、原始仕様のタイプによって決まります。

次の図は、OS/400 プログラムでの操作時にシステム/38 原始仕様を使用すると生じることがを示しています。

AS/400 システム



RV2W308-0

- 選択項目 3 (原始ファイルからのオブジェクトの作成) を指定すると、正しい作成コマンドが投入され、その結果対応する属性 (たとえば CLP または CLP38) がプログラムに割り当てられます。

プログラマー・メニュー（または新しい適用業務開発ツール）を使用しない場合には、適切な作成コマンドを指定しなければなりません。たとえば、OS/400 のコマンド入力画面で、システム/38 環境の CL プログラムを作成したい場合には、QSYS38/CRTCLPGM を指定しなければなりません。

例

プログラマーが行う最も一般的な一連の作業を以下に示します。次のどの方式についても、同じ作業を行います。

- システム/38 方式
- AS/400 方式
- システム/38 プログラムを入力する場合の AS/400 方式

いずれの場合も、次のようなステップを実行するものと想定します。

1. ライブラリーを作成する
2. 作成したライブラリーをライブラリー・リストに入れる
3. 新しいライブラリーに原始ファイルを作成する
4. SEU を使用して CL プログラム用の原始仕様を入力する
5. 新しいライブラリーにプログラムを作成する
6. コマンド入力画面から CPYF コマンドをバッチ・ジョブとして投入する

システム/38 方式: システム/38 (AS/400 システムではなく) を使用していて、プログラマー・メニューで処理を行う場合には、次のようなコマンドを使用します。

1. CRTLIB LIB (ABC)
2. ADDLIB LIB (ABC)
3. CRTSRCPF FILE (QCLSRC.ABC)
4. SEU の開始

選択項目 =8, Parm=PGMA, タイプ =CLP, 原始ライブラリー =ABC, およびオブジェクト・ライブラリー =ABC を指定します（通常は、ライブラリー ABC が含まれるように使用されるジョブ記述のライブラリー・リストを変更しますが、この例ではそれは必要ありません）。原始メンバーに入力されているコマンドが次のとおりだったとします。

```
PGM          PARM(&FILE &LIB)
DCL          &FILE *CHAR LEN(10)
DCL          &LIB *CHAR LEN(10)
OVRDBF      FILE(INPUT) TOFILE(&FILE.&LIB)
OVRDBF      FILE(OUTPUT) TOFILE(OUTPUT.QTEMP)
CALL        PGMB /* Reads INPUT and writes
            OUTPUT */
CPYF        FROMFILE(OUTPUT.QTEMP)
            TOFILE(MASTER.&LIB)
            MBROPT(*ADD)

ENDPGM
```

5. プログラマー・メニューで選択項目 3（原始ファイルからのオブジェクトの作成）を指定します。プログラムを作成するためのバッチ・ジョブが投入されます。
6. F3 を押してコマンド入力画面に進みます。

SBMJOB を入力し、プロンプターを要求します（この例の目的からみて、プログラマー・メニューの選択項目 6（ジョブの投入）は使用せずに、コマンド入力画面を使用するものとします）。

SBMJOB コマンドに関するプロンプトが表示されます。RQSDTA パラメーターには、アポストロフで囲んだ CPYF コマンドが含まれていなければなりません。次に例を示します。

```
RQSDTA('CPYF FROMFILE(AAA) TOFILE(BBB)
      MBROPT(*ADD)')
```

通常は、SBMJOB コマンドに JOBD の値を入力する必要があります。

AS/400 方式: OS/400 コマンドを使用して、コマンドを実行するとします。これには、コマンド入力画面、プログラマー・メニュー、またはプログラミング開発管理プログラムのいずれかを使用することができません。この例では、プログラマー・メニューで操作を行うことにします。次のようなコマンドを使用します。

1. CRTLIB LIB (ABC)
2. CHGCURLIB CURLIB (ABC)

通常、現在処理しているライブラリーが、常に現行ライブラリーであると便利です（これは、AS/400 システムの新しいサポートであり、これにより、作成コマンドのための省略時値が提供されるとともに、ライブラリー・リストに該当ライブラリーが入れられます）。現行ライブラリーの詳細については、2-16 ページの『ライブラリー』を参照してください。

3. CRTSRCPF FILE (QCLSRC)

CRTSRCPF コマンドは、ライブラリー ABC にこのファイルを作成します。OS/400 プログラムでは、作成コマンドが変更されています。省略時値では、オブジェクトは現行ライブラリーに入れられません。

4. SEU を開始します。

選択項目 = 8 (原始ファイル・メンバーの編集)、Parm= PGMA, およびタイプ = CLP を指定します。ステップ 2 で CURLIB パラメーターを使用したため、原始ライブラリーおよびオブジェクト・ライブラリーについては、省略時値を使用します。原始メンバーには以下のステートメントが入力されません。

```
PGM      PARM(&FILE &LIB)
DCL      &FILE *CHAR LEN(10)
DCL      &LIB *CHAR LEN(10)
OVRDBF  FILE(INPUT) TOFILE(&LIB/&FILE)
OVRDBF  FILE(OUTPUT) TOFILE(QTEMP/OUTPUT)
CALL     PGMB /* Reads INPUT and writes
          OUTPUT */
CPYF     FROMFILE(QTEMP/OUTPUT)
          TOFILE(&LIB/MASTER)
          MBROPT(*ADD)

ENDPGM
```

修飾名に AS/400 の構文が使用されている点に注意してください。

- プログラマー・メニューで選択項目 3 (原始ファイルからのオブジェクトの作成) を使用します。プログラムを作成するためのバッチ・ジョブが投入されます。省略時値では、現行ジョブのライブラリー・リストを使用します。したがって、バッチ作成ステップのために、ABC ライブラリーがライブラリー・リストに入れられます。これは、この例では必要ありませんが、通常は、プログラムがライブラリー ABC の外部記述ファイルを参照する場合必要になります。

6. F10 を押してコマンド入力画面に進みます。

SBMJOB を入力し、コマンド・プロンプト機能を要求します (コマンド入力画面を使用するものとします)。

SBMJOB コマンドに関するコマンド・プロンプトが表示されます。CMD という名前の新しいパラメーターは、コマンドを投入したいということを指示します。このパラメーターは、最初の画面に示されません。CPYF を入力し、機能キーを押して CPYF

コマンドに関するコマンド・プロンプト機能を要求します。CPYF プロンプトが表示されるので、必要に応じて情報を入力します。SBMJOB コマンドの省略時値は変更されているため、通常はジョブ記述を指定する必要がありません。たとえば、現行ジョブのライブラリー・リストがバッチ・ジョブの省略時値となります。JOB D の省略時値は、ユーザー・プロファイルで指定されている JOB D を参照するように変更されています。

システム/38 環境プログラムを入力する場合の AS/400 方式:

この例では、ユーザーは OS/400 プログラムを使用して操作を行っていますが、システム/38 環境のプログラムの作成を望んでいます。たとえば、変換の準備ができるまで、システム/38 のプログラムを保守する場合があります。

この例は、前の 2 つの例を組み合わせたものです。

ステップ 1,2, および 3 は、AS/400 の例と同じです。

ステップ 4 も同じですが、原始仕様のタイプが CLP38 である点が異なります。入力する原始仕様は、システム/38 の例のシステム/38 構文です。

ステップ 5 は、AS/400 の例と同じです。原始仕様のタイプが CLP38 に設定されているため、正しい作成コマンドがバッチ・ジョブとして投入されます。

ステップ 6 は、AS/400 の例と同じです。

複数のシステム/38 から 1 つの AS/400 システムへの移行

複数のシステム/38 を 1 つの AS/400 システムに移行する場合には、次の事項を考慮する必要があります。

- 重複したユーザー・プロファイル名
- 重複したライブラリー名 (たとえば QGPL)
- 重複したオブジェクト名
- 重複したユーザー ID およびオフィス名

移行援助ユーティリティによって、ある程度の情報は提供されますが、重複名については十分に注意する必要があります。

第2章 移行後に必要な変更

この章では、システム/38 から AS/400 システムのシステム/38 環境へと移行するために必要な変更について説明します。プログラミング上および操作上の相違点についての詳細を示します。概要とハードウェアの相違点については、第1章を参照してください。

この章は、次の各節に分かれています。

- オペレーティング・システム/400(Operating System/400*) プログラム
- ユーティリティおよびその他のライセンス・プログラム
- 言語

各節は、さらに個々の項目に分けて説明しています。

上記の一般的な事項に加えて、次の 2 つの点についても考慮してください。

- 弊社提供の画面様式および印刷様式が変更されました。スプール・バージョンを処理するシステム/38 プログラム (たとえば CPYSPLF) は、変更しなければならない場合があります。
- コマンド・プロンプトに複数の異なる言語が使用できるようにする複数言語サポートは、システム/38 環境ではサポートされません。複数言語サポートは、OS/400 プログラムでのみ使用することができます。

オペレーティング・システム/400 プログラム

この節では、オペレーティング・システム/400 プログラムにおけるプログラミング上および操作上の相違点について説明します。

アクセス・パス: 次のアクセス・パスはロードされず、復元の一環としてシステムにより再作成されます。

- 漢字キーをもつ論理ファイルの属性が、その基礎となる物理ファイルの属性とは異なる場合に、そのような論理ファイルのアクセス・パス。
- 漢字フィールドを参照する SELECT/OMIT (選択/除外) を伴うアクセス・パス。

上記以外のアクセス・パスは復元されます。復元されるアクセス・パスは、システム/38 から保管されたもので

あれば再作成はされません。ACCPH キーワードへの変更については、2-5ページの『データベース』のキーワードに関する説明も参照してください。

アドレスの再生成: システム/38 では、システムが内部アドレスを割り当てますが、その割当て可能数には一定の限界があります。永続および一時の 2 つのタイプのアドレスが使用され、使用されているアドレスに対するこの 2 つのタイプの割合は、DSPSYSSTS を使用して表示することができます。システム/38 では、一時アドレスは初期プログラム・ロード (IPL) のたびに再生成されます。永続アドレスは、ユーザーが定期的に再生成しなければなりません。

AS/400 システムでは、永続アドレスおよび一時アドレスの両方が、IPL のたびに生成されます。したがって、ユーザーは、アドレス生成を行うためにシステム時間をスケジューリングする必要はありません。ただし、アドレスを使いきってしまわない程度の頻度で IPL を行う必要があります。IPL 時にアドレスを生成することによって生じるオーバーヘッドの増加は最小限のものです。

警報

様式: 警報様式は、SNA 管理サービス総称警報に一致する様式に変更されました。システム/38 では、システム/370 で保管された画面 (たとえば、ネットビュー (NetView*) 配布管理プログラム) が必要でした。OS/400 プログラムでは、情報は警報とともに送られ、画面が動的に様式設定されます。

ネットワーク属性: 警報ネットワーク属性は、AS/400 システムで記述しなければなりません。警報ネットワーク属性は、移行援助ユーティリティでは移行されません。詳細については、2-23ページの『ネットワーク属性』を参照してください。

ネットビュー配布管理プログラム: ホスト・システムには、少なくとも、ネットビューのリリース 2、修正レベル 0 が導入されていなければなりません。

ロギング: システム/38 では、警報はジャーナル QALERT に記録されていました。OS/400 プログラムでは、これはデータベース・ファイル (QSYS の QALERT) に変更されました。QALERT ジャーナルは、移行援助ユーティリティでは移行されません。

メッセージ一般に関する詳細については、2-20ページの『メッセージ処理』を参照してください。

APPC: システム/38 環境で操作するためには、装置構成オブジェクトに APPN (*NO) を指定しなければなりません。システム/38 環境における操作の詳細については、2-6ページの『データ記述仕様 (DDS)』も参照してください。

補助記憶域プール (ASP): ユーザー補助記憶域プールは移行されません。補助記憶域プールは、新しい専用サービス・ツール (DST) 機能を使用して、AS/400 システムで定義しなければなりません。DST は、QAUXSTGTH システム値を使用するシステム/38 で指定されていたシステム ASP 限界値を含め、各 ASP 限界値を設定する場合にも使用します。2-46ページの『サービス』および AS/400 拡張バックアップおよび回復の手引きを参照してください。

BSC: 2-6ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。

カード: カード装置およびカード・ファイルは、AS/400 システムではサポートされません。

図表様式: AS/400 ビジネス・グラフィックス・ユーティリティ (BGU) により作成される図表様式には、システム/38 BGU の図表データの一部である図表見出しが含まれています。AS/400 BGU 図表様式には、AS/400 BGU では新しい図表特性 (オフセット円グラフ、重なり棒グラフなど) がいくつか加わりました。

チェックサム

定義: チェックサムは移行されません。したがって、新しい DST 機能を使用して OS/400 プログラムで定義しなければなりません (2-46ページの『サービス』を参照してください)。AS/400 拡張バックアップおよび回復の手引きには詳細な説明が記載されています。

ロード/原始装置: ロード/原始装置 (ライセンス内部コードが入っている装置) は、チェックサム・セットに入れることはできません。ロード/原始装置は、システムの復元の前に指定します。ロード/原始装置は、システム/38 の最初の 62PC と同様の方法で、非保護記憶域用に使用されます。9332 ディスク装置または 9335 ディスク装置のいずれかを、ロード/原始装置として使用することができます。

ロード/原始装置は、アクチュエーターまたはユニットとして定義されます。したがって、9335 の半分または 9332 (400 型) の半分の、ロード/原始装置として指定することができます。

類似装置: 新しい機能によって、チェックサム・セットを構成するために必要な類似ディスク装置の最小単位が、3 台ではなく 2 台になりました。チェックサム・セットに 2 台のディスク装置を備えた場合には、スペースの約 50% をチェックサム・データに使用することになります。

クラス・オブジェクト: 変更はありません。

コマンド定義: コマンド定義には、特殊なシステム/38 環境サポートはありません。システム/38 環境または OS/400 プログラムのどちらでもコマンドを使用できるように、コマンド定義を作成することができます。コマンド定義に追加された機能により、たとえば、プロンプターで、ユーザー入力に基づいて、階層的なプログラムにより応答できるようになりました (2-29ページの『プロンプター』を参照してください)。コマンドに関する考慮事項には、ほかに次のものがあります。

パラメーター: システム/38 では、代表的な修飾名 (OBJ.LIB) を含むパラメーターの定義は次のとおりです。

```
PARM KWD(PGM) TYPE(QUAL1) ....
QUAL1: QUAL TYPE(*NAME) /* Program */ .....
        QUAL TYPE(*NAME) /* Library */ .....
```

したがって、パラメーターは、次のいずれの方法でも入力できます。

```
System/38          PGM(PGMX)
                   PGM(PGMX.LIBY)
```

コマンド・プロンプターを使用している場合には、パラメーターは次のように表示されます。

```
プログラム名 ..... _____
      ライブラリー名 ..... *LIBL _____
```

システム/38 環境でこのパラメーターにプロンプターを使用している場合でも、表示はシステム/38 の場合と同じになります。

OS/400 プログラムでは、コマンド定義ステートメントをまったく同じ順序でコーディングし、コマンド・プロンプトも同じように表示されます。ただし、パラメータ

ーをstring形式で入力する場合には、次のいずれかのようにコーディングしなければなりません。

OS/400 または PGM(PGMX)
 PGM(LIBY/PGMX)

SEU を使用する場合に、原始仕様タイプとして CLP を指定した場合を想定します。特定のコマンド名によりプロンプターを使用すると、上記のように修飾名が表示されます。コマンドが原始ステートメントとして返されると、タイプ CLP により OS/400 構文が要求されるため、OS/400 構文形式 (LIB/OBJ) で表示されます。原始仕様タイプ CLP38 を指定して SEU を使用する場合、コマンドはシステム/38 構文 (OBJ.LIB) で返されます。

修飾名については、システム/38 と OS/400 プログラムとの間にコマンド定義のコーディング方法の相違はありません。主な相違点は、修飾名をstring形式でキー入力する方法、およびプロンプターを使用した場合 (SEU またはコマンド入力画面) の修飾名の表示形式にあります。

コマンド処理プログラムは、SUBSTRING 機能を使用して、コマンド定義のコーディングと同じ順序で修飾名を抽出するように、コーディングしなければなりません。これは、システム/38 の場合と同じです。前の例では、修飾名は次のようにコマンド処理プログラムに渡されます。

```
'PGMX            LIBY            '
```

AS/400 システムには、コマンドに関連するプロダクト・ライブラリーに対する新しいサポートがあります。これにより、コマンドを使用するユーザーは、ライブラリー・リストに該当するコマンドが含まれているライブラリーだけを組み合わせただけですみます (コマンド処理プログラムを含むライブラリーは不要になりました)。2-16ページの『ライブラリー』のプロダクト・ライブラリーについての説明を参照してください。

プロダクト・ライブラリー (PRDLIB) サポートの持つ利点をコマンド定義にとりこみ、そのコマンド定義をシステム/38 環境で使用することができます。たとえば、言語およびユーティリティ関係のシステム/38 環境コマンドは、PRDLIB をサポートしているため、個々のプロダクト・ライブラリーをライブラリー・リストに組み合わせる必要はありません。

また、階層構造のプロンプト・サポートをシステム/38 環境で使用することもできます。

パラメーター数: 弊社提供のコマンド処理プログラムのいくつかで、受け取るパラメーターの数を変更されました。弊社提供のコマンド処理プログラムのユーザー独自のバージョンを使用している場合には、コマンドから渡されるパラメーター・リストの再検討が必要です。

妥当性検査: 弊社提供のコマンドには、妥当性検査プログラムを指定することもできます。弊社提供のコマンドに妥当性検査コマンドを指定した場合は、そのコマンドから渡されるパラメーター・リストの再検討が必要です。

印刷出力: CRTCMD コマンドによって作成される印刷出力の名前が、QSYSPRT から、作成される原始メンバーの名前に変更されました。印刷出力の形式も多少変更されました。

コマンド言語: コマンドには多くの変更が加えられました。(コマンド別の要約については付録Aを参照してください。) 共存の目的のために (たとえばシステム/38 で使用する原始仕様を保守するために) システム/38 環境に含まれているだけで、AS/400 システムでは実行できないコマンドもあります。このようなコマンドを OS/400 プログラムで使用しようとすると、エスケープ・メッセージが送られます。コマンドはすべて、出荷の時点でシステムに組み込まれています。しかし、コマンドをサポートするプログラムが導入されていない場合は、エラー・メッセージが表示されます。そのほかに次の変更があります。

構文: システム/38CL とシステム/38 環境との間には、構文上の相違はありません (システム/38 で有効な注記および修飾名の指定は、システム/38 でもシステム/38環境でも同じです)。しかし、システム/38 環境と OS/400 プログラムの間では、コマンドおよび注記についての構文が異なります。コマンドの変更については、第1章で述べています。コマンドおよび注記の両方の変更については、第4章でもさらに詳しく説明します。

RTVCLSRC: RTVCLSRC コマンドは、プログラムを作成するために使用する原始ステートメントを構文から検索します。たとえば、プログラムが CLP38 プログラムであれば、RTVCLSRC コマンドをどの環境で実行するかに関係なく、システム/38 構文を受け取ります。

命名規則: 名前の指定方法の変更については、2-23ページの『命名規則』を参照してください。

ALWRTVSRC パラメーター: ALWRTVSRC (*NO) が CRTCLPGM コマンドに指定されている場合でも、CL プログラムを正常に移行することができます。

印刷出力: CRTCLPGM コマンドにより作成される印刷出力の名前は、QSYSPRT から、コマンドを作成するために使用される原始メンバーの名前に変更されました。

コミットメント制御: コーディング上の変更はありません。ただし、1つの経路指定ステップでサポートされるロックされたレコードの数は、1024 から 4096 に増加しました。

通信: AS/400 システムで操作を行う場合には、通信操作の変更を考慮しなければなりません。

構成: 装置構成コマンドを使用すると、通信機能の多くを指定することができます。装置構成仕様には変更があります (2-7ページの『装置構成』を参照してください)。

エラー: ハードウェア・エラーに関連して主に QSYSOPR に送られるエラー・メッセージおよび装置エラー・コードが変更されました。メッセージ ID のいくつかが変更されました。

CSNAP: CSNAP コマンドはありません。同じ機能の一部は、装置構成の THRESHOLD パラメーターを使用して実行することができます。

参照: 次の各項も参照してください。

- 5-5ページの『警報』
- 2-2ページの『APPC』
- 2-6ページの『データ記述仕様 (DDS)』
- 2-12ページの『エミュレーション (3270)』
- 2-12ページの『交換識別コード』
- 2-19ページの『LU-1』
- 2-26ページの『オブジェクト配布』
- 2-27ページの『パススルー』
- 2-30ページの『RA/DHCF』
- 2-30ページの『遠隔ロケーション名 (RMTLOCNAME)』
- 2-36ページの『戻りコード』
- 2-49ページの『SNADS』
- 2-63ページの『X.25』

通信ファイル: 2-6ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。

ファイル・コピー (CPYF)

データ交換: データ交換のためにコピーする場合には、ディスクとテープの違いに注意しなければなりません。2-10ページの『ディスク』および2-60ページの『テープ』を参照してください。

大規模ファイル: 復元機能の場合と同様に、大規模ファイルは自動的かつ適切に展開処理されます。2-36ページの『保管および復元』を参照してください。

漢字: コピー操作で漢字マッピング・エラーが起こる場合には、ファイル・コピーに FMTOPT (*MAP) または FMTOPT (*NOCHK) の指定が必要です。漢字フィールドの切捨ておよび埋込みでは、ひと組のシフト・イン/シフト・アウトが保守されます。データがコピー先ファイルの漢字フィールドに適合しない場合は、データベース変換エラーが生じることがあります。

位置エラー: 複数のメンバー・ファイルをコピーするときに、コピー元ファイル・メンバーが位置オープン・エラーが原因でオープンされない場合は、次のメンバーに処理が続行されます。

分散データ管理機能 (DDM): DDM ファイルは、FROMFILE および TOFILE として指定することができます。ファイル・コピーにより、DDM を使用して遠隔ファイルを作成することができます。詳細については、**データ管理** を参照してください。

操作卓: AS/400 システムには、操作卓としての固有の装置はありません。最初に割り当てられた装置 (バス 0, 最初のワークステーション制御機構ポート 0, およびアドレス 0) が、操作卓装置とみなされます。IPL 時には、制御装置記述 QCTL に属している装置記述 QCONSOLE が、操作卓として使用されます。IPL 後には、操作卓装置記述の名前は、システム値 (QCONSOLE) により判別することができます。QCONSOLE は、現在オンに構成変更されている操作卓装置の名前を反映したものになります。このシステム値を変更することはできません。

操作卓装置は、次のいずれかでなければなりません。

- 5250 装置 (たとえば、5251 または 3180)
- エミュレーション・アダプターを使用しているパーソナル・コンピューター
- ASCII 315x/316x

注: IPL の後にも、システム作成の QCONSOLE 装置記述およびその関連ワークステーション・メッセージ待

ち行列は存在します。QCONSOLE 装置にメッセージを送る適用業務プログラムがある場合には、それらを変更する必要があります。変更を行わないと、メッセージは、QCONSOLE という名前のシステム作成のワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。

相互参照

オブジェクト属性および原始仕様タイプの変更:

DSPFD 機能のいくつかの変更は、オブジェクト属性の変更と関連しています。属性の詳細については、2-24 ページの『オブジェクト属性および原始仕様のタイプ』を参照してください。

- DSPFD TYPE (*MBRLIST) 画面。新しい原始仕様タイプが表示されます。
- DSPFD TYPE (*MBRLIST) OUTFILE サポート (QAFDMBRL ファイル)。オブジェクト属性は MLSEU フィールドに入ります。このフィールドの桁数は 4 桁しかないため、タイプに関係なく (たとえば、PF または PF38)、このフィールドには、PF または DSPF などの項目だけが入ります。長さ 10 桁の新しいフィールド MLSEU2 が追加され、属性のすべてがこのフィールドに入ります。MLFILA フィールドには変更はありません。
- DSPFD TYPE (*MBR) OUTFILE サポート (QAFDMBR ファイル)。MBSEU フィールドには、新しいオブジェクト属性が入ります。このフィールドの桁数は 4 桁しかないため、タイプに関係なく、(たとえば、PF または PF38) このフィールドには、PF または DSPF などの項目だけが入ります。長さ 10 桁の新しいフィールド MBSEU2 が追加され、属性のすべてがこのフィールドに入ります。MBFILA フィールドには変更はありません。

既存のプログラムが同じように作動するように、新しいフィールドが様式の終りに追加されます。

DSPOBJD 出力ファイルでは、ODOBAT フィールド (たとえば、CLP38 および CLP) に変更があります。ODOBTP フィールドには、新しい値 *CTLD が入ることがあります (システム/38 の値は *CUD でした)。

DSPPGMADP 出力ファイルでは、PAATTR フィールドの値 (たとえば、CLP38 および CLP) に変更があります。

DSPFD のその他の変更: DSPFD 機能に関連するその他の変更には、次のものがあります。

- カード・ファイル用の QAFDCRD ファイルはサポートされていません。
- QAFDACCP ファイルでは、APACCP フィールドに S タイプの項目が入ることはなくなりました。このことは、MBACCP フィールドにおいて QAFDMBR ファイルにも当てはまります。これらのフィールドの詳細については、『データベース』を参照してください。
- DKLOC, DKSLOC, および DKELOC の QAFDDKT フィールドが、1 つの予約フィールド DKLOC に変更されました。
- QAFDPRT のフィールドの PRPRTI, PRPTIL, PRTRNT, および PRRTL が、1 つのフィールド PRPRTI に置き換わりました。フィールド PRLPI には新しい値が含まれます。
- データベース・ファイルが AS/400 システムまたは遠隔システム/38 上にある場合は、次の DSPFD 出力ファイル・フィールドの値が、'N'から'Y'に変更されます。

フィールド	出力ファイル	関連するコマンド
ATFLS	QAFDBASI	DSPFD TYPE (*BASATR)
MBFLS	QAFDMBR	DSPFD TYPE (*MBR)
PHFLS	QAFDPHY	DSPFD FILEATR (*PF)
LGFLS	QAFDLGL	DSPFD FILEATR (*LF)

データ域: 変更はありません。

データベース

キーワード: DDS の ACCPTH キーワードの意味が変わりました。このキーワードは、システム/38 では、明示的にアクセス・パスの共用を記述するものでした。AS/400 システムでは、このキーワードは、キーならびに選択/除外仕様と、DYNSTL,FIFO,LIFO,UNIQUE および ALTSEQ の値を、作成する論理ファイルにコピーするためにのみ使用されます。(ACCPTH を指定すると、仕様にキーを付け直す必要がなくなりますが、ファイルの共用を保証するものではありません。) 省略時解釈によって暗黙のアクセス・パスの共用が生じます。(移行後に、ファイルが、あるアクセス・パスまたは別のアクセス・パスを共用して仕様される可能性があります。)

この変更によって、CRTLF コマンドおよび ADDLFM コマンドの ACCPTHMBR キーワードは無視されま

す。DTAMBR5 (*ALL) 機能は、ACCPHMBR パラメーター値を使用できないため、この機能には特定のメンバー名を指定する必要があります。

DSPFD の出力ファイル QAFDACC の APACCP フィールドに、S タイプの項目が入ることはなくなりました。

FIFO 順序: ファイルを OS/400 ファイルとして再作成した場合には、先入れ先出し (FIFO) 順序に関する変更が生じます。システム/38 ファイルのままを使用する場合には、操作への影響はありません。

現行の DDS 原始仕様の変更を援助するために、PF38 または LF38 タイプのファイルについては、FIFO キーワードが使用できるようになっています。システム/38 ファイルの作成に FIFO を使用しようとした場合には、低レベルの警告メッセージが生成されます。この援助機能の目的は、システム/38 環境で操作している場合でも、後日 OS/400 ファイルへの変換を行う場合に備えて、原始仕様を変更できるようにすることにあります。

この変更の詳細については、第4章を参照してください。

SQL: IBM 構造化照会言語/400 (SQL/400*) 基準に従って、ある物理ファイルを基礎とする到着順論理ファイルを作成する場合には、オブジェクト管理権は必要ありません。ただし、キー順論理ファイルの作成にはオブジェクト管理権限が必要です。

フィールド・マッピング: フィールド・マッピング機能を (たとえば、物理ファイルと論理ファイルで、小数点以下の桁数が異なるフィールドの変換のために) 使用していて、マッピング・エラーが見つかった場合には、いくつかの異なる処理結果が生じます。詳細については、DB2/400* データベース プログラミングの“データベース (Database)”のフィールド・マッピング・エラーに関する説明を参照してください。

漢字: 漢字専用フィールド (物理ファイル内の) の省略時値の前後には、シフトアウト文字およびシフトイン文字が付きましました。これは、以前はすべてブランクでした。

挿入または更新される漢字データはすべて、所定の漢字サブタイプに照らして有効なものでなければなりません。そうでないと、マッピング・エラーが起こります。

物理ファイルと論理ファイルとの間で許される漢字データのマッピングが変更されました (DB2/400* データベース プログラミングに詳細が記載されています)。シ

ステム/38 でファイルを作成し、AS/400 システムで復元する場合、許可されないマッピングが検出されると、論理ファイルの無効なデータ・タイプは、漢字混用に変更されます。ファイルは復元可能です。

OPNQRYP: OPNQRYP の処理については2-27ページの『一時変更』を、分散データ管理 (DDM) を使用する場合の OPNQRYP の制約条件については、2-63ページの『ユーティリティーおよびその他のライセンス・プログラム』を参照してください。

『データ記述仕様 (DDS)』も参照してください。

漢字フィールド: OS/400 データベース・サポートが拡張されて、漢字フィールドに使用できるデータ・タイプが2つ追加されました。J (漢字専用) および E (漢字択一) です。システム/38 でサポートされている O (漢字混用) に加えて、この2つのタイプを使用することができます。システム/38 から移行されたファイル、またはシステム/38 環境で作成されたファイルには、変更を加える必要はありません。データベース・サポートにより、REFSHIFT DDS キーワードに指定された値に基づいて、データ・タイプが決定されます。DDS の拡張原始リストおよび DSPFFD コマンドからの出力の両方に、REFSHIFT キーワードではなく、想定されたデータ・タイプが示されます。

データ記述仕様 (DDS): DDS の変更は、AS/400 システムでの操作時に考慮しなければなりません。

原始仕様タイプ: BSCF38,CMNF38, および MXDF38 の各原始仕様タイプは、システム/38 環境でのみ使用することができます。OS/400 プログラムでは、システム間通信機能 (ICF) が BSC,CMN, および MXD の各ファイルと置き換わりました。ICF 原始仕様タイプは ICFF です。装置構成コマンドを使用すると、通信機能の多くを指定することができます。これにも変更があります (2-7ページの『装置構成』を参照してください)。ハードウェアに関連したエラー・メッセージの多くも変更されました。メッセージ識別コードは同じですが、装置エラー・コードが変更されています。

機密保護キーワード: SECURITY (02*PASSWORD) キーワードを使用する CMNF38 および MXDF38 の原始ステートメントはサポートされていません。この値を含むファイルは、AS/400 システムでは復元されません。

SECURITY キーワードの CMNF38 および MXDF38 を使用する場合にサポートされる最大桁数は 10 文字で

す。11 バイトのフィールドまたはリテラルがあると、ファイル作成中に診断メッセージ（重大度 20）が生成されます。

FIFO キーワード: データベース・ファイルには、FIFO キーワードを使用することができます。この場合には、警告メッセージが生成されます (2-5 ページの『データベース』を参照してください)。

アクセス・パス・キーワード: 論理ファイルの ACCPTH キーワードが変更されました。2-5 ページの『データベース』を参照してください。

FORMAT キーワード: 物理ファイルの DDS の FORMAT キーワードに論理ファイルを指定することは、無効になりました。別の物理ファイルからの様式だけが共用可能です。移行の際は、共用はすべて暗黙指定で処理されるため、変更を加える必要はありません。ただし、システム/38 に存在したのと同じ DDS をファイルの再作成に使用した場合には、エラーが起こります。

表示装置ファイル: *DS1 (16x64 の操作卓) または *DS2 (12x80 の 5250-1 型) の DSPSIZ キーワード値だけを使用する表示装置ファイルは、AS/400 システムでは復元も作成もできません (16x24 および 12x80 の画面サイズはサポートされていません)。

ファイルで、*DS1 または *DS2 (あるいはその両方) のタイプに加えて有効な画面サイズ (たとえば *DS3) も使用している場合、そのファイルは復元されます。また、このファイルは、元の原始仕様を使用して作成することもできますが、診断メッセージが生成されます。

表示装置ファイルでは、フィールドは画面の最終桁で終了させることができます (1 行目の 1 桁目に折り返すことはありません)。

表示装置ファイルでは、SLNO (*VAR) が指定されていれば、フィールドを 1 行目の 1 桁目から開始するように定義することができます。様式を表示装置に書き出した時点で、実際の行番号が 1 であると、エラー・メッセージが出されます。

漢字: 漢字フィールドのデータ・タイプにはいくつかの変更が加えられました (2-5 ページの『データベース』を参照してください)。

印刷出力: DDS 作成コマンドによって使用される印刷出力の名前は、QPDDSSRC ではなく、作成中のファイルの名前になります。

拡張原始印刷出力の様式は、OS/400 構文 (LIB/OBJ) で示されます。DDS 作成の印刷出力の様式が変更されました。

DDS 作成の印刷出力のメッセージの多くで、メッセージ識別コードが変更されました。

データ待ち行列: データ待ち行列の最大レコード長が 4096 に変更されました。移行援助ユーティリティー、または保管/復元により、オブジェクト記述は移行されますが、データ待ち行列の項目は移行されません。

デバッグ

権限: プログラムのデバッグには、プログラムに対する *CHANGE 権限が必要です。システム/38 では *READ 権限が必要でした。システム/38 の省略時値である PUBAUT (*NORMAL) には、すべてのデータ権限が備わっています。したがって、システム/38 で CRTXXXXPGM の省略時値を使用し、AS/400 システムでもそれを引き続き使用しても、違いはまったくありません。しかし、ユーザーがデバッグできないようにデータ権限を変更してある場合は、AS/400 システムで別途変更を加える必要があります。

この変更の目的は、プログラムの実行はできるがデバッグはできないようにするための簡単な指定 (*USE) を、OS/400 プログラムで使用できるようにすることにあります。

コマンド入力: 停止点デバッグ画面からアクセスするコマンド入力機能では、OS/400 構文を使用するものとみなされます。

2-28 ページの『問題判別』を参照してください。

専用保守ツール (DST): 2-46 ページの『サービス』を参照してください。

装置構成: 装置構成および通信構成は、システム/38 と大幅に変わりました。システム/38 の装置構成コマンドの CRT および CHG は、AS/400 システムでは実行できません。しかし、システム/38 環境の SEU では、これらのコマンドを使用することができます。

新しいコマンド: メニューおよびプロンプター・サポート（ヘルプ情報を含む）と同様に、新しいコマンドを構成の作成に使用することができます。装置記述では、単一の CRT コマンドおよび CHG コマンドの代わりに、作成または変更する装置のタイプに応じて、異なるコマンドを使用するよう変更されました。制御装置記述オブジェクトおよび回線記述オブジェクトについても同様です。

複数のコマンドを使用することにより、特定のオブジェクトのタイプに関連するパラメーターを、各コマンドに含めることができるようになりました。たとえば、構内ワークステーション装置の作成時には、BSC パラメーターは表示されません。

CRTDEVD コマンドは、以下のコマンドに分割されました。各 CRT コマンドには CHG コマンドが対応します。コマンドおよびパラメーターの中には、システム/38 にない機能をサポートするものもあります。コマンドの読み方は、“xxxx 装置記述作成”です。xxxx はタイプを示します。すべての CL コマンドの詳細については、*CL(制御言語)解説書*を参照してください。いくつかの新しいコマンドのリストを次に示します。

コマンド	装置
CRTDEVAPPC	APPC
CRTDEVASC	非同期
CRTDEVBSC	2 進データ同期
CRTDEVDKT	ディスクット
CRTDEVDSP	表示装置
CRTDEVFNC	金融機関通信
CRTDEVHOST	SNA ホスト
CRTDEVPRT	印刷装置
CRTDEVSNUP	SNA アップライン機能
CRTDEVTAP	テープ

CRTCUD コマンドは、次のコマンドに分割されました。各 CRT コマンドには、CHG コマンドが対応しています。コマンドおよびパラメーターの中には、システム/38 にない機能をサポートするものもあります。コマンドの読み方は“xxxx 制御装置記述作成”です。xxxx はタイプを示します。いくつかの新しいコマンドのリストを次に示します。

コマンド	装置
CRTCTLAPPC	APPC
CRTCTLASC	非同期
CRTCTLBSC	2 進データ同期
CRTTLFNC	金融機関通信
CRTCTLHOST	SNA ホスト
CRTCTLWS	構内ワークステーション

CRTCTLRWS	遠隔ワークステーション
CRTCTLVWS	仮想ワークステーション

CRTLIND コマンドは次の各コマンドに分割されました。各 CRT コマンドには、CHG コマンドが対応しています。コマンドおよびパラメーターの中には、システム/38 にない機能をサポートするものもあります。コマンドの読み方は、“xxxx 回線記述作成”で、xxxx はタイプを示します。いくつかの新しいコマンドのリストを次に示します。

コマンド	装置
CRTLINASC	非同期
CRTLINBSC	2 進データ同期
CRTLINSDLC	SDLC
CRTLINTDLC	平衡型データ・リンク制御
CRTLINTRN	IBM トークンリング・ネットワーク
CRTLINX25	X.25

装置モード機能に変更されました。装置モードは、個別の新しいオブジェクト・タイプとして指定し、装置記述に該当の新しいオブジェクトを指し示す項目が入りません。システム/38 のコマンド ADDDEVMODE,CHGDEVMODE, および RMVDEVMODE はサポートされなくなりました。OS/400 コマンドの CRTMODD および CHGMODD については、オンライン・ヘルプ情報を参照してください。

移行援助ユーティリティー: 移行援助ユーティリティーは、装置構成に関連する重要な機能を実行します。構成は、システム/38 で保管されますが、その構成を AS/400 に復元するためには、移行援助ユーティリティーを使用しなければなりません。サポートされない装置（たとえば、ディスクット・マガジン装置）は、移行機能により無視されます。

移行援助ユーティリティーは、既存の装置構成を自動的に移行するために使用できる唯一の方法です。CL ジョブ・ストリームまたは CL プログラムに装置構成コマンドがある場合には、データは、何を入力すべきかを判別するために重要なデータである可能性があります。しかし、これらのコマンドは、OS/400 プログラムでは使用することができません。CVTCLSRC は、これらのコマンドを変換しません。

自動構成: 新しいシステム値 (QAUTOCFG) は、構内装置および構内制御装置の自動構成の使用を制御します。省略時値は 1、つまりオンで、自動構成を有効状態にすることを指定します。

自動構成が要求された場合には、システムは、すべての構内装置（表示装置、テープ装置、印刷装置、およびディスク装置）について、その装置の電源がオンになると同時に、装置記述を自動的に作成します。構内制御装置記述も自動的に作成されます。作成された各オブジェクトには、システム定義名が関連付けられ、省略時属性が割り当てられます。CHG コマンドにより変更可能な属性は、オブジェクトの作成方法にかかわらず、属性を変更するために使用することができます（CHG コマンドにすべての作成パラメーターがあるわけではありません）。

注： 装置構成オブジェクトの名前を変更することはできません（名前を変更するためには、いったんオブジェクトを削除して、再作成する必要があります）。詳細については、*装置構成* を参照してください。

構内装置および構内制御装置の自動構成を行いたくない場合には、システム値 QAUTOCFG を 0、つまりオフに変更しなければなりません。この場合に装置または制御装置を作成するには、CRTxxxx コマンドを出すか、あるいは弊社提供のメニューを使用します。

構内装置は自動的に構成することができますが、遠隔装置、遠隔制御装置、および回線については、手操作で構成しなければなりません。自動構成を行うためには、システム提供の命名規則に従って装置名を付けることが必要です。

自動的に構成される構内ワークステーションの命名規則は、システム値 QDEVNAMING に応じて決まります。QDEVNAMING が *NORMAL の場合、ワークステーションは DSP *nn* の名前になります。ここで、*nn* は連続番号です。QDEVNAMING が *DEVADR の場合、ワークステーションは DSP *xyyz* の名前になります。ここで、*xx* はワークステーションが接続されている構内ワークステーションの番号です。*yy* は、ワークステーションが接続しているポートの番号であり、*zz* はワークステーションのスイッチ設定値です。たとえば、DSP010203 と名付けられたワークステーションは、最初の構内ワークステーション制御装置に接続されていて、スイッチ設定値が 3 でポート 2 に接続しています。

ワークステーションが自動的に構成される場合、システムは、ワークステーションをサブシステムに動的に割り振ろうとします。したがって、ワークステーションのタイプではなく、ワークステーションの名前によって、ワークステーションをサブシステムに割り当てる場合には、自動構成の前に、ワークステーションにどのような名前が与えられるかを知っておく必要があります（これにより、正しいワークステーション項目を指定して、サブシステムをセットアップすることができます）。これ

は、QDEVNAMING が *NORMAL の場合には実用的ではありませんが、QDEVNAMING が *DEVADR の場合には、ワークステーション名をそのアドレスから判別することができます。

構成変更： 構成変更コマンドが強化され、装置がオフに構成変更されていれば、アドレスおよびキーボードを変更することができるようになりました。

ワークステーションの割振り： 装置構成機能をどの方法で実行するかに関係なく、システムは、サブシステムへのワークステーションの動的割振りをサポートします。これは、サブシステム・セッションを終了して、制御装置をオフに構成変更しなくても、構内ワークステーション装置を追加しサイン・オン・プロンプトを表示することができるという点で、システム/38 よりも大きく改善されています。ケーブル接続機構を使用して構成された複数の装置の間にワークステーション装置を挿入する場合には、物理的接続を中断する前に、その一連の接続の終端の装置をサイン・オフしておかなければなりません。

動的ワークステーション割振り機能は、サブシステム記述の ADDWSE 項目によって決まります。これには、次のいずれかを指定することができます。

- 任意の総称装置名。たとえば、LOCAL という文字で始まる名前の装置のすべてを指定したい場合には、ADDWSE コマンドの WRKSTN パラメーターに LOCAL* という値を指定することができます。文字 LOCAL で始まる装置が作成されると、サブシステムはこれらの装置を動的に割り振ります。
- 任意の有効なワークステーション。たとえば、ADDWSE WRKSTNTYPE パラメーターが *ALL に設定されている場合には、有効な装置が作成されると、そのワークステーション装置が該当のサブシステムに動的に割り振られます。

弊社提供のサブシステムの出荷時設定の省略時値では、*ALL ADDWSE コマンド項目が備わっています。これは、出荷時の設定値では、装置記述を作成する際に省略時値を使用してワークステーション装置を割り振る（サイン・オン画面を表示する）ということです。

- 任意のワークステーション・タイプ。たとえば、ADDWSE WRKSTNTYPE パラメーターを使用して 5250 装置を要求している場合には、新しい装置が作成されると、その 5250 装置がサブシステムに動的に割り振られます。
- 未構成装置の特定の装置名。たとえば、次のワークステーション装置に DEV09 という名前を割り当て

ることを前もって知ることができるとします。この装置を ADDWSE WRKSTN パラメーターに指定すると、装置記述を作成した時点でサブシステムがその装置を獲得します。ADDWSE コマンドは、サブシステムが非活動状態になっている場合だけ使用することができます。したがって、ワークステーション装置を個別にサブシステムに割り当てようとする場合には、前もって動的ワークステーション追加機能を使用することを計画しておかなければなりません。

たとえば、実際の装置をもたない任意のサブシステムと関連する複数のWRKSTN名を指定することができます。サブシステムが開始されると、QSYSOPR に、装置の割振りができないことを示すメッセージが送られます。同じ名前の装置を構成に組み込めば、その装置の電源をオンにした時点でサイン・オン画面が表示されます。これに代わる方法としては、いくつかの一時ワークステーション項目（たとえば TEMP1 および TEMP2）を追加して、これを装置の一時名として使用する方法があります。あとで都合のよい任意の時点で、命名規則に合う名前を使用して装置を構成に組み込み、サブシステム記述を変更することができます。

注: 構内ワークステーション制御装置に対するサポートと 5294/5394 遠隔制御装置に対するサポートとは異なります。構内ワークステーション制御装置の場合には、制御装置をオフに構成変更しなくても、新しい装置を接続することができます。

5294/5394 遠隔制御装置には、独自のセットアップ要件があります。この制御装置は、オフに構成変更してからでなければ、新しい装置を物理的に追加することはできません。（また、装置を追加する前に、5294/5394 に接続しているすべての装置をサイン・オフおよび構成変更をオフにすることも必要です。）

印刷装置ファイル名: 表示コマンドで使用する印刷装置ファイル名が、次のように変更されました。

コマンド	システム/38	AS/400 名
DSPCTLD	QPDCCTLU	QPDCCTL
DSPDEV	QPDCDEV	QPDCDEV

注: システム/38 の DSPCTLD コマンドは DSPCUD に対応します。

構成変更コマンド: システム/38 の VRYxxx コマンドは、システム/38 環境で使用されます。AS/400 では、VRYCFG という名前の 1 つのコマンドを使用します。この新しいコマンドは、カスケード式構成変更機能を提供するための任意指定機能を備えています。カスケード

式構成変更とは、制御装置をオンに構成変更すると、接続されている装置もオンに構成変更される機能です（システム/38 では、DSPLINSTS メニューおよび DSPCTLSTS メニューからはこの機能がサポートされていますが、VRY コマンドではサポートされていません）。

AS/400 システムでの VRY コマンドの働きは、システム/38 の場合とは異なります。VRY コマンドは、構成変更の要求を標準内部ルーチンに送ります。システムは、低レベルの機械処理が終わるまで待たないため、個々のコマンドからより早く応答が戻されます。ただし、完了メッセージを受け取った時点で、実際の完了も生じているとみなすことはできなくなりました。エスケープ・メッセージは変更されていません。

構成表示: DSPDEVCFG コマンドはサポートされません。このコマンドで表示または印刷できる装置構成属性は、一部であり、全部ではありませんでした。WKR コマンドを実行すると同様の結果を得ることができ、各記述の表示を要求することができます。また、DSPOBJD 出力ファイル・サポートおよび DSPxxxD コマンドを使用すると、同じ機能をプログラミングすることもできます。プログラム例については、付録Dまたは QUSRTOOL ライブラリーの PRTDEVCFG ツールを参照してください。

***PU2 制御装置:** *PU2 制御装置タイプの場合には、CTLADR パラメーターに 00 で始まるアドレスを指定しなければなりません。OS/400 プログラムでは、パラメーターの名前は STNADR で、値は 01 から FF までの範囲で指定しなければなりません。移行援助ユーティリティーは、値を暗黙指定で 01 に変更します。

その他のコマンド: その他の装置コマンド（たとえば DLxxx）は、基本的にはシステム/38 とシステム/38 環境では同一ですが、名前が変更されたものもあります（付録Aを参照してください）。

装置ファイル: 各種装置（たとえば、ディスク、印刷装置など）についての節および2-6ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。

ディスク

ディスク装置: ディスク・マガジン装置はありません。単一スロットのディスク装置は任意使用で、データ交換、保管、および復元のために使用することができます。ディスクを使用するプログラムがあり、OS/400 プログラムの構成にディスク装置が含

まれていない場合には、プログラムを変換する必要があります。

ディスクットの LOC パラメーターは、システム/38 環境の省略時解釈として、単一スロット・ディスクット装置に置き変わります。ほとんどの適用業務では、これは変更の原因とはなりません、相違が生じる場合もあります。たとえば、マガジンを処理して一連のディスクットに対する消去および保管を実行するプログラムがある場合には、単一ディスクットでは最後の保管結果だけしか得られません。したがって、この適用業務は作成しなおす必要があります。マガジン内の複数のディスクットを初期設定するためのプログラムもこの一例です。

省略時装置名: 省略時のディスクット装置名は DKT01 です。システム/38 環境のコマンドでディスクットを使用すると、ディスクット装置名は QDKT であるものとみなされます。したがって、次のいずれかを行う必要があります。

- OS/400 コマンドだけを使用して操作する。
- ディスクット装置記述名 QDKT を作成し、システム作成の DKT01 のオブジェクトを削除する。

修復ユーティリティ: ディスクット修復ユーティリティはサポートされません。

表示コマンド: 表示コマンド (DSPxxx) の一部は、ユーザーによるデータ変更ができないように変更されました。これは、システム要求メニューにも影響します。システム/38 のシステム要求メニューからは、ユーザーは、DSPJOB 機能を使用して、ライブラリー内のオブジェクトの削除、ジョブ属性の変更、およびスプール・ファイルの削除を行うことができました。しかし、変更後は、DSPJOB およびすべての DSPxxx コマンドには、変更を行わないオプションしか含まれていません。たとえば、DSPLIB を使用する場合、オブジェクトを削除するためのオプション 9 (削除) はサポートされていません。これは、ユーザー作成メニューからアクセスできる読取り専用機能が指定できるようにするための、保全性確保のために設けられたものです。

新しい OS/400 コマンド (たとえば、EDTxxx および WRKxxx) により、変更を行うことができます。OS/400 プログラムでは、DSPxxx コマンドはすべて読取り専用です。システム/38 環境では、ほとんどの DSPxxx コマンドで変更が可能です。

表示装置ファイル: 2-6ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。

画面の様式設定

画面出力: 多くのコマンドについて、画面の様式設定が大幅に変更されました。パラメーターの入力ができる画面 (たとえば DSPOUTQ) では、パラメーターは、AS/400 様式で入力する必要があります。たとえば、修飾名を使用して、スプール・ファイルを別の待ち行列に移動するには、パラメーターを次のように指定します。

OUTQ(LIBX/OUTQA)

非修飾形式の場合には、システム/38 の場合と同じです。

OUTQ(OUTQA)

多くの弊社提供画面で ヘルプ・キーがサポートされています。このキーを押すと、使用できる機能の理解に役立つオンライン・ヘルプ情報が表示されます。

カラー表示画面では、必須フィールド、任意選択フィールド、およびエラー・メッセージに使用される色が変更されました。

機能キー: 弊社提供画面の機能キーが変更されました。主な変更点は次のとおりです。

システム/38	説明	AS/400 システム	説明
F1	機能の終了	F3	機能の終了
F2	前画面	F12	取消し

各画面で、機能キーの使用法を説明したヘルプ情報が使用できます。ほとんどの場合、削除要求により、削除の確認を行うための確認画面が表示されます。

表示オプション: オプションが使用できる画面 (たとえば、DSPOUTQ) で、オプション番号が変更されました。主な変更点は次のとおりです。

システム/38	AS/400 システム	説明
1	5	表示
9	4	削除

各画面で、オプションの選択項目を説明するヘルプ機能を使用できます。

分散データ管理機能 (DDM): 2-63ページの『ユーティリティおよびその他のライセンス・プログラム』および5-2ページの『DDM を使用する交換』を参照してください。

編集記述: 機能上の変更はありません。編集記述は移行援助ユーティリティでは移行されません。編集記述の移行の方法を示すプログラム例は、システム/38-AS/400 移行援助プログラム 使用者の手引きと参照を参照してください。

エミュレーション (3270)

アテンション・キー: アテンション・キーは、3270 適用業務画面を中断するため、ヘルプ・キーの代わりに使用します。中断画面には新しい機能があります。この新しいサポートにより、SETATNPGM コマンドが事前に出されていれば、アテンション・キーを中断画面で押すことができるようになりました。したがって、3270 エミュレーション・ジョブでグループ・ジョブ機能を使用して、アテンション・キーを2度押すことにより、新しいグループ・ジョブにアクセスすることができます。

BSC: 従来サポートされていた2進データ同期通信 (BSC) エミュレーション文字セットがさらに改善され、3274 制御装置をエミュレートできるようになりました。

キーボード・サポート: EML3270 コマンドは、英語以外の特定の言語用のキーボード・タイプをサポートしていません。サポートしない KBDTYP 項目は、FSB,FSI,BRB, および BRI です。

エラー処理: エラー状態について QSYSOPR に送られるメッセージの多くは変更されました。通信メッセージについては、2バイトのエラー・コードが4バイトになり、コードも変更されました。

システム/38 プログラムおよびエスケープ・メッセージに使用される入出力フィードバック域は、基本的には同じままです。入出力フィードバック域は、システム/38 とシステム/38 環境との間で互換性を持つため、変更は必要ありません。

メッセージ・テキストは、新しい機能または用語を反映させるために一部変更されました。

2-36ページの『戻りコード』も参照してください。

交換識別コード: システム/38 では、交換識別コードの接頭部として 022 が使用されています。OS/400 プログラムは別のシステムであり、接頭部は 056 に変更されました。AS/400 システムで置き変わるシステム/38 と通信を行い、交換識別コードを使用しているシステムでは、交換識別コードの接頭部の変更が必要です。5-1ページの『交換識別コード』を参照してください。

ファイル: 2-5ページの『データベース』および2-6ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。

金融機関通信: DSPFNCHLP コマンドは、システム/38 環境でも OS/400 プログラムでもサポートされていません。システム/38 サポートのかわりに、画面でヘルプ・キーを使用する新しいヘルプ・サポートが用意されています。

グラフィック・データ表示管理プログラム

(GDDM): 変更はありません。新しいプログラム呼出しとともに、追加機能を使用できます。

図形文字セット: 変更はありません。

グループ・ジョブ: 新しいユーザー・プロファイル・パラメーターにより、アテンション・キー処理プログラムを設定することができます (2-38ページの『機密保護』を参照してください)。ユーザー・プロファイル機能は、次の場合にのみ使用されます。

- 経路指定プログラムが QCMD である。
- TRFGRPJOB コマンドが QCMD に移される。

別のプログラムを使用する場合には、SETATNPGM コマンドを指定しなければなりません。

グループ・ジョブに役立つ新しいコマンドの CHKRCDLCK が追加されました (4-7ページの『グループ・ジョブ』を参照してください)。

ユーザー・メッセージ待ち行列については、2-20ページの『メッセージ処理』を参照してください。

グループ・ジョブについては、『エミュレーション (3270)』の説明を参照してください。

ヘルプ

ヘルプ・キー: ほとんどの弊社提供の画面で、ヘルプ・キーまたは F1 キーを使用して、オンライン・ヘルプ情報にアクセスすることができます。

コマンド・サポート: コマンド・プロンプターは、コマンドおよびパラメーターに関連するヘルプ情報をサポートしています。これは、OS/400 コマンドに限定されます。

QHLPSYS ライブラリー: ライブラリー QHLPSYS のサポートは、システム/38 の場合とは異なっています。AS/400 システムの QHLPSYS ライブラリーには、新しい形式のヘルプ情報が含まれています。QHLPSYS は、ユーザーがこのヘルプ情報にアクセスできるように、ライブラリー・リストのシステム部分に入れて出荷されます。

適用業務ヘルプ情報: 新しい DDS 機能を使用すると、適用業務のヘルプ情報を追加することができます。ヘルプ情報は、表示装置ファイルに記述するか、または AS/400 オフィス・テキスト編集プログラムを使用して記述することができます。詳細については、第4章、*データ記述仕様書*、および *Using OfficeVision/400 Word Processing* ,SH21-0701 を参照してください。

弊社提供のプログラム

サポートされているプログラム: 次のプログラムがサポートされています。その機能および必要なパラメーター・リストには変更はありません。

ストリング走査	QCLSCAN
データ変換	QDCXLATE
印刷データ受取り	QMRSWTRG
BSC 印刷データ受取り	QMRSBSCI
SNA 印刷データ受取り	QMRSSNAI
データ待ち行列からの受取り	QRCVDTAQ
プログラム具体化	QSCMATPG
具体化バージョンからのプログラム作成	QSCCRTPG
データ待ち行列への送信	QSNDDTAQ

GDDM* には、変更のなかったプログラムがあります。2-12ページの『グラフィック・データ表示管理プログラム (GDDM)』を参照してください。

次のプログラムはサポートされますが、使用するコマンドの構文によって使用される名前が異なります。

システム/38 環境	OS/400 プログラム	説明
QCL	QCMD	コマンド入力
QCAEXEC	QCMDEXEC	ストリングからのコマンドの実行
QCACHECK	QCMDCHK	コマンドの妥当性検査

QCMD の機能は QCL の機能を拡張したものです (2-47ページの『サイン・オン』を参照してください)。QCMDEXEC および QCMDCHK の機能は、OS/400 の構文を受け入れるという点を除いて、対応するシステム/38 の機能と同じです。

システム/38 から RCLRSC LVL (*CALLER) が指定された QCAEXEC を使用する AS/400 システムに HLL プログラムを移行する場合には、プログラムのファイルがクローズされるため、エラーが生じます。これは、AS/400 システム上で変更が行われ、再使用レベルの設定時に QCAEXEC 呼出しが無視されるためです。プログラムを正しく実行するには、RCLRSC を変更して LVL (*) を指定しなければなりません。

QPGMMENU の詳細については2-28ページの『プログラマー・メニュー』を参照してください。

サポートされないプログラム: 次のプログラムはサポートされていません (これらのプログラムを呼び出すと、見つかりませんというメッセージが表示されます)。

システム操作員メニュー	QOPRMENU
ユーザー・メニュー	QCALLMENU

これらの機能のかわりに、新しいシステム・メニューを使用することができます。上記のいずれかのプログラムを使用していて、それが重要な場合には、ユーザー独自のバージョンの開発を検討してください。

システム間通信機能 (ICF) コマンド: 新しい ICF ファイルは、BSC,MXD, および CMN の各ファイル・タイプに代わって、OS/400 プログラムで使用されます。これらのファイル・タイプの詳細については、4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。新しいコマンドには次のものがあります。

ICF プログラム装置項目の追加	ADDICFDEVE
ICF プログラム装置項目の変更	CHGICFDEVE
ICF ファイルの変更	CHGICFF
ICF ファイルの作成	CR TICFF
ICF 装置	

項目の一時変更の削除	DLTOVRDEVE
ICF 装置項目の一時変更	OVRICFDEVE
ICF ファイルの一時変更	OVRICFF
ICF 装置項目の除去	RMVICFDEVE

各コマンドの詳細については、各コマンドのオンライン・ヘルプ情報を参照してください。

独立ワークステーション: これは、クライアント・アクセス/400 と呼ばれるようになりました。2-65 ページの『知能ワークステーション・サポート (5714-PC1)』を参照してください。

初期プログラム・ロード (IPL)

在席モードと不在モード: IPL のサイン・オンに続いて、システム/38 で表示されていた CPF 開始画面は、**IPL オプション**に変更されました。システム/38 で IPL のたびにこの画面が表示されていた主な理由の 1 つは、日付および時刻の入力を操作員に要求することでした。AS/400 システムでは、常時給電されている刻時機構が備わっているために、ほとんどの IPL でこのステップが不要になりました。このため、IPL を在席モードまたは不在モードのどちらで行うかを指定できる、新しいシステム値 (QIPLTYPE) が使用されます。

不在 IPL は省略時の値です。つまり、一度システムの電源を入れると、後は操作員が不要になります。制御サブシステムが自動的に開始され、自動開始ジョブがシステムを起動し、固有の要件を実行します。自動開始ジョブの作成に役立つ新しいサポートについては、2-54 ページの『サブシステム記述』を参照してください。

操作員制御パネルで手動キー・ロック位置を使用して、省略時の不在モードを一時変更することができます。これにより、省略時値を不在モードにしたまま、特定の要件についてのみ在席 IPL を行うことができます。

システムでは、特定の時刻に IPL が実行されるようにすることも (QIPLDATTIM システム値を参照)、遠隔 IPL を行うこともできます (QRMTIPL システム値を参照)。

在席 IPL を行う理由の 1 つに、専用保守ツール (DST) 機能の使用があります。機能によっては、システムが DST 機能専用モードの場合にのみ実行できるものもあります (たとえば、ディスク装置初期設定など)。DST の詳細については、2-46 ページの『サービス』を参照してください。

在席 IPL を行うもう 1 つの理由に、OS/400 プログラムからの IPL オプションへのアクセスがあります。OS/400 の IPL オプション画面は変更されて、いくつかのオプションが追加されました。

- 該当の装置のみの開始。このオプションを選択すると、操作員は IPL を実行して、制限状態に直接入ることができます。制限状態は、SAVSYS,RCLSTG, および新しいコマンドである RSTCFG などに使用されます。システム/38 では、システムを起動して、活動サブシステムを終了しないと、制限状態に入れませんでした。
- 印刷書出しプログラム・オプションの開始。このオプションは、プログラムによりテスト可能なシステム値を設定します。これは、自動開始ジョブでシステムの印刷装置を起動できるようにするために、特に用意されたオプションです。ユーザーの便宜を図るために、省略時の自動開始ジョブも用意されています。2-54 ページの『サブシステム記述』を参照してください。

頻度: システム/38 では、IPL を頻繁に行うことが推奨されていました。AS/400 システムでは、IPL を頻繁に行う必要はありません。システムが内部機能の終結処置を自動的に行います。しかし、システムが行う機能の中には、IPL 時に行われるものもあるため、定期的に IPL を行うことを勧めます。2-1 ページの『アドレスの再生成』および 4-12 ページの『プログラム』を参照してください。

構成メニュー: システム/38 の構成メニューの名前は、IPL 時に、**システムの定義または変更**に変更されました。また、この画面で入力できる有効なコマンドの数も増えました。

プール・サイズおよび活動レベル: IPL 時に、システムに記憶域プール・サイズおよび活動レベルの調整をさせるための、パフォーマンス調整オプションがあります。2-54 ページの『サブシステム記述』を参照してください。

システム値: システム値 QIPLSTS が QAUTOIMPL に代わって使用され、実行された IPL のタイプ (時刻指定 IPL など) を示す値を入れることができるようになりました。

操作卓装置: システムが操作卓装置を決定する方法については、2-4 ページの『操作卓』を参照してください。

導入: 導入には 2 つの目的があります。

- 初期導入または新しいリリースのための配布媒体の導入。トータル・システム・パッケージ (TSP) オプション (第7章を参照) を選択した場合は、ソフトウェアはシステムにすでに導入されているため、この移行のステップは必要ありません。TSP オプションを選択しなかった場合、ほとんどの国 (米国を含む) で、OS/400 プログラムとライセンス内部コードをすでにロードした状態でシステムを出荷します。ロードしない状態で出荷された場合は、OS/400 プログラムとライセンス内部コードを導入する必要があります。
- システム全体を再ロードする必要がある場合は、弊社から受け取った媒体、または OS/400 プログラムで SAVSYS コマンドにより保管された媒体を導入してください。AS/400 システムでの導入には、システム/38 で保管されたテープまたはディスクセットを使用することはできません。

使用装置: テープ (任意のテープ・モデル) による導入だけがサポートされています (ディスクセットはサポートされていません)。システム/38 の場合のような、SAVSYS による単一ディスクセットの書込みの機能は必要ありません。これに代わる IPL は、AS/400 システムでは任意のテープ装置から直接行うことができます。

基本言語: TSP を使用しない場合、導入処理による最初のプロンプトにより (印刷指示に従って)、基本言語 (たとえば、英語、ドイツ語、またはフランス語) を指定するよう要求されます。以後の導入処理は、選択した基本言語で表示されるメニューおよびプロンプトに従って進められます。すべてのメニューに、導入に役立つヘルプ情報があります。

システム値とユーザー・プロファイル: プロンプトを使用して、システム値が導入され、コマンドによりユーザー・プロファイルが復元されます。移行ステップでは、これらの機能は、AS/400 プログラムの導入後に使用しなければならない移行援助ユーティリティー・コマンドの一部として処理されます。

RSTUSRPRF を使用すると、システム/38 の SAVSYS コマンドによって作成されたテープから、ユーザー・プロファイルを復元することができます。ただし、権限の組合せ (2-38ページの『機密保護』を参照) は、移行援助ユーティリティーによって保管された媒体から、AS/400 システムで移行援助ユーティリティー・コマンドを使用した場合のみ実行することができます。

装置構成: 新しい OS/400 コマンド (RSTCFG) を使用すると、導入処理でプロンプトを使用する代わりに、AS/400 装置構成を復元することができます。このコマンドは、システム/38 の SAVSYS テープから装置構成を復元するために使用することはできません。移行援助ユーティリティー・コマンドだけが、装置構成オブジェクトを移行することができます。2-7ページの『装置構成』を参照してください。

ライセンス・プログラムの配布: LICPGM (ライセンス・プログラムの処理) メニュー、または OS/400 の新しいコマンドである SAVLICPGM および RSTLICPGM は、プログラム配布を目的としていません。SAVLIB コマンドおよび RSTLIB コマンドは、ライセンス・プログラム・ライブラリーのバックアップ用に使用します。

ジョブ: ジョブの命名規則は、OS/400 プログラムでもシステム/38 環境でも同じです。OS/400 で構文変更が行われたために、ジョブ名はJOBNBR/USER/JOBの形式で入力する必要があります。4-11ページの『命名規則』を参照してください。

システム/38 のジョブ・ストリームを使用するには、特殊な経路指定項目が必要です。2-54ページの『サブシステム記述』を参照してください。

ジョブ会計: ジョブ会計ジャーナルは移行されません。会計ジャーナルは、AS/400 システムで復元するか、または作成しなければなりません。詳細およびジョブ会計ジャーナルを AS/400 システムに移行するために使用できるプログラムの例については、システム/38-AS/400 移行援助プログラム 使用者の手引きと参照を参照してください。QACGLVL システム値は、移行援助ユーティリティーにより移行されます。しかし、移行援助ユーティリティーの実行時に、QACGJRN ジャーナルが AS/400 システムになれば、システム値は *NONE に設定されます。

ジョブ記述

新しいパラメーター: ジョブ記述オブジェクトの新しいパラメーターは、移行に影響しません。

省略時のジョブ記述: 新しい省略時ジョブ記述 (QGPL の QDFTJOB) は、ユーザー・プロファイルの作成時に使用されます。特定の JOB) を割り当てることもできます。

サイン・オンの省略時値: 出荷時設定のサブシステムの省略時値では、サブシステムと同じ名前前のジョブ記述ではなく、サイン・オンしたユーザーのジョブ記述が使用されます (2-54ページの『サブシステム記述』を参照してください)。

SBMJOB の省略時値: OS/400 の SBJJOB コマンドの省略時値は、ユーザー・プロファイルの JOBD を使用するように変更されました。システム/38 環境のコマンドは、システム/38 の省略時値 QBATCH を使用します。

ユーザー・プロファイル: 移行によりユーザー・プロファイルのジョブ記述パラメーターがどのように処理されるかについては、2-38ページの『機密保護』を参照してください。

QSYSJOB: バックアップには、新しいジョブ記述 (QSYS の QSYSJOB) が使用されます。これは変更することができず、サポートされていないジョブ記述がある場合には、このジョブ記述を一時的に使用することができます。QSYSJOB は、ユーザーのジョブ記述がシステムにない場合にも、サイン・オン時に暗黙指定で使用されます。

自動開始ジョブ: 新しいジョブ記述 (QSTRUPJD) により、自動開始ジョブの使用がさらに簡単になりました。自動開始ジョブの詳細については、2-54ページの『サブシステム記述』を参照してください。

ジョブ待ち行列

移行: 移行援助ユーティリティ、または保管および復元により、ジョブ待ち行列のオブジェクト記述は移行されますが、ジョブ待ち行列のジョブは移行されません。

DSPJOBQ: DSPJOBQ コマンドの新しいサポート (OS/400 環境での WRKJOBQ) を使用すると、ユーザーは、システム/38 の出力待ち行列画面のパラメーター行と同じ方法で、ジョブのパラメーターを変更することができます。さらに、JOBPTY (0) の値を CHGJOB に指定することによって、ジョブを待ち行列の先頭に置くこともできます。

ジョブの優先順位: OS/400 環境では、コマンドの新しいサポートにより、ジョブ待ち行列項目でジョブの優先順位ごとに最大活動レベルを設定できるようになりました。この機能は、システム/38 環境の ADD/CHGJOBQE コマンドでは要求することができません。この場合には、各優先順位に省略時値である最大限度なしが使用されます。

ただし、この変更に関して 2 つの相違点があります。

- いずれの環境でも、ジョブ待ち行列項目の DSPSBSD 画面が表示されると、優先順位の設定が表示されます。
- CHGJOBQE コマンドは、どちらの環境でも、サブシステムが活動状態の間使用できるようになりました。

ジョブ・ストリーム: 変更はありません。出荷時のサブシステムには、ジョブ・コマンドで使用される経路指定項目があり、これによりシステム/38 環境の構文が検査されます。

ジャーナル: 変更はありません。2-15ページの『ジョブ会計』を参照してください。

ライブラリー

移行: 移行援助ユーティリティは、QGPL 以外の Q で始まるライブラリーは移行しません。文字 Q で始まるライブラリーを作成した場合、あるいは QRPQ などのライブラリーに入っているオブジェクトやメンバーがある場合には、保管および復元によりそれらを移行しなければなりません。

QSYS38 および QUSER38: QSYS38 ライブラリーも QUSER38 ライブラリーも、ライブラリー・リストには含めないようにしてください。システム/38 属性を備えたプログラムを実行すると、コマンド分析プログラムは、これらのライブラリーを最初に使用します。これらのライブラリーの詳細については、1-6ページの『システム/38 環境とは』を参照してください。

システム値: QSYSLIBL システム値は、出荷時に次のライブラリーに設定されます。

QSYS
QUSRSYS
QHLPYSYS

現行ライブラリー: ユーザー・プロファイルの CURLIB パラメーターは (第1章で説明したように)、*CRTDFT に省略時設定されます。この省略時値は、ライブラリー探索リストを変更するものではありません。DSPLIBL コマンドは、システム/38 の場合と同様に機能します。

CURLIB パラメーターは、ユーザー・プロファイル、または OS/400 の CHGLIBL コマンド、もしくは CHGCURLIB コマンドに指定されます。システム/38

環境の CRT コマンドを使用した場合でもシステム/38 定義の場合でも違いはありません。CRT コマンドの省略時解釈では、作成されたオブジェクトは QGPL に入れます。OS/400 の CRT コマンドの場合には違いが生じます。この違いが生じる原因は、作成コマンドに使用される省略時値の違いにあります。

システム/38環境	CRTCLPGM	PGM(xxx.QGPL)
OS/400	CRTCLPGM	PGM(*CURLIB/xxx)

現行ライブラリー値にライブラリー名が入っている場合には、ライブラリー探索リストが変更され、DSPLIBL 画面に現行ライブラリー名が表示されます。ユーザー CL ステートメントの多くに、修飾されていないオブジェクト名が指定されるため、そのオブジェクトを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。現行ライブラリーを指定した場合には、オブジェクトの入っているライブラリーに変更が生じることがあります。

1 つのライブラリーは、現行ライブラリーであると同時に、ライブラリー・リストに含まれているライブラリーであることが可能です。このライブラリーは、システムまたはライブラリーのユーザー部分のいずれかに含めることができます。現行ライブラリーと同じライブラリーが、ライブラリー・リストのユーザー部分にある場合には、そのライブラリーも、ライブラリー・リストのユーザー部分を構成する 25 のライブラリーの 1 つに数えられます。現行ライブラリーが、ライブラリー・リストの

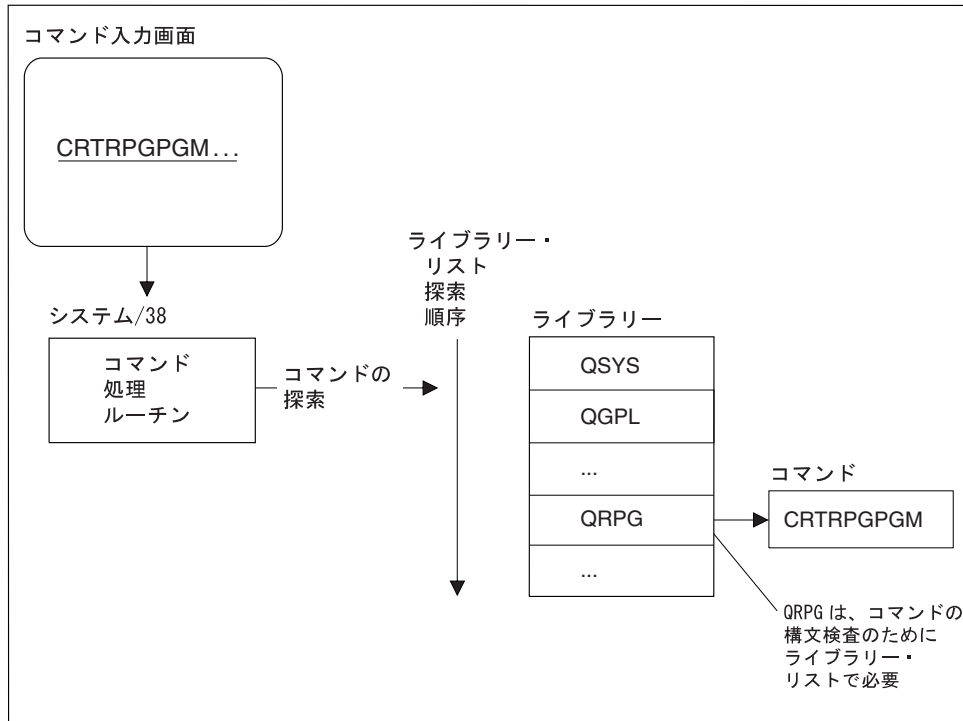
システム部分に含まれているライブラリーの 1 つである場合には、現行ライブラリーも、ライブラリー・リストのシステム部分の 15 のライブラリーの 1 つに数えられます。現行ライブラリーがユーザー部分に入っている場合には、現行ライブラリー内のオブジェクトを探索で見つけることができます。4-10 ページの『ライブラリー』を参照してください。

プロダクト・ライブラリー: コマンド定義の PRDLIB パラメーターを使用すると、コマンド処理中に使用できるライブラリーを、コマンドによって指定することができます。このライブラリーは、ライブラリー・リストになくともかまいません。*LIBL 機能を要求した場合、この機能にはプロダクト・ライブラリーと現行ライブラリーの両方が含まれます。この機能は、弊社提供の言語およびユーティリティーによって、システム/38 環境および OS/400 の両方のコマンドに使用されます。

プロダクト・ライブラリーの概念を十分に活用できるようにするために、言語およびユーティリティー用のコマンド定義オブジェクトが、QSYS ライブラリーに入れられました。これは、システム/38 ではプロダクト・ライブラリーにありました。導入処理により、コマンドは、プロダクト・ライブラリーから QSYS にコピーされません。システムでは、2 つのプロダクト・ライブラリーがサポートされています。ユーザーが指定できるのは、最初の 1 つだけです。2 番目のプロダクト・ライブラリーは、内部機能に使用されます。

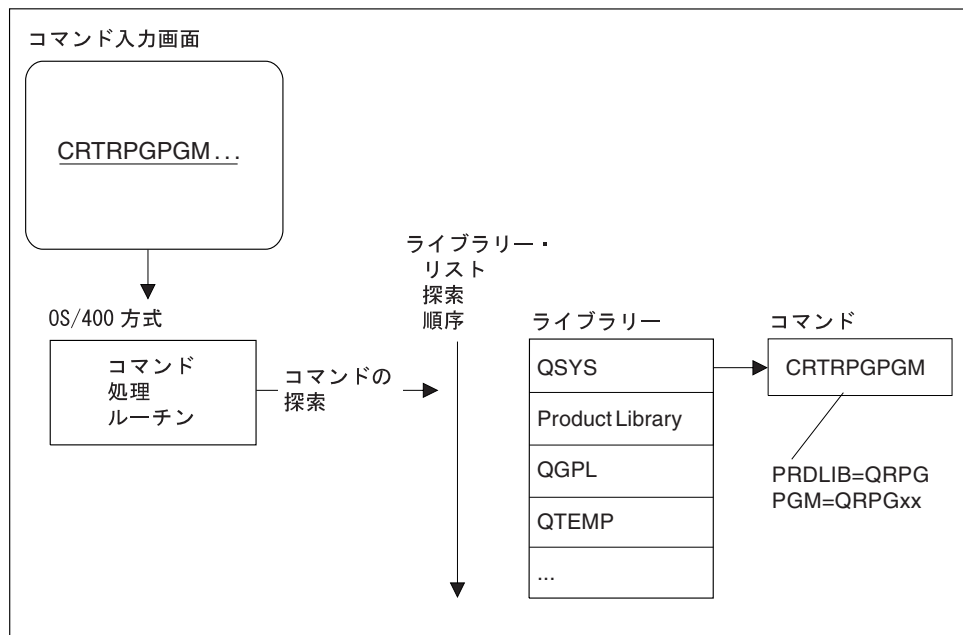
次の図は、プロダクト・ライブラリーの使用に関するシステム/38 と OS/400 プログラムの方式を示しています。

システム/38 方式



RV2W309-0

OS/400 方式



RV2W310-0

AS/400 方式では、CRTRPGPGM コマンドは QSYS に入っています。したがって、このコマンドを入力する

と、QRPG がライブラリー・リストになくても、コマ

ンドは見つかります。これにより、コマンドの構文検査を行うことができます。

注: このコマンドには、コマンド処理プログラムだけでなく PRDLIB 情報も含まれています。

CRTRPGPGM コマンドを実行すると、QRPG がライブラリー・リストのプロダクト・ライブラリー部分に入り、コマンド処理プログラムが呼び出されます。コマンドの実行が完了すると、QRPG ライブラリーは、プロダクト・ライブラリー部分から除去されます。

SEU 構文検査機能についても、またはコマンドを実行する際にも、QRPG ライブラリーがライブラリー・リストに含まれている必要はありません。

PRDLIB の値は、使用するコマンドにプロダクト・ライブラリーが指定されている場合にのみ、DSPLIBL 画面に表示されます。

プロファイルおよびコマンドの変更: 現行ライブラリーおよびプロダクト・ライブラリーのどちらのサポートでも、すでにライブラリー・リストに入っていると思われるライブラリーの名前を指定することができます。したがって、既存のジョブ記述を変更せずに、この新しいサポートで使用するユーザー・プロファイルおよびコマンドの変更を開始することができます。

DSPOBJD 出力ファイル: DSPOBJD の出力ファイルの様式では、レコードの終わりにフィールドがいくつか追加されました。これは、既存のプログラムを変更する要因にはなりません。オブジェクトの属性を定義する ODOBAT フィールドには、システム/38 属性用の新しい値（たとえば、RPG38）が含まれます。2-24ページの『オブジェクト属性および原始仕様のタイプ』を参照してください。ODOBTP フィールドでは、1 つだけ値に変更がありました。このフィールドの詳細については、2-5ページの『相互参照』を参照してください。

削除オプション: OS/400 プログラムの DSPQBJD および DSPLIB は、オブジェクトを削除するためのオプション 9（削除）をサポートしていません。新しい OS/400 コマンドの WRKOBJ で削除オプションを使用することができます。

名前の変更: ライブラリーに、ジャーナル、ジャーナル・レシーバー、または新しい IDDU デイクショナリー・オブジェクトが含まれている場合には、その名前 (RNMOBJ) を変更することはできません。

ログ

QCHG: システム・ログ QCHG はサポートされません。システム/38 では、このログはプログラミング変更専用でした。AS/400 システムの変更は、プログラミング一時修正 (PTF) と呼ばれます。PTF は QHST に記録されます。2-29ページの『プログラミング一時修正 (PTF)』を参照してください。

QSRV: システム・ログ QSRV はサポートされません。同様の機能を問題ログで使用することができます。(2-28ページの『問題ログ』を参照してください)。

LU-1: 論理装置 1 (LU-1) サポートでは、要求単位の長さについての制限が少なくなりました。装置構成の変更が必要です。2-7ページの『装置構成』の新しいコマンドの説明を参照してください。2-6ページの『データ記述仕様 (DDS)』では、CMNF ファイルについて説明しています。

メニュー

コマンド: DSPMNU はサポートされません。このコマンドは、同様の機能を持ち、OS/400 コマンドだけを識別する GO コマンドと置き換わりました。システム/38 環境コマンドを DSPMNU コマンドと同様の方法で表示するサポートはありません。ただし、WRKCMD (コマンド処理) コマンドと SLTCMD (コマンド選択) コマンドを使用すると、システム/38 のコマンドを選択することができます。

GO コマンドでは、次のものが表示されます。

- システムの操作に役立つように設計された弊社提供の任意の新しいメニュー（たとえば、システム・メイン・メニュー）。総称名を入力するとリストが表示されます。
- 新しいコマンド・グループ・メニュー。これは、システム/38 の DSPMNU で実行されていた機能と置き換わりました。
- ユーザー・メニュー。これは、オブジェクト・タイプ *MENU として定義されます。これは新しい機能であり、4-11ページの『メニュー』に説明されています。

GO コマンドを使用すると、メニュー・オブジェクトであるメニューを、ただちに表示することができます。たとえば、システム・メニュー QSYS/MAIN は、作成されたすべてのプロファイルの省略時の初期メニューとして割り当てられます。このメニューに即時にアクセスするには、次のように指定します。

GO MAIN
または GO MENU(MAIN)

システム/38 の DSPMNU と同様の機能を使用できるようにするために、OS/400 コマンドがメニュー・オブジェクトに入っており、3 文字の省略語 CMD で始まる名前が付いています。このようなメニューをコマンド・グループ・メニューといいます。次に、名前に JOB が付くコマンドにアクセスする方法の比較を示します。

システム/38	DSPMNU	MENU(JOB)
OS/400	GO	MENU(CMDJOB)

新しい CMDxxx メニュー・オブジェクトを処理するために、コマンド・グループ・メニューが変更されました。

- プロンプトを使用しないでコマンドを実行するための F16 は、メニューからはサポートされません。
- コマンドにヘルプ情報を使用することができます。
- すべてのコマンド・メニューにコマンド入力行（コマンドを入力するための行）があります。コマンド名またはメニュー名を入力するための特定フィールドはありません。
- AS/400 システムだけの機能もあります。たとえば、システム/38 でパラメーター行が入力してきた画面は、AS/400 システムでも同様の機能を備えています。項目は OS/400 構文で入力しなければなりません。たとえば、スプール・ファイルを別の出力待ち行列に変更するための DSPOUTQ 機能は、OUTQ (LIBX/OUTQB) のように、OS/400 構文で指定しなければなりません。

コマンド入力機能: システム/38 では、コマンド入力機能をサポートする画面（たとえば、コマンド入力画面およびプログラマー・メニュー）はほとんどありませんでした。AS/400 システムでは、ほとんどすべての OS/400 メニューで、コマンド入力行にコマンドを入力する機能がサポートされています。ただし、AS/400 メニューでは、OS/400 構文しかサポートされません。

ユーザーにコマンド入力の一般権限を与えるかどうかを制御することができます。メニューを機密保護の手段として使用したい場合には、LMTCPB パラメーターをユーザー・プロファイルに指定することができます (2-38 ページの『機密保護』を参照してください)。

サポートされないメニュー: QCALLMENU はサポートされません。このメニューは、QUSER プロファイルの省略時メニューであり、これを使用すると、プログラムの呼出しを容易に行うことができました。システム

/38 のこの機能をシミュレートするユーザー独自のバージョンを作成することができます。

QOPRMENU はサポートされません。このメニューは、QSYSOPR プロファイルの省略時メニューであり、これを使用すると、システム操作員機能へのアクセスが容易になりました。システムの操作に役立つ新しいシステム・メニューが備わっています。

その他のメニュー: プログラマー・メニューに対する変更については、2-28 ページの『プログラマー・メニュー』を参照してください。

システム要求メニューに対する変更については、2-57 ページの『システム要求』を参照してください。

OS/400 の IPL オプションの構成メニューは、名前が変更され、機能も強化されました。2-14 ページの『初期プログラム・ロード (IPL)』を参照してください。

メッセージ処理

移行: 移行援助ユーティリティ、または保管および復元機能により、メッセージ待ち行列のオブジェクト記述を移行することはできますが、待ち行列内のメッセージは移行されません。メッセージ・ファイルのオブジェクトおよびメッセージ記述は移行されます。システム応答リストは保管されないため、手操作で更新しなければなりません。

メッセージ識別コード: ほとんどのメッセージ識別コードは、CPFxxxx タイプのメッセージも含めて変更されていません。ほとんどの場合、エスケープ・メッセージを監視するプログラムは、変更する必要はありません。QSYSOPR に送られるメッセージ識別コードのいくつかは変更されました。

有効なメッセージ記述の識別コードには、最後の 4 文字として A ~ F の文字 (0 ~ 9 に加えて) が含まれています。弊社提供のメッセージの中には、この拡張された命名機能を使用しているものがあります。システム/38 環境のコマンドは、この拡張された定義を処理することができます。

ユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列:

AS/400 システムでは、各ユーザー・プロファイルごとに関連するメッセージ待ち行列が 1 つあります。ユーザー・プロファイルを作成する場合の省略時解釈では、QUSRSYS ライブラリーのユーザー・プロファイルと同じ名前のメッセージ待ち行列が作成されます。OS/400 コマンドを使用すると、

SNDMSG, SNDUSRMSG, および SNDPGMMSG 上の特定項目を、ユーザー・プロファイルに関連したメッセージ待ち行列に直接送ることができます。システム/38 環境コマンドでは、このように簡単に待ち行列を使用することはできません。しかし、システム/38 環境では、RTVUSRPRF を使用して、ユーザー・プロファイルに関連する MSGQ にアクセスしてから、SND コマンドに検索する名前を指定することによって、ほぼ同様の機能を実行することができます。

いずれの場合にも、DSPMSG コマンドによって、ワークステーション・メッセージ待ち行列（メッセージがある場合）と、省略時値であるユーザー・メッセージ待ち行列の両方を表示することができます。ユーザー・メッセージ待ち行列機能を使用したくない場合には、DSPMSG コマンドの省略時値を変更することができます。

ユーザー・メッセージ待ち行列は、グループ・ジョブの転送時に (TFRGRPJOB コマンドで) 自動的に転送されます。同じユーザーが、TFRSECJOB を使用して、2 次ジョブにもサイン・オンしている場合には、ユーザー・メッセージ待ち行列も転送されます。

ユーザー・メッセージ待ち行列は、ユーザーにメッセージを送るための望ましい方法です。たとえば、SND コマンドでは、通常のワークステーション名よりも一般的にわかりやすいユーザー名を指定して通信を行うことができます。システム・サポートは、1 つのメッセージ待ち行列が、1 つのユーザー・プロファイルに関連しているという事実を基盤にしています。このサポートを利用することができます。すでに固有のユーザー・メッセージ待ち行列を作成してあるが、その名前をユーザー・プロファイルの MSGQ パラメーターに指定しない場合には、変更を加えることを検討してください。

ユーザー・プロファイルの 2 つの新しいパラメーター DLVRY および SEV により、ユーザー・メッセージ待ち行列の初期設定を指定することができます。これらの値はジョブ属性にコピーされ、ジョブの実行中に変更することができます。これらのパラメーターの詳細については、*CL(制御言語)解説書* を参照してください。

システム/38 環境コマンドでは、CRTMSGQ コマンドの SENDER パラメーターは無視されます。すべてのメッセージ待ち行列（システム/38 から移行されたものを含む）は、SENDER (*JOB *PGM *DTS) と同等です。OS/400 プログラムでは、送信元情報の追加により、メッセージの長さが約 50 文字分増加します。したがって、メッセージ待ち行列のサイズを拡大しなければならない場合があります。

QSYSOPR メッセージ待ち行列に送られるエラー・メッセージの、2 バイト・エラー・コードは 4 バイト・コードに変更されており、今後変更される場合があります。通信メッセージの場合、ハードウェア・エラー・コードの値も変更されました。

QSYSMSGQ: システム/38 で QSYSMSGQ を使用している場合には、AS/400 システムに QSYSMSGQ を再作成する必要があります。詳細およびユーザー・メッセージ待ち行列 (QSYSMSG) を AS/400 システムに移行するためのプログラムの例については、システム */38-AS/400 移行援助プログラム 使用者の手引きと参照* を参照してください。

QSYSOPR: QSYSOPR ユーザー・プロファイルは、MSGQ (QSYS/QSYSOPR), DLVRY (*BREAK), および SEV (30) に設定されています。これにより、通常の QSYSOPR メッセージ待ち行列は、QSYSOPR のサイン・オン時には中断モードになり、システムに 2 つの QSYSOPR メッセージ待ち行列が同時に存在しないようになっています。これは、システム/38 とは異なる点です。システム/38 では、QSYSOPR が IPL を実行しないかぎり、操作員がサイン・オンしても、待ち行列が自動的に中断モードになることはありませんでした。

システム/38 方式に、QSYSOPR の初期プログラムとして、待ち行列を中断モードにし、重大度設定を確立するプログラムがあった場合には、変更はありません。システム・サポートが使用できるように、初期プログラムを変更することもできます。

他のすべての弊社提供の出荷時設定のユーザー・プロファイルでは、QUSRSYS にメッセージ待ち行列を作成するよう、MSGQ パラメーターが省略時設定されています（たとえば、QUSRSYS/QPGMR）。

メッセージ・テキスト: システム・メッセージ・テキストは、すべて OS/400 様式で表示されます。たとえば、代表的な修飾名は、メッセージ・テキストにおいて LIBY 内の OBJX として記述されます。メッセージ・データ様式（たとえば、RCVMSG の MSGDTA パラメーター）は、ほとんどのメッセージ識別コードにおいて、システム/38 と同じか、または互換性を持っています。

たとえば、システム/38 のメッセージ記述は、次のように表示されます。

```
MSG('Object &1.&2 type &3 deleted.')
```

置換え値は次のように表示されます。

&1 オブジェクト名 *CHAR LEN(10)
&2 ライブラリー名 *CHAR LEN(10)
&3 オブジェクト・タイプ *CHAR LEN(7)

メッセージを送信するためには、SNDPGMMSG コマンドを使用して、メッセージ識別コード (CPC2191)、メッセージ・ファイル (QCPFMSG)、およびメッセージ・テキストに代入する置換え値を含むメッセージ・データを識別します。メッセージ・データは、27 バイト (置換え値として記述された長さの合計) と定義されます。メッセージ・データの内容が次のとおりとなります。

```
'OBJX LIBY *JOBDD '
```

システム/38 でメッセージが表示されると、次のようになります。

```
'オブジェクトOBJX.LIBYタイプ*JOBDDは削除  
されました'
```

AS/400 システムでは、メッセージは次のようになります。

```
MSG('&2のタイプ&3のオブジェクト&1は削除  
されました')
```

SNDPGMMSG コマンドにも、MSGDTA パラメータの様式設定にも変更はありません。メッセージは次のように表示されます。

```
'LIBYタイプの*JOBDDのオブジェクトOBJXは削除  
されました'
```

RCVMSG コマンドを使用すると、MSGDTA を検索し、システム/38 の場合と同じ様式でそれを受け取ることができます。したがって、メッセージ・データを使用して、弊社提供のメッセージの送信および受取りを行うプログラムは、ほとんどの場合、変更の必要がありません。

しかし、プログラムがメッセージ・テキスト自体を走査する場合 (たとえば、RCVMSG に MSGD パラメータを使用して)、事情が異なります。システム/38 では、ピリオドを走査することによって、メッセージ・テキスト内の修飾名を探索していたプログラムがあります。このような場合には変更が必要です。活動記録ログ内のメッセージ・テキストを走査するプログラムにも同じことがいえます。

メッセージの手引き: システム/38 の *System/38 Messages Guide* (SC21-7736) は現在発表されていません。メッセージ・テキストおよびメッセージ・データの様式は、メッセージのオンライン画面に示されています。メッセージ・データの置換え値の内容を示す語は含まれて

いません。ほとんどの場合、置換え値の内容は、メッセージ・テキストを見ればすぐわかります。*System/38 Messages Guide* の置換え値の説明をよく参照していた場合は、この資料を保存しておく方がよいでしょう。

メッセージ記述の変更: OS/400 の WRKMSGD コマンドは、メッセージ記述情報を検索して、既存の値を CHGMSGD コマンドのコマンド・プロンプトに入れます。これにより、既存のメッセージ・テキストの変更が容易になります。

メッセージ画面: 第 1 レベル・メッセージの画面が変更され、すべての即時メッセージについて、その送信者、および送信の日時が識別できるようになりました。また、即時メッセージで表示される行が 1 行追加されました。

第 2 レベルメッセージ画面は大幅に変更されました。

- 照会メッセージに対する応答を、第 2 レベル・メッセージ・テキスト画面 (ヘルプ・キーを押すと表示される画面) で指定することができます。
- メッセージによっては、様式設定に空白行および字下げが含まれています。これにより、メッセージが非常に読みやすくなりました。

ユーザー独自のメッセージ・テキストを変更して、新しい様式設定文字を組み込むことができます。オンライン・ヘルプ情報の ADDMSGD コマンドおよび CHGMSGD コマンドの説明を参照してください。

特定のメッセージでは、問題判別のために、問題分析機能にアクセスすることができます。2-28 ページの『問題分析機能』を参照してください。

PDPCODE キーワードおよび LOG キーワード: メッセージに割り当てられていた問題判別 (PDP) コードは取り除かれました。この機能は、改善されたメッセージ・テキストと問題分析機能の組合せに置き換わりました。メッセージを QSRV に記録するための LOG 機能はサポートされません。PDPCODE キーワードおよび LOG キーワードは、システム/38 環境の RTVMSG コマンドおよび RCVMSG コマンドに残ってはいますが、空白が返されます。これに対応するキーワードは、ADDMSGD コマンドおよび CHGMSGD コマンドでは無視されます。サポートされない機能の詳細については、2-46 ページの『サービス』を参照してください。

照会メッセージ: 対話式ジョブがメッセージ待ち行列に照会メッセージを出し、応答が暗黙に行われない場合 (たとえば、待ち行列が省略時のモードになっている場合や、システム応答リストが使用される場合) には、ジ

ジョブが応答待ちの状態にあることをユーザーに知らせるための状況メッセージが、ワークステーションに送られます。

たとえば、保管コマンドを対話式で使用しているとします。コマンドの実行中に、媒体に関する照会メッセージが QSYSOPR メッセージ待ち行列に送られたとします。システム/38 のワークステーションの場合には、ジョブが応答待ち中であることを示すフィードバックはありません。AS/400 システムの場合、ジョブが QSYSOPR に送ったメッセージの応答を待機中であることを知らせるメッセージが表示されます。

QSYSOPRDEV システム値: QSYSOPRDEV システム値はサポートされません。このシステム値は、QSYSOPR でメッセージを受け取ったときに、QSYSOPR が割り振られていなかった場合に、メッセージの送り先とするメッセージ待ち行列を指定するものでした。

ワークステーションとしてのパーソナル・コンピュータ: IBM トークンリング・ネットワークに接続した *PCS 装置では、特殊なタイプの装置記述である *PEER を構成に組み込むことができます。この構成を指定すると、構内ワークステーションの場合と同じ方法で、QUSRSYS にメッセージ待ち行列が暗黙指定で作成されます。すべてのワークステーションにメッセージを送り出す場合には、これらのメッセージ待ち行列も含まれます。

ログ: QCHG および QSRV ログはサポートされません。2-19ページの『ログ』を参照してください。

混合ファイル: 2-6ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。

命名規則

構文: システム/38 環境の操作では、オブジェクト名、ジョブ名、またはフィールド名に指定できる名前は変更されていません。修飾名は、システム/38 の場合と同様に入力することができます。OS/400 プログラムでコマンドを入力する場合は、構文、区切り文字、有効な文字、および引用符で囲んだ名前がシステム/38 と違っています。システム/38 環境では、AS/400 システムに定義できる拡張名が使用できません。詳細については、本書の第4章を参照してください。*CL(制御言語)プログラミング*には、名前の構文についてさらに詳しい説明があります。

ユーザー割当て名: システム/38 の文書には、ユーザー割当て名は使用できませんでした。AS/400 システムでは、PC 名と同じ方式で名前を割り当てることができます。

ネットワーク属性: 移行援助ユーティリティでは、システム/38 のネットワーク属性を AS/400 システムに移行することはできません。警報属性以外の属性の詳細およびプログラムの例については、システム/38-AS/400 移行援助プログラム 使用者の手引きと参照を参照してください。

警報: 警報についてのネットワーク属性は大幅に変更されました。警報を使用している場合には、新しい定義を検討してから、項目を作成する必要があります(2-1ページの『警報』を参照してください)。詳細については、ネットワークおよびシステム管理を参照してください。

警報を使用していない場合には、省略時値を使用することができます。

コマンド: ネットワーク属性に使用されるシステム/38 環境のコマンドでも、いくつかのネットワーク属性に対しては引き続き機能します。ただし、すべての機能をサポートするのは OS/400 コマンドだけであるため、OS/400 コマンドを使用して、このような属性を入力し、変更する必要があります。

属性: システム/38 の各ネットワーク属性とその変更点は次のとおりです。

- | | |
|-----------|--|
| ALRSTS | 新しい値 (*UNATTEND) がサポートされています。ただし、この新しい値は、OS/400 コマンドでのみ使用可能です。 |
| ALRCTLU | OS/400 プログラムでは ALRCTLD と名前が変わりました。RTV コマンドまたは CHG コマンドを使用すると、エラー・メッセージが出されます。 |
| ALRFOCPNT | サポートされません。RTV コマンドまたは CHG コマンドを使用すると、エラー・メッセージが出されます。 |
| SYSNAM | OS/400 プログラムでは SYSNAME と名前が変わりました。SYSNAM は、システム/38 では次の 2 つの機能を実行しました。 <ul style="list-style-type: none">画面上での名前。これは、OS/400 プログラムでもシステム/38 の場合と同様に行われます。 |

- 別のシステムとの通信を確立するための手段。この機能は変更されました。2-30ページの『遠隔ロケーション名 (RMTLOCNAME)』を参照してください。

システム/38 環境で **SYSNAM** パラメータを使用する表示、変更、および検索の各機能は、**OS/400** プログラムの **SYSNAM** 属性によってすべて同様に働きます。

次のネットワーク属性の定義はシステム/38 の場合と同じです。

ネットワーク

属性	説明
MSGQ	メッセージ待ち行列
OUTQ	出力待ち行列
JOBACN	ジョブ会計
MAXHOP	SNADS ネットワークの最大数
DDMACC	DDM アクセス

- 次に、システム/38 の一部ではなかった、**AS/400** システムのいくつかのネットワーク属性の例を示します。すべてのネットワーク属性の詳細なリストについては、**実行管理の手続き**の“出荷時のネットワーク属性 (Shipped Network Attributes)”を参照してください。

ネットワーク

属性	説明
LCLNETID	構内ネットワーク識別コード
LCLCPNAME	構内制御点名
LCLLOCNAME	省略時の構内ロケーション名
DFTMODE	省略時モード名
MAXLOCCNV	遠隔ロケーションの最大会話数
NODETYPE	ノード・タイプ
MAXINTSSN	最大中間セッション数
RAR	経路追加抵抗
NETSERVER	ネットワーク・ノード・サーバー
ALRPRIFP	1 次警報フォーカル・ポイント
ALRDFTFP	省略時の警報フォーカル・ポイント
ALRLOGSTS	警報ログ状況
PCSACC	PC サポート

オブジェクト属性および原始仕様のタイプ:

システム/38 では、ユーザーが **SEU** に入力した原始仕様タイプによって、使用される構文検査ルーチンが決定されました。ほとんどの場合、原始仕様タイプは、原始メンバーに関連した原始仕様タイプになりました。また、**DSPFD** によって表示し、**DSPFD** 出力ファイルに出力することができました。原始仕様からオブジェクト

を作成した場合、同じタイプがオブジェクト属性として、オブジェクト形式に使用されることもありましたが、オブジェクト属性は、**DSPOBJD** などのコマンドによって表示し、いくつかのコマンドに関連する出力ファイルに出力することができました。

AS/400 システムでは、サポートが変更されました。システム/38 環境を表す原始仕様タイプには、タイプの末尾に **38** が付きます。また、原始仕様のタイプによっては、システム/38 環境でしか使用できないものもあります。**OS/400** プログラムに固有の原始仕様タイプもあります。さらに、**OS/400** プログラムでは、原始仕様タイプにさらに厳密に適合するように、オブジェクト属性が変更されます。

システム/38 オブジェクトの復元: プログラム・オブジェクトをシステム/38 から **AS/400** システムに復元する場合には、システムは、システム/38 タイプのものであることを示すために属性を変更します。

ファイル・オブジェクトをシステム/38 から **AS/400** システムに復元する場合には、システムは、オブジェクトが原始仕様から直接作成されたものかどうかを判別し、原始仕様が使用されている場合には、属性の末尾に **38** が付加されます。

たとえば、システム/38 の **DDS** 原始仕様から物理ファイルを作成した場合には、**AS/400** システムへの復元時に、属性は **PF** から **PF38** に変更されます。原始仕様を使用せずに（たとえば、**RCDLEN** パラメーターを使用して）物理ファイルを作成した場合には、属性は、**AS/400** システムに復元した場合にも **PF** のままになります。

オブジェクト属性: ファイルの場合には、オブジェクト属性は単に使用された原始仕様のタイプだけを示します。プログラムの場合には、属性はプログラムの実行方式も示します。

オブジェクト属性は、オブジェクトの作成方法の判別に役立ちます。プログラムの実行という点ではほとんど違いはありません。次に例を示します。

- システム/38 環境または **OS/400** プログラムは、システム/38 環境ファイルまたは **OS/400** ファイルのいずれかにアクセスすることができます。同じプログラムで、両方のファイルにアクセスすることもできます。
- システム/38 環境または **OS/400** プログラムは、システム/38 環境プログラムまたは **OS/400** プログラムのいずれかを呼び出すことができます。同じプロ

グラムで、両方のプログラムを呼び出すこともできます。

び OS/400 欄は、特に指示のないかぎり、いずれも原始仕様タイプおよびオブジェクト属性です。

次の表に、システム/38 環境および OS/400 プログラムで使用される属性を示します。システム/38 環境欄および

注：表に示されている以外にも新しい原始仕様タイプがあります。

説明	システム/38 原始仕様 タイプ	システム/38 オブジェクト 属性	システム/38 環境の原始仕様タイプ およびオブジェクト属性	OS/400 の 原始仕様タイプ およびオブジェクト属性	注記
CL プログラム	CLP	CL	CLP38	CLP	
CL ジョブ・ストリーム	CL		CL38	CL	1
コマンド定義	CMD			CMD	2
物理ファイル	PF	PHY	PF38	PF	
論理ファイル	LF	LGL	LF38	LF	
表示装置ファイル	DSPF	DSP	DSPF38	DSPF	
印刷装置ファイル	PRTF	PRT	PRTF38	PRTF	
I 保管ファイル	SAV	SAV	SAVF	SAVF	
ICF ファイル				ICFF	3
混合ファイル	MXDF	MXD	MXDF38		3
BSC ファイル	BSCF	BSC	BSCF38		3
通信ファイル	CMNF	CMN	CMNF38		3
RPG	RPG	RPG	RPG38	RPG	
RPG 報告書簡易作成機能	RPG	RPG	RPG38	RPG	4
COBOL	CBL	CBL	CBL38	CBL	
PL/I	PLI	PLI	PLI38	PLI	
BASIC	BAS	BAS	BAS38	BAS	
BASIC プロシージャ	BASP	BASP	BASP38	BASP	5
PASCAL		PAS		PAS	6
AS/400 DFU				DFU	7
AS/400 QUERY				QRYDFN	7
システム/38 DFU	DFU	DFU EXC DFU NOTEXC	DFU EXC DFUNOTEXC		8
システム/38 QUERY	QRY	QRY EXC QRY NOTEXC	QRY EXC QRYNOTEXC		8
テキスト	TXT		TXT	TXT	9

注:

1. CL ジョブ・ストリームのオブジェクト形式はありません。
2. コマンド定義の原始仕様は OS/400 プログラムだけです。コマンド定義オブジェクトにはオブジェクト属性はありません。OS/400 プログラムには追加機

能があります。ほとんどの場合、システム/38 からの変更は不要です。2-2ページの『コマンド定義』を参照してください。

3. 混合ファイル、BSC ファイル、および通信ファイルは、システム/38 環境でのみ作成することができ

ます。OS/400 プログラムでは、ICF ファイルを使用する必要があります。

- システム/38 では、RPT という項目は、プログラマー・メニューだけで使用されます。SEU を要求した場合には、タイプは RPG に変換されます。SEU 用の RPG/400* 構文検査プログラムは、RPG 原始仕様の場合でも、報告書簡易作成機能原始仕様の場合でも作動します（報告書簡易作成機能を RPG 原始仕様に組み込むことは可能ですが、CRTRPGPGM コマンドでは無視されます）。特殊項目 RPT は、CRTRPTPGM コマンドを投入するために作成オプションが指定されている場合に、プログラマー・メニューにより使用されます。オブジェクト属性は RPG です。RPT 原始仕様タイプを備えた原始メンバーはありません。オブジェクト属性は常に RPG です。

システム/38 環境では、プログラマー・メニューとプログラミング開発管理プログラムで、RPT のかわりに RPT38 が使用される点を除いて、定義は同じです。

OS/400 プログラムの場合には、項目 RPT は、AS/400 の CRTRPTPGM コマンドを使用するよう指定するために使われます。原始メンバー・タイプは、RPG ではなく RPT になります。CRTRPTPGM コマンドは、原始仕様タイプが RPT でなければ、警告メッセージを出します。

- BASIC プロシージャーにはオブジェクト属性はありません。
- PASCAL はシステム/38 では PRPQ ですが、SEU では特殊タイプとしてサポートされません。PASCAL は、AS/400 システムではライセンス・プログラムとしてサポートされています。
- システム/38 の DFU プロダクトおよび QUERY プロダクトは、システム/38 環境だけに存在します。AS/400 システムには、同じ名前の別のプロダクトがあります。OS/400 プログラムには原始仕様タイプはありません。
- システム/38 の DFU プロダクトおよび QUERY プロダクトは、システム/38 環境だけに存在します。OS/400 プログラムには、同じ名前の別のプロダクトがあります。システム/38 環境の原始仕様タイプは DFU38 または QRY38 です。表に示すように、システム/38 のオブジェクト属性は、AS/400 システムへの復元時に変更され、属性からblankが取り除かれます。したがって、オブジェクト属性の影響を受けるプログラムは、変更する必要があります。

- TXT 属性は、原始メンバーにだけ使用されます（これはオブジェクト属性ではありません）。原始メンバー・タイプは、システム/38 環境および OS/400 プログラムの両方で同じです。TXT は SEU に対して、構文検査を行わないように指示します。TXT 原始仕様メンバー属性は、原始メンバーがシステム/38 から復元されるときにも変更されません。テキスト原始仕様のオブジェクト形式はありません。AS/400 システムのシステム/38 互換性テキスト管理機能により、TXT38 タイプのメンバーを作成します。

オブジェクト配布: 第5章を参照してください。

オブジェクト・タイプ: PRTIMG オブジェクト・タイプはサポートされていません。

システム/38 の *CUD は、OS/400 プログラムでは *CTLD に変更されています。

*SPADCT オブジェクト・タイプは残っていますが、内部定義は新しくなりました。内部設計が新しくなったために、CRTDUPOBJ は *SPADCT オブジェクト・タイプに使用することができません。新しいオブジェクト・タイプが用意されています。次に、新しいオブジェクト・タイプのいくつかを示します。完全なリストについては、プログラミング解説書を参照してください。

権限リスト	*AUTL
構成リスト	*CFGL
サービス・クラス記述	*COSD
データ・ディクショナリー	*DTADCT
フォルダー	*FLR
漢字分類テーブル	*IGCSRT
メニュー定義	*MENU
モード記述	*MODD
パネル・グループ	*PNLGRP
プロダクト定義	*PRDDFN
AS/400 QUERY 定義	*QRYDFN
参照コード変換テーブル	*RCT
システム/36 機械記述	*S36
情報探索索引	*SCHIDX

出力ファイル: いくつかの DSP コマンドでは、OUTFILE パラメーターにより、データベース・ファイルを作成することができます。この変更については、該当する項 (2-16ページの『ライブラリー』、2-5ページの『相互参照』、および2-38ページの『機密保護』など) を参照してください。

OUTMBR パラメーターの機能強化については、4-12ページの『出力ファイル』を参照してください。

出力待ち行列: 2-50ページの『スプール』を参照してください。移行援助ユーティリティまたは保管および復元により、出力待ち行列オブジェクト記述を移行することはできませんが、スプール・ファイルは移行されません。

一時変更: OVRCRDF はサポートされません。印刷イメージに関する変更については、『印刷装置』を参照してください。

OVRDBF コマンドの SEQONLY および INHWRT の値は、OPNQRYF コマンドに対して働きます。OPNQRYF の SEQONLY パラメーターは、OVRDBF 値があれば、それによって一時変更されます。

パススルー: 3270 パススルーについては、2-12ページの『エミュレーション (3270)』を参照してください。

5250 パススルーについては、BGNPASTHR コマンドに備わっているサポートは変更されていません。システム/38 の場合と同様に、すべてのセッションで、BGBPASTHR コマンドに指定された各装置に関連したモードのリストに最初に定義されているモードが使用されます。したがって、個々の最初のモードには、そのモードを使用するパススルーと適用業務をすべてサポートするのに十分なセッション資源、および会話資源を確保しなければなりません。

*PASS 制御装置は、AS/400 システムでは仮想制御装置と呼ばれます。

PC サポート: 2-65ページの『知能ワークステーション・サポート (5714-PC1)』を参照してください。

パフォーマンス情報

CSNAP: CSNAP はありません。同じ機能の一部は、装置構成の THRESHOLD パラメーターを使用して実行することができます。

システム/38 パフォーマンス・ツール PRPQ: システム/38 パフォーマンス・ツール PRPQ (5799-BJK) により実行されていたデータ収集機能の多くが、OS/400 プ

ログラムに組み込まれています。分析機能は変更されましたが、基本的には同じサポートが、パフォーマンス・ツール・ライセンス・プログラムに備わっています。2-66ページの『パフォーマンス・ツール PRPQ (5799-BJK)』を参照してください。

印刷装置

サポートされる印刷装置: AS/400 システムで使用できる印刷装置はワークステーションだけです。システム接続の印刷装置はサポートされていません。サポートされない印刷装置は次のとおりです。

- 5211
- 3262
- 3203
- 4245-12 型ならびに 20 型

4245-T12 および T20 はサポートされます。

漢字印刷装置 5224-11 型、5225-11 型、12 型はサポートされません。

ファイル・キーワード: 印刷装置ファイルの PRTIMG および TRNTBL キーワードは、AS/400 システムでは使用できず、システム/38 環境では無視されます。これらのキーワードは、システム接続の印刷装置にだけ関連するもので、システム/38 環境では無視されます。このサポートは、システム接続の印刷装置にしか適用されないため削除されました。

印刷装置の命名: QDEVNAMING システム値により、省略時の印刷装置の名前が決まります。このシステムの特値 *DEVADR により、システムは、作成中の装置記述の資源名から装置名を引き出します。

MAXRCDS エラー: 印刷ファイル内のレコード数が、MAXRCDS パラメーターの値を超過すると、照会メッセージが表示されますが、操作員は処理を続けることができます。対話式ジョブの実行中に指定の最大数を超過した場合には、エンド・ユーザーにメッセージが送られます。バッチ・ジョブ中に超過した場合には、メッセージは QSYSOPR メッセージ待ち行列に送られます。

参照項目: 2-36ページの『戻りコード』、2-6ページの『データ記述仕様 (DDS)』、および2-50ページの『スプール』も参照してください。

問題分析機能: 問題分析機能は、ハードウェア・エラーおよびソフトウェア・エラーの問題分析に使用します。エラーが起こると、問題分析機能にアクセスできるかどうかを示すメッセージが表示されます。問題分析機能は、ユーザーが情報を手に入れ、問題を分析するのに役立ちます。詳細については、システム操作を参照してください。

ユーザーがエラーに気付いた場合には、問題の判別に役立つ問題分析 (ANZPRB) コマンドを使用することができます。

問題判別

別のワークステーションの画面イメージのコピー: 権限を持つユーザーが別のユーザーの画面イメージをコピーできるようにするための新しい機能があります。この機能を使用すると、別のユーザーの画面の流れを見て、そのユーザーの問題判別を援助することができます。弊社のサポート要員も、システムの問題分析を行う際にこの機能を使用します。STRCPYSCN コマンドについては、オンライン・ヘルプ情報を参照してください。

データベース・ファイル・レコードの表示: AS/400 QUERY は、問題判別に非常に役立つコマンド RUNQRY をサポートしています。このコマンドを使用すると、最初にプログラムを作成しなくても、外部記述のデータベース・ファイルを表示することができます。このコマンドでは、選択を指定するためのプロンプトが使用できます。選択を行うと、単一画面の情報がアクセスされ表示されます。各欄の情報は可変画面に入っています。ウィンドウを使用すると、特定のフィールドを見ることができます（折返しは起こりません）。

スプール・ファイル: 新しい WRKSPLF コマンドにはいくつかのオプションがあり、このうちの 1 つを使用すると、特定のユーザーに関連するすべてのスプール・ファイルを表示することができます。スプール・ファイル属性の表示画面には、ファイルが作成された日付と時刻、およびファイルを作成したプログラムも表示されます。プログラム名は、HLL プログラムが AS/400 システムで作成された場合にのみ表示されます（システム/38 から復元された場合には表示されません）。

問題ログ: システムが検出した問題はすべて問題ログに記録されます。個々の問題が識別され、追跡されません。ユーザーが検出した問題もログに記録されます。詳細については、システム操作を参照してください。

『問題判別』も参照してください。

プログラム: OS/400 のプログラム作成コマンドは、プログラムの置換えに関する重要な新しい機能をサポートしています。4-12ページの『プログラム』を参照してください。システム/38 環境のコマンドでは、REPLACE (*NO) が暗黙指定で使用されます。

OS/400 プログラムに目的プログラムを正常に移行するには、目的プログラムにプログラム・テンプレートが組み込まれていなければなりません。PASCAL プログラムは、AS/400 システムで原始プログラムから再作成しなければなりません。詳細については、2-36ページの『保管および復元』を参照してください。

2-7ページの『デバッグ』および2-36ページの『戻りコード』を参照してください。

プログラマー・メニュー

PDM: プログラミング開発管理プログラム (PDM) が追加されました。これは、適用業務プログラム開発ツール・ライセンス・プログラムの一部で、新しいサポートとともに、システム/38 プログラマー・メニューと同様の機能を備えています。PDM では、ライブラリー、オブジェクト、およびメンバーのリストを処理することができ、便利なオプションも備わっています。ユーザー・オプションを追加することもできます。

プログラマー・メニュー: プログラマー・メニューは変更されました。画面は第1章に示されています。OS/400 バージョンのプログラマー・メニューだけがサポートされています。コマンド入力行では、OS/400 構文を使用するコマンドだけがサポートされます。ただし、システム/38 環境および OS/400 のどちらの原始仕様タイプでも処理することができます。2-24ページの『オブジェクト属性および原始仕様のタイプ』および2-63ページの『ユーティリティおよびその他のライセンス・プログラム』を参照してください。プログラマー・メニューへの変更には、次のものがあります。

- 画面様式は変わりましたが、主要な機能は同じです。機能キーには変更があります。
- TEXT パラメーターは取り除かれました。この項目の主要な目的は、作成コマンドにテキストを入力できるようにすることでした。TEXT パラメーターの省略時値は、システム/38 のリリース中に変更され、原始メンバーの記述が省略時値として使用されることになりました。原始メンバーの記述は、SEU を終了した後、または SEU メンバー・リスト画面から入力することができます。

- OS/400 プログラム・タイプでは F11 キーの機能は異なります。『プログラム』の REPLACE オプションに関する説明を参照してください。
- 要求ログ・オプションは削除されました。(要求は常にログに記録されます。) ログ記録された要求は、コマンド入力により再び操作できる形式になっています(出口プログラムを使用する場合を除く)。
- ジョブ記述に新しい省略時の値(*USRPRF ユーザー・プロファイル)が備わりました。
- オブジェクト・ライブラリーの省略時値はblankのままです。したがって、システム/38 で作成したものは QGPL に入り、OS/400 プログラムで作成したものは *CURLIB に入ります。*CURLIB を指定することもできます(2-16ページの『ライブラリー』を参照してください)。
- F6 キー(メッセージの表示)の機能は以前とは異なり、ワークステーション・メッセージ待ち行列とユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列の両方のメッセージを表示することができます。2-20ページの『メッセージ処理』を参照してください。
- EXITPGM パラメーター・リストが次のように変更されました。
 - TYPE が *CHAR の 10 桁のフィールドになりました。
 - LOGRQS パラメーターはサポートされません(ログギンは常に活動状態になっています)。
 - オブジェクト・ライブラリー・パラメーターに *CURLIB を指定することができます。
 - ジョブ記述パラメーターに *USRPRF を指定することができます。
 - TEXT パラメーターはサポートされません。
- OS/400 の DFU および QUERY では、画面上のすべてのパラメーター入力が無視されます。これらの機能では、初期メニューが呼び出されます。
- システム/38 環境の DFU および QUERY は、次のようなコマンドを入力する場合以外は、画面からアクセスすることはできません。

QSYS38/DSNDFUAPP

プログラミング変更: これは、AS/400 システムでは、プログラム一時修正 (PTF) と呼ばれています。詳細については『プログラミング一時修正 (PTF)』を参照してください。

プログラミング一時修正 (PTF): これは、システム/38 ではプログラミング変更 (PC) と呼ばれていました。システム/38 コマンドは、システム/38 環境でも OS/400 プログラムでも使用することができません。新しいコマンド(たとえば LODPTF)は、ライセンス・プログラム、OS/400 プログラム、およびライセンス内部コードのすべてをサポートします。詳細については、システム操作を参照してください。

不在モードでの適用: APYPTF には、遅延 PTF を次の不在 IPL で自動的に適用するための新しいオプションがあります。これにより、OS/400 およびライセンス内部コードの PTF を、操作員が介入しなくても適用できるようになりました。

電子配布: 新しいコマンド (CPYPTF) により、PTF を電子配布用にパッケージ化して、遠隔地に送ることができます。PTF は、テープまたはディスクによって配布することもできます。

プロンプター

様式: システムでは、1 つのコマンド・プロンプターが、システム/38 環境と OS/400 プログラムの両方に使用されます。2-2ページの『コマンド定義』を参照してください。

プロンプターには、次の 2 つの形式があります。

- キーワードは表示されず、キーワード記述および使用可能な値が表示される。
- キーワードおよび記述は表示されるが、使用可能な値は表示されない。

この 2 つの形式は、機能キーを使用して切り替えることができます。ユーザー・プロファイル・パラメーターは、最初に表示される形式を決定します。ユーザー・プロファイルの USROPT キーワードを調べ、*CLKWD 項目を使用して、最初にキーワード形式を表示してください。

プロンプトに入力された情報が誤りの場合: プロンプトは、誤ったキーワードまたは値を無視するように変更されました。有効なコマンド名が指定された場合にのみ、コマンド・プロンプトが表示されます。コマンド・ストリングに必要なキーワードまたは値が指定されていないと、警告メッセージが表示されます。

階層化プロンプト: 階層化プロンプト・サポートがあります。このサポートでは、1つのコマンドについて一連のキーワードが表示され、入力された値に基づいてさらにキーワードが表示されます。画面入力によって、それ以降のパラメーターが不要になった場合、パラメーターはそれ以上表示されません。

システム/38 環境のコマンドは、この機能をサポートしていません。しかし、このサポートを任意のコマンドに追加して、システム/38 環境または OS/400 プログラムで実行することはできます。

RA/DHCF: システム/38 から変更されていません。

回復手順

自動ライセンス内部コード完了: 自動ライセンス内部コード完了機能（ディスク装置障害の後で、データの損失がない場合に実行される機能）はサポートされません。システムは、次の IPL 時に必要な回復手順（システム/38 ではサブセット回復手順と呼ばれることもあります）を最小限に抑えるために、遮断機能を実行します。

強制ライセンス内部コード完了: 強制ライセンス内部コード完了機能は、引き続きサポートされています。これは、操作員制御パネルでの特殊な入力が必要とします。ディスクは使用できません。詳細については、システム操作を参照してください。

参照項目: 2-2ページの『チェックサム』,2-61ページの『無停電電源装置』,2-36ページの『保管および復元』も参照してください。

遠隔ロケーション名

(RMTLOCNAME): AS/400 システムでは、通信サポートで遠隔システムを識別するために、システム/38 とは異なる方式が使用されています。システム/38 では、装置記述の名前によって遠隔システムを指定しました。たとえば、通信ファイルを作成する場合には、CRTCMNF コマンドに DEV パラメーターを指定します。AS/400 システムでは、遠隔ロケーション名を使用して遠隔システムを識別します。たとえば、ICF ファイル用の装置を定義する場合には、ADDICFDEVE コマンドに RMTLOCNAME パラメーターを指定します。

RMTLOCNAME は、通信装置の装置記述を作成する場合に定義します。RMTLOCNAME が指定されると、システムは遠隔システムに接続するために、どの装置を使用すればよいかを判断することができます。

システム/38 環境で BSCF38,CMNF38, または MXDF38 のファイル・タイプを使用するシステム/38 適用業務は、RMTLOCNAME への切替えのために変更する必要はありません。これらのファイル・タイプは、RMTLOCNAME インターフェースをサポートしていません。

RMTLOCNAME 機能とシステム/38 の遠隔システム記述方式の関係に注意する必要があります。

- RMTLOCNAME サポートは、ネットワーク要件に対する柔軟性のある解決方法であり、このサポートへの移行をお勧めします。
- 拡張分散ネットワーク機能 (APPN*) のように、RMTLOCNAME サポートを使用している場合にのみ使用可能な AS/400 システム機能があります。
- システム機能の中には、SNADS のように、システム/38 環境特有のサポートがないものもあります。OS/400 の SNADS では、ネクスト・システム・テーブル内の装置記述名の代わりに、新しい RMTLOCNAME サポートが使用されます。システム/38 環境で SNADS を使用している場合でも、間接的に RMTLOCNAME サポートを使用することになります。

この後この節では、RMTLOCNAME とシステム/38 構成との関係を示し、RMTLOCNAME で使用できる機能のいくつかについて説明します。最初の例は、拡張プログラム間通信機能 (APPC) の APPN 構成です。

RMTLOCNAME を使用する他の通信タイプの例も含まれています。

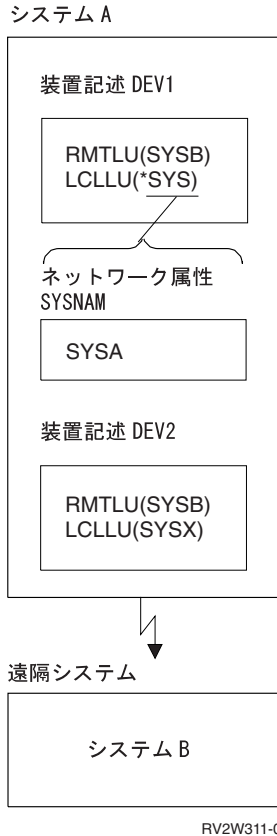
システム/38APPC 方式: システム/38 では、装置記述オブジェクトには、2つの重要な項目が含まれています。

RMTLU 通信の相手先となるシステム（遠隔システム）の論理名

LCLLU システム（構内システム）の論理名

LCLLU 項目は *SYS を省略時値として使用しますが、これはネットワーク属性 SYSNAM を使用することを示します。ただし、ユーザーは、任意の名前を使用して、独自の名前を記述することができます。任意の名前を使用できるため、構内システムを複数の名前で認識させることができます。

図2-1と図2-2は、装置記述オブジェクトに対する異なる方式を示しています。



この例では、構内システムは、SYSA または SYSX のどちらかの名前で認識されます。別の名前を指定できるため、ネットワーク内のあるシステムから別のシステムへの機能の移動が容易になり、ある機能を他のシステムで実行するたびに変更を加える必要がなくなります。

APPC 通信リンクが確立されると、2 つの名前はいずれも相手先のシステムに送られます。相手先システムは、対応する 1 組の名前によって応答しなければなりません。

図 2-1. 装置記述オブジェクトに対するシステム/38 APPC 方式

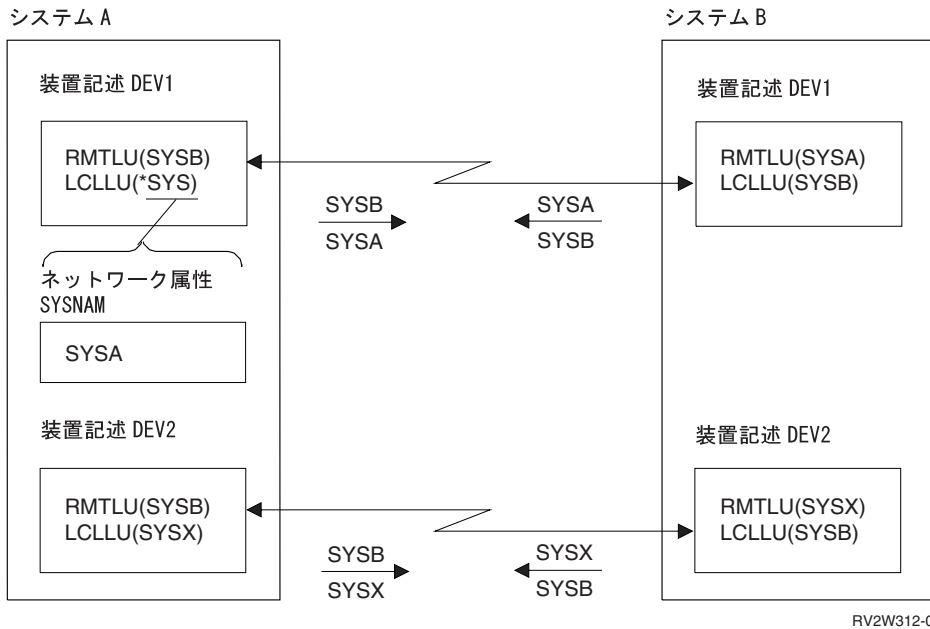


図 2-2. 装置記述を使用した場合の複数装置記述の使用

両方のシステムは、リンクを確立できるようにするための装置記述オブジェクトを作成してから、別のシステム

への通信を確立しなければなりません。装置記述は同じ名前にする必要はありません。

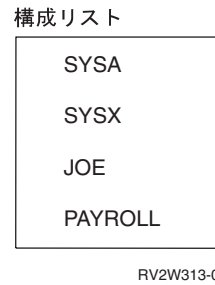
パラメーター: OS/400 では、パラメーターの名前が変更されましたが、基本的に意味は同じです。

システム/38		AS/400 名
RMTLU	→	RMTLOCNAME
LCLLU	→	LCLLOCNAME

LCLLU パラメーターの省略時は変更されて、*NETATR になりました。これは、新しいネットワーク属性 LCLLOCNAME を使用することを示します。したがって、省略時の値を持つという概念は同じですが、システム/38 ネットワーク属性 SYSNAM により実行される機能を分離するための融通性は高くなりました（もう一方の機能により、SYSNAM が画面で使用されます）。この融通性を必要としない場合は、両方のネットワーク属性に同じ名前を使用してください。

OS/400 プログラムでは、APPN を使用する場合、構成リストと呼ばれる新しいオブジェクトが使用されます。ユーザーは、自分のシステムに付けたい追加の名前（自分のシステムに認識させたい構内 LU 名すべて）を指定することができます。これらは構内名になります。このリストの保守には CRTCFGL,CHGCFGL,

ADDCFGL, および RMVCFGLE コマンドを使用します。リストの例を次に示します。



APPC 構内名の追加名は、装置記述の構内ロケーション名によって、以前と同様に決定されます。APPN 追加名は、APPN 構内ロケーション構成リストに定義されず。

OS/400 プログラムは、動的に装置記述を作成する機能をサポートします。たとえば、図2-3は、他のシステムから受け取った要求を示しています。

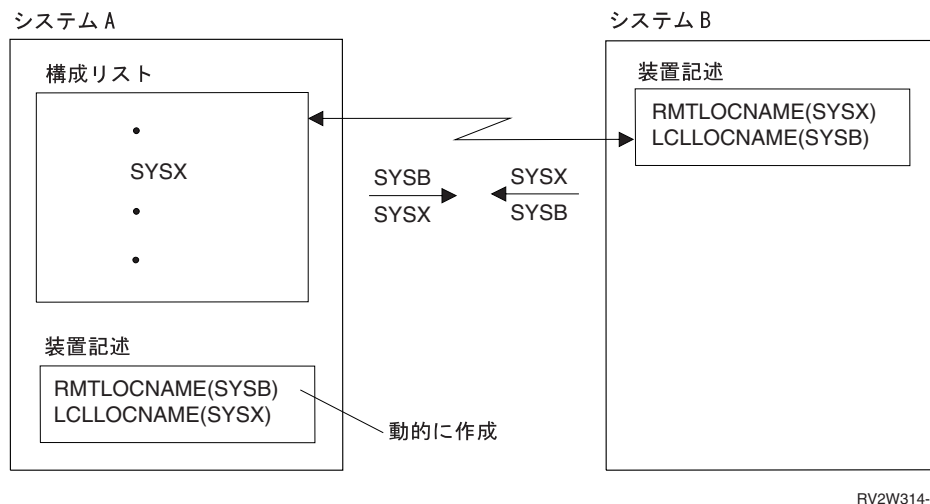


図 2-3. 装置記述の動的作成

この例では、構内 AS/400 システムは、SYSX という名前が APPN 構内ロケーション構成リストにあるため、通信要求が自分のシステムに対するものであることを認識します。装置記述に RMTLOCNAME および LCLLOCNAME が指定されている場合は、この装置記述が使用されます。指定されていない場合は、装置記述が動的に作成されます。

システムは、作成された装置記述から、RMTLOCNAME および LCLLOCNAME 情報の内部登録簿を作成します。この登録簿は、該当の装置記述が

すでに存在するかどうかを判別するために探索されます。もし存在していれば、それが使用されます。

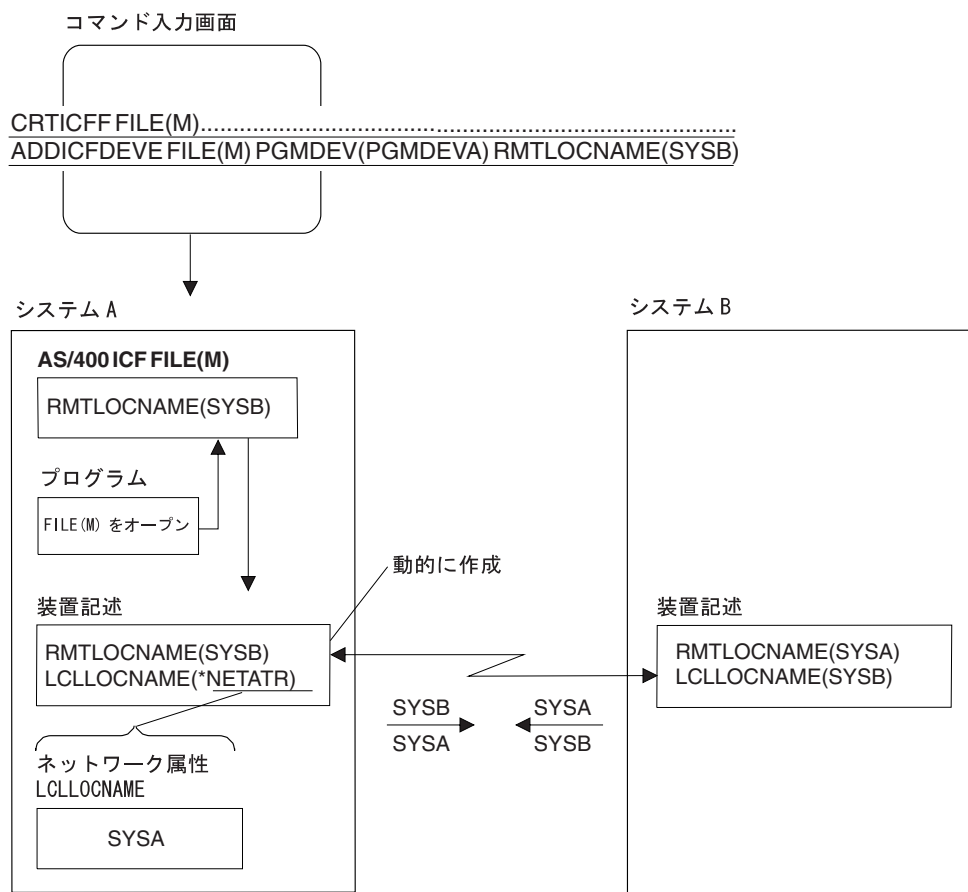
また、システムは、プログラムが ICF ファイルをオープンしたときに、装置記述を作成する場合があります。システム/38 環境では、適用業務プログラムを使用するファイルには、すでに作成された装置記述が指定されていなければなりません。しかし、OS/400 ファイルでは、装置記述の代わりに RMTLOCNAME が指定されていなければならず、装置記述オブジェクトは暗黙指定で作成されます。

ICF ファイルで構成リンクを定義する場合は、RMTLOCNAME を記述するだけで済みます。RMTLOCNAME は、ADDICFDEVE コマンドまたは OVRICFDEVE コマンドのパラメーターです。装置記述オブジェクトは、ファイルがオープンされると同時に、動的に選択されます。LCLLOCNAME には省略時のネットワーク属性 *NETATR が使用されます。

動的に作成された装置記述は、ユーザー作成の装置記述と同様に機能します。たとえば、このような装置記述は、変更することも表示することもできます。不要にな

った記述は削除しなければなりません。システムは、使用中の装置記述がどれであるかを追跡しません。使用中の装置記述を間違っして削除した場合、必要であれば、システムにより、その装置記述が動的に作成されます。

装置記述を動的に作成する最初の例 (2-32ページの図2-3) では、要求は SYSB から受け取ったものであり、SYSX との会話を望んでいることを示すものでした。構内システムは、SYSX の名前が APPN 構内ロケーション構成リストにあることを検出したため、使用する装置記述を作成しました。



RV2W315-0

図 2-4. 動的に作成された装置記述の使用

名前がリストに見つからず、ネットワーク属性の省略時の構内ロケーション名でもなく、ネットワーク属性の構内制御点名でもない場合には、APPN の新しいシステム・サポートが自動的に使用されます。

たとえば、SYSZ 宛の要求を受け取ったとします。この名前は構内リストにないため、新しい APPN サポートは内部テーブル（登録簿）を探索します。テーブルは、システムにより暗黙指定で更新されます。このテーブルには、名前が実際にあるロケーション（その名前自己

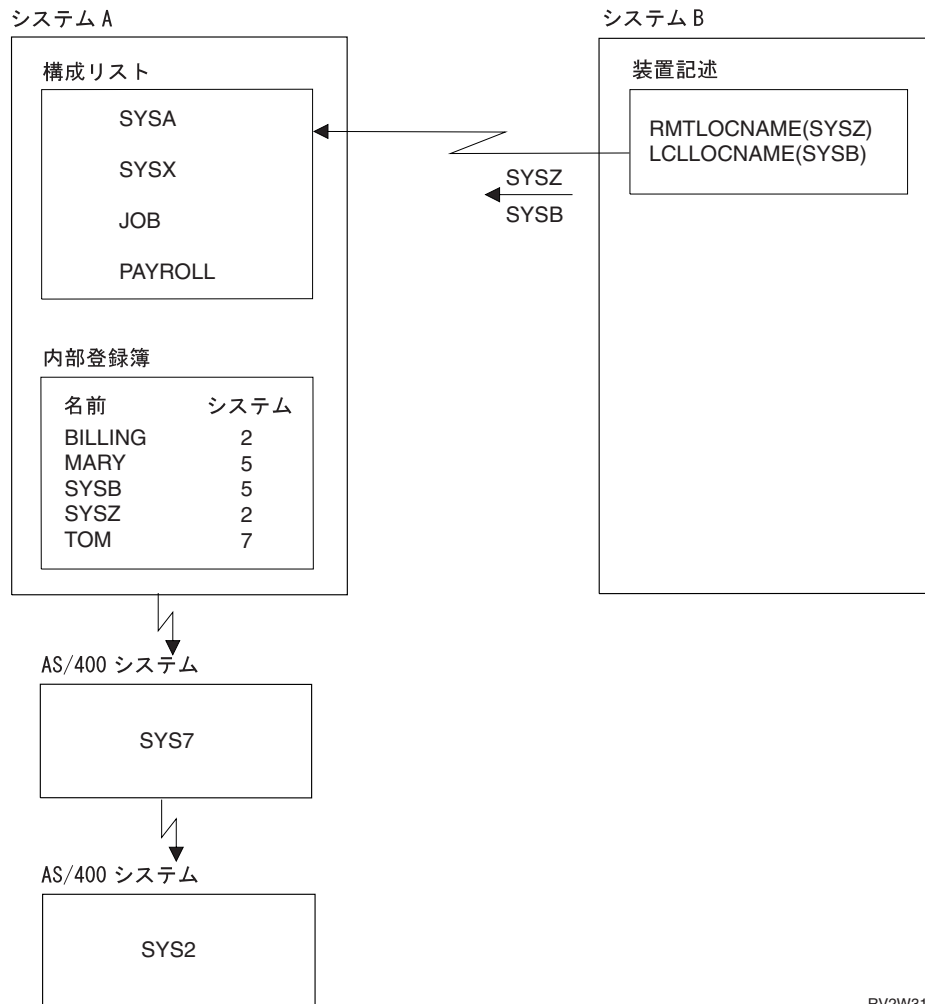
識別しているシステムがどれか）が含まれています。テーブルは、次のようになります。

RMTLOCNAME	遠隔制御点
BILLING	SYS2
MARY	SYS5
SYSB	SYS5
SYSZ	SYS2

RMTLOCNAME	遠隔制御点
TOM	SYS7

システムは、登録簿で **SYSZ** を検出し、要求を **SYS2** に経路指定します。**APPN** は、要求の経路指定方法も自動的に決定します。たとえば、システムは、使用する回

線、および経由させる中間システムを判断します。これは、モードに関連するサービス・クラス・オブジェクトに基づいて行われます。モードに関連したサービス・クラス・オブジェクトは、セッションで受け入れ可能なリンクおよびノードの特性の範囲を定義するものです。**SYS2** への要求は、ユーザーのシステムと **SYS2** が物理的に接続されていない場合は、まず **SYS7** に経路指定しなければなりません。



RV2W316-0

登録簿には、各名前の所在に関する記録もあります。ネットワーク内の各システムには、類似の機能を果たす登録簿があります。

システム B から **RMTLOCNAME = SAM** に対する要求を受け取ったとします。**SAM** は **APPN** 構内ロケーション構成リストに含まれていないため、システムは、構内ではその要求に応じられないと判断します。システムは、名前を遠隔登録簿機能に渡しますが、そこでも該当の名前は見つかりません。遠隔登録簿機能は、さらに同報通信メッセージをネットワーク内の各システムに送

って、**SAM** という名前が存在するかどうかを確認します。次のような結果になる可能性があります。

- どのシステムにも **SAM** という名前がないため、元の要求が無視される。
- 1 つのシステムが **SAM** という名前（もしくは別名）であると応答する。この場合、登録簿は更新されて、要求は応答したシステムに送られます。
- 複数のシステムが、**SAM** という名前であると応答する。この場合には、最初に応答したシステムが正しいシステムであると想定され、要求はそのシステムに送られますが、エラーが記録されます。ネット

ワーク全体で、各名前が固有であるように、ネットワークを管理しなければなりません。

登録簿は動的な機能です。たとえば、上記の例では、**BILLING** は **SYS2** にあります。**BILLING** は、1 つまたは複数のデータベース・ファイルおよびプログラムを表す場合があります。機能全体を **SYS7** に移す場合に必要な変更について考えてみます。システム **A** の登録簿にある **BILLING** に関する項目は、**SYS2** を指しています。この項目に対する要求を受け取ると、システム **A** はそれを **SYS2** に転送することになります。しかし、**SYS2** が **BILLING** がないという応答を送ってきたとします。すると、システム **A** は、内部テーブルから該当の項目を削除し、「**BILLING** はどのシステムにあるか？」と尋ねる同報メッセージを、すべてのシステムに送ります。**SYS7** が応答した時点で、テーブルは更新されます。

これと同じ **RMTLOCNAME** の概念が、他の通信機能（たとえば、**BSC** 通信および非同期通信）にも使用されています。**RMTLOCNAME** を指定しなければなりません。APPC 以外の装置の場合には、装置記述も作成しなければなりません。作成する装置記述には、使用する装置記述を識別するためだけに、**RMTLOCNAME** を指定します。APPC 以外の装置には、**LCLLOCNAME** を使用してはなりません（指定しても無視されます）。

APPC 以外の装置の場合、**RMT** 名および **LCL** 名は、他のシステムに送られません。APPC プロトコルだけ

が、**RMT** 名および **LCL** 名を送ります。APPC プロトコル以外の場合、**RMTLOCNAME** は、使用する装置記述を判別するためにのみ使用されます。2-36 ページの図 2-5 は、APPC 以外の装置を使用した場合の通信を示しています。

新しいサポートの利点には次のものがあります。

- 通信したいシステムとの直通の回線接続がなくても、通信を行うことができます。このために必要な作業は、システムにより自動的に管理されます。
- 通信するオブジェクトと同数のオブジェクトを作成する必要がありません。
- 実行したい機能に、内容の分かる名前を割り当てることができます。適用業務（たとえば給与計算など）を処理するシステムを変更したい場合には、それを元のシステムから削除して、別のシステムに復元するだけです。両方のシステムの構成リストには、各システムがサポートする名前（たとえば、適用業務機能）が指定されていなければなりません。
- **SNA** アップライン機能 (**SNUF**) および装置エミュレーションを含む、**AS/400** システムの他の通信機能も、**RMTLOCNAME** の概念を利用することができます。**SNUF** および装置エミュレーションでは、遠隔ロケーション名を使用すると、複数の装置記述に同じ遠隔ロケーション名が含まれる場合、システムに、最初に使用可能になった装置記述を選択させることができます。

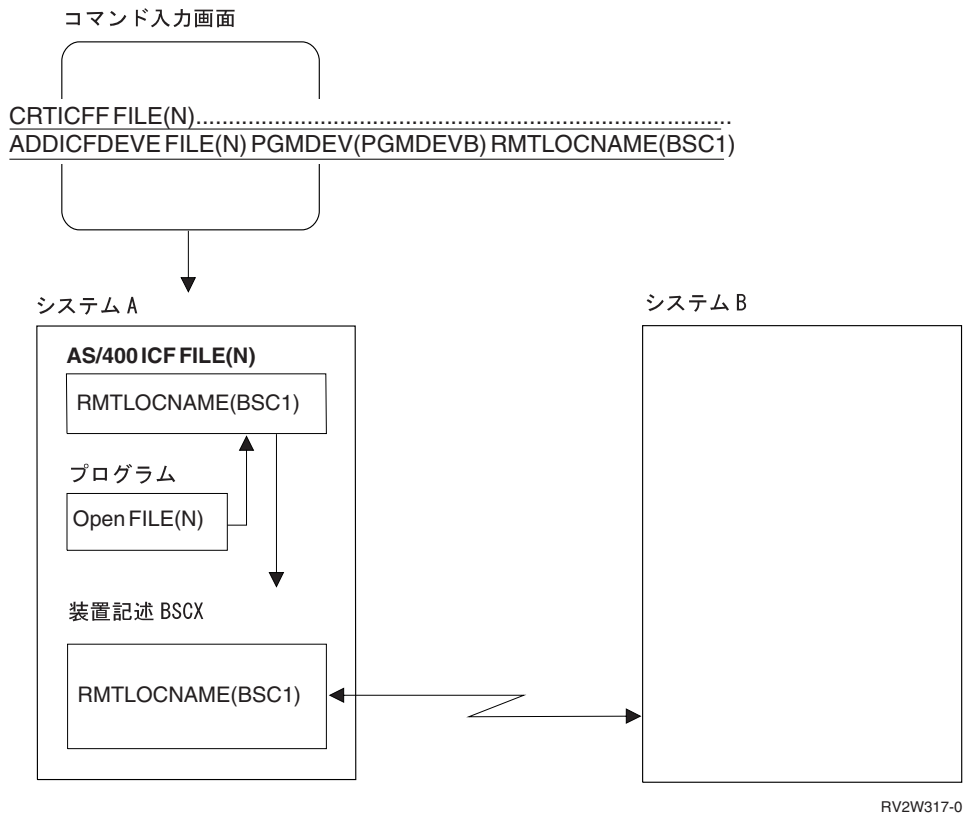


図 2-5. 非 APPC 通信

戻りコード

BSCF, CMNF, および MXDF: システム/38 ファイル・タイプの BSCF および CMNF は、システム/38 と同じ戻りコードを使用します。

MXDF タイプでは、装置のタイプに関連した戻りコードを使用します。BSC, LU-1, および APPC の各装置に関連する戻りコードには、変更はありません。表示装置に関連する戻りコードは変更されました。

表示装置ファイルおよび印刷装置ファイル: DSPF および PRTF の戻りコードは変更されました。変更内容は、基本的に OS/400 プログラムで使用される同じコードに一致するものです。適用業務の多くでは、表示装置または印刷装置の戻りコードは検査されません。メジャー戻りコードは基本的には同じです（変更のほとんどは、マイナー戻りコードに関するものです）。この変更については、付録Cを参照してください。

ジョブの取消し: ジョブの取消し (OS/400 プログラムではジョブの終了) が要求されると、メジャー戻りコードの 02 がセットされます。これは、印刷装置、BSC および CMN の各ファイルには影響を及ぼしません。MXD ファイルは、表示機能以外には影響を受けませ

ん。メジャー戻りコード 02 では、エスケープ・メッセージは表示されません。プログラムが処置を実行して、メジャー戻りコードが 00 ではない場合には、プログラムを変更しなければならないことがあります。

保管ファイル: 保管ファイルのオブジェクト記述は、移行援助クーティリティーまたは保管および復元によって、正常に移行することができます。ただし、保管ファイルの内容は移行することはできません。各保管ファイルの内容を保管するためには、SAVSAVFDTA コマンドを使用しなければなりません。

保管および復元

プログラム・オブジェクト: プログラム・オブジェクトは、復元の際に新しい内部様式に変換されます。これは、自動的に行われますが、復元に要する時間は長くなります。変換処理は、システム/38 がプログラムとともに保管した情報に基づいて決まります（この情報は、プログラム・テンプレートと呼ばれます）。システム/38 は、常にプログラムをプログラム・テンプレートとともに作成します。

システム/38 の CPF を使用してプログラム・テンプレートを除去するためのサポートはありません。しかし、

弊社提供のもの以外のソフトウェアでプログラム・テンプレートを除去できる場合があります。プログラム・テンプレートを除去した場合、プログラムは、AS/400 システムに復元されないため、プログラムを再び作成するための原始仕様が必要になります。復元コマンドは、プログラムを変換できないと正常に実行されません。同じコマンドに関する他のオブジェクトも復元されません。

CL プログラムは、RTVCLSRC パラメーターの指定に関係なく、新しい様式に変換されます。(システム/38 の CL プログラムを復元するために、検索可能な原始仕様は必要ありません。)

ライセンス・プログラム: システム/38 ライセンス・プログラムからのプログラム (たとえば、RPG コンパイラー) は、AS/400 システムには復元されません。OS/400 ライセンス・プログラムを入手する必要があります。

RSTPGMPRD は RSTLICPGM に変わりました。

注: 可能であれば、移行援助ユーティリティを使用する必要があります。

リリース要件: AS/400 システムは、システム/38 のリリース 5 またはそれ以降のリリースで保管されたほとんどのオブジェクト・タイプをサポートしています (ディスクとテープの両方)。AS/400 システムで復元したい活動記録データがある場合には、そのデータが、システム/38 において、リリース 5 またはそれ以降のリリースによって保管されたことを確認する必要があります。また、データが、AS/400 システムで復元可能な媒体様式、タイプ、密度で保管されていることも確認しなければなりません。

テープ: AS/400 システムでサポートされるテープ装置は、どの保管および復元でもサポートされます。AS/400 システムのモデル別にサポートされるテープ容量、速度、および装置については、2-60ページの『テープ』を参照してください。

SAVSYS には、テープ装置だけがサポートされます (ディスクはサポートされません)。テープを使用する場合は、システム/38 のときと異なり、ディスクには出力されません。導入時の IPL はディスクからでないといえなかったため、システム/38 ではディスクが必要でした。

ディスク・マガジン装置: ディスク・マガジン装置はありません。単一スロットのディスク装置は任意使用であり、保管および復元で使用することができます。2-10ページの『ディスク』を参照してください。

システム/38 と AS/400 システムとの間の交換: システム/38 オブジェクトを AS/400 システムで復元した場合には、プログラムの属性がシステム/38 に変更されます。原始仕様から作成されているファイル・オブジェクトも変更されます。原始メンバーの場合は、原始仕様も変更されます。2-24ページの『オブジェクト属性および原始仕様のタイプ』を参照してください。

AS/400 システムで保管したオブジェクトを、システム/38 で復元することはできません。データ交換は、AS/400 システムからシステム/38 への方向でのみ可能です。これは、そのオブジェクトがシステム/38 環境オブジェクトであるか、AS/400 オブジェクトであるかに関係なくあてはまります。(第5章の説明を参照してください。)

ほとんどのオブジェクト・タイプは、システム/38 で保管して、AS/400 システムで復元することができます。システム/38 で保管された *PRTIMG オブジェクト・タイプは、AS/400 システムで復元することはできません。

システム/38 で保管された装置ファイルに、無効な属性がある場合には、OS/400 はそれらのファイルを復元しません。たとえば、カード・ファイルや、サポートされない DDS 機能をもつ表示装置ファイル、混合ファイル、または通信ファイルなどがこれに相当します。詳細については、2-6ページの『データ記述仕様 (DDS)』、およびシステム/38-AS/400 移行援助プログラム 使用者の手引きと参照を参照してください。

文書およびフォルダー: SAVDOC コマンドおよび RSTDLOC コマンドは、システム/38 環境でも OS/400 プログラムでも作動しません。OS/400 コマンドは、SAVDLO および RSTDLO です。RSTDLO は、システム/38 から *DOC オブジェクトを復元するために使用することはできません。SAVDLO により保管された AS/400 の文書は、システム/38 で復元することはできません。

移行援助ユーティリティを使用すると、文書を AS/400 システムに移行することができます。

パーソナル・サービス/38 のユーザーは、AS/400 システムのユーザーに文書を送ることができます。AS/400

のユーザーは、その文書をフォルダーにファイルすることができます。(フォルダーとは、関連する文書をグループ化して、各文書を名前検索するためのものであり、ライブラリーに似ています。)

新しい SAVDLO コマンドでは、システムで他の処理を行っている間に、特定のフォルダーおよび文書を保管することができます。ただし、すべての文書およびフォルダーの保管を要求する場合には、制約条件(全活動サブシステムの終了)を使用しなければなりません。

SAVSYS: SAVSYS コマンドは、QSYS および関連の OS/400 オブジェクトの両方を保管します(システム/38 の場合と同様です)。AS/400 システム(システム/38 環境または OS/400 コマンドのいずれかを使用している場合)では、SAVSYS はライセンス内部コードも保管します。AS/400 システムの 2 つのライセンス内部コード域を使用すると、永続適用 PTF および一時適用 PTF を行うことができます。これにより、ライセンス内部コードに適用した PTF がすべて保管されて、現行システムの復元が容易になるため、回復処理の効率が向上します。PTF がすべて一時適用であれば、SAVSYS は両方の区域を保管します。

新しいオブジェクト・タイプ: システム/38 環境のコマンドでは、新しいオブジェクト・タイプ(たとえば *MENU)を指定することができません。ただし、総称要求(たとえば SAVLIB)で、すべてのオブジェクト・タイプが保管されます。

機密保護に関する考慮事項: システム/38 では、新しいオブジェクトが復元され、その所有者がシステムに存在していない場合には、所有者は QSECOFR に変更されました。AS/400 システムでは、所有者名は QDFTOWN になります。

OS/400 プログラムの RSTUSRPRF コマンドは、システム/38 で作成された SAVSYS 媒体に使用できますが、これは、リリース 8 で保管されている場合に限りです。

データベース・ファイル: システムでのデータベース・ファイルの復元方法に変更がありました。システム/38 では、16 メガバイトより小さいファイルの場合には、異なるディスク・アクチュエーター間にまたがるスプレッド処理はできませんでした。AS/400 システムでは、ディスク装置のスペース使用量がほぼ同じであれば、より効率的なスプレッド処理が行われます。この技法は、新しいファイルを作成し、プログラムを使用して、そのファイルにレコードを書き込む場合とほぼ同様の処理を行うものです。新しいディスク装置を追加し

た場合には、新しいディスク装置のスペース使用量が、既存の装置とほぼ同じになるまで、スプレッド処理は行われません。

機密保護

- | **レベル:** 5 段階の機密保護レベルがあり、システム値 QSECURITY により指定されます。

レベル 10 パスワードはありません。すべてのユーザーが、基本的にすべての権限を持っています。機密保護担当者および保守担当者のプロファイルだけが使用できる機能がいくつかあります。

レベル 20 パスワードが必要です。すべてのユーザーが、基本的にすべての権限を持っています。機密保護担当者および保守担当者のプロファイルだけが使用できる機能がいくつかあります。ユーザーの権限をユーザー作成のメニューに限定することができます。

レベル 30 パスワードが必要です。オブジェクト・レベルの権限が強化されています。

- | レベル 40 サイン・オンの際にユーザー識別コードとパスワードが必要です。資源の機密保護が強化されています。さらに、保全性の保護機能も強化されています。

- | レベル 50 サイン・オンの際にユーザー識別コードとパスワードが必要です。資源の機密保護が強化されています。レベル 40 の保全性の保護と拡張保全性保護が強化されています。機密保護レベルの 50 は、高度な機密保護要件をもつ AS/400 システムを対象としており、C2 機密保護要件に適合するように設計されています。

レベル 30 は、システム/38 の機密保護のタイプに類似しています。レベル 30 では、サイン・オンにパスワードが必要であり、ユーザーは、権限をもつ機能しか実行できません。

省略時値はレベル 10 ですが、レベル 30 に変更して、システム/38 と同様のサポートを獲得することができます。

単一レベルのサイン・オン: システム/38 の単一レベル・サイン・オン(パスワードのみ)のオプションのサポートはありません。ユーザーは、サイン・オンするために、ユーザー名とパスワードの両方を入力しなければなりません。2-47 ページの『サイン・オン』を参照してください。

ユーザー・プロファイル: ユーザー・プロファイルは、システム/38 から大幅に変更されました。パラメーターが追加され、省略時値のいくつかが変更され、パラメーターにはその目的が変更されたものもあります。移行援助ユーティリティーは、主に既存の属性を変換します。移行援助ユーティリティーでは、新しいサポートが利用されません。

移行援助ユーティリティーでは、弊社提供のユーザー・プロファイルは移行されません。また、ハードウェア提供のユーザー・プロファイルのともなう権限も移行されません。弊社提供のプロファイルについては、第7章を参照してください。

システム/38 環境の CRTUSRPRF コマンドには、新しいパラメーターはありません。システム/38 環境で CRTUSRPRF を使用した場合、OS/400 での

CRTUSRPRF コマンドとは異なる点がいくつかあります。

次に示すパラメーターの説明を参照して、方針を決定してください。OS/400 の CRTUSRPRF コマンドを使用すると、新しいプロファイルを作成することができます。OS/400 の CHGUSRPRF コマンドを使用すると、移行後に既存のプロファイルを変更することができます。

既存のシステム/38 のキーワード: 次の表は、システム/38 のキーワード、システム/38 環境と OS/400 プログラムの省略時値、および移行中に起こることに関する情報を示したものです。新しいキーワードも示されています。(新しいキーワードの詳細なリストについては、*CL(制御言語)解説書* および *機密保護 解説書* を参照してください。)

図 2-6 (1/3). 既存のシステム/38 のキーワード

キーワード	システム/38 環境の省略時値	OS/400 プログラムの省略時値	移行に関する注意
USRPRF	必須	必須	変更はありません。
PASSWORD	必須	必須	システム/38 のパスワードは変換されます。システム/38 でパスワードが暗号化されていなかった場合（単一レベルのサイン・オンが使用されていた場合は、AS/400 システムで暗号化されます（ユーザー・パスワードは、別の方式でシステムに保管されても、変更はされません）。
MAXSTG	*NOMAX	*NOMAX	弊社提供のプロファイルに割り当てられた省略時のパスワードは、Q で始まります。たとえば、QSECOFR の省略時パスワードは QSECOFR です。
PTYLMT	5	3	現行の値がシステム/38 から移行されます。意味は、AS/400 システムでは異なります。システム/38 では、オフィス・オブジェクトはこの値には関係ありませんでした。AS/400 システムでは、オフィス・オブジェクトは、個々のユーザーにより所有され、合計に加算されます。
			現行の値がシステム/38 から移行されます。PTYLMT3 以下の弊社提供のプロファイルは 0 に変更されました。これにより、ジョブ待ち行列のジョブを、待ち行列の先頭に移すという新しい機能を使用できるようになりました。これと同じ機能を持たせたいプロファイルでは、値 0 を指定する必要があります。出力待ち行列にも同じ機能がありますが (2-50 ページの『スプール』を参照)、OUTPTY パラメーターには、1 ~ 9 までの値しか指定できません。

図 2-6 (2/3). 既存のシステム/38 のキーワード

キーワード	システム/38 環境 の省略時値	OS/400 プログラムの 省略時値	移行に関する 注意
SPCAUT	*NONE	*USRCLS	<p>現行の値がシステム/38 から移行されます。システム/38 は *SAVSYS,*JOBCTL, および *ADMIN をサポートしています。*ADMIN 機能は、AS/400 システムでは *SECADM になりました。この機能は、AS/400 システムにおいてこの権限を持つユーザーが、変更が許可されているユーザー・プロファイル（たとえばそのユーザー作成のプロファイル）の変更だけを行うことができるという点で、システム/38 と異なります。*ADMIN はシステム/38 環境コマンドに引き続き存在していますが、*SECADM として表示され検索されます。</p> <p>新しい特殊権限は、*ALLOBJ,*SERVICE, および *SPLCTL です。*ALLOBJ 権限には、機密保護担当者がシステムのオブジェクトを処理するために使用する機能と同じ機能が備わっています。*SERVICE 権限は、ある種のサービス機能を実行するために必要です。*SPLCTL 権限を使用すると、ユーザーは、システムのすべてのスプール・ファイルを処理することができます。</p> <p>省略時値は *USRCLS であり、USRCLS パラメーターにも適用されます。</p> <p>QSECOFR プロファイルには、出荷時にすべての特殊権限が与えられています。QSRV プロファイルには、出荷時に *SERVICE 権限が与えられています。QSYSOPR および QPGMR プロファイルの出荷時の設定は、システム/38 の場合と同じです。</p>
INLPGM	*NONE	*NONE	<p>現行の値がシステム/38 から移行されます。システム/38 で省略時値がとられている場合には、初期プログラムから返る時点で相違が生じます。システム/38 では、コマンド入力画面が表示されました。AS/400 システムでは、INLMNU パラメーターがテストされます。2-47ページの『サイン・オン』を参照してください。</p>
JOB	QDFTJOB,QGPL	QGPL/QDFTJOB	<p>システム/38 の値が *NONE 以外の値であれば、その値がシステム/38 から移行されます。*NONE である場合には、AS/400 の省略時値である QGPL の QDFTJOB が使用されます。このパラメーターの使用目的が変更されて、ユーザーのジョブに設定される属性の基礎となりました。</p> <p>CRTUSRPRF コマンドをシステム/38 環境で使用する場合、JOB (*NONE) 項目は QGPL/QDFTJOB に変換されます。</p>
GRPPRF	*NONE	*NONE	<p>変更はありません。現行の値がシステム/38 から移行されません。</p>
OWNER	*USRPRF	*USRPRF	<p>変更はありません。現行の値がシステム/38 から移行されません。</p>
GRPAUT	*NONE	*NONE	<p>変更はありません。現行の値がシステム/38 から移行されません。</p>
ACGCDE	*BLANK	*BLANK	<p>変更はありません。現行の値がシステム/38 から移行されません。</p>
DOCPWD	*NONE	*NONE	<p>これは、オフィス文書に使用される文書パスワードです。現行の値がシステム/38 から移行されます。</p>

図 2-6 (3/3). 既存のシステム/38 のキーワード

キーワード	システム/38 環境 の省略時値	OS/400 プログラムの 省略時値	移行に関する 注意
MSGQ	*USRPRF	*USRPRF	<p>システム/38 の値が *NONE 以外の値であれば、その値がシステム/38 から移行されます。*NONE である場合、システム/38 環境の CHGUSRPRF コマンドが使用され、それに *NONE が使用されている場合には、OS/400 の省略時値である *USRPRF が使用されます。これにより、QUSRSYS にユーザー・プロファイルと同名のメッセージ待ち行列が作成されます。このサポートの使用目的は、2-20ページの『メッセージ処理』で説明したように大幅に変更されました。作成されるメッセージ待ち行列は、ユーザーに送られるメッセージの大半に使用されます。</p> <p>システム/38 の環境で CRTUSRPRF コマンドを使用した場合には、*NONE の値は *USRPRF として変換されます。新しいパラメーターの DLVRY および SEV も参照してください。</p>
OUTQ	*DEV	*DEV	<p>システム/38 の値が *NONE 以外の値であれば、その値がシステム/38 から移行されます。*NONE である場合には、省略時値である QGPL の QPRINT が使用されます。</p> <p>このサポートの使用目的は、2-50ページの『スプール』で説明したように大幅に変更されました。省略時値を使用すると、ユーザーは、すべての出力を特定の印刷装置に簡単に送ることができます。個々のユーザーに関連した出力待ち行列がある場合、またはスプール出力の一部を印刷したくない場合には、この値をユーザー・プロファイルに指定しなければなりません。</p> <p>システム/38 環境で CRTUSRPRF コマンドまたは CHGUSRPRF コマンドを使用した場合には、*NONE 項目は *DEV に変換されます。</p> <p>スプール・オプションの省略時値は、AS/400 システムではシステム/38 とは異なります。省略時値はシステム印刷装置です(2-50ページの『スプール』を参照してください)。特定の出力待ち行列を省略時値として使用したい場合には、その待ち行列をユーザー・プロファイルに指定しなければなりません。移行援助ユーティリティーは、*NONE の値をすべて QPRINT に変更するという事に注意してください。これにより、すべての移行済みプロフィールは、システム/38 の場合と同様に作動します。</p>
PUBAUT	*NONE	*EXCLUDE	<p>現行の値がシステム/38 から移行されます。移行援助ユーティリティーは、この節で後述するように、共通認可の権限を私権限と結び付けます。OS/400 プログラムのすべての CRT コマンドで、PUBAUT パラメーターの名前は AUT に変更され、入力できる値も変更されました。システム/38 環境では、システム/38 のキーワード名および値がサポートされています。</p>
TEXT	*BLANK	*BLANK	<p>変更はありません。現行の値がシステム/38 から移行されます。</p>

権限の検査: AS/400 システムの権限は、付加方式ではないという点で、大幅に異なっています。たとえば、システム/38 では、オブジェクトに対する権限は、次のようなオブジェクトに対する各権限を総合したものでした。

- 共通認可の権限
- 私有権限
- グループ権限
- プログラム借用権限

AS/400 システムでは、個々の権限についての検査が行われます。該当の権限が見つかり、その権限が検査され、それ以上の検査は行われません。検査は次の順序で行われます。

- *ALLOBJ 権限 (新しい特殊なユーザー・プロファイル権限)
- オブジェクトに対する私有権限
- 権限リストの私有権限 (ユーザーおよびその権限からなる共通リストにより、複数のオブジェクトに対する機密保護を行うための新しい機能)
- グループ・プロファイルの ALLOBJ 権限
- オブジェクトに対するグループ・プロファイルの私有権限
- 権限リストを使用するグループ・プロファイルの私有権限
- オブジェクトに対する共通認可の権限
- 権限リストの共通認可の権限

プログラム借用権限は付加方式です (各借用プログラムのすべての権限を総合したものがそのユーザーの権限となります)。システム/38 の場合と同様に、借用されるプログラムの所有者が、グループ・プロファイルのメンバーである場合には、グループ・プロファイルの権限は付加の対象となりません。権限を借用するプログラムのスタック内で活動状態のプログラムと同じ数の所有者の権限が付加されます。

相違点を理解しやすいように、システム/38 で DスポBJAUT を使用して、ファイル・オブジェクトに対する次の権限が表示された場合を考えてみます。

ユーザー名	オブジェクト権		データ権		
	操作	存在	読取り	追加	更新 削除
*PUBLIC	X		X		X
HONDA	X			X	
GROUPA	X				X

HONDA が GROUPA のメンバーだとします。システム/38 では、HONDA はすべてのデータ権をもってファイルを処理することができます。HONDA には、追加権が特に与えられています。HONDA は、読取り権お

よび更新権を得るために共通認可の権限を使用し、削除権限を得るためにグループ権限 (GROUPA) を使用しません。

AS/400 システムでは、オブジェクト権限が上の例と同様に表示された場合には、HONDA には特定の権限が 1 つ与えられているため、ファイルのレコードの読取り、更新、または削除を行う権限はないことになります。共通認可の権限およびグループ権限は付加されません。

他のオブジェクトに移行する前に、移行援助ユーティリティを使用してユーザー・プロファイルを移行しなければなりません。移行援助ユーティリティにより保管されたユーザー・プロファイルを復元すると、個々の権限に共通権限およびグループ権限が追加されます。この例の場合、AS/400 では権限は次のようになります。

ユーザー	オブジェクト権	オブジェクト		データ		
		操作	存在	読取り	追加	更新 削除
*PUBLIC	*USE	X		X		X
HONDA	*CHANGE	X		X	X	X
GROUPA	USER DEF	X		X		X

注: HONDA と GROUPA の両方の権限が、移行処理によって変更されます。

JOHNSON が GROUPA のメンバーだとします。このユーザーは、システム/38 の場合と同じ権限を持っているため、AS/400 システムでも相違はありません。

SUZUKI が GROUPA のメンバーではないとします。SUZUKI には、オブジェクトに対する特定の権限は与えられておらず、*PUBLIC 権限を使用して操作を行っています。このユーザーの場合も、AS/400 での相違はありません。

移行援助ユーティリティを使用してユーザー・プログラムを復元したときに、必要な変更が行われるため、ほとんどの場合、AS/400 システムで処理を開始したときに、権限操作上の相違はありません。しかし、権限を変更する場合は、OS/400 の権限が付加方式ではないことを考慮する必要があります。権限の許可および取消しを行うプログラムがある場合には、AS/400 システムで同じ機能を実行するために、変更が必要な場合もあります。

移行援助ユーティリティだけが、共通認可の権限およびグループ権限を付加する機能を実行します。

RSTUSRPRF コマンドを使用すると、システム/38 の SAVSYS 媒体からユーザー・プロファイルを復元することができます。ただし、リリース 8 による媒体しか使用できません。

オブジェクト権限: システム/38 環境コマンド (たとえば、GRTOBJAUT) では、システム/38 の場合と同様に、*NORMAL および *OPER などのパラメーター値を入力することができます。ユーザーが、システム/38 環境において、*NORMAL の許可または取消しを行うと、*OBJOPR および 4 つの出で権限すべてが許可されるか、または取り消されます。*OPER を許可または取り消すと、*OBJOPR と *READ が許可または取り消されます。

ほとんどの OS/400 コマンドは、次のように変更されています。

システム/38 環境	OS/400* プログラム
*NORMAL	*CHANGE
*OPER	*USE
*NONE	*EXCLUDE
-	*OBJOPR

*OBJOPR 権限は、OS/400 プログラムの新しい権限であり、オブジェクトの操作権限だけを許可します。

OS/400 の CRT コマンドでは、PUBAUT の代わりにキーワード AUT を使用します。ほとんどの CRT コマンドは *CHANGE に省略時設定されます。詳細については、*機密保護 解説書* を参照してください。

DSPOBJAUT を使用した場合、OS/400 の権限を使用できる (たとえば、権限の組合せが *CHANGE に変換される) ときのみ、その権限の値が表示されます。権限を記述的な値に変換できなかった場合、その値は *USER DEF* (ユーザー定義) として表示されます。

システム/38 の DSPOBJAUT コマンドを入力し、F11 キーを押すと、X で権限を示す画面が表示されます。記述的な値を示す画面と、記述的な値および X の両方を示す画面は、自由に切り替えることができます。また、ユーザー・プロファイルのオプションにより、*USE などの記述的な値の画面を最初に表示するか、あるいは記述的な値と X の両方の画面を最初に表示するかを指定することができます。システム/38 の X で権限を示す画面を最初に表示したい場合は、ユーザー・プロファイルのパラメーター USROPT の説明を参照して、*EXPERT を指定してください。

両方のタイプの値を表示する画面は、次のようになります。

ユーザー	オブジェクト 権限	オブジェクト			データ			
		操作	MGT	存在	読取り	追加	更新	削除
HONDA	*CHANGE	X			X	X	X	X
*PUBLIC	*USE	X			X			

*USE という語は、通常、オブジェクトが読取り専用 (変更不可) であることを示します。

ユーザーの除外: AS/400 システムでは、ユーザーを除外するための新しいサポートが追加されました。

*EXCLUDE 権限は、ユーザーがオブジェクトにアクセスできないことを示します。たとえば、次の画面が表示されているとします。

ユーザー	オブジェクト 権限	オブジェクト			データ			
		操作	MGT	存在	読取り	追加	更新	削除
HONDA	*EXCLUDE				X			
*PUBLIC	*USE	X						

ユーザー HONDA はオブジェクトにアクセスすることができません。

注: 共通認可の権限でオブジェクトの読取りが許可されていても、HONDA はこのオブジェクトを読み取ることができません。同一のユーザーに対して、*EXCLUDE 権限と他の権限を組み合わせることはできません。

*EXCLUDE 権限は、システム/38 のあるユーザーの権限をすべて取り消すこととは、まったく違います。システム/38 であるユーザーの権限をすべて除去すると、そのユーザーの名前も画面から除去されますが、そのユーザーは、共通認可の権限を使用してオブジェクトにアクセスすることができます。OS/400 プログラムの *EXCLUDE 権限では、ユーザーはオブジェクトにアクセスできません。

*EXCLUDE 権限は、共通認可 (*PUBLIC ユーザー) の場合と、個々のユーザーの場合で次のように異なります。

- *PUBLIC ユーザーの場合、*EXCLUDE 権限は、システム/38 環境でも OS/400 プログラムでも設定することができます。システム/38 環境で PUBAUT (*NONE) を指定する場合、*PUBLIC 権限は *EXCLUDE に設定します。RVKOBJAUT (*ALL) を指定するか、またはすべての権限を除去する場合は、*EXCLUDE 権限を設定します。

*PUBLIC 権限をもたないオブジェクトをシステム/38 から変換すると、AS/400 システムにおいて、

それらのオブジェクトは、*EXCLUDE 権限が設定された状態で表示されます。

- 個々のユーザーの場合、システム/38 環境で *EXCLUDE 権限を設定する方法はありません。OS/400 の EDTOBJAUT コマンドまたは GRTOBJAUT コマンドを使用しなければなりません。

*PUBLIC ユーザーをオブジェクトに対する権限から取り除くことはできません。*PUBLIC ユーザーには、何らかの権限を与えるか、または除外するかのいずれかです。

個々のユーザー・プロファイルまたはグループ・プロファイルには、私用権限、除外、または権限なしのいずれか 1 つを指定することができます。プロファイルに権限がない場合、そのユーザーは共通認可の権限（または所属グループに権限があれば、グループ権限）を使用することができます。

個々のユーザー・プロファイル (*PUBLIC ではない) の場合は、そのユーザーに明示的に権限を与えるか、または明示的に除外するかを選択することができます。今後の方針を決める必要があります。*EXCLUDE を使用する場合は、新しいユーザー・プロファイルを追加する際に、その新しいユーザー・プロファイルにアクセスしてはならないオブジェクトを除外するよう、注意しなければなりません。

*EXCLUDE の利点の 1 つとして、ユーザーを個々に制御できる点があげられます。たとえば、あるグループがあるオブジェクトにアクセスできる場合、そのグループの特定のメンバーを除外してアクセスできないようにすることができます。この方式を使用する場合は、グループに追加される新しいユーザー・プロファイルの処理方法を検討しなければなりません。

権限の変更: DSPOBJAUT コマンドは、システム/38 環境でも OS/400 プログラムでも、権限を表示するだけであり、権限を変更することはできません。

EDTOBJAUT コマンド (OS/400 プログラムのみ) は、システム/38 の DSPOBJAUT コマンドと同様の変更機能を備えています。ただし、EDTOBJAUT コマンドは、変更権限を持つユーザーしか使用できず、画面はただちに表示されます (機能キーを使用するシステム/38 とは違って)。

EDTOBJAUT の画面では、特殊値 (たとえば *CHANGE) を使用するか、または X を変更することによって、変更を行うことができます。次の画面が表示された場合を想定してみます。

ユーザー	オブジェクト 権限	--- オブジェクト ---			----- データ -----			
		操作	MGT	存在	読取り	追加	更新	削除
HONDA	*USE	X			X			
SUZUKI	*USE	X			X			
*PUBLIC	*CHANGE	X			X	X	X	X

HONDA を除外した場合には、*USE を *EXCLUDE に変更するか、または X をすべて取り除きます。両方を行うこともできますが、矛盾があると (たとえば X を一部消し忘れた場合)、メッセージが表示されます。*USE を *EXCLUDE に変更して、実行キーを押した場合、HONDA の行に X のない画面が表示されます。

ユーザー	オブジェクト 権限	--- オブジェクト ---			----- データ -----			
		操作	MGT	存在	読取り	追加	更新	削除
HONDA	*EXCLUDE							
SUZUKI	*USE				X			
*PUBLIC	*CHANGE	X			X	X	X	X

HONDA を完全に取り除きたい場合 (たとえば、*PUBLIC にしたい場合) には、オブジェクト権限の欄に表示されている特殊値 *EXCLUDE をブランクにしなければなりません。SUZUKI を完全に除去したい場合 (SUZUKI も *PUBLIC ユーザーにしたい場合) は、特殊値 *USE および X の両方をブランクにしなければなりません。

HONDA に読取り権と更新権を与えたい場合 (しかし追加権または削除権は与えたくない場合) には、この組合せを設定するための特殊値はありません。次のいずれかによって、この設定を行います。

- 与えたい権限の欄に X を設定する。画面には、特殊値 USER DEF が表示されます。
- 特殊値を *USE に設定する。画面が再表示されると、操作と読取りの欄に X が表示されます。更新の欄にも X を追加してください。画面には、特殊値の USER DEF が表示されます。

OS/400 GRTOBJAUT コマンドでは、*EXCLUDE を指定することにより、*PUBLIC または個別ユーザーのいずれかに、*EXCLUDE 権限を設定することができます。これにより、既存の個別権限がすべて取り消されます。たとえば、HONDA を PAYMST ファイルから除外するには、次のように指定します。

```
GRTOBJAUT OBJ(LIBX/PAYMST) OBJTYPE(*FILE)
USER(HONDA) AUT(*EXCLUDE)
```

通常権限: 機密保護を設定するシステム/38 環境コマンドのほとんど (CRT コマンドの PUBAUT パラメーター、および GRTOBJAUT と RVKOBJAUT の AUT パラメーター) で、*NORMAL の定義が変更されまし

た。*NORMAL は、オブジェクトに対するすべてのデータ権限（読取り、追加、更新、および削除）を指定する値になりました。オブジェクト・タイプの中には、すべてのデータ権限があっても無意味なものがありますが、DSPOBJAUT を入力するとすべてに X が表示されます。

メッセージ・ファイル・オブジェクトの場合、*NORMAL の指定は、システム/38 の場合と意味が異なります。システム/38 では、追加、更新、および削除の各権限は認可されませんでした。ADDMSGD は追加権限、CHGMSGD は更新権限、そして RMVMSGD は削除権限を必要とします。これらの権限は、*NORMAL 権限によって、すべて AS/400 システムで使用することができます。

これは、AS/400 システム（システム/38 環境または OS/400 プログラムのいずれか）でメッセージ・ファイルを作成するか、または GRT か RVK を使用する場合にのみ必要な考慮事項です。既存のオブジェクトを移行すると、権限はシステム/38 の場合と同じになります。

CRTJOBQ および CRTOUTQ によって作成されたオブジェクトの共通認可権限は、システム/38 の場合と同じになります。ただし、GRT コマンドおよび RVK コマンドの場合には、*NORMAL はすべてのデータ権に適用されます。追加のデータ権限により、ジョブ待ち行列および出力待ち行列に対する CHG,CLR,HLD, および RLS の各コマンドの使用権限が決まります。

CRTUSRPRF および CRTSAVF によって作成されたオブジェクトの共通認可の権限は、システム/38 の場合と同じになります（システム/38 環境の場合は *NONE,OS/400 プログラムの場合は *EXCLUDE）。詳細については、機密保護 解説書 を参照してください。

パスワードのリスト: 単一サイン・オン・オプションで、ユーザーおよびパスワードのリストを生成するために使用された DSPUSRPWD コマンドはサポートされません。AS/400 システムで使用できるのは、2 レベルサイン・オンだけであり、パスワードは暗号化されるため、意味のある形では表示されません。ユーザーが自分のパスワードを忘れてしまった場合、機密保護担当者は新しいパスワードを割り当てる必要があります。

新しいライブラリー・サポートに関する考慮事項: 現行ライブラリーおよびプロダクト・ライブラリーに対する新しいサポート（2-16 ページの『ライブラリー』を参照）により、機密保護の再検討が必要となります。機密保護の対象としたいプログラムがある場合には、*CPF Programmer's Guide* (SC21-7730-9) の機密保護の章

で、ライブラリー・リストの意味について説明されている事項を考慮する必要があります。機密保護 解説書 でも、AS/400 に関する該当箇所が改訂されています。

デバッグ: プログラムのデバッグには、システム/38 と異なり、プログラムに対する *CHANGE が必要です。2-7 ページの『デバッグ』を参照してください。

弊社提供のプロファイルに対する変更: AS/400 システムでは、QCE および QPSR プロファイルはなくなりました。代わりに、QSRV および QSRVBAS という新しい 2 つのプロファイルがあります。2-46 ページの『サービス』を参照してください。

新しいプロファイルの QTSTRQS（テスト要求）は、5250 テスト要求を指定する場合に使用します。システム/38 では、QCE プロファイルを使用していました。

新しいプロファイル QDFTOWN（省略時の所有者）は、次の場合に使用され、所有者を指定するものです。

- 所有者がシステム上にない新しいオブジェクトを復元する場合
- RCLSTG によるオブジェクトの探索で、所有者が確定できない場合

この個別プロファイル (QDFTOWN) の目的は、所有者のいないオブジェクトを判別することにあります。

QUSER プロファイルは引き続き存在しますが、レベル 20 またはレベル 30 のシステムでは、パスワードを入力しないと使用できません。出荷時設定のパスワードは QUSER です。この値は、変更するか、または *NONE を指定することができます。

弊社提供のプロファイルの省略時のパスワードが変更され、プロファイル名と同じになりました。QSECOFR の省略時パスワードは、SECOFR から QSECOFR に変わりました。

ユーザー・プロファイルの表示と変更: DSPUSRPRF は、プロファイル・パラメーターを表示するだけです。変更を行うために使用できる機能はありません。OS/400 コマンド (WRKUSRPRF) を使用すると、既存のプロファイルを簡単に変更することができます。CHGUSRPRF コマンドは存続しています。

出荷時設定の権限: 弊社提供のコマンドに出荷時に設定された権限が、システム/38 から変更されました。これは、AS/400 コマンドでもシステム/38 環境コマンドでも同様です。特に、この変更により、以前より多くのコマンドに共通認可の権限が与えられました。（たとえ

ば、システム/38 では、CRT コマンドの多くに QPGMR が許可されていましたが、AS/400 システムでは、共通認可の権限が許可されています。)

エンド・ユーザーが、ユーザー・メニュー（弊社提供のメニューではなく）から操作を行っており、コマンド入力画面にアクセスできない場合には、大きな違いはありません。コマンド入力画面にアクセスできるユーザーの場合は、**機密保護 解説書** で説明されている権限を再検討する必要があります。

移行援助ユーティリティにより、権限の復元 (RSTAUT) 機能を実行した場合、弊社提供のプロファイルに関連する権限は許可されません。

システム要求機能: システム/38 でシステム要求機能を保護している場合には、変更が必要です。2-57ページの『システム要求』を参照してください。

論理ファイル作成: 論理ファイルを作成するためのオブジェクト管理権限の要件に関する変更については、2-5ページの『データベース』を参照してください。

権限リスト: 新しい権限リスト機能では、1つの権限リストを使用して、複数のオブジェクトを保護することができます。権限リストは、ユーザーおよび各ユーザーの権限を指定するコマンドにより維持されます。

DST: DST 画面は、3つのプロファイルにより保護されます。各プロファイルには、DST サポートの一部として、パスワードが設定されています。DST のプロファイルおよびパスワードと、OS/400 プログラムとの間には関連性はありません。DST へのサイン・オンとパスワードの変更には、別の機能を使用します。『サービス』を参照してください。

DST および OS/400 プログラムがそれぞれ別の機密保護機能であるという概念には、例外が1つあります。QSECOFR パスワードを忘れた場合には、そのパスワードを DST マスター・プロファイルの機能により、QSECOFR に再設定することができます。この逆も可能であり、DST マスター・プロファイル・パスワードを忘れた場合は、機密保護担当者が、OS/400 の CHGDSTPWD コマンドによって、それを再設定することができます。

参照項目: DSPPGMADP 出力ファイルの変更については、2-5ページの『相互参照』を参照してください。

機密保護に関する詳細については、**機密保護 解説書** を参照してください。

サービス

主要なサービス機能: OS/400 プログラムは、次の2つの主要なサービス機能をサポートしています。

- システム保守ツール (SST)

SST を使用すると、OS/400 プログラムが作動状態の場合にサービス機能にアクセスすることができます。SST は、システム/38 の並行保守モニター (CSM) に似た機能に、さらにいくつかの機能を付加したものです。ユーザーは、これらの機能を実行するための権限を持っていない限りなりません。システムには、サービス機能の実行に役立つ2つのプロファイル (QSRV および QSRVBAS) があり、その他のプロファイルを認可することもできます。

QSRV プロファイルは、全サービス機能を対象としたものであり、これにより、システム上のどの情報に対しても、表示/変更機能を実行することができます。QSRVBAS プロファイルは、サービス情報の表示を目的としており、重要なシステム機能に対する変更を防止します。

SST のほとんどの機能は、弊社からの指示がないかぎり実行する必要はありません。

- 専用保守ツール (DST)

DST サポートは、システム/38 の SM/1 ディスケット機能の代わりに使用されるもので、さらに機能が追加されています。特定の DST 機能に3つのパスワードが関連付けられています。最初の2つのパスワードでは、QSRVBAS および QSRV プロファイルによって提供される機能に対応する機能を実行することができます。3番目のパスワードは、QSRV タイプの機能の使用が可能であり、DST パスワードを変更することもできます。パスワードは、OS/400 プログラムではなく、DST によって設定されます。

DST を使用すると、低レベルのサービス機能を実行することができます。通常の場合、DST は、手動位置にキーロックを設定した IPL を実行することにより、アクセスされます。DST では操作卓が使用されます。操作卓の定義については、2-14ページの『初期プログラム・ロード (IPL)』を参照してください。

DST のほとんどの機能は、弊社からの保守の要請がないかぎり、実行する必要はありません。ただし、チェックサムやユーザー ASP に関連するディスク装置構成機能は、OS/400 コマンドではなく DST によって、ユーザーが行わなければならない。

サポートされない機能: システム/38 のコマンド DSPSTGCFG および CLCSTGCFG はサポートされません。DST または SST のサービス機能を使用すると、同じ機能にアクセスすることができます。

DST は、チェックサムまたは ASP の構成に使用されません。システム/38 の CHGSTGCFG コマンドはサポートされず、また、PWRDWN SYS コマンドの CFGSTG は無視されます。

次のシステム/38 のサービス機能は、AS/400 システムにはありません。

- CSNAP
- BSC 診断
- SLV 更新
- 電源制御変更
- MCR 更新
- エラー記録制御
- ディスケット修復ユーティリティ
- QSRV ログ

参照項目: 次の各項も参照してください。

- 2-28ページの『問題判別』
- 2-29ページの『プログラミング一時修正 (PTF)』
- 2-28ページの『問題ログ』
- 2-28ページの『問題分析機能』
- 2-58ページの『システム・サポート』

新しいサービス・プロファイル、およびパスワードの設定については、2-38ページの『機密保護』の変更点も参照してください。

セッション記述: RJE ユーティリティによって作成されます。変更はありません。2-67ページの『遠隔ジョブ入力 (RJE) (5714-RC1)』を参照してください。

出荷されるオブジェクト: QGPL で出荷される弊社提供のオブジェクトが変更されました。第7章の説明を参照してください。

QSYS で変更可能なオブジェクト（たとえば印刷ファイル）は、システム/38 の新しいリリースによって変更した場合と同じ方法で変更することができます。印刷装置の用紙サイズなどを変更するためには、ジョブ・ストリームまたは CL プログラムを使用してください。

サイン・オン

機密保護レベル: 機密保護レベルとしてレベル 20 または 30 (2-38ページの『機密保護』を参照) を使用している場合は、2 レベルのサイン・オンが必要です。つまり、ユーザー名とパスワードの両方を入力しなければなりません。システム/38 の単一レベルのサイン・オン（パスワードのみ）はサポートされません。システム/38 のユーザー・プロファイルを、単一レベルのサイン・オンから移行する場合、同じパスワードが有効になり、暗号化されます。

任意指定の値: サイン・オン画面には、次の項目について、任意指定の値が表示されます。

- 初期プログラム
- 初期メニュー
- 現行ライブラリー

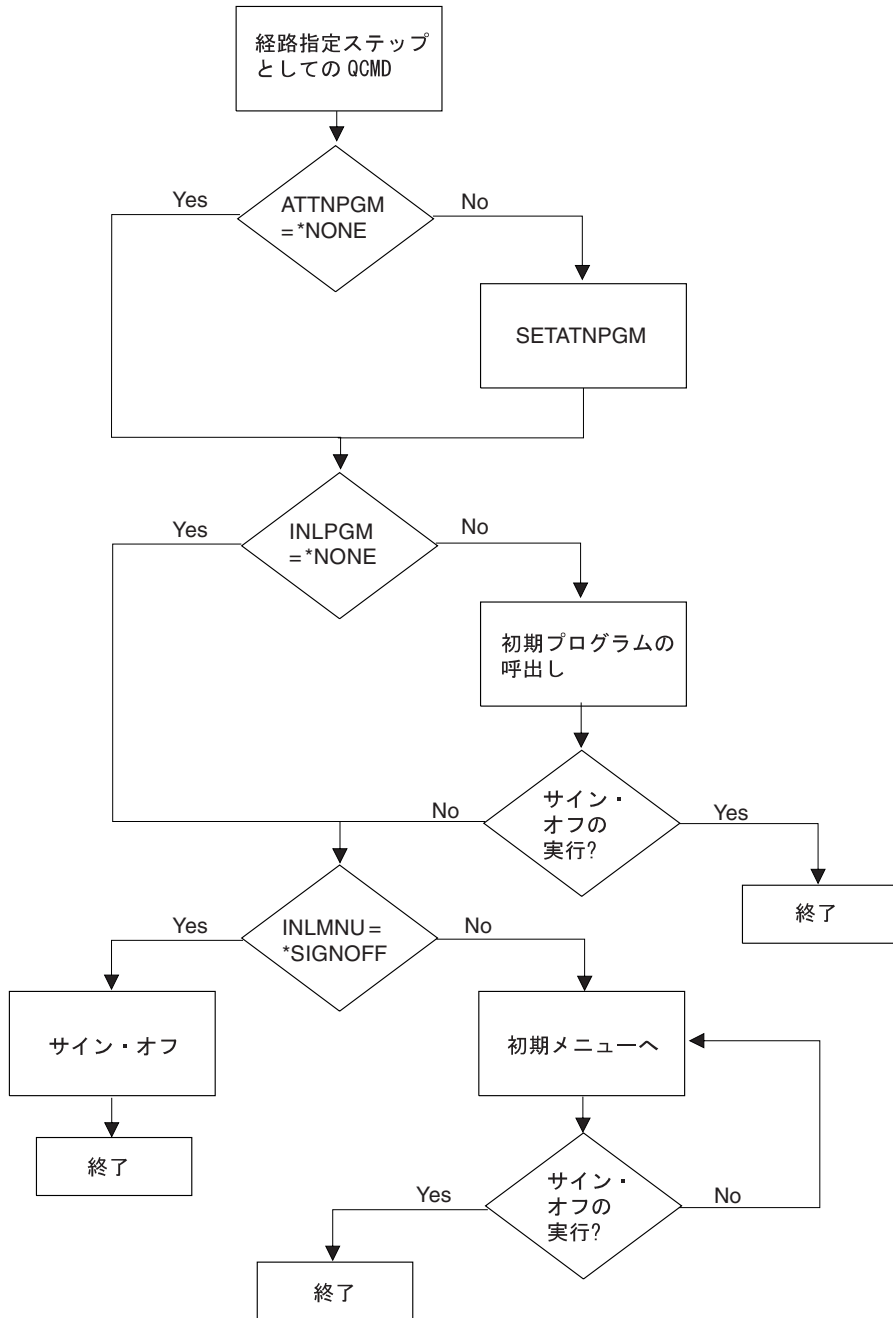
ユーザーがこれらの値をサイン・オン画面に入力できるかどうかは、ユーザー・プロファイルのパラメーター LMTCPB (機能制限) により決まります。移行援助ユーティリティは、システム/38 のユーザー・プロファイルを省略時値として使用し、値は LMTCPB (*NO) になります。これは、そのプロファイルでサイン・オンするユーザーが、これらの値を変更できるということです。LMTCPB の省略時値では、ユーザーは、コマンド入力画面にコマンドを入力することもできます。

システム/38 では、初期プログラム機能だけがサポートされており、サイン・オン画面では変更を行うことができませんでした。初期プログラムによって開始されたユーザー作成のメニューによって、多くのエンド・ユーザーが制御され、コマンド入力画面へアクセスすることはできません。システム/38 と同じタイプのサポートを得るには、エンド・ユーザー・プロファイルを LMTCPB (*YES) に変更する必要があります。

LMTCPB (*PARTIAL) 機能を使用すると、ユーザーは、サイン・オン画面の INLMNU パラメーターだけを変更して、コマンド入力画面でコマンドを入力することができます。

QCMD 経路指定プログラムを使用した場合（これは省略時値です）、実行される機能の順序は次のとおりになります。

1. ユーザー・プロファイルが ATNPGM に設定されます。
2. 初期プログラムが実行されます。
3. 初期プログラムがないか、またはサイン・オフを行わずに完了した場合は、初期メニューが実行されません。



RV2W318-0

- 初期プログラムでサイン・オフが行われた場合は、初期メニューは実行されません。
- 初期プログラムは、存在していないか、または初期メニューの実行のための戻りを行うものでなければなりません。
- 初期メニューとして、*SIGNOFF という特殊値を使用できます。これは、初期プログラムが戻りを行った場合に、ユーザーがサイン・オフされることを意味します。この項目は、初期プログラムだけで制

御されるユーザーのために設計されています。この事態が生じた場合、操作員にメッセージが送られません。

システム/38 環境において、初期プログラムで表示されるメニューによってユーザーを制御するという機密保護方式をとっていた場合には、移行したプロファイルを INLMNU (*SIGNOFF) に設定するとよい場合があります。

ユーザー定義のサイン・オン画面: システム/38 については、*CPF プログラマーの手引きの* 実行管理の章に、ユーザー独自のサイン・オン画面を作成する方法が説明されています。これを行った場合には、新しい要件に従うように、表示装置ファイルを変更しなければなりません。

独自のサイン・オン画面を作成すると、各ユーザーに対して、初期プログラム、初期メニュー、または現行ライブラリー・オプションを表示しないようにすることができます。これにより、ユーザー・プロファイルの LMTCPB の設定値に関係なく、ユーザー・プロファイルの値が使用されます。詳細については、*実行管理の手続き* の “サイン・オン画面ファイルの変更 (Changing the Sign-On Display File)” を参照してください。

コマンド入力機能の表示: サイン・オンと同時にコマンド入力画面を表示したい場合は、QCMD 経路指定項目で、初期プログラムとして QCMD を指定する必要があります。これにより QCMD が、プログラム・スタックに 2 回入れられます。

QCL を経路指定項目として使用した場合、初期プログラムがないと、システム/38 環境のコマンド入力画面が表示されます。

注: ATNPGM および INLMNU の機能は、経路指定項目が QCMD の場合にのみ実行されます。QCL 経路指定項目は、システム/38 での機能を実行するだけです。つまり、INLPGM 機能を開始するか、あるいは初期プログラムが終了したかまたは存在しない場合に、コマンド入力画面を表示するだけです。したがって、経路指定項目として QCL を指定すると、初期メニュー機能は無視されます。

ユーザー独自の経路指定項目プログラムがある場合には、サイン・オン画面から渡された値を示すメッセージを受け取り、ユーザー・プロファイルから情報を検索して、処理要件を判別することができます。*実行管理の手続き* の次の項を参照してください。

- “制御サブシステムに対する別のサブシステム記述の作成 (Creating Another Subsystem Description for the Controlling Subsystem)”
- “適用業務プログラム内のサイン・オン情報の検索 (Retrieving the Sign-On Information in an Application Program)”

照会メッセージ: QCL が終了し、それがプログラム・スタック内の最初のプログラムであった場合に、照会メッセージが出されていましたが、これは引き続き使用されます。QCMD も照会メッセージをサポートします

が、メッセージは、QCMD がプログラム・スタック内の 2 番目のプログラムである場合にのみ出されます。

SNADS

移行: SNADS は、OS/400 プログラムでのみ作動します。システム/38 のほとんどの SNADS コマンドは、変更を加えなくても、システム/38 環境で作動しますが、SNADS オブジェクト (移行援助ユーティリティでは移行されません) を構成しなければなりません。AS/400 システムでは、ファイルの様式が異なるため、SNADS によって使用されていたファイルを、システム/38 の QUSRSYS に保管してはなりません。

SNADS 構成情報の移行については、第7章を参照してください。

主な変更は、ネクスト・システム・テーブルで、装置記述名の代わりに、遠隔ロケーション名が使用されるという点です。この変更のため、このテーブルは配布待ち行列と呼ばれるようになり、いくつかのパラメーターにこの新しい用語が使用されることになりました。装置ファイルは使用されないため、システム名は、通信相手としたいシステムを、固有のものとして識別するものでなければなりません。

データベース: SNADS に関連する配布ログはジャーナルです。データを変換して、ユーザー適用業務で処理できるようにするために、DSPJRN と組み合わせて使用するデータベース・ファイル定義があります。

これらの定義に使用されるデータベース・ファイル様式は、フィールドの名前、属性、および値に応じて変更されました。変更されたファイルは次のとおりです。

SNADS ログ	QAZDCFLG
SNADS ログ	QAZDERLG
SNADS ログ	QAZDRTL
SNADS ログ	QAZDJRNL

これらのファイルについては、*SNA 分散管理サービス* を参照してください。

パラメーター: いくつかの SNADS でサポートされているノード ID (NDEID) パラメーターは、システム/38 環境では無視され、対応する OS/400 コマンドでは削除されました。この ID は、ネクスト・システム・テーブルの 2 つの部分からなる名前として指定されます。

DSPDSTLOG コマンドの ENTSTYP パラメーターの値には、ネクスト・システム (*NST) を指定することが

きました。これは、配布待ち行列 (*DSQ) に変更されました。

原始仕様の属性: 2-24ページの『オブジェクト属性および原始仕様のタイプ』を参照してください。

原始ファイル: 2-24ページの『オブジェクト属性および原始仕様のタイプ』で説明した原始仕様タイプの変更以外に、システム/38 からの変更はありません。

スペル援助辞書: 2-64ページの『ディクショナリー (5714-DCT)』を参照してください。

スプール

操作画面: 操作画面は大幅に変更されました。一般に、ファイルの作成の日付と時刻など、このスプール・ファイルに使用できる情報が増えました。ファイルをオープンしたプログラムが、AS/400 システムにおいて、システム/38 環境または OS/400 プログラムのいずれかで作成されたものである場合には、その名前も表示されます。プログラム名はユーザー・データの欄に表示されます。この名前を一時変更する方法については、4-15ページの『スプール』を参照してください。

新しいサポート: 新しいサポートを使用すると、任意のスプール・ファイルを、待ち行列の最初に簡単に移すことができます。OUTPTY パラメーターが CHGSPLFA に追加されて、画面で DSPOUTQ と同様のパラメーター行に簡単に入力できるようになりました。

スプール・ファイルの名前を指定するための新しいサポートがあります。4-15ページの『スプール』を参照してください。

新しいサポートでは、ユーザー・プロファイルの指定項目によって、すべてのスプール出力を特定の印刷装置に送ることを、容易に指定することができます。これには、いくつかのオブジェクト、パラメーター、および省略時値が使用されます。この方式の詳細を完全に理解する必要はありません。その概略は次のとおりです。

- すべてのユーザーのスプール出力を、1つのシステム印刷装置に指定する場合は、省略時値をすべて使用してください。
- QPRTDEV システム値には、実際の印刷装置を指定する必要があります。これは、スプール・ファイルを出力したい省略時の装置でなければなりません。スプール・ファイル用の印刷装置が存在してい

ない場合、出力は QPRINT 出力待ち行列に送られます。

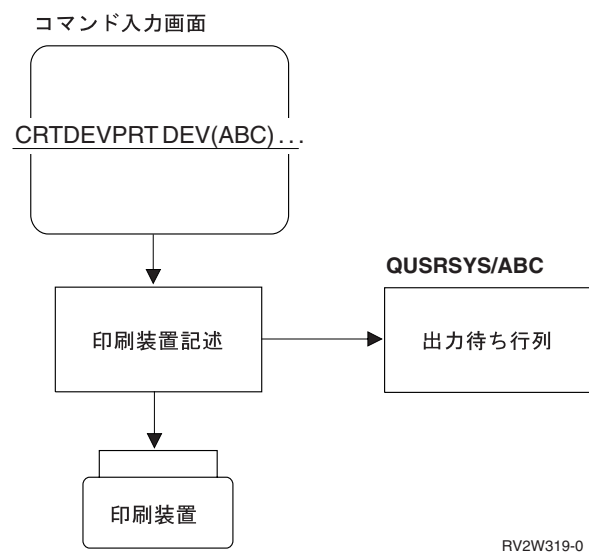
- ユーザー・プロファイルの PRTDEV パラメーターを変更すると、あるユーザーのスプール出力をすべて特定の印刷装置に送ることができます。
- ユーザー・プロファイルの OUTQ パラメーターを指定すると、ユーザーのスプール出力をすべて、特定の出力待ち行列に入れることができます。この待ち行列は、現在印刷書出しプログラムに接続されていても、これから接続されるのであっても、または決して接続されなくてもかまいません。たとえば、ユーザーは、スプール・ファイルを、印刷書出しプログラムに接続された待ち行列に移動することにより、印刷すべきファイルを選択することができます (たとえば、CHGSPLFA の OUTQ を使用しませぬ)。
- ユーザーは、省略時の機能による出力と同時に、ある特定のファイルを他の特定の出力待ち行列に入れるよう指定することができます。これには、その印刷ファイルまたは OVRPRTF コマンドで、その印刷ファイルに対する OUTQ パラメーターまたは DEV パラメーターを指定します。
- 各状況に応じた柔軟な対応を行うことができます。

移行: システム/38 からの移行に関して、考慮すべき重要な点としては、次のものがあります。

- システム/38 のすべての省略時値を使用した場合、出力は QPRINT 出力待ち行列に入れられます。AS/400 システムのすべての省略時値を使用した場合、出力は QPRTDEV システム値に指定された装置に関連する出力待ち行列に入れられます。QPRTDEV システム値には省略時印刷装置が指定されていることを確認してください。
- 移行援助ユーティリティは、OUTQ (*NONE) が指定されたユーザー・プロファイルを、OUTQ (QGPL/QPRINT) にして移行します。移行されたシステム/38 のプロファイルでは、システム/38 と同じ省略時値が使用されます。新しいユーザー・プロファイルには、ユーザーが出力待ち行列を指定してください。
- 適用業務で、OUTQ パラメーターを使用して、スプール出力をいくつかの異なる待ち行列に入れる場合、その適用業務は引き続き同様に機能します。以下の説明では、OUTQ パラメーターが PRTDEV パラメーターを一時変更することを忘れないでください。OUTQ を指定した場合、ファイルがスプール・ファイルであれば、その OUTQ が優先されます。

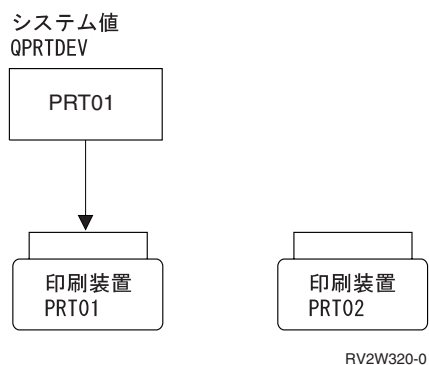
印刷出力の出力先: 次に、スプール出力の出力先を決定するための方法と手順について説明します。

1. 印刷装置記述が作成されると、それと同じ名前の出力待ち行列が暗黙指定で作成され、ライブラリー **QUSRSYS** に入れます。これは、OS/400 プログラムの新しい機能です。この機能の目的は、印刷装置への通常の出力を、その装置に関連する出力待ち行列にスプールすることにあります。



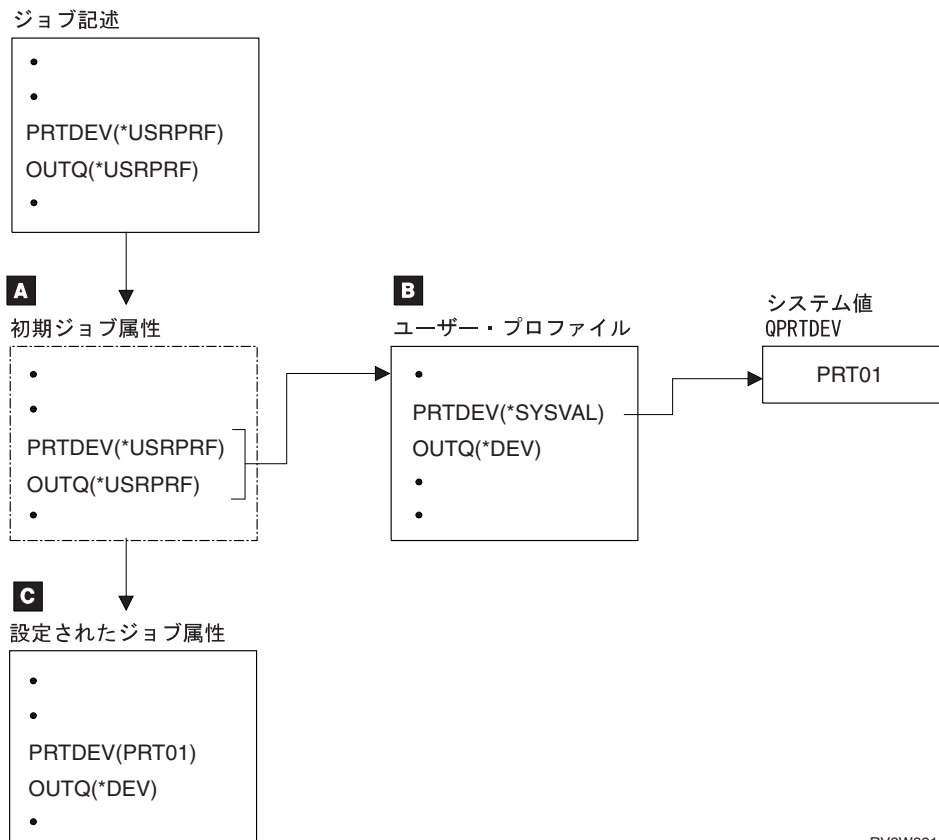
2. 印刷処理に関する省略時の名前として、新しいシステム値 **QPRTEDEV** が使用されます。このシステム値は、出荷の時点では **PRT01** になっています。(TSP システムを注文した場合の名前は **P1** です。) これは、自動装置構成を要求した場合に、最初の印刷装置に割り当てられる名前です。(2-7ページの『装置構成』を参照してください。) 自動構成を使用しない場合、または別の省略時の印刷装置を

必要とする場合、このシステム値を変更しなければなりません。省略時の値として正しく機能するようにするためには、システムにある有効な印刷装置の名前を指定しなければなりません。



3. ジョブが開始された時点では、常にジョブの記述およびユーザー・プロファイルの両方が、そのジョブに結び付いています。(次の図を参照してください。)

- A** ジョブ記述はジョブにコピーされて、ジョブ属性の初期値を提供します。ジョブ記述パラメーターのいくつかには、省略時の値がユーザー・プロファイルからとられるものがあります。この説明で重要な2つのパラメーター (**PRTDEV** および **OUTQ**) の省略時値は、いずれも ***USRPRF** です。
- B** 省略時値を使用した場合には、実際の値はユーザー・プロファイルからとられます。ユーザー・プロファイルの **PRTDEV** の省略時値は、システム値 **QPRTEDEV** です。
- C** ジョブの初期設定が完了すると、2つの属性が設定されます。



RV2W321-0

これらの属性は、ジョブの基本的な値を決定します。印刷装置ファイルにも、PRTDEV および OUTQ パラメーターがあり、それによってこれらのジョブ属性の使用を指定することができます（ステップ 5 で説明します）。省略時解釈は *JOB です。

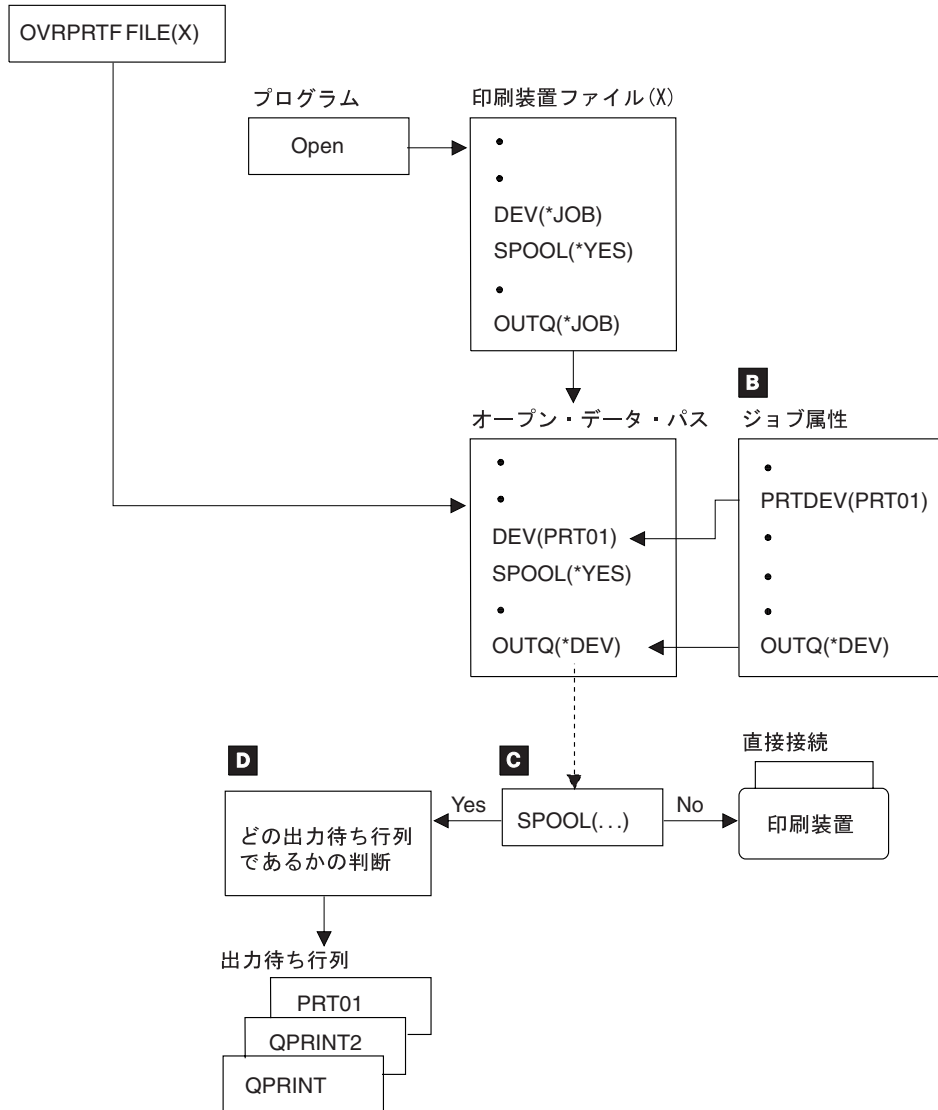
注: OUTQ パラメーターには *DEV を指定することができます。印刷装置ファイルでジョブ属性を使用するように指定されている場合には、使用される出力待ち行列は、印刷装置ファイルで指定された PRTDEV パラメーターに関連する待ち行列です。PRTDEV 属性には印刷装置の名前が指定されてい

ます。OUTQ パラメーターの値は、出力待ち行列名か *DEV です。

- ジョブが開始されると、ジョブ記述、ユーザー・プロファイル、またはシステム値は、ジョブ属性の決定には使用されません。活動状態のジョブに対する変更はすべて無視されます。CHGJOB コマンドを使用すると、ジョブの活動中に、PRTDEV または OUTQ ジョブ属性を変更することができます。
- あるプログラムが印刷装置ファイルをオープンすると、オープン・ルーチンは一連のステップを実行します。

A

一時変更ステートメント



RV2W322-0

A

プログラムが印刷装置ファイルをオープンする前に、OVRPRTF コマンドを実行した場合には、そこに指定した一時変更と印刷装置ファイル属性とが組み合わされて、オープン・データ・パス (ODP) という一時的オブジェクトが作成されます。この組合せの結果、属性は 1 組になります。一時変更を指定しなければ、印刷装置ファイル属性が使用されます。省略時値がとられる場合、この説明に重要な値は次のとおりです。

DEV = *JOB
SPOOL = *YES
OUTQ = *JOB

B

DEV パラメーター値は、ファイルがスプールされない場合に決定されます。オープン・データ・パスの DEV パラメーターは、次のように評価されます。

DEV = *JOB	ジョブ属性の PRTDEV が使用されます。
DEV = *SYSVAL	QPRTEDEV システム値の名前が使用されます。
DEV = xxx	xxx 印刷装置が使用されます。

前記の例では、オープン・データ・パスの DEV 属性が *JOB なので、PRT01 のジョブ属性が使用されます。

C オープン・データ・パスの検査により、そのオープン・データ・パスを印刷装置に直接接続するかどうかは判別されます。直接接続は、スプーリングを使用しないで、特定の物理印刷装置を割り振るということを意味します。オープン・データ・パスに SPOOL (*NO) の指定がある場合は、直接接続の印刷が要求されているため、ステップ D は行われません。

D 使用する OUTQ を判別します。オープン・データ・パスに SPOOL (*YES) が指定されている場合、オープン・データ・パスの OUTQ パラメーターは、次のように評価されます。

OUTQ = *JOB ジョブ属性の OUTQ が使用されます。

OUTQ = *DEV ステップ B で判別された DEV 名が使用されます。

OUTQ = xxx xxx 出力待ち行列が使用されます。

注: *DEV を (オープン・データ・パス、またはジョブ属性として) 指定した場合には、SPOOL (*YES) が指定されているかぎり、スプーリングが行われます。選択される出力待ち行列は、装置に関連した待ち行列です。装置が存在していない場合、出力は QPRINT 出力待ち行列に送られます。ステップ 1 の、各装置に暗黙的に関連する出力待ち行列の説明を参照してください。

キーワードの値は装置を指しているようにみえますが、実際には、その装置に関連する出力待ち行列を指しています。

ファイルがスプールされる場合、スプール・ファイルの DEV パラメーターは表示されません。CHGSPLFA コマンド (OS/400 プログラムの) は、DEV および OUTQ の両方のパラメーターをサポートします。DEV に値を指定した場合には、スプール・ファイルは、指定したその装置に関連する出力待ち行列に移されます。

権限: ユーザー・プロファイルで特殊権限 *SPLCTL が指定されていれば、ユーザーは、権限の有無に関係なく、システム上のすべてのスプール・ファイルに対して、アクセス、変更、および削除を行うことができます。この機能を使用すると、機密保護担当者または

*SPLCTL の指定されたその他のユーザーは、システム上の任意のファイルを処理することができます。

出力待ち行列にスプール・ファイルを入れるには、その出力待ち行列に対する *READ が必要になりました。システム/38 では、*ADD 権限が必要でした。

装置: カード装置はサポートされないため、カード・スプーリングもサポートされません。

ディスク・スプーリングは単一のスロットに限定されます。LOC キーワードをシステム/38 環境のスプール・コマンド (たとえば STRDKTWTR) に指定することができますが、これは無視されます。

ファイル名: 原始仕様からオブジェクトを作成するコマンドによって使用されるスプール・ファイル名が変更されました。2-68ページの『言語』,2-6ページの『データ記述仕様 (DDS)』, および2-2ページの『コマンド定義』を参照してください。

WRKSPFL: 新しい WRKSPFL コマンドでは、スプール・ファイルの表示に役立つ各種のオプションを使用できます。たとえば、特定のユーザーに属するすべてのスプール・ファイルを表示することができます。これは、問題の判別に特に役立ちます。

システム保守ツール (SST): 2-46ページの『サービス』を参照してください。

サブシステム記述

ワークステーションの割振り: AS/400 システムにおける、システム/38 からの重要な拡張の 1 つに、ワークステーションの動的割振り機能があります。2-9ページの『ワークステーションの割振り』を参照してください。

バックアップ・サブシステム: ユーザーが変更できない新しいサブシステム記述があります (QSYS ライブラリーの QSYSSBSD)。このサブシステムの目的は、他のユーザー作成サブシステム記述が損傷を受けた場合、またはユーザーが作業用バージョンに変更を加えた結果、そのバージョンが使用不能になってしまった場合に、使用可能なサブシステムを提供することにあります。IPL 時に、システム値 QCTLSBSD に指定された制御サブシステムが見つからなかった場合にも、QSYSSBSD が使用されます。

弊社提供のサブシステム: QBASE, QBATCH, QCMN, QCTL, QINTER, および QSPL の各サブシステムは、QSYS ライブラリーにあり、変更することがで

きます。これらのサブシステム記述は、それぞれ異なる要件を満たすように設計されています。QSYS ライブラリーのサブシステムは、いずれも変更しないで、または変更を加えて使用することができます。また、ユーザーが独自のサブシステムを作成することもできます。

独自のサブシステムを作成するには、CRTDUPOBJ コマンドを使用して、これらの弊社提供のサブシステムのコピーを、ユーザー・ライブラリーに作成することができます。

注: パフォーマンス調整のために、制御サブシステムのコピーをシステムに検査させたい場合には、そのコピーが QGPL ライブラリーになければなりません。パフォーマンス調整の詳細については、『パフォーマンス調整オプション』を参照してください。

次の 2 つのサブシステム方式があります。

- 単一サブシステム方式。単一のサブシステム (QBASE) は、制御サブシステムとして使用され、対話式処理、バッチ処理、および通信処理にも使用されます。スプール処理は、QSPL サブシステムで行われます。QBASE には複数の記憶域プールがあり、経路指定項目によって、優先順位が異なる各プールに作業が割り振られます。ただし、すべてのプール項目が *BASE を使用するため、バッチ処理および対話式処理はすべて同じプール内で行われます。

出荷時に、QCTLSBSD システム値には QBASE が、省略時制御サブシステムとして入っています。

特殊なジョブ記述 QSTRUPJD を使用する自動開始ジョブがあります。2-56 ページの『自動ジョブの開始』を参照してください。

- 次のサブシステムを使用する複数サブシステム方式。

制御サブシステム	QCTL
対話式処理	QINTER
バッチ処理	QBATCH
スプール処理	QSPL
通信処理	QCMN

複数サブシステム方式は、システム/38 の省略時値として提供される方式に似ています。ただし、QCTL サブシステムは、QBASE サブシステムの場合と同じジョブ記述 (QSTRUPJD) を使用する自動開始ジョブもサポートしています。

複数のサブシステム方式を使用するためには、システム値 QCTLSBSD を QCTL QSYS に変更しなければなりません。

注: QCTLSBSD システム値は、移行援助ユーティリティでは移行されません。

記憶域プールの設定は、どちらの方式でも同じです。出荷時の項目は、実行用プールとして、すべて *BASE を使用しています。後述する IPL パフォーマンス調整、およびこれらのプールに対するその影響についての説明に注意してください。

システム/38 ユーザーによっては、単一サブシステム方式の方が適切な場合があります。この方式は、弊社提供の省略時値が使用され、サブシステムへの変更があまり行われず、しかも異なるタイプの作業を制御する必要がない単純な業務に適しています。

複数サブシステム方式では、サブシステムの開始および終了によって、従来より便利な方法で、クラスの異なる作業 (たとえば、バッチと対話式など) を開始および終了することができます。

複数サブシステム方式は、複雑な経路指定項目を処理しなければならない場合、またはサブシステムを頻繁に変更しなければならない場合に、非常に便利です。AS/400 システムでは、システム/38 の場合と同様に、サブシステムの活動中に変更することができないサブシステムの属性がいくつかあります。

たとえば、対話式の経路指定項目を変更する必要がある場合、複数サブシステム方式を使用すると、操作が非常に簡単になります。これを行う場合、単一サブシステム方式では、QCTLSBSD システム値を QSYS の QSYSSBSD に変更し、電源を切り、再び IPL を行い、QBASE サブシステムを変更し、システム値を QBASE に戻し、電源を切り、再度 IPL を行わなければならない。複数サブシステム方式では、QINTER サブシステムを終了し、変更を行ってから QINTER サブシステムを再開するだけですみます。

どちらのサブシステム方式にも、システム/36 環境とシステム/38 環境の両方を作動可能にするために必要な特殊項目があります。

パフォーマンス調整オプション: システムには、2 つのサブシステム方式に関連して、パフォーマンス調整と呼ばれる新しい機能があり、システム値 QPFRADJ によって制御されます。省略時値では、パフォーマンス調整は IPL 時に行われます。この機能は、システム・モデル、主記憶装置サイズ、および既存の構成関連情報に基づいて、記憶域プール・サイズおよび活動レベルを設定します。

注: この機能は、IPL を実行するときにしか行われません。この機能は、システム値が設定されている場合、IPL のたびに値を再設定します。この機能は、作業負荷の変更とともに変わる動的調整機能ではありません。

QPFRADJ システム値によって調整が要求されると、次のことが行われます。

- QMCHPOOL システム値は、システムのサイズおよび既存の構成関連記述（たとえば、既存の通信回線のオブジェクト・タイプ数）に基づいて設定されます。
- 既存の印刷装置記述の数に基づいて、QSPLサブシステムに対する記憶域プール・サイズおよび活動レベルの変更が行われます。
- システムは、制御サブシステムとして QBASE または QCTL のどちらが指定されているかを調べます。システムは、制御サブシステムが QSYS ライブラリーまたは QGPL ライブラリーのどちらにあるかも調べます。制御システムがどちらのライブラリーにもない場合には、QSYSOPR にメッセージが送られて、IPL 調整は完了します。
- 制御サブシステムが QBASE である場合には、対話式処理に関連したプールの、固有の記憶域プール値および活動レベルが得られるように、QBASE サブシステムは変更されます。QBASACTLVL システム値も設定されます。プール・サイズおよび活動レベルは、システムのサイズとモデルに基づいて設定されます。
- 制御サブシステムが QCTL の場合、システムは、QBASE サブシステムの場合と同じ機能を実行しますが、QINTER サブシステムの対話式処理が変更される点は異なります。QBASACTLVL システム値も設定されます。

注: 典型的なシステムの場合、対話式処理とバッチ処理を分離して別々のプールで（必ずしも別々のサブシステムではなく）行うことによって、最高のパフォーマンスが得られるということを前提としています。

パフォーマンス調整の目的は、多くの小規模なシステム構成での処理の効率化を計ることにあります。システム構成が大きい場合、または特殊な要件がある場合には、システム/38 で行っていたのと同様のパフォーマンス調整を行うことを検討してください。構成関連の記述を作成してから、システムに調整を実行させるという方法もあります。この後で QPFRADJ をオフに設定します。これにより、変更の開始点となる一連の基礎値が得られます。

自動ジョブの開始: 自動開始ジョブが可能な制御サブシステムの目的は、IPL 時に特定の機能を自動的に開始させるために必要な処理を簡素化することにあります。詳細については、*実行管理の手続き*を参照してください。主要な事項は次のとおりです。

- QBASE および QCTL サブシステムは、自動開始ジョブ項目が定義された状態で出荷されます。自動開始ジョブは、新しい QSTRUPJD ジョブ記述のもとで作動します。これは、QPGMR ユーザー・プロファイルを使用して、弊社提供のプログラム (QWDAJPGM) を実行させるものです。
- 弊社提供のプログラム (QWDAJPGM) は、システム値 QSTRUPPGM を調べて、*NONE でなかった場合には、システム値に指定されたプログラムに制御を渡します。システム値 QSTRUPPGM には、次のいずれかを指定することができます。
 - QSTRUP。これは、弊社提供プログラムの名前です。これが省略時値になります。このプログラムは、次のことを行います。
 - いずれのサブシステム方式（前記の説明を参照）でも、すべてのサブシステムが開始されます。
 - システム値 QSTRPRTWR が yes に設定されている場合には、すべてのスプール書出しプログラムが開始されます。IPL オプション画面により、IPL のたびにシステム値が設定されます。省略時値は yes であり、操作員が入力を行わなかった場合、または不在 IPL が起こった場合に、この値が使用されます。
 - 修飾プログラム名。ユーザー独自の始動プログラムが実行されます。
 - *NONE。始動プログラムは実行されません。

経路指定項目: 弊社提供の QBATC および QINTER サブシステムで提供される経路指定項目には、それぞれ QCMD および QCMD38 に対する項目が含まれています。QCMD 項目は QSYS/QCMD を呼び出します。QCMD38 項目は QSYS/QCL を呼び出します。SBMJOB RTGDTA の省略時値は、システム/38 環境と OS/400 プログラムでは、次のように異なります。

システム	RTGDTA の省略時値
システム/38 環境	QCMD38
OS/400 プログラム	QCMD

OS/400 プログラムのもとで対話式操作を行う場合、バッチ方式で実行したいコマンドを入力するには、新しい

CMD パラメーターを使用してください。適切な構文が QCMD 処理プログラムに渡されます。

システム/38 環境または OS/400 プログラムで、RQSDTA パラメーターを使用する場合には、RTGDТА の値に適合した正しい構文を入力しなければなりません。たとえば、OS/400 プログラムを使用していて、次のように指定したとします。

```
SBMJOB RQSDTA ('CALL PGMA.LIBRARY1')
```

このコマンドは、QCMD で処理されると実行不能になります。OS/400 の構文 (LIBRARY1/PGMA) を使用するか、または RTGDТА (QCMD38) を指定する必要があります。

ジョブ記述: システム/38 からの主な変更の 1 つに、ジョブ記述とユーザー・プロファイルとの省略時の関連付けがあります。AS/400 システムでは、ユーザーは、汎用ジョブ記述 (QGPL の QDFTJOBД) を使用することも、特定のジョブ記述をユーザー・プロファイルに割り当てすることもできます。このサポートに伴って、ワークステーション項目 (たとえば ADDWSE) では、サブシステムと同じ名前のジョブ記述ではなく、サイン・オンするユーザーのジョブ記述が、省略時値として使用されるようになりました。CRTUSRPRF では、JOBД パラメーターの省略時値が QDFTJOBД に変更されました。

これらの変更の結果、サイン・オン時に使用されるジョブ記述は、サブシステム指向ではなく、ユーザー指向のものとなりました。このサポートは、多くの適用業務 (すべてではありませんが) で利用することができます。

モニター・ジョブ: システム/38 では、各サブシステムにモニター・ジョブが 1 つずつあり、各サブシステムに割り当てられている最初の記憶域プール (通常 QBASE プール) で実行されます。プールの活動レベルを決める際には、モニター・ジョブの活動を考慮に入れなければなりませんでした。

AS/400 システムでも、サブシステム・モニターは、各サブシステムに割り当てられている最初のプールの中で実行されますが、その活動は内部的に処理されるようになりました。したがって、サブシステム・プールの活動レベルを決める際に、モニター・ジョブを考慮に入れる必要はありません。しかし、その活動は、従来通り、システム全体にわたる活動レベル (QMAXACTLVL システム値) で数えられます。

プール・サイズ: 最小プール・サイズが、16K から 32K に変更されました。

その他の変更: サブシステムの定義に関するその他の変更として、システム/38 の出荷時の省略時値と、AS/400 システムの出荷時の省略時値に関する変更があります。システム/38 の省略時値を使用していた場合には、QCTLSBSD システム値によって、どちらのサブシステム方式を使用するかを指定する以外に、ほとんど行うべきことはありません。

システム/38 提供のサブシステムを変更した場合には、その変更の内容を検討し、OS/400 のバージョンに変更を加えなければならないことがあります。

第7章のサブシステム記述に関する説明を参照してください。

システム応答リスト: システム/38 のシステム応答リストは、移行援助ユーティリティによっては移行されません。ユーザー自身が変更を行わなければなりません。

操作に関しては、システム/38 からの変更は何もありません。PL/I が追加されています。7-4ページの『システム応答リスト』の説明も参照してください。

システム要求

メニューの変更: システム要求メニューには、次のような変更があります。

- オプション 3 (現行ジョブの表示) は、OS/400 の DSPJOB コマンドを使用するように変更されました。ユーザーは、CHGJOB などの変更、または表示ライブラリーオプションからのオブジェクトの削除を行うことはできません。
- 表示内容に関する変更があります。メニューでは、パススルー・ジョブまたはセカンダリー・ジョブのどちらが活動状態にあるかが判別され、選択項目をより適切に表現するように、表示内容が変更されます。パススルー・オプションは、パススルーが活動状態にある場合にのみ表示されます。
- DSPMSG, SNDMSG, および SIGNOFF オプションがメニューから入力された場合には、常にプロンプターが使用されます。
- 任意のオプションにコマンド・パラメーターを入力するためには、引き続きシステム要求行を使用することができます。
- QSYSOPR メッセージ待ち行列を表示する新しいオプションが追加されています。

機密保護の変更: システム/38 では、システム要求メニューは、表示装置ファイルとして作成されていました。AS/400 システムでは、このメニューは、パネル・グループ (*PNLGRP) のオブジェクト・タイプになります。したがって、QMNSYSRQ ファイルに対する権限を取り消して、システム要求機能を使用不可能にする方法は、使用できなくなりました。システム要求メニューにアクセスできるユーザーを制限するためには、次のコマンドを使用してください (*EXCLUDE を付与すると、個別の権限を取り消すことになります)。

```
GRTOBJAUT  OBJ(QSYS/QGMNSYSR)
             OBJTYPE(*PNLGRP)
             USER(*PUBLIC)
             AUT(*EXCLUDE)
```

次に、AUT (*USE) を指定すると、必要なユーザーにシステム要求メニューの使用を許可することができます。

システム・サポート: ほとんどの場合、新しいシステム・サポート機能を十分に活用するためには、通信回線があり、かつシステムが稼働状態になっていなければなりません。(構内での質問、回答機能には、通信は必要ありません。) システム・サポートにはいくつかの機能があります。

サービス: ハードウェアおよびソフトウェアの両方のサービス機能がサポートされます。ソフトウェアに関しては、電子方式による問題の報告およびプログラム一時修正 (PTF) の受取りなどがあります。

市場情報: これは、IBMLink* (米国でのみ使用可能)、または IBMDIAL (ヨーロッパのほとんどの国で使用可能) にアクセスして、発表、研修予定、およびファイル交換などに関する情報を入手することに関するものです。

質問・回答データベース (Q&A): これには、独自の Q&A データベースを作成する機能が含まれます。また、他の遠隔 Q&A データベースにアクセスすることもできます。システム操作を参照してください。

システム値

新しい値: 各種の機能に関連する新しいシステム値がいくつかあります。これらの新しいシステムを検討して、値をどのように指定するかを検討する必要があります。新しいシステム値にアクセスできるのは、OS/400 コマンドだけです (システム/38 環境ではアクセスできません)。(すべてのシステム値の詳細については、実

行管理の手続きを参照してください。) 新しいシステム値のいくつかを以下に示します。

名前	説明
QAUTOCFG	自動装置構成を指定する値。2-7ページの『装置構成』を参照してください。
QCONSOLE	操作卓装置の名前。この値は変更できません。2-14ページの『初期プログラム・ロード (IPL)』を参照してください。
QPRTEDEV	省略時の印刷装置名。2-50ページの『スプール』を参照してください。
QSTRUPPGM	IPL 時の始動プログラム名。2-54ページの『サブシステム記述』を参照してください。
QIPLDATTIM	システムの IPL を自動的に行う日時を示す値。
QRMTIPL	遠隔 IPL を指定する値。
QIPLTYPE	実行する IPL のタイプ (在席または不在)。2-14ページの『初期プログラム・ロード (IPL)』を参照してください。
QIPLSTS	実行された IPL のタイプ (QAUTOIMPL の代わり)。
QPWRRSTIPL	電源の回復後の自動 IPL を指定する値。2-61ページの『無停電電源装置』を参照してください。
QSTRPRTWTR	IPL 時に印刷書出し機能を開始するかどうかを指定する値。2-14ページの『初期プログラム・ロード (IPL)』を参照してください。
QSECURITY	システムの機密保護レベル (10,20, または 30)。2-38ページの『機密保護』を参照してください。
QKBDTYPE	キーボード言語の選択。
QSPCENV	特殊環境ユーザー・プロファイルの省略時値。2-38ページの『機密保護』を参照してください。
QDEVNAMING	自動構成のための装置名に関する規則。
QPFRADJ	IPL 時のパフォーマンス調整を指定する値。2-54ページの『サブシステム記述』を参照してください。

QPWDEXPITV	パスワードが有効な日数を指定する値。
QDPSGNINF	サイン・オン情報の表示を制御する値。
QMODEL	ユーザーが AS/400 システムのどのモデルで実行であるかを判別できるようにする値。
変更された値: 次のシステム値が変更されました。	
名前	説明
QSYSLIBL	QSYSLIBL は、次のライブラリーとともに出荷されます。 QSYS QUSRSYS QHLPSYS
QMAXSIGN	DEC (5 0) から CHAR (6) に変更されました。省略時値は 15 です。次の両方のサイン・オンに使用されます。 <ul style="list-style-type: none"> ワークステーションへのサイン・オン (システム/38 の QMAXSIGN 定義) 在席 IPL のためのサイン・オン (システム/38 の QSCPFSIGN 定義)
QAUTOIMPL	新しいタイプの IPL を反映して、戻される値が追加されました (たとえば、IPL 時の時刻)。QAUTOIMPL はシステム/38 環境でのみ指定することができます。OS/400 プログラムでの新しい名前は QIPLSTS です。この新しい名前は、DPSYSVAL の画面に示されます。
QCTLSBSD	省略時値が QBASE になりました。2-54ページの『サブシステム記述』を参照してください。
QSCPFCONS	省略時値は 1 です。
QBASPOOL	(10 0) のゾーン・フィールドに拡張されました。新しい省略時値は 500 です。
QMCHPOOL	(10 0) のゾーン・フィールドに拡張されました。新しい省略時値は 1500 です。
QUPSMGQ	2-61ページの『無停電電源装置』を参照してください。

QUPSDLYTIM 2-61ページの『無停電電源装置』を参照してください。

サポートされない値: 次のシステム値はサポートされなくなりました。

名前	説明
QCSNAP	この機能はサポートされなくなりました。同じ機能の一部は、装置構成の THRESHOLD パラメーターを使用して実行することができます。
QBADPGFRM	AS/400 システムではこの機能は不要になりました。
QSIGNLVL	機密保護レベル 20 および 30 での 2 レベルのサイン・オンがサポートされます。
QSRVONLY	AS/400 システムではこの機能は不要になりました。
QCHGLOGSIZ	QCHG ログ機能はサポートされなくなりました。
QSRVLOGSIZ	QSRV ログ機能はサポートされなくなりました。
QSYSOPRDEV	AS/400 システムではこの機能はサポートされなくなりました。
QAUXSTGTH	この機能は SST によりサポートされるようになりました。値の指定方法が変更され、使用されている記憶域のパーセンテージで指定することになりました。省略時値は 90% です。
QSCPFSIGN	この機能は QMAXSIGN システム値に含まれています。

移行: AS/400 システムでサポートされないシステム/38 のシステム値以外に、移行援助ユーティリティーによって移行されないシステム値 (読取り専用の値であるため) がいくつかあります。

QABNORMSW	CPF の前回終了の標識。
QAUTOIMPL	CPF IMPL 開始標識。
QIGC	漢字が導入されているかどうかを示す値。
QSRLNBR	システム製造番号。

日付および時刻を表す次のシステム値は、移行援助ユーティリティーによっては移行されません。QDATE および QTIME の値は、AS/400 システムで設定しなければなりません。

QDATE
QYEAR
QMONTH
QDAY
QTIME
Q HOUR
QMIN
QSECOND

システム値を変更していた場合には、AS/400 のリストに同様の変更を行ってください。

QUPSMMSGQ 定義が変更されました。2-61ページの『無停電電源装置』を参照してください。

QUPSDLYTIM 定義が変更されました。2-61ページの『無停電電源装置』を参照してください。

次のシステム値は移行されません。

名前	説明
QBASPOOL	システムのサイズに基づいて新しい値を決めるか、パフォーマンス調整オプションを使用してください。2-54ページの『サブシステム記述』を参照してください。
QCTLSBSD	移行が正常に完了するまでは、弊社提供のバージョンを使用してください。
QMAXSIGN	機能および属性のタイプが変更されました。2-59ページの『変更された値』の説明を参照してください。
QMCHPOOL	AS/400 システムでは以前よりも大きい値が必要になります。実行管理の手続きを参照するか、またはパフォーマンス調整オプションを使用してください。
QSYSLIBL	AS/400 システムは、出荷時に、このシステム値に 3 つのライブラリーがリストされています。システム/38 でこのシ

テーブル: システム/38 では、システム接続印刷装置で使用される変換テーブルも含めて、いくつかの機能にテーブルが使用されています。AS/400 システムでは、ワークステーション印刷装置しかサポートされないため、OS/400 コマンドでは、印刷装置ファイルに関する TRNTBL パラメーターは除去されました。

テーブル原始項目またはコマンドについては、変更はありません。

テープ

サポートされる装置: サポートされるテープ装置のいくつかは、次の表に示されています。保管および復元操作に使用できるおよその記憶容量および速度が示されています。データ交換の場合には、容量および速度は変わることがあります。完全なリストについては、*拡張バックアップおよび回復の手続き* を参照してください。

テープ装置	媒体の幅 (インチ)	タイプ	サポートする AS/400 のモデル	1 時間当たりの最大メガバイト数	巻戻し時間 (分)	媒体の最大容量 (MB)
6346	1/4	ストリーミング	9404	320	3.0	120
9346	1/4	ストリーミング	9404 および 9406	320	3.0	120
9347	1/2	ストリーミング	9404 および 9406	550	2.7	44
2440	1/2	調歩式	9406	1500	2.4	167
3422	1/2	調歩式	9406	2230	1.1	167
3430	1/2	調歩式	9406	950	3.0	167

ストリーミング装置が最大の速度に達するのは、ストリーミングが維持できる場合だけです。装置が読取りまたは書込み可能な状態になったときに、システムが読取りまたは書込み可能な状態になっていなければ、バックヒッチが生じます。バックヒッチが生じた場合は、テープが停止し、読取りまたは書込み可能な位置まで戻ります。バックヒッチが頻繁に生じると、速度は著しく低下します。

ストリーミング装置は、大量のデータ交換（たとえば、CPYF の読取りや書込み）には使用してはなりません。データ交換を使用する場合には、バックヒッチの頻度を少なくするために、できるだけ大きいブロックを使用する必要があります。

6346 および 9346 テープ装置 (1/4 インチ) は、他のサポートされる装置によっては読み取ることができません。9347 および 2440 テープ装置は相互に読取りおよび書込みができますが、これは、共通の密度 (1600bpi) で書かれている場合に限りです。

9347 テープ装置では、1600bpi または 3200bpi のいずれかを使用することができます。

2440,3422,3430, および 9348 テープ装置では、1600 bpi または 6250 bpi のいずれかを使用することができます。

6346 および 9346 テープ装置では、読取りまたは書込みを始める前に、テープ・テンションを設定しなければなりません。テンションを設定するための時間は、カートリッジを取り外したときのテープの位置に応じて、1.5 分から 3 分です。すべてのテープ処理の場合と同様に、複数のファイルと同じテープに書き込む場合（たとえば、複数の保管コマンドを使用する場合）には、ENDOPT (*LEAVE)を使用するようにしてください。6346 または 9346 テープ装置では、このテンション設定が必要なため、カートリッジを取り外すことがある場合には、必ず (ENDOPT (*REWIND) を指定してください。

6346 および 9346 テープ装置では、逆方向の読取りはできません。高水準言語（たとえば COBOL）によっては、逆方向読取りのためのステートメントがあります。

3422 および 3430 テープ装置では、ハードウェア・データ圧縮 (HDC) がサポートされています。

システム提供のテープ・ファイル: システム提供のテープ・ファイル QSYSTAP/SYS,QTAPPE/QGPL, および QTASRC/QGPL は、RCDLEN パラメーターの省略時値が 80 から *CALC に変更になりました。

DSPTAP の出力: DSPTAP の表示様式が変更になり、対話方式で使用した場合には、一度に 1 つのファイルしか表示されません。DATA (*SAVRST) を使用してファイルを表示した場合には、同じコマンドを繰り返さない限り、前のファイルに戻ることはできません。

テープ装置の名前: 省略時のテープ装置の名前は、QDEVNAMING システム値により決められます。この名前は、T1 または TAP01 です。システム/38 で使われていた QTAPPE または QTAPPE1 は使用されません。システムが自動構成オプションで導入されている場合には、装置記述はすでに存在しています。

自動装置構成の使用中に QTAPPE のような名前を使用したい場合には、次のことを行ってください。

- 記述 QTAPPE を作成する。
- システム作成の装置記述を ONLINE (*NO) に変更する。この変更により、装置はオンに構成変更されません（自動構成を使用している場合には、この装置記述は存在していなければなりません）。

テスト: 2-7ページの『デバッグ』を参照してください。

無停電電源装置: システム/38 および AS/400 システムでは、**基本型**および**完全型**の 2 つのタイプの無停電電源装置機能がサポートされています。

完全型のサポートでは、処理装置およびすべてのディスク装置に対して、無停電電源装置機能により電源を供給することが必要になります。9404-B10 型および B20 型では、オプションのバッテリー電源ユニットもサポートされます。このサポートを制御するシステム値が変更され、また新しいサポートが追加されました。このシステムには、次の 3 種類があります。

QUPSMMSGQ メッセージ用のメッセージ待ち行列

QUPSDLTYTIM 無停電電源装置遅延時間

QPWRRSTIPL 電源が回復された場合の IPL (新)

システム/38 でサポートされていた 2 つのシステム値は、移行援助ユーティリティによっては移行されません。

基本型のサポートは、システム/38 の基本型サポートに類似していますが、電源損失によって引き起こされた異常 IPL の後には、全マイクロコード完了機能を実行しません。基本型のサポートでは、処理装置、ユニット 1

(ソース・ロード用ディスク)、および記憶域制御装置に対してのみ電源が供給されます。

QUPSDLYTIM システム値の定義が変更されました。この値を使用すると、商用電源の供給が途絶えた場合に、指定した時間だけシステムを待機させることができます。**QUPSMGQ** の値に指定されているのがユーザー・メッセージ待ち行列ではない場合、遅延時間が経過すると電源が切れます。この方式により、多くのユーザーが、ユーザー作成の電源処理プログラムなしで、無停電電源装置を使用することができます。**RTV** (検索) コマンド上での **QUPSDLYTIM** は、6 バイトの文字値から 20 バイトの値に変更されました。最初の 10 バイトはユーザーが指定する値です。後半の 10 バイトは、***CALC** または ***BASIC** が指定された場合に、システムが応答として実際の値を入れるために使用します。

詳細については、**拡張バックアップおよび回復の手続き**を参照してください。

ユーザー・プロファイル: 2-38ページの『機密保護』を参照してください。

実行管理機能

省略時値の変更: システム/38 環境のコマンドの **SBMJOB** および **JOB** の **RTGDTA** の省略時値は、***JOB** から **QCMD38** に変更されました。これにより、ジョブは、弊社提供のサブシステムの中の正しい経路指定項目によって処理されます。この変更により、次のような相違が生じる場合があります。

- ユーザー独自のサブシステムがある場合、または弊社提供のサブシステムを変更した場合には、経路指定項目を **QCMDB** ではなく **QCMD38** に変更しなければならないことがあります。
- ジョブ記述で固有の **RTGDTA** 値を使用していた場合には、**JOB** の **JOB** パラメーターまたは **SBMJOB** パラメーターを変更して、***JOB** を指定する必要があります (そうしないと、省略時値として **QCMD38** が使用されます)。固有の **RTGDTA** の経路指定ステップにおいて、どのプログラムが使用されるかを考慮する必要があります。

OS/400 プログラムでは、**SBMJOB** コマンドに対して、大幅な変更が加えられました。4-16ページの『実行管理機能』を参照してください。

ユーザー・メッセージ待ち行列: ユーザー・メッセージ待ち行列はジョブに関連したものになり、すべてのグループ・ジョブに使用されることになりました。2-20ページの『メッセージ処理』を参照してください。

日付形式と区切り文字: 日付の形式および日付区切り文字は、新しいジョブ属性である **DATFMT** および **DATSEP** によって定義されることになりました。これらの属性の省略時値は、対応するシステム値です。ジョブ記述で省略時値が使用されており、それがジョブの実行中に変更されなかったとすれば、結果はシステム/38の場合と同じです。

WRKUSRJOB コマンド: 新しいコマンドである **WRKUSRJOB** を使用すると、特定のユーザーまたはすべてのユーザーのジョブをすべて処理することができます。これにより、システム操作員の操作が簡素化されます。このコマンドは、通常の作業処理で **DSPACTJOB** の代わりに使用することもできます。**DSPACTJOB** も、引き続きパフォーマンスの状況を調べる際に役立ちます。

参照項目: 実行管理機能に関する特定の事項については、本書の中で個別に説明されています。次の各項を参照してください。

- 2-47ページの『サイン・オン』
- 2-54ページの『サブシステム記述』
- 2-16ページの『ジョブ待ち行列』
- 2-15ページの『ジョブ記述』
- 2-14ページの『初期プログラム・ロード (IPL)』
- 2-16ページの『ジョブ・ストリーム』

弊社提供の変更不能なオブジェクト: 弊社提供の下記のオブジェクトは、ユーザーのサブシステム・オブジェクトが損傷を受けたか、または作動不能になった場合に使用することができます。

説明	オブジェクト	ライブラリー
制御サブシステム	QSYSSBSD	QSYS
サブシステム QSYSSBSD における経路指定項目のクラス	QSYSCLS	QSYS
サブシステム QSYSSBSD に対する ADDWSE コマンドで使用する JOB	QSYSJOB	QSYS
ジョブ待ち行列	QSYSSBSD	QSYS

たとえば、ユーザーの制御サブシステム記述が動作不能になった場合には、IPL オプション画面で QSYSSBSD を指定して、システムの IPL を行うことができます。

ワークステーション

入力フィールドの追加: すべての構内装置について、使用できる入力フィールドの数が追加されました。システム/38 での 128 から 256 に拡張されました。この数は、使用する DDS キーワードによって、これよりも少ない数に制限されることがありますが、これについては、**データ管理**を参照してください。5294 表示装置またはワークステーションでは、254 個のフィールドが使用できます。5251-M12 型遠隔ワークステーション制御装置では、従来通り 126 です。

ワークステーション装置の名前: 省略時のワークステーション装置の名前は、QDEVNAMING システム値により制御されます。このシステムの特殊値 *DEVADR により、システムは、作成中の装置記述の資源名から装置名を引き出します。

新しい構内ワークステーション制御装置の機能: 構内ワークステーション制御装置は、異なった方式によりデータを表示装置に送ります。要求する表示のタイプによっては、応答が迅速になる場合があります。たとえば、表示内容がすべて書きなおされる場合には、画面表示にバースト方式が使用されます。

参照項目: 2-6ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。

2-36ページの『戻りコード』を参照してください。

X.25: AS/400 システムでは、状況情報コマンド (DSPCHLSTS および DSPLNKSTS) は使用できなくなりました。X.25 の統計データを収集するためには、STRPFRMON コマンドによってデータの収集を開始し、ENDPFRMON コマンドによってデータの収集を終了します (この2つのコマンドについては、オンライン・ヘルプ情報を参照してください)。STRPFRMON コマンドの DATA パラメーターに *ALL を指定すると、システム・データおよび他の通信データとともに、X.25 データが収集されます。ユーザーは、データベース内のこのデータにアクセスすることができ (**実行管理の手続き**を参照)、また、弊社提供のパフォーマンス・ツールによってアクセスすることもできます。パフォーマンス・ツール・プログラムの詳細については、**パフォーマンス測定ツール/400の手引き**を参照してください。

X.25 構成の状況は、WRKCFGSTS コマンドを使用して表示することができます。パケット・サイズおよびウィンドウ・サイズを表示するには、WRKCFGSTS または DSPCTLD コマンドを使用して、X.25 制御装置記述を表示してください。DFTPKTSIZE が X.25 パケット・サイズであり、DFTWDWSIZE が省略時のウィンドウ・サイズです。X.25 制御装置記述がオンに構成変更されるか、または活動状態にある場合には、協定パケット・サイズおよび協定ウィンドウ・サイズも、NEGOTIATED PACKET SIZE および NEGOTIATED WINDOW SIZE として表示されます。これらの値は、仮想交換回線を使用する場合のものであり、呼出しが成功した場合のみ使用可能です。

ユーティリティおよびその他のライセンス・プログラム

各機能との相互参照を可能にするために、システム/38 ライセンス・プログラムの番号を示してあります。

拡張印刷機能 (APF) (5714-UT2): 独立したライセンス・プログラムとしての APF はなくなりましたが、AS/400 システムでは、適用業務開発ツール (5763-PW1) の一部としてその機能が組み込まれています。機能上の変更はありません。APF 機能の対象となるのは、従来通り 5224 印刷装置および 5225 印刷装置だけです。

ビジネス・グラフィックス・ユーティリティ (BGU) (5714-GP1): BGU は、独立したライセンス・プログラムです。図表の見出しが、図表データではなく図表形式の一部となった点を除けば、機能上の変更はありません。ただし、新しいサポートが追加されました。

暗号化機能 (CRP) (5714-CR1) および暗号

RPQ: システム/38 から定義域間キー・テーブル (QACRKTBL) を移行する必要がある場合には、AS/400 システムにも、等値のマスター・キーを導入する必要があります。これは、キー・テーブルの復元の前に行わなければなりません。

DSPCRPHLP コマンドは、AS/400 システムでは使用できません。ヘルプ情報は操作画面から表示できます。

分散データ管理機能 (DDM) (5714-DD1):

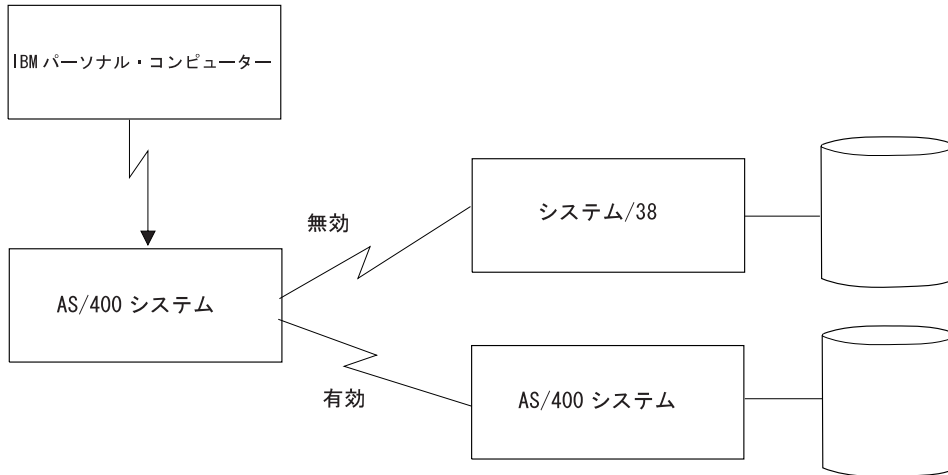
システム/38 での独立したライセンス・プログラムは、OS/400 プログラムの一部として組み込まれました。

グループ化: システム照会操作のためのグループ化機能は、内部的に変更されました。その結果、起動システムと受動システムとが同じタイプのもの（両方とも AS/400 システムからまたは両方ともシステム/38）でな

ければなりません。グループ化を使用できるのは次の機能です。

- OPNQRYP
- クライアント・アクセス/400 ファイルのダウンロード転送機能

ダウンロードの要求



RV2W323-0

同様に、システム/38 にパーソナル・コンピューターが接続されている場合には、DDM を使用したダウンロードの要求は、システム/38 に対してのみ有効です（AS/400システムに対しては無効です）。

CRT コマンド: 遠隔システムでのファイルの作成に、CRTPF および CRTLF コマンドが使用できるようになりました。DDS の PFILE キーワードおよび JFILE キーワードに指定するファイルは、作成しようとしているファイルと同じシステムになければなりません。

変更点: 受動システムをシステム/38 から AS/400 システムに変えた場合、起動システムでの DDM ファイル定義の変更が必要になることがあります。5-2ページの『DDM を使用する交換』を参照してください。

OS/400 プログラムでは、DDM ファイルの作成に大幅な変更が加えられました。4-6ページの『分散データ管理機能 (DDM)』を参照してください。

ディクショナリー (5714-DCT): 弊社提供のシステム/38 言語ディクショナリーは、AS/400 システムに移行することはできません。新しいディクショナリーを使用することができます。ディクショナリー・コマンドに関する詳細については、AS/400 CL(制御言語)解説書 V3 を参照してください。

ユーザー作成のディクショナリーは移行されるため、オフィス・テキスト編集プログラムにより使用することができます。

ディクショナリー・プロダクトには、多くの言語が含まれています（たとえば、フランス語、英語、およびドイツ語など）。特定のディクショナリーだけを復元したり、不要なディクショナリーを削除したりすることができます。

IDU - CGU (文字作成ユーティリティ)

(5714-UT1): CGU はライセンス・プログラムではなくなりましたが、AS/400 システムの適用業務開発ツール (5763-PW1) の一部として組み込まれています。

18x18 の漢字テーブルはサポートされません。

IDU - DFU (データ・ファイル・ユーティリティ) (5714-UT1): OS/400 DFU があり、適用業務開発ツールの一部として組み込まれています。

システム/38 の DFU プロダクトは、システム/38 環境でのみ使用できます。システム/38 環境のプロダクトに関する説明は、システム/38 互換:DFU/38 使用者の手引きと参照を参照してください。

システム/38 の DFU とシステム/38 環境の DFU との間には変更はありません。

ライブラリー修飾コマンド: OS/400 のコマンド入力機能でシステム/38 の DFU コマンドを使用するためには、コマンドを QSYS38 ライブラリーで修飾しなければなりません。たとえば、プログラマー・メニューには、システム/38 の DFU にアクセスするためのオプションはありません。次のコマンドを OS/400 の構文で入力する必要があります。

QSYS38/DSNDFUAPP

AS/400 プログラムから DFU 適用業務を使用する場合にも、次のようにコマンドを修飾しなければなりません。

QSYS38/CHGDTA

CHGDTA および DSPDTA コマンドは、システム/38 環境および OS/400 プログラムの両方に存在し、しかも両システム間で機能が異なるという点で特殊なコマンドです。OS/400 プログラムで、システム/38 環境の DFU を使用するつもりで CHGDTA または DSPDTA コマンドを入力しても、指定した名前に対して、AS/400 の DFU が使用されることになります。

システム/38 環境のコマンド入力画面、または CLP38 タイプのプログラムで DFU コマンドを入力する場合には、ライブラリー修飾子を使用する必要はありません。

IDU - QUERY (5714-UT1): OS/400 の QUERY は、独立したライセンス・プログラムです。

システム/38 の QUERY プロダクトは、システム/38 環境でのみサポートされます。システム/38 環境のプロダクトに関する説明は、システム/38 互換:Query/38 使用者の手引きと参照を参照してください。

システム/38 の QUERY とシステム/38 環境の QUERY との間には変 はありません。

ライブラリー修飾コマンド: OS/400 のコマンド入力機能でシステム/38 の QUERY コマンドを使用するためには、コマンドを QSYS38 ライブラリーで修飾しなければなりません。たとえば、プログラマー・メニューには、システム/38 の QUERY にアクセスするためのオプションはありません。次のコマンドを OS/400 の構文で入力する必要があります。

QSYS38/DSNQRYPAPP

OS/400 プログラムから QUERY を使用する場合にも、次のようにコマンドを修飾する必要があります。

QSYS38/QRYPDTA

システム/38 環境のコマンド入力画面または CLP38 タイプのプログラムで QUERY を入力する場合には、ライブラリー修飾子を使用する必要はありません。

IDU - SDA (画面設計補助ユーティリティ) (5714-UT1): SDA は、AS/400 システムの適用業務開発ツール (5763-PW1) の一部です。システム/38 環境のコマンドでは、新しい AS/400 サポートのシステム/38 互換形式が使用されています。

異なる原始仕様タイプがサポートされます。2-24 ページの『オブジェクト属性および原始仕様のタイプ』を参照してください。

IDU - SEU (原始仕様入力ユーティリティ) (5714-UT1): SEU は、AS/400 システムの適用業務開発ツール (5763-PW1) の一部となっています。システム/38 環境のコマンドでは、新しい AS/400 サポートが使用されます。

システム/38 の属性は受け入れられます。2-24 ページの『オブジェクト属性および原始仕様のタイプ』を参照してください。

拡張: 探索および変更の機能が変更されて、システム・アプリケーション体系 (SAA) 機能との互換性が向上しました。メンバー・リスト機能およびサービス画面が拡張されました。タブ桁や反復コピーなど、新しい行編集コマンドが追加されました。完全な言語プロンプトおよびユーザー・プロンプトも使用可能です。

知能ワークステーション・サポート (5714-PC1)

装置: クライアント・アクセス/400 では、IBM パーソナル・コンピューター/表示装置エミュレーション・カード (部品番号 6851206) はサポートされません。他の IBM 5250 アダプター・カードはすべてサポートされます。

パーソナル・コンピューターを AS/400 システムに接続する他の方法については、クライアント・アクセス/400 (拡張 DOS) セットアップを参照してください。

クライアント・アクセス/400 で使用される PC 装置は、IPL に関連した機能に使用することはできません。2-14 ページの『初期プログラム・ロード (IPL)』を参照してください。

環境: クライアント・アクセス/400 ユーティリティーは、OS/400 プログラムで作動します。したがって、OS/400 のコマンドへの変換が必要です。たとえば、CPYFRMVDSK コマンドを使用していた場合には、CPYFRMPCD コマンドに変換しなければなりません。コマンドの変更については、付録 A を参照してください。

機能: BGNWSSRV の EXITPGM パラメーターの持つ機能は、PCSACC という新しいネットワーク属性で置き換えられました。

転送機能については、パーソナル・コンピューター上の API にわずかな変更があります。たとえば、オープン要求では、ファイルの転送先または転送元となるシステム名のアドレス指定を行うために、1 対のレジスターが使用されます。詳細については、クライアント・アクセス/400 (DOS および OS/2) 技術参照資料を参照してください。

PC 装置に備わっているサポートには、次のような相違点があります。次に例を示します。

- 5250 エミュレーション適用業務プログラミング・インターフェース (API) は使用できません。代わりに、ワークステーション機能 API (機能はほとんど同じです) を使用しなければなりません。
- PC サポート経路指定プログラムは、違う順序で、かつ、システム/38 で使用されていた BEGINRTR ではなく、AS/400 の STARTRTR コマンドによって開始しなければなりません。

PC ユーザーに関する相違点については、クライアント・アクセス/400 (拡張 DOS) セットアップに説明されています。

DOS の要件: PC ユーザーは、レベル 3.3 またはそれ以降の DOS を使用していなければなりません。

仮想ディスク: 移行援助ユーティリティーは、仮想ディスクを AS/400 システムのフォルダーに変換します。

移行援助ユーティリティーを使用しない場合には、仮想ディスクをデータベース・ファイルとして移行し、CVTTOFLR コマンドを使用することができます。このコマンドは、クライアント・アクセス/400 ユーティリティーの一部です。

仮想ディスクに対するサポートはありません。仮想ディスクは、システム/38 の PC サポート・ユーティリティーにより以前に使用されていたファイル・サポート・ユーティリティーの PRPQ によって作成されたものです。仮想ディスクは、PC ディスクにコピーするか、または PC サポート/38 ユーティリティーを使用してシステム/38 の仮想ディスクに変換してから、AS/400 システムに移行しなければなりません。

パフォーマンス・ツール PRPQ

(5799-BJK): システム/38 のパフォーマンス・ツール PRPQ には、各種の機能が含まれています。データ収集機能の多くは、OS/400 プログラムの一部となり、OS/400 のコマンドによりサポートされています。詳細については、*実行管理の手続き* および *パフォーマンス測定ツール/400の手引き* を参照してください。

コマンドおよび機能: PRPQ はなくなりました。PRPQ の機能は、新しい拡張パフォーマンス・ツール・ライセンス・プログラム (5763-PT1) に組み込まれています。ファイル、画面、およびコマンドに変更があり、方式が異なる場合もあります。システム/38 のコマンドは、システム/38 環境でも OS/400 プログラムでも実行できません。

コマンド名および機能には、システム/38 の PRPQ と異なるものがいくつかあります。一般に、機能のレベルは同じですが、OS/400 プログラムに組み込まれている機能もあります。たとえば、DSPPFD コマンドでサポートされていたディスク統計の表示機能は、WRKSYSSTS コマンドによりサポートされています。

グラフ形式の出力は使用できません。

パフォーマンス・ツール・ライセンス・プログラムの一部として、負荷予測機能が新たに加われました。MDLSYS コマンドを参照してください。これには、負荷予測計画のためのシステム機能が含まれています。

データ: データは機械に対する依存度が高いため、システム/38 から取り出したデータを、OS/400 のコマンドで使用することはできません。

PRPQ で使用されていたデータベースの様式が変更されました。これらの様式を使用するプログラムは修正する必要があります。

パーソナル・サービス/38 (5714-WP3): 相違点については、*Using OfficeVision/400* を参照してください。

形式変換ユーティリティ (5714-CV2): システム/38 では独立したライセンス・プログラムでしたが、OS/400 プログラムの一部として組み込まれました。

変更点: 印刷出力に使用される印刷装置ファイル名は、QSYSPRT ではなく原始メンバーの名前です。

カード・ファイルはサポートされなくなりました。

システム/38 の場合と同様に、SEU には形式変換ユーティリティの仕様に対する構文検査機能はありません。原始仕様タイプは TXT です。

拡張: 次のような拡張が行われましたが、既存のシステム/38 の仕様の働きは従来と同じです。

- 見出し仕様の SORTR/FILE は、7 ~ 10 桁目から 7 ~ 12 桁目になりました。
- サマリー分類 (SORTRS) , および同一制御フィールドによるレコードの分類 (SORTRE) がサポートされるようになりました。
- 特定のキーについて代替照合順序がサポートされません。
- キーの長さが、最大 248 バイトから最大 256 バイトまで変更されましたが、248 バイトを超えるとパフォーマンスが低下します。
- レコード仕様の 7 桁目で注記 (*) が使用できるようになりました。
- レコード仕様での演算項目 2 キーワードがサポートされるようになりました。

遠隔ジョブ入力 (RJE) (5714-RC1): RJE はライセンス・プログラムではなくなりましたが、AS/400 システムの通信ユーティリティ (5763-CM1) の一部として組み込まれています。

CRTRJECFG 機能が、装置構成の変更に合わせて変更されました。新たに 2 つのコマンド (CRTRJEBSCF と CRTRJECMNF) が加わり、BSC または LU-1 RJE の確立にはこれらのコマンドを使用しなければなりません。

テキスト管理 (5714-WP2): システム/38 テキスト管理は、システム/38 ユーティリティ (5738-DB1) の一部となっています。これらの機能を使用して作成された文書は、文書自体およびファイルの処理方法に若干の変更を加えるだけで、オフィスビジョン/400 文書に移行することができます。システム/38 では、印刷装置のタイプ (*5219 など) を指定していました。これに対して、AS/400 システムでは実際の装置名 (P2 など) を指定します。システム/38 のテキスト管理とオフィス・システムとの間の相違点に関する詳細については、*Using OfficeVision/400 Word Processing* ,SH21-0701を参照してください。オフィス・システムへの文書の移行に関する詳細については、システム/38-AS/400 移行援助プログラム 使用者の手引きと参照を参照してください。

AS/400 システムにおけるテキスト管理/38 では、文書の作成、保管、検索、改訂、綴りの検査、同義語の提示、ハイフンの自動挿入、および文書の印刷が可能です。ユーザーは、編集時または印刷時に、テキスト管理/38 プログラムから対話方式で AS/400 データベースにアクセスして、データベース内の情報をテキスト文書に組み込むことができます。さらに、画面上で書式を作成してそれに記入したり、後で使用するためにシステムに保管したりすることができます。

AS/400 システムのテキスト管理/38 は、システム/38 のパーソナル・サービス/38 (5714-WP3) の持つ編集機能のほとんどを備えています。例外を次に示します。

- 文書の送信や文書ライブラリーへの文書のファイルングなどのオフィス機能はサポートされません。
- 6670 印刷装置およびディスプレイライター印刷装置の機能はサポートされません。

このサポートは、次に示すいくつかの相違点を除けば、リリース 8 の時点でのパーソナル・サービス/38 編集プログラムと同じです。

- オフィス・ビジョン/400 機能にはアクセスできません。

- 6670 印刷装置またはディスプレイライター印刷装置に対するサポートはありません。

詳細については、*Text Management/38 User's Guide and Reference* を参照してください。

言語

言語によっては、コンパイルの印刷出力に使用されるスプール・ファイルの名前は、QSYSPRT ではなく、作成コマンドで指定された原始メンバーが使用されます。これは、どの印刷がどの原始メンバーに関するものかを判別するのに役立ちます。これにより、QSYSPRT 名に依存している適用業務が影響を受ける場合があります。個々の言語を参照してください。

プロダクト・ライブラリー・サポートを利用するために、システム/38 環境および OS/400 の両方の CRTXXXPGM コマンドのコマンド定義原始仕様が変更されました。これにより、ライブラリー・リストに言語ライブラリー（たとえば QRPQ）を用意する必要がなくなりました。2-16ページの『ライブラリー』を参照してください。

すべての言語で、コンパイルの印刷出力様式に若干の変更が加えられました。システム/38 環境プロダクトによって生成されるメッセージは、OS/400 形式で表示されます。サポートされるプログラムの詳細については、2-13ページの『サポートされているプログラム』を参照してください。

従来の機能との関連付けができるように、システム/38 ライセンス・プログラム番号が使用されています。

BASIC (5714-BA1)

対話式セッション: BASIC 対話式セッションは、次の点でシステム/38 とは異なります。

- コマンド入力画面およびヘルプ画面に対して、操作およびカラーの変更が加えられました。
- システム/38 環境でヘルプ情報を入手することができますが、例は OS/400 の構文 (LIB/OBJ) で表示されます。

印刷出力: コンパイルの印刷出力は、OS/400 の構文 (LIB/OBJ) で表示されます。

印刷スプール・ファイル名が変更されました。

- OFF LIST コマンドによって作成される出力には、QBASESSION が使用されます。
- QBADTREE への呼出しによって作成される出力には、QBASDMP が使用されます。
- COMPILE BASIC コマンドおよび CRTBASPGM コマンドでは原始メンバーが使用されます。
- COMPILE コマンドで名前を指定しなかった場合には、そのコマンドで作成されるスプール・ファイルに QBAWRKSPC が使用されます。
- LISTP コマンドによって作成されるスプール・ファイルには、QBALISTP が使用されます。

DDM: 新しいサポートでは、DDM により CICS 直接ファイルにアクセスすることができます。

省略時値: プログラムの実行時に使用される日付の形式は、システム値ではなく、ジョブ属性（ジョブ記述または CHGJOB によって設定）に指定されている形式になります。ジョブの値として省略時値がとられる場合には、形式はシステム値によって決まります。したがって、ユーザーが特に変更を加えていない限り相違は生じません。

COBOL (5714-CB1)

新しいサポート: AS/400 のライセンス・プログラムは 5763-CB1 です。次の 2 つのレベルがサポートされます。

- システム/38 の COBOL は ANSI 74 レベルです。システム/38 環境でも同じレベルが使用できます。
- AS/400 の COBOL は ANSI 85 中間レベルです。ANSI 74 レベルからの変換上の相違点については、第4章で説明されています。

プログラムの実行時に使用される日付の形式は、システム値ではなく、ジョブ属性（ジョブ記述または CHGJOB によって設定）に指定されている形式になります。ジョブの値として省略時値がとられる場合には、形式はシステム値によって決まります。したがって、ユーザーが特に変更を加えていない限り相違は生じません。

スプール・ファイルには原始メンバー名が使用されません。スプール・バージョン（たとえば CPYSPLF）を読み取るシステム/38 プログラムは、変更しなければならぬ場合があります。

サポートされない機能およびファイル: 6346 および 9346 テープ装置では、逆方向の読取りはサポートされません。

カード・ファイルはサポートされません。

PASCAL RPQ (5799-CPK): PASCAL は、システム/38 では PRPQ ですが、AS/400 システムではライセンス・プログラム (5763-PS1) です。システム/38 環境には、PASCAL に対するサポートはありません。システム/38 のすべての PASCAL プログラム・オブジェクトは、AS/400 システムで原始使用から再作成しなければなりません (復元は不可能です)。

PL/I (5714-PLI): AS/400 のライセンス・プログラムは 5763-PL1 です。

カード装置はサポートされません。

コンパイルの印刷出力に使用されるスプール・ファイルの名前は、CRTPLIPGM に指定されている原始メンバーの名前です。

RPG (5714-RG1): AS/400 のライセンス・プログラムは 5763-RG1 です。RPG は、AS/400 システム・バージョンおよびシステム/38 環境バージョンの両方をサポートします。システム/38 環境サポートを使用すると、システム/38 から移行したプログラムを更新すること、または新しいシステム/38 環境のプログラムを作成することができます。

システム/38 環境の RPG は、次の点でシステム/38 の RPG と異なっています。

- スプール・ファイル名には、作成コマンドで指定されている原始メンバー名が使用されます。スプール・バージョンを読み取るシステム/38 プログラムは、変更しなければならない場合があります。
- プログラムの実行時に使用される日付の形式は、システム値ではなく、ジョブ属性 (ジョブ記述または CHGJOB によって設定) に指定されている形式になります。ジョブの値として省略時値がとられる場合には、形式はシステム値によって決まります。したがって、ユーザーが特に変更を加えていない限り相違は生じません。
- CRTRPGPGM のコンパイラ・オプションに IGNDECERR (*YES) が指定され、有効でない 10 進データが算術計算に含まれている場合には、システム/38 環境の RPG とシステム/38 の RPG とで結果が異なる場合があります。
- カード装置はサポートされなくなりました。詳細については、AS/400 言語:RPG/400 解説書を参照してください。

原始仕様を使用して変換を行い、プログラムを再コンパイルするためには、/COPY ステートメントによって使用される原始メンバーをすべて用意しておかなければなりません。

システム/38 環境の RPG と OS/400 サポートとの間の相違点については、第4章で説明してあります。

第3章 システム/38 環境から OS/400 プログラムへの変換

この章では、すでに OS/400 プログラムへの移行ステップが完了し、システム/38 環境を使用している（たとえば、システム/38 プログラムを使用している）ことを前提として説明を進めます。システム/38 から OS/400 プログラムへの直接変換を行う場合には、第1章および第2章で述べた相違点についても考慮しなければなりません。

ユーザーは、OS/400 プログラムを使用してシステムを操作しているものと想定します。

注： システム/38 環境でのプログラムの実行と、OS/400 プログラムでのシステムの操作との相違点を、よく理解しておく必要があります。システム/38 環境でプログラムを実行することは、そのプログラムがシステム/38 の構文を使用して作成されていることを意味します。システムの操作には、OS/400 の構文を使用したシステムの実行、OS/400 の画面の使用、およびメッセージの処理などが含まれます。OS/400 プログラムへの変換を完全に行うためには、システム/38 環境で動作するプログラム、ジョブ・ストリーム、およびファイルを変換しなければなりません。

概要

通常、OS/400 プログラムへの変換は段階的に行います。すべてを一時に変換する必要も、すべてのものを変換する必要もありません。変換を行う利点には、次のものがあります。

- 構文、コマンド名、および機能キーについて、システム/38 と AS/400 システムとの間で切替えを行う煩雑さを少なくすることができます。
- OS/400 が持つ機能を、システム/38 環境のプログラムに組み込まずに利用することができます。

注： OS/400 プログラムへの変換には、パフォーマンス上の大きな利点はありません。

次の各事項を考慮に入れる必要があります。

- 制御言語 (CL) プログラムおよびジョブ・ストリーム
- ファイルおよびデータ管理に関する変更
- 高水準言語
- データ・ファイル・ユーティリティ (DFU) および QUERY

次の説明では、システム/38 環境で各機能が正しく動作していることを前提としています。これは、移行を正常に行うために必要な変更がすべて完了しているということを示します。

CL プログラムおよびジョブ・ストリーム

ジョブ・ストリームの変換と CL プログラムの変換の間には、実質的な相違はありません。ただし、ジョブ・ストリームが、ディスクから、あるいはデータベース・メンバー以外の形式以外で入力されたものである場合には、原始仕様にアクセスしてそれを変換しなければなりません。

CL プログラムは作成しなおさなければなりません。プログラムの再作成を行うためには、その前に原始仕様の一部に変更を加えなければならないこともあります。

CL 原始仕様の変換： CVTCLSRC コマンドは、CL 原始仕様の変換に役立つよう設計されています。変換のためには、原始仕様がデータベース原始メンバーに入っている必要があります。CVTCLSRC は、原始メンバー内のコマンドを読み取り、変換後のコマンドを別の原始メンバーに書き込みます (CL プログラムの再作成は行いません)。CVTCLSRC を 1 回使用するたびに、1 つのファイル内の 1 つのメンバー、一連のメンバー、またはすべてのメンバーを変換することができます。

CVTCLSRC コマンドは、次のように、単純な変更における原始ステートメントの変換を行います。

- 修飾名の変換 (リテラルか変数かに関係なく)。次に例を示します。

システム/38 環境	AS/400 変換
PGM (PGMX.LIBY)	PGM (LIBY/PGMX)
PGM (&PGM.&LIB)	PGM (&LIB/&PGM)

- コマンド名、キーワード名の変換、およびキーワード値の変更。次に例を示します。

システム/38 環境	AS/400 変換
DSPJOBQ	WRKJOBQ
OUTPUT (*LIST)	OUTPUT (*PRINT)
PUBAUT (*OPER)	AUT (*USE)

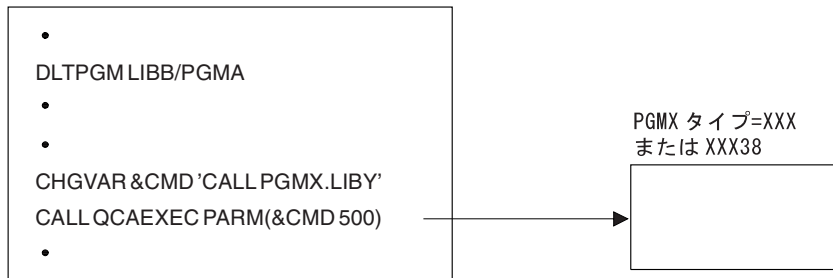
- 注記の変換。有効な注記に関する規則が異なります。4-2ページの『CL』を参照してください。

元の原始ステートメントの桁数が SEU 画面に完全に表示される場合、再作成後の原始ステートメントも SEU 画面に収まります。したがって、通常の場合に、SEU でウィンドウ操作をしないで原始ステートメント全体を表示できる場合、再作成後の原始ステートメントも同じように表示されます。

CVTCLSRC コマンドは、あるコマンドに対して変更を加える場合には、ユーザーが指定したパラメーターに対するキーワードを挿入します。したがって、既存の原始ステートメントより行数の多いステートメントが作成される場合があります。原始ステートメントが変更されている場合には、そのステートメントは、プロンプトにより作成されたコマンドを SEU が返すのと同じ形式で設定されます。通常、DO ループで字下げを行っている場合、CVTCLSRC コマンドの出力は、変更時には別の形式で表示されます。ステートメントが変更されていない場合、そのステートメントは、同じ定義のまま元の形式で表示されます。

プログラムの中には、変数を使用して作成されているものもあるため、CVTCLSRC（またはコマンド変更のみの手動変換）によってすべてを正しく変換できるわけ

CL プログラム・タイプ=CLP



RV2W324-0

この場合には、OS/400 の CL プログラムは、OS/400 のプログラムを呼び出すものであっても、QCAEXEC に対する呼出しを使用します。したがって、QCAEXEC で複雑なシステム/38 コマンドが使用されていても、ほとんどの場合、同じ仕様をそのまま使用することができます。

注: CVTCLSRC は、プログラム QCAEXEC および QCACHECK の名前も、渡されるパラメーターの値も変更しません。このため、ユーザーが QCMDEXC および QCMDCHK に手作業で変換しなければなりません。

はありません。たとえば、次のように指定した場合、この原始ステートメントの変換ではエラーは起こりません。

```
CHGVAR &TYPE '*LIST'
DSPOUTQ QPRINT OUTPUT(&TYPE)
```

しかし、OS/400 の WRKOUTQ コマンドでは、*LIST は OUTPUT パラメーターの有効な値ではなくなったため、プログラムは実行不能になります。

検討を要するその他の機能として、QCAEXEC または QCACHECK プログラムの使用があります。これらの機能は、QCMDEXC および QCMDCHK で置き換えられています。コマンド全体をこれらのプログラムへの 1 つのパラメーターとして渡されるため、QCMDEXC および QCMDCHK に変更する場合には、コマンドが OS/400 の構文になっていることを確認しなければなりません。

注: QCAEXEC および QCACHECK から、QCMDEXC および QCMDCHK への変更は必ずしも必要ではありません。

システム/38 環境を呼び出す OS/400 のプログラムを用意することも、次のように QCAEXEC を使用することもできます。

CVTCLSRC は、装置構成コマンドの CRT も CHG も変換しません。これらのコマンドは、ユーザーが手作業で、AS/400 のシステムにおいて必要な新しいコマンドに変換しなければなりません。

CVTCLSRC は、OPNQRYF コマンドのパラメーター QRYSLT,GRPSLT, および MAPFLD などに使用される修飾フィールド名の変換は行いません。

いくつかの OS/400 コマンドでは、定位置パラメーターとして、キーワードなしで入力できるパラメーターの数に若干の変更があります。このため、一部のシステム

/38 のコマンドは、CVTCLSRC によって正しく変換できない場合があります。

コマンド: コマンド別の相違点のリストについては、付録Aを参照してください。

システム/38 環境の DFU および QUERY を使用するコマンド（たとえば CHGDTA および QRYDTA など）は、システム/38 環境バージョンを使用したい場合には、正しく修飾しなければなりません（たとえば QSYS38/CHGDTA など）。

パラメーター: いくつかのパラメーターの省略時値が変更されました。主な変更は次のとおりです。

- 作成コマンドの省略時値が、QGPL から現行ライブラリーに変更されました。ユーザー・プロファイルに、現行ライブラリーとして *CRTDFT がある場合、変更は不要です (QGPL が使用されます)。ただし、ユーザー・プロファイルの値を変更した場合には、次の点を考慮しなければなりません。
 - ライブラリーを指定していない CRT コマンドへの影響。
 - 現行ライブラリーによるライブラリー・リストへの影響。第1章を参照してください。
- 次の SBMJOB の省略時値が変更されました。
 - JOBD パラメーターは、QBATCH ではなく *USRPRF を省略時値として使用します。
 - INLLIBL パラメーターの省略時値は、*JOBDB ではなく *CURRENT になります。
 - OUTQ パラメーターの省略時値は、*JOBDB ではなく *CURRENT になります。
 - RTGDTA パラメーターの省略時値は、QCMD38 ではなく QCMDB になります。
(システム/38 での省略時値は *JOBDB でしたが、システム/38 環境の省略時値は QCMD38 です。)

CVTCLSRC コマンドは、プログラムをシステム/38 環境と同じにするための値は挿入しません。次の例では、OS/400 の SBMJOB コマンドでは新しい省略時値が使用されます。

```
システム/38
環境の原始仕様          SBMJOB  RQSDTA('CALL PGMA')
変換された原始仕様      SBMJOB  RQSDTA('CALL PGMA')
```

RQSDTA が ('CALL PGMA.LIBB') であった場合には、OS/400 の構文が想定されているため、バッチ・ジ

ョブは実行不能になります。名前の中のピリオドは有効な文字であるため、システムはプログラム '*LIBL/PGMA.LIBB' を呼び出そうとします。

正しく変換するためには、それぞれの CRT および SBMJOB コマンドを手動で検査する必要があります。これらのコマンドを見つけるためには、次のいずれかのコマンドを使用することができます。

- LSTCMDUSG
- QUSRTOOL の SCNSRC (『ファイルおよびデータ管理に関する変更』で説明されています)

ファイルおよびデータ管理に関する変更

すべてのファイルを変換する必要はありません。原始仕様から直接作成されたものではないファイルを AS/400 システムに移行した場合には、OS/400 のファイルとしてのマーク（たとえば PF）が付けられます。

CRTDUPOBJ を使用して作成されたファイルの場合、新しいファイルの DSPOBJD 情報は、元の原始ファイルまたは原始メンバーを反映したものとはなりません。ただし、ファイル・タイプは、元のファイルのタイプ（たとえば PF38）と同じになります。

OS/400 の CHG コマンドは、OS/400 プログラムまたはシステム/38 ファイルのいずれかに使用することができます。たとえば、ファイル・タイプが PRTF38 である場合に、OS/400 の CHGPRTF コマンドでしか指定できない新しい印刷ファイル属性を指定する場合があります。

システム/38 のプログラムは、システム/38 ファイルおよび OS/400 のファイルのいずれにもアクセスすることができます。同様に、OS/400 のプログラムは、システム/38 ファイルおよび OS/400 のファイルのいずれにもアクセスすることができます。

ほとんどのファイル変換は、既存の原始仕様を元にした単純な再作成ですみます。ただし、原始仕様の変更が必要になる場合もあります。

ファイルの変換のためのシステム・サポート・コマンドはありません。QUSRTOOL ライブラリーには、DDS 原始仕様の変換に役立つコマンドが提供されています。ツールとしての CVTDDSSRC コマンドを参照してください。このコマンドは、CVTCLSRC コマンドをもとに作成されています。CVTDDSSRC コマンドは、DDS 原始仕様を別のファイルに変換します。OS/400 の構文

が想定されているため、作成コマンドを出さなければなりません。

物理ファイル: 物理ファイルを OS/400 のファイルにするためには、一般に変換はほとんど必要ありません（ただし、第4章で説明する FIFO 順序に関する変更については考慮してください）。一般に、DDS での修飾名の使用状況を調べておく必要があります。付録Bには、修飾名を使用できるキーワードのリストを示しています。

OS/400 プログラムでは、FORMAT キーワードを使用して、論理ファイルの様式を指定した物理ファイルを作成できなくなりました。

典型的な物理ファイルの DDS 原始仕様を手作業で変換するとします。この場合、通常は、プログラマー・メニューまたは PDM を使用して、システム/38 環境タイプである PF38 の代わりに OS/400 のタイプである PF を指定します。SEU の走査機能により原始仕様を走査すると、修飾名の区切り記号としてのピリオドの使用箇所を調べることができます。たとえば、次のような REF キーワードを使用したとします。

REF(FILEX.LIBY)

これは、次のように変更する必要があります。

REF(LIBY/FILEX)

非修飾形式、または様式名を伴う非修飾形式を使用していた場合、変更は必要ありません。次に例を示します。

REF(FILEX)

REF(FILEX FORMAT1)

この場合には変更は必要ありません。

SEU を使用して個々のメンバーを走査する代わりに、走査プログラムを使用して、すべての DDS 原始仕様のピリオドを探索することもできます。QUSRTOOL ライブラリーには、原始仕様の走査のためのコマンドがあります。TAA ツールの SCNSRC コマンドを参照してください。

注: ピリオドの走査では、変更を必要とする修飾名が検出されますが、同時に変更してはならない小数点（たとえば、編集語や注記内の）も検出されてしまう場合があります。

システム/38 での場合と同様に、物理ファイルの置換えのための準備を行う場合には、それに従属するもの（た

例えば、論理ファイルやジャーナル処理など）を除去し、既存のファイルのデータをコピーしなければなりません。

論理ファイル: 修飾名の使用については、『物理ファイル』の説明を参照してください。ACCPH キーワードの変更については、4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』の説明を参照してください。

表示装置ファイル: タイプが *DS1 および *DS2 の DSPSIZ キーワードはサポートされません。これらのタイプは、システム/38 操作卓画面 (16x64) および表示画面 (12x80) のためのものであり、AS/400 システムではこの画面はサポートされません。

RTGXXX キーワードはサポートされません。

システム/38 環境と OS/400 プログラムとの間で使用される戻りコードには変更はありません。システム/38 からシステム/38 環境への変更については、2-36ページの『戻りコード』を参照してください。

修飾名の使用については、『物理ファイル』の説明を参照してください。

印刷装置ファイル: システム/38 環境と OS/400 プログラムとの間で使用される戻りコードには変更はありません。システム/38 からシステム/38 環境への変更については、2-36ページの『戻りコード』を参照してください。

修飾名の使用については、『物理ファイル』の説明を参照してください。

通信ファイル: システム/38 形式の BSCF,CMNF, および MXDF は、OS/400 プログラムではサポートされません。ファイルは、新しい ICF ファイルに変換しなければなりません。DDS の変換作業のほとんどの部分は、データベース・ファイルの場合と同じです。

戻りコード: 戻りコードの相違は、ファイルを使用するプログラムにも相違を生じさせる場合があります。システム/38 環境では、戻りコードは、システム/38 で使用されている定義に基づいてマッピングされます。OS/400 プログラムでは、新しい戻りコードがあり、また旧戻りコードに対する変更も行われています。

4-14ページの『戻りコード』および4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。

言語

一般に、ほとんどのプログラムは、原始コードの変更を必要とせずに、OS/400 プログラムに変換することができます。多くの場合、OS/400 の CRT コマンドを使用してプログラムを再作成するだけですみます。高水準言語の原始プログラムの自動変換はサポートされていません。原始仕様タイプの大量変更については、3-5ページの『原始仕様タイプの大量変更』の説明を参照してください。

COBOL プログラムでは、ANSI 74 バージョンから ANSI 85 中間レベルへの変換のために、若干の変更が必要になる場合があります。

OS/400 プログラムへの完全な変換を行うためには、QCAEXEC および QCACHECK に対する呼出しを、それぞれ QCMDEXC と QCMDCHK に変更してください。パラメーターとして渡されるコマンドで修飾名の構文を使用している場合は、構文を変更してください。

QCAEXEC および QCACHECK から、QCMDEXC および QCMDCHK への変更は必ずしも必要ではありません。システム/38 環境プログラムを OS/400 プログラムで呼び出すことも、CL プログラムの項で説明したように、QCAEXEC を使用して OS/400 プログラムを呼び出すこともできます。

高水準言語プログラムでの QCAEXEC の代表的な用法は、OVRDBF コマンドを使用して、同一プログラムで異なるオープン・パラメーター（たとえば異なるメンバー）により、複数回にわたってファイルをオープンできるようにすることです。修飾名を使用している場合、QCMDEXC に変換するのであれば、OS/400 の構文に変換しなければなりません。

4-2ページの『CL』のメッセージ・テキストの処理に関する説明も参照してください。

使用している言語で修飾名がサポートされていて、ユーザーが修飾名を使用している場合には、それら（たとえば、COBOL COPY ステートメントや RPG/COPY 機能など）を変換してください。

データ・ファイル・ユーティリティー (DFU)

システム/38 環境のデータ・ファイル・ユーティリティー (DFU) から、AS/400 適用業務開発ツールの DFU への変換はサポートされていません。ユーザーは、新たに AS/400 の DFU を作成しなければなりません。

システム/38 環境の DFU のすべての機能が、AS/400 の DFU に含まれているわけではありません。DFU の使用目的によっては、システム/38 環境のバージョンを維持しなければならない場合があります。相違点のリストは、第4章に示してあります。AS/400 の DFU に含まれていない主な機能をいくつか以下に示します。

- 原始仕様の検索
- バッチ作成コマンド
- 妥当性検査
- 検査モード

QUERY

システム/38 環境の QUERY から AS/400 QUERY への変換はサポートされていません。新しい AS/400 QUERY を作成しなければなりません。

システム/38 環境の QUERY の機能すべてが、AS/400 QUERY に含まれているわけではありません。QUERY の使用目的によっては、システム/38 環境のバージョンを残しておいた方がよい場合もあります。相違点のリストは、第4章に示してあります。AS/400 QUERY に含まれていない主な機能をいくつか以下に示します。

- テーブル
- 原始仕様の検索
- バッチ作成コマンド
- レコードのサンプリング
- DDM サポート

原始仕様タイプの大量変更

原始ファイルによっては、すべての原始仕様タイプまたは特定の原始仕様タイプを変更してから、原始ステートメントに予備的な変更を行わずに、オブジェクトを作成したい場合があります。たとえば、多くの高水準言語プログラムでは、正しい原始仕様タイプによる再作成だけが必要になります。このためには、次の2つの方法があります。

- SEU および PDM により、ユーザーが原始仕様タイプを変更することができるメンバー・リストを表示することができます。
- QUSRTOOL ライブラリーには、バッチ方式でファイル内のすべての原始仕様タイプまたは特定の原始仕様タイプを変更することができる CHGSRCTYP コマンドが用意されています。

第4章 OS/400 プログラムへの変換に必要な変更

この章では、システム/38 環境から OS/400 の環境へ変換する場合に必要な変更について説明します。この時点で、システム/38 環境への移行は完了していなければなりません。OS/400 プログラムへ直接変換を行う場合には、第1章および第2章も参照してください。

システム/38 環境と OS/400 プログラムとの間でのハードウェアの変更は行ってはなりません。

新しいプログラミング機能のすべてについて説明するわけではありません。場合によっては、説明を分かりやすくするために、OS/400 の新しい機能に触れる場合もあります。特定のコマンドの変更については、付録Aで説明しています。これらの変更は、この章で説明する多くの OS/400 機能に影響を及ぼします。

機能の中には（たとえば、回復およびクライアント・アクセス/400 など）、特にシステム/38 環境サポートの存在しないものもあります。これは、該当のコマンドおよび機能が QSYS 内にしかないことを示します。この場合には、この章では OS/400 プログラムのみと記してあります。

概要

コマンドにはいくつかの変更が加えられました。たとえば、コマンド名やキーワード名の変更、あるいはキーワードの値の変更が行われています。付録Aは、コマンド別に変更内容を示したものです。これらの変更の多くは、この章では説明しませんが、主要な変更は次のとおりです。

コマンド名: いくつかのコマンドの名前が変更されました。システム/38 で使用されている STR,BGN,DFN, および ENT という動詞のほとんどは、STR に統一されました。同様に、システム/38 で使用されている END,TRM,CNL, および STP という動詞のほとんどは、END に統一されました。LST は PRT に変更されました。

現行ライブラリー: CRT コマンドは省略時値を使用して、オブジェクトを現行ライブラリー (*CURLIB) に作成します。（ほとんどのシステム/38 コマンドでは、省略時値として QGPL が使用されています。）現行ライブラリーの概念を利用すると、特定のライブラリーを指定しなくても、作成されたオブジェクトを入れるライブラリーを指定することができます。

表示コマンドと処理コマンド: 変更の可能な DSP コマンドのほとんどが、動詞 WRK に変更されました。また、特定のオブジェクトに対して一連の機能を実行できる WRK コマンドもあります（たとえば WRKJOB）。

OUTPUT パラメーターをサポートする DSP および WRK コマンドは、*LIST の代わりに *PRINT の値を使用するよう変更されました。

出力ファイル・サポート: 出力ファイルをサポートするコマンドは、OUTPUT (*NONE) から OUTPUT (*OUTFILE) に変更されました。

権限: キーワード PUBAUT を使用するコマンドが変更されました。新しいキーワードは AUT であり、その値は次のように変更されました。

システム/38

環境	AS/400 システム
*NORMAL	*CHANGE
*OPER	*USE
*NONE	*EXCLUDE

GRT/RVKOBJAUT コマンドにも同じ値が適用されます。

呼出し: QCAEXEC,QCACHHECK, または QCL に対する呼出しは、QCMDEXC,QCMDCHK, および QCMD に変更しなければなりません。QCMDEXC および QCMDCHK に入力されるパラメーターの構文は、OS/400 プログラムの構文に従っていなければなりません。呼出しは、CL プログラムからも高水準言語プログラムからも行うことができます。変更の必要がない場合については、第3章を参照してください。

オペレーティング・システム/400 プログラム

アクセス・パス: 4-4ページの『データベース』で説明した省略時の順序に関する変更を除けば、システム/38 環境からの変更は必要ありません。アクセス・パスは、再作成しなくても、OS/400 のプログラムで使用できます。ファイルがシステム/38 として指定されている場合には、ファイルを OS/400 プログラムとして再作成すると、アクセス・パスの共用が生じないかぎり、アクセス・パスの再作成が行われます。

アドレスの再生成: アドレスの再生成は、IPL のたびに自動的に行われます。2-14ページの『初期プログラム・ロード (IPL)』を参照してください。

警報: 警報は、新しい WRKALR コマンドによって AS/400 システムで表示することができます。

制御の範囲を定義し状況を表示するためのサポート (WRKSOC および DSPSDCSTS コマンドを参照) が追加されました。

詳細については、ネットワークおよびシステム管理を参照してください。2-23ページの『ネットワーク属性』および2-20ページの『メッセージ処理』も参照してください。

APPC: 装置構成の要件に変更は不要です。新しい APPN サポートを使用するためには、APPN (*YES) に変更しなければなりません。

4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』も参照してください。

補助記憶域プール (ASP): OS/400 プログラムでのみ使用可能です。指定はすべて DST を使用して行います。

BSC: BSC38 ファイル・タイプはサポートされません。ICF のファイル・タイプに変換しなければなりません。4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。

RJE および 3270 装置エミュレーションでは、引き続き BSC が使用されます。

カード: カード装置およびカード・ファイルは、AS/400 システムではサポートされません。

図表様式: システム/38 からの変更はありません。

チェックサム: OS/400 プログラムでのみ使用可能です。指定はすべて DST を使用して行います。

CL

構文: 新しい修飾名で使用される区切り記号のスラッシュとの対立を避けるために、有効な注記の構文が変更されました。注記の始めには/* を使用します。その前または後にブランクを置かなければなりません。例外が 2 つあります。

/** ... 常に注記として扱われます。

/*AA 1 桁目が/であれば常に注記として扱われます (ただし、前の行に継続文字がない場合)。

次の例では、'b'はブランクを表します。有効な注記は次のいずれかです。

/*b /* の後にブランクがある。

b/* /* の前にブランクがある。

/** /* の後に * がある。

A/*b /* の後にブランクがある。

/*n /* が 1 桁目から始まっている場合には、/* の後にどのような文字があってもかまいません。ただし、前の行に継続文字がない場合にかぎります。

次の注記は無効です。

A/*A /* の前または後にブランクがない。

最初の演算子が定数の場合を除き、除算演算子 '/' の前にはブランクがなければなりません。

有効 1/2

&A /2

&A / 2

&A /&B

無効 &A/2 (変数と/との間にブランクがない。)

OPNQRYF の場合には、除算演算子または剰余演算子の前には常にブランクが必要です。

データ域: データ域を処理するコマンド (DCLDTAARA,SNDDTAARA, および RCVDTAARA) は、OS/400 プログラムではサポート

されません。CHGDTAARA および RTVDTAARA コマンドに変更しなければなりません。

変換コマンド: CVTCLSRC コマンドは、コマンド、キーワード、および値について、第3章で説明した代表的な変更のほとんどを変換します。付録Aには、コマンド別の相違点が示されています。

プログラム: CL 原始プログラムは、修飾名および注記に関して OS/400 の構文に従っていません。

置換変数が *NAME タイプのキーワードへの代入に使われる場合、変数の内容は大文字に変換されません。たとえば、次のようにします。

```
CHGVAR  &A      'abcde'  
CALL    PGM(&A)
```

PGM キーワードは、コマンド定義で名前タイプとして指定されます。したがって、探索されるプログラム名は、AS/400 システムでは小文字の名前になります。この変更には、命名規則の拡張を認める必要があります。小文字名は有効ですが、システム/38 環境からの変換では、おそらく大文字名が必要になります。4-11ページの『命名規則』を参照してください。

文字変数の最大サイズは 2000 から 4096 に増えました。

コマンドの変更については、付録Aに説明があります。

日付の変換: CVTDAT コマンドでは、いくつかのパラメーターで *JOB という新しいオプションが使用できるようになりました。これにより、2-62ページの『実行管理機能』で説明したように、ジョブ日付形式および区切り文字にアクセスすることができます。

クラス・オブジェクト: 付録Aで説明するコマンド変更のほかには、システム/38 環境からの変更はありません。

コマンド定義: コマンドの変更については、付録Aに説明があります。コマンド定義では、修飾名に関するプロンプトの順序が変更されました。一般に、これに伴う変更はありません。第2章を参照してください。

コミットメント制御: 付録Aに示すコマンド変更以外には、システム/38 環境からの変更はありません。

通信: 通信に関する事項は以下の項で説明していません。次の各項を参照してください。

- 4-2ページの『警報』
- 4-2ページの『APPC』
- 4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』
- 4-7ページの『エミュレーション (3270)』
- 4-7ページの『交換識別コード』
- 4-10ページの『LU-1』
- 4-12ページの『オブジェクト配布』
- 4-12ページの『パススルー』
- 4-14ページの『RA/DHCF』
- 4-14ページの『戻りコード』
- 4-15ページの『SNADS』
- 4-17ページの『X.25』

通信構成: OS/400 プログラムでのみ使用可能です。

通信ファイル: CMNF38 は OS/400 プログラムではサポートされません。4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。

RJE および 3270 装置エミュレーションでは、引き続き通信ファイルが使用されます。

操作卓: システム/38 からの変更はありません。

ファイル・コピー: 付録Aに示すコマンド変更以外には、システム/38 環境からの変更は必要ありません。

相互参照: QAFDPRT 出力ファイルにおいて、フィールド PRDRAW にシステム/38 環境バージョンの DRAWER パラメーターの値が入り、フィールド PRDREN に OS/400 バージョンの DRAWER パラメーターの値が入ります。PRDRAW の参照を PRDREN の参照に変更してください。

カスタマー・サポート: OS/400 プログラムでのみ使用可能です。

データ域: データ域コマンドに対する変更については、4-2ページの『CL』で説明しました。その他のコマンドの変更については、付録Aで説明します。

データベース

DDS: DDS での修飾名の使用は、OS/400 の構文規則に従ってなければなりません。

漢字タイプ: 漢字システムの場合、2 つの新しい DDS データ・タイプが、OS/400 プログラムの物理ファイルおよび論理ファイルでサポートされます。新しいデータ・タイプは E (択一) および J (漢字専用) です。従来の O (混用) も引き続きサポートされます。OS/400 プログラムでは、REFSHIFT キーワードは、E または J データ・タイプの場合には使用できず、また、O データ・タイプの場合も使用できません。

OS/400 プログラムでは、漢字フィールドの連結が可能です。結果のデータ・タイプは次のようになります。

フィールド		結果
O,J, または E と O,E,A,S,P,B	→	O (混用)
J と J	→	J (択一)
O,J,E,A,S,P,B, または H と H	→	H (16 進)

OPNQRYP: OPNQRYP での修飾名の使用は、OS/400 の構文規則に従ってなければなりません。

OPNQRYP の除算演算子 '/' および剰余演算子 '%' の前には、ブランクがなければなりません。

OPNQRYP は、10 進データを直接文字形式に変換するための %DIGITS 機能をサポートします。システム/38 では、2 つのステップ (ゾーン 10 進数への変換と文字への変換) が必要です。

共用: システム/38 では、アクセス・パスの共用に関する省略時設定は暗黙の共用ですが、キーの構成や選択仕様などによる制約があります。

AS/400 システムでは、アクセス・パスの暗黙の共用をさらに活用するために、変更が加えられました。このために、アクセス・パスの順序付けに関する省略時値が変更されました。

システム/38 では、ファイルは先入れ先出し (FIFO) の順序で処理されるように省略時設定されています。したがって、システム/38 から変換されたファイルには、FIFO も適用されます。AS/400 システムでシステム/38 のファイル (たとえばタイプ LF38) を作成する場合も、省略時の順序は FIFO となります。

AS/400 システムのファイル・タイプの場合には、特定の省略時の順序はありません。FIFO 順序に対する新しいキーワードがあります。

たとえば、システム/38 で DEPT および EMPLOYEE をキーとするアクセス・パスがあり、選択仕様がないと、新しい論理ファイルで、キーとして DEPT だけが要求された場合には、このアクセス・パスは共用されません。AS/400 システムでは、新しいファイルはアクセス・パスを共用します。この場合、どちらのファイルも選択仕様がなく (またはどちらのファイルでも同じであるか、あるいは DYNSLT が使用されていて)、次のいずれかの条件が満たされていることが前提です。

- 新しいファイルで省略時値がとられている。
- 両方のファイルに FIFO が指定されている。
- 両方のファイルに LIFO が指定されている。

注: OS/400 のファイルの場合には、省略時解釈によって、キーまたは部分キーの一致するファイル (LIFO または FIFO) にはアクセス・パスが共用されます。したがって、作成する AS/400 ファイルによっては、システム/38 ファイルとアクセス・パスを共用することがあります。

この変更に伴って、アクセス・パスの明示的共用の機能は除去されました。この結果、CRTLF コマンドおよび ADDLFM コマンドの ACCPTHMBR パラメーターも除去されることになりました。ACCPTHMBR パラメーターは、システム/38 環境でファイルが作成される場合、またはメンバーが追加される場合には無視されません。

DDS 原始仕様を使用してファイルを再作成する場合には、必要な順序のタイプを判断し、必要に応じて FIFO を指定しなければなりません。一般に、重複キーがあり、重複の順序に必要な意味がある場合には、DDS を FIFO に変更しなければなりません。

固有のキーを持つファイルの場合には、FIFO または LIFO の使用は無意味です。

変換を容易にするために、システム/38 環境の原始仕様で FIFO キーワードを使用することができます。システム/38 ファイルでは FIFO が前提となっているため、警告メッセージが出されます。

OS/400 プログラムでは、DDS の ACCPTH キーワードは、REFACCPTH キーワードで置き換えられています。REFACCPTH は、制約条件がいくつか取り除かれた点を除けば、システム/38 環境での ACCPTH と同様に機能します。

新しいコマンド: 新しいコマンドの POSDBF を使用すると、ファイルのカーソル位置を、ファイルの始めまたは終わりに設定することができます。これは、OPNQRYF を使用して複数のプログラムで同じファイルを何度も処理したい場合、またはファイルを終わりから逆に読み取りたい場合などに役立ちます。

4-7ページの『グループ・ジョブ』で説明する新しいCHKRCDLCK コマンドの項を参照してください。

データ記述仕様 (DDS)

データベース機能: データベース・ファイルでは、ACCPH キーワードは置き換えられ、DBCS フィールドに新しいデータ・タイプおよび機能が定義されています。4-4ページの『データベース』を参照してください。

修飾名: 修飾名は OS/400 の構文に従っていなければなりません。付録Bに、修飾名をサポートするキーワードのリストを示してあります。

ICF: BSCF38,CMNF38, および MXDF38 の各タイプはサポートされません。BSCF38 および CMNF38 では、ICFF タイプへの変換を行わなければなりません。MXDF38 の場合は、DSPF または ICFF タイプ、あるいはその両方への変換を行わなければなりません。ほとんどの場合、DDS の変換作業は最小限ですみます。いくつか例外はありますが、システム/38 ファイル・タイプで使用されるほとんどのキーワードは、ICFF ファイル・タイプでも有効です。

必要な変更は次のとおりです。

- ユーザーのプログラムで、ICFF ファイルによって使用される戻りコードを扱えるようにしなければなりません。これは、DDS 仕様への変換ではなく、ユーザーのプログラムへの変更です。4-14ページの『戻りコード』を参照してください。
- 次のキーワードの名前が変更されました。

システム/38

環境	AS/400 システム
RCVCFM	RCVCONFIRM
TRNRND	RCVTRNRND

- RTGXXX キーワードは、OS/400 ファイルではサポートされません。

これらのキーワードによって得られる情報のほとんどは、入出力フィールドバック域に入っています。

- 新しい ICFF ファイル・タイプでは、システム/38 の混合ファイル機能はサポートされません。したがって、同じファイルを表示装置と通信装置で使用することはできません。このサポートによる機能には、表示装置ファイルおよび ICFF ファイルに変換することができるものがあります。ユーザーの適用業務が、入力を待つ両方の装置に対して共通の待機を行う場合には、混合ファイルの継続使用を検討する必要があります。
- APPC 適用業務の場合には、受け取った確認要求に対する省略時の肯定応答はありません。CONFIRM 要求に対する肯定応答が必要な場合には、新しい RSPCONFIRM キーワードを使用してください。
- 装置項目は、CRTICFF コマンドではなく、それぞれ異なるコマンドによって追加されます。AS/400 システムでのサポートは、システム/38 で混合ファイルについて使用されている方式に類似しています。ADDICFDEVE コマンドは、ファイルの作成後に装置項目を追加するために使用されます。
- システム/38 では、1 つのレコード様式に少なくとも 1 つのフィールドまたは EVOKE キーワードが含まれていなければなりません。ICFF ではこの制約はありません。
- 原始仕様に対して追加のエラー検査が行われます。
- ICF ファイルのレコード様式名を '\$\$' で始めることはできません。

有効な名前の検査: CHECK (VN) は、システム/38 の構文規則に従った有効な名前であるかどうかの検査をします。新しいキーワードの CHECK (VNE) を使用すると、拡張名に対する検査を行うことができます。

日付の編集: EDTCDE キーワードの値として Y を指定すると、システム値からではなく、ジョブ属性からとられた日付形式および日付区切り記号が使用されます。ジョブ属性を変更しない場合には、この機能はシステム/38 環境の場合と同様に作動します。

ヘルプのサポート: 新しいキーワードを使用すると、ユーザー適用業務に外部から提供されるヘルプ情報を定義することができます。ヘルプ・キーを押すと、システムは、指定されたキーワードに基づいて、実行すべき処置を決定します。

HELP キーワードを含む DDS ファイルは、再作成されても変更はされません（キーを押した時点で、プログラムに制御が返されます）。

新しいキーワードは、特定の様式でヘルプ・キーが押された場合に、どのような処置を行うかを定めるために指定します。1つのファイルに、新しいサポートを備えた様式と、システム/38のサポート（プログラムへの戻り）を使用する様式とを含めることができます。

新しいサポートを使用した場合には、表示されるヘルプ情報を、ヘルプ・キーを押したときの画面上のカーソル位置に基づいて定めることができます。画面上のヘルプ域（始めと終りの行または桁）を定義するためには、キーワードを使用します。省略時の区域を定義することもできます。

サブファイルがある場合には、そのサブファイル制御レコードに、**HELP** キーワードを指定しなければなりません。画面上に複数の欄を定義しておけば、それらの欄のどれか（たとえばサブファイル・レコード）でヘルプ・キーが押された場合に、対応するヘルプ情報を表示することができます。

新しいサポートを使用した場合、ユーザーの適用業務プログラムは、ユーザーがヘルプを要求したかどうかを感知しません。この機能は、ワークステーション・データ管理機能によって実行されます。

ユーザーが新しいヘルプ機能を要求すると、その時点での画面内容が保管され、ヘルプ情報が表示されます。ユーザーがヘルプ機能を終了すると、元の情報がカーソルとともに画面に復元されます（カーソルは、ヘルプ・キーが押された時点の位置に復元されます）。ユーザー定義のヘルプ情報を作成する方法は、選択することができます。これは、次のいずれかの形式をとることができます。

- 1つまたは複数の画面様式。この様式は、同じ表示装置ファイル、または異なる表示装置ファイル内のどちらにあってもかまいません。ヘルプ情報が表示されているときに、次ページ・キーを押すと、操作援助情報の続きを表示することができます。表示される情報は、**DDS** キーワードおよびヘルプ仕様によって異なります。
- 文書。1つの文書に、多くの機能に関するヘルプ情報を含めることができます。文書内のラベルによって、**DDS** キーワードの指定により直接アクセスできるセクションが識別されます。

詳細については、*データ記述仕様書* および *表示装置プログラミング* を参照してください。

表示装置ファイルの機能: 表示装置ファイルの機能が拡張されました。6-4ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。

経路指定キーワードは使用できません。これらのキーワードのリストについては、付録Aを参照してください。

データ待ち行列: 付録Aに示すコマンドの変更を除いて、システム/38環境からの変更は必要ありません。

デバッグ: 付録Aで説明するコマンド変更のほかに、システム/38環境からの変更は必要ありません。2-7ページの『デバッグ』は、プログラムのデバッグに必要な権限の変更について説明しています。プログラム作成コマンドの省略時値は、デバッグが可能な ***CHANGE** です。デバッグができないようにするには、***USE** を指定してください。

専用保守ツール (DST): システム/38からの変更はありません。

装置構成: OS/400プログラムでのみ使用可能です。

装置ファイル: 各種装置ファイルについては、4-12ページの『ファイル』、『表示装置ファイル』、および4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。

ディスケット

パラメーターおよびコマンド: OS/400のコマンドでは、**LOC** パラメーターはサポートされません（マガジンがないため）。

CPYFRMDKT と **CPYTODKT** とでは、定位置パラメーターの順序が異なります。

OS/400のコマンドでは、複数のディスケット装置がサポートされます。

DUPDKT では、入力ディスケットと出力ディスケットが同じでなくてもよく、また複数のコピーも可能です。

表示コマンド: 2-11ページの『表示コマンド』を参照してください。

表示装置ファイル: 4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。

画面様式: システム/38からの変更はありません。

分散データ管理機能 (DDM)

システム/38 から AS/400 システムへの置換え: システム/38 を AS/400 システムで置き換える場合には、システム/38 との通信を行うシステムに対する変更が必要な場合があります。これについては、第5章で説明します。

遠隔ロケーション名: DDM コマンドは、新しい RMTLOCNAME をサポートします。2-30ページの『遠隔ロケーション名 (RMTLOCNAME)』を参照してください。

構内ロケーション名および遠隔ネットワーク識別コードには、新しいパラメーターが必要です。

このサポートの詳細については、分散データ管理 および 通信構成解説書を参照してください。

DDM ファイルをシステム/38 環境で作成する場合、またはシステム/38 から移行する場合、RMTLOCNAME 機能は *DEV D に省略時設定されます。OS/400 プログラムでは、CRTDDMF コマンドで、RMTLOCNAME パラメーターの名前を入力しなければなりません。ただし、CHGDDMF コマンドには RMTLOCNAME (*DEV D) を使用することができます。これにより、WRKDDMF コマンドを使用して、システム/38 環境または OS/400 プログラムのいずれかで作成された DDM ファイルのリストを表示し、また引き続き RMTLOCNAME の省略時値を使用することができます。

データベース・ファイル: データベース・ファイルは遠隔システムで作成、名前変更、または削除することができます。

MODE 値: OS/400 コマンドでは、MODE の値として *FIRST を指定することはできません。システム/38 環境でこの値を指定すると、新しい特殊値の *NETATR に変換されます。

編集記述: 付録Aで説明するコマンド変更のほかに、システム/38 環境からの変更は必要ありません。

エミュレーション (3270): STREML3270 コマンドでの遠隔接続 3270 表示装置へのパススルー機能は、OS/400 プログラムでは標準装備の機能です。

コマンドとパラメーターに変更があります。付録Aを参照してください。

サポートされるキーボードのタイプが増えました。

エラー処理: 4-14ページの『戻りコード』を参照してください。

交換識別コード: OS/400 プログラムでのみ使用可能です。5-1ページの『交換識別コード』を参照してください。

ファイル: 4-4ページの『データベース』および4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。

金融機関通信: 付録Aで示すコマンドの変更以外には、システム/38 環境からの変更は必要ありません。

グラフィック・データ表示管理プログラム (GDDM): システム/38 からの変更はありません。

図形文字セット: 付録Aで説明するコマンド変更のほかに、システム/38 環境からの変更は必要ありません。

グループ・ジョブ: 新しいレコード・ロック検査 (CHKRCDLCK) コマンドを使用すると、現行ジョブ内にレコード・ロックが存在しているかどうかを判別することができます。この機能は、複雑なトランザクションの途中で、異なるグループ・ジョブへの転送が行われるのを防ぐために使用することができます。

付録Aで説明するコマンド変更のほかに、システム/38 環境からの変更は必要ありません。

ヘルプ: ヘルプ・テキストを表示する弊社提供の画面は、OS/400 プログラムでも同じです。弊社提供の OS/400 のコマンドにより、ヘルプ情報が提供されません。適用業務用のユーザー作成のヘルプ機能がサポートされるようになりました。

4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。

弊社提供のプログラム: システム/38 環境のプログラムは、次に示されているように、OS/400 のプログラムで置き換えられます。システム/38 環境のプログラム (たとえば QCAEXEC) は、QSYS (QSYS38 ではなく) 内にあるため、システム/38 の構文が必要な場合には、OS/400 プログラムでも引き続き使用することができます。

システム/38 環境	AS/400 システム	
QCL	QCMD	コマンド入力
QCAEXEC	QCMDEXC	ストリングからコマンドを実行
QCACHECK	QCMDCHK	コマンドの妥当性検査

システム間通信機能 (ICF): 新しいコマンドには次のものがあります。

ICF プログラム装置項目の追加	ADDICFDEVE
ICF プログラム装置項目の変更	CHGICFDEVE
ICF ファイルの変更	CHGICFF
ICF ファイルの作成	CRTICFF
ICF 装置項目の一時変更の削除	DLTOVRDEVE
ICF 装置項目の一時変更	OVRICFDEVE
ICF ファイルの一時変更	OVRICFF
ICF 装置項目の除去	RMVICFDEVE

各コマンドの詳細については、*システム間通信機能 (ICF)プログラミング* を参照してください。

4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。

初期プログラム・ロード (IPL): OS/400 プログラムでのみ使用可能です。

導入: OS/400 プログラムでのみ使用可能です。

独立ワークステーション・サポート: これは、クライアント・アクセス/400 と呼ばれ、OS/400 プログラムでのみ使用可能です。

ジョブ: 4-11ページの『命名規則』を参照してください。システム/38 環境からのその他の変更は必要ありません。

ジョブ会計: 付録Aで説明するコマンド変更のほかには、システム/38 環境からの変更は必要ありません。

ジョブ記述

LOG パラメーター: システム/38 の省略時値である (1 10 *MSG) の代わりに、LOG (4 0 *NOLIST) が使用されます。これにより、ジョブの実行中のロギングの程度は高くなりますが、ジョブが正常に完了した場合には、ロギングは行われません。システム/38 の省略時値の代わりに、ロギング・レベルとして (4 0 *NOLIST) を使用しても、パフォーマンスの低下は生じません。ジョブが完了するまでは、ジョブ・ログの処理は行われなため、*NOLIST は、ジョブが正常に完了した場合に特に効率がよくなります。

RTGDTA パラメーター: ジョブ記述の省略時値は RTGDTA (QCMDB) ではなく、RTGDTA (QCMDI) です。これは、SBMJOB および BCHJOB の省略時値 (RTGDTA (QCMDB) に変更されました) と連動して働きます。RTGDTA の値は、対話式ジョブとバッチ・ジョブの両方で同じジョブ記述が使用でき、サブシステム内で異なる経路指定項目が選択されるように設計されています。省略時値がとられた場合には、対話式ジョブは QCMDI 経路指定データにより検知され、バッチ・ジョブは QCMDB 経路指定データにより検知されま

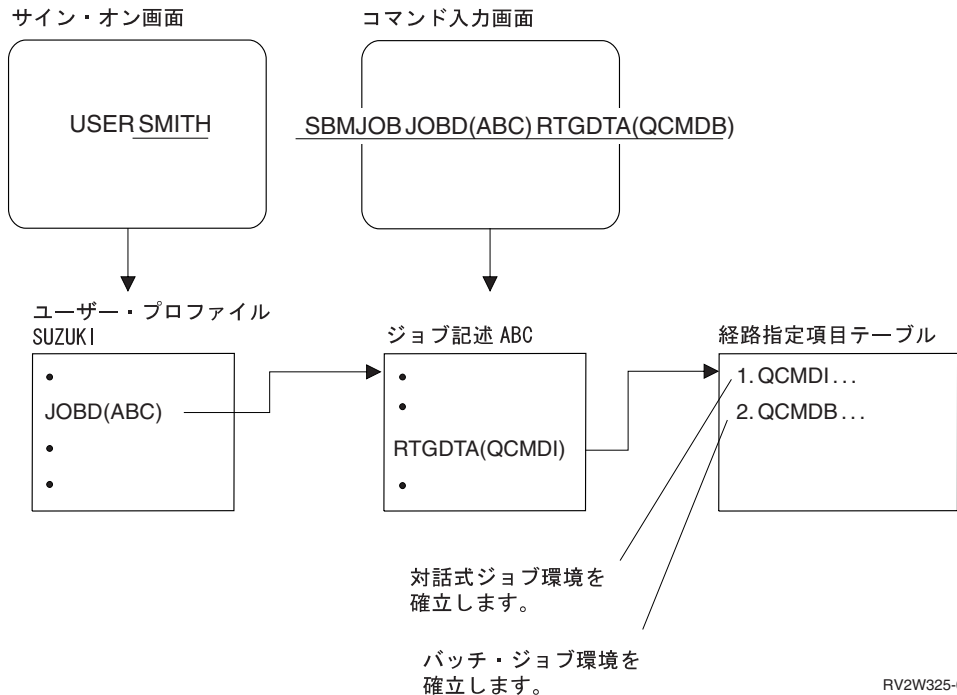


図 4-1. RTGD() パラメーターの使用

図4-1では、SUZUKI がサイン・オンして、そのユーザー・プロフィールで指定されているジョブ記述 ABC を使用します。使用するサブシステム経路指定項目を判別するためには、QCMDI 経路指定データが使用されます。この場合には、経路指定項目は対話式環境を確立します。

SUZUKI が SBJJOB を使用する場合には、JOB() および RTGD() の両方に省略時値がとられます。この例では、これらは、省略時値が指定された状態で示されています。この 2 番目の経路指定項目が使用されて、バッチ環境が確立されます。

SBJJOB コマンドは、通常、次のように指定します。

SBJJOB CMD(xxxx)

ユーザー・プロフィールのジョブ記述: 新しいシステム・サポートは、ユーザー・プロフィールに割り当てられているジョブ記述を使用するよう設計されています。ユーザー・プロフィールの JOB() パラメーターの省略時値 QDFTJOB() は QGPL に入っています。ADDWSE の JOB() 項目の省略時値は *USRPRF であり、これはサイン・オン時のジョブ記述の割当てを可能にします。

SBJJOB JOB() パラメーターの省略時値は、ユーザー・プロフィールに割り当てられた JOB() を使用するよ

う変更されました。ユーザーは、特定のユーザー・プロフィールに固有のジョブ記述を指定し、ライブラリー・リストや優先順位などについて、固有の要件を指定することができます。また、QGPL の QDFTJOB() ジョブ記述を調整することもできます。システム/38 の場合と同様に、ジョブの実行中に、CHGJOB コマンドを使用すると、値を変更することができます。

ジョブ待ち行列: 新しいジョブ優先順位 0 を使用すると、ジョブをジョブ待ち行列の先頭に移動することができます。

ジョブ・ストリーム: ジョブ・ストリームを変換するためには、システム/38 環境の JOB コマンドを BCHJOB コマンドに変更しなければなりません。JOB() パラメーターの省略時値により、ジョブ・ストリーム内のその他のコマンドすべてに対して、OS/400 環境での構文検査が行われます。

システム/38 環境からの ENDJOB コマンドは、ENDBCHJOB コマンドに変更されました。ENDJOB コマンドは、システム/38 環境の CNLJOB コマンドに対する新しい有効なスペルであるため、変換されるすべてのジョブ・ストリームで、ENDJOB を変更する必要があります。

ジャーナル: 置換え項目がジャーナル項目にどのような影響を与えるかについては、4-12ページの『プログラム』を参照してください。

付録Aで説明するコマンド変更のほかには、システム/38環境からの変更は必要ありません。

ライブラリー

現行ライブラリー: ほとんどの作成コマンドの省略時値が、QGPL から現行ライブラリーに変更されました。ユーザー・プロファイルで現行ライブラリーが *CRTDFT になっている場合は、変更は必要ありません。ただし、ユーザー・プロファイルの値を変更する場合は、次の2点を考慮する必要があります。

- ライブラリーの指定のない CRT コマンドの省略時値は、ユーザー・プロファイルの値になります。
- 現行ライブラリーはライブラリー・リストに影響を与えます。ライブラリー・リストの順序は次のとおりです。
 - システム部分 (たとえば、QSYSLIBL システム値によって設定されたもの)
 - プロダクト・ライブラリー #1
 - プロダクト・ライブラリー #2
 - 現行ライブラリー
 - ユーザー部分 (たとえば、CHGLIBL コマンドによって設定されたもの)

多くのユーザー CL ステートメントで、オブジェクト名が修飾されていないため、オブジェクトを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されることがよくあります。現行ライブラリーを指定した場合には、オブジェクトの入っているライブラリーに変更が生じることがあります。

現行ライブラリーと、システムまたはユーザー部分のいずれかに同じライブラリー名を指定することができます。現行ライブラリーへの変換の最も一般的な方法では、通常、ユーザー部分の最初にあるライブラリーが指定されます。ユーザー・ライブラリー部分にも現行ライブラリーがある場合でもエラーは起きないため、現行ライブラリー方式を利用するために、ユーザー部分をただちに変更する必要はありません。

プロダクト・ライブラリー: コマンドの実行中、ライブラリー・リストにライブラリーを入れるよう指示することができます。(詳細については第2章を参照してください。) これは、QRPG や QCBL などのライブラリ

ーを、対話式ジョブのライブラリー・リスト (SEU 構文検査用として)、またはバッチ・ジョブのライブラリー・リスト (高水準言語のコンパイルなど) に入れておく必要がないという点で、大きな利点となります。ユーザー・コマンドでも、コマンド定義に PRDLIB キーワードを指定することができます。

第2プロダクト・ライブラリーは、弊社提供の内部機能に対してのみサポートされます。この値に対するユーザー・アクセスはありません。

現行ライブラリー機能およびプロダクト・ライブラリー機能の両方に、機密保護機能の書き方に関する暗黙の約束事項があります。機密保護プログラムの書き方の例については、CL(制御言語)プログラミングおよび機密保護解説書を参照してください。

コマンド: DSPOBJD の省略時値は、*USRLIBL ではなく *LIBL になります。これは、QSYS にだけあるオブジェクト・タイプの探索に役立ちます。

EDTLIBL を使用すると、現行ライブラリー・リストの変更のために簡単なプロンプトを利用することができます。

QUSRTOOL: QUSRTOOL ライブラリーは、必要に応じて、基本オペレーティング・システムのオプション7として導入することができます。このライブラリーには、適用業務開発やシステム管理などの機能でユーザーを援助する各種ツールのサンプルが入っています。ツールは複数の原始ファイルに入っています。QATTINFO という名前の原始ファイルには、すべてのサンプル・ツールに関する文書が入っています。これらのツールを使用するためには、その一般文書を走査検索してください。たとえば、次のようなコマンドを使用してください。

```
STRSEU SRCFILE(QUSRTOOL/QATTINFO) SRCMBR(AAAMAP)
```

ログ: 付録Aで説明するコマンド変更のほかには、システム/38環境からの変更は必要ありません。

LU-1: ICF を使用する LU-1 はサポートされません。ICF のサポートが必要な場合には、SNA アップライン機能 (SNUF) または APPC への変換を検討してください。

RJE および 3270 装置エミュレーションでは、引き続き LU-1 サポートが使用されます。

メニュー: 新しいメニュー・オブジェクトの利点を利用することができます。CRTMNU コマンドを参照してください。CL プログラムおよび表示装置ファイルにより作成された既存のメニューがある場合でも、CRTMNU コマンドでそれらのメニューを指定することができます。さらに、GO コマンドを使用して、ユーザー・メニューを弊社提供のメニューと同じように表示することができます。

弊社提供のメニューのほとんどは、新しい内部サポートによって作成されます。このサポートは、ユーザー・メニューに対しては使用できません。ただし、CRTMNU コマンドを使用してメニュー・オブジェクトを作成できるので、エンド・ユーザーは GO コマンドで弊社提供のメニューまたはユーザー・メニューのいずれかにアクセスできるようになります。

メッセージ処理

メッセージ送信: SND コマンドでは、QSYSOPR へのメッセージの送信を可能にする新しいパラメーターをサポートするようになりました。SNDMSG コマンドは、すべての活動ユーザーにメッセージを送信するために使用することができます。また、新しいキーワードを使用すると、ユーザー・メッセージ待ち行列へメッセージを送信することができます。*REQUESTER、つまり対話式ジョブの場合は該当する対話式ユーザー、バッチ・ジョブの場合は QSYSOPR にメッセージを送ることもできます。

活動ユーザーへのメッセージ: AS/400 の

SNDPGMMSG コマンドと SNDPGMMSG コマンドの新しい機能を使用すると、すべての活動ユーザーにメッセージを送ることができます（ユーザー・メッセージ待ち行列が使用されます）。すべての活動ユーザーに中断メッセージを送る場合は、QUSRTOOL ライブラリーの SNDBRKACT コマンドを参照してください。

第 2 レベル・メッセージの長さ: 第 2 レベルのメッセージ・テキストの長さが、1435 から 3000 バイトに増えました。

メッセージ記述の変更: WRKMSGD 画面でオプションを選択すると、CHG コマンドのパラメーター値の現行メッセージ記述を検索することができます。これにより、メッセージ・テキストの変更が非常に容易になりました。

混合ファイル: MXD ファイル・タイプはサポートされません。通信機能は、新しい ICF のファイルに変換しなければなりません。表示機能は表示装置ファイル・タイプに変換しなければなりません。4-5 ページの『データ記述仕様 (DDS)』も参照してください。

命名規則

構文: 修飾名の構文が変更されました (第 1 章を参照)。区切り記号がピリオドからスラッシュに変わり、順序も逆になりました。修飾されない名前の構文は従来通りです (たとえば、CALL PGMX)。これに伴う影響は次のとおりです。

- オブジェクト名

システム/38 環境	OBJ.LIB
AS/400 システム	LIB/OBJ

- ジョブ名

システム/38 環境	JOB.USER.JOBNBR
AS/400 システム	JOBNBR/USER/JOB

- フィールド名 (たとえば、OPNQRYP)

システム/38 環境	FIELD1.FILEA
AS/400 システム	FILEA/FIELD1

拡張名: 拡張名が新しくサポートされます。これには、小文字の使用、および数字や特殊記号で始まる名前が含まれます。システム/38 環境から OS/400 プログラムへの移行には影響はありません。ただし、*NAME タイプのコマンド・パラメーターの変更については、4-3 ページの『プログラム』を参照してください。

一般的に、拡張名を使用する場合、その名前をアポストロフィで囲んで指定する必要があります。有効な名前の完全な定義は、CL(制御言語)プログラミングに記載されています。

修飾名: ピリオドは、OS/400 プログラムの名前に使用できる有効な文字であるため、システム/38 の修飾名を変換する場合の典型的なエラーの原因となります。たとえば、次のシステム/38 の CL 原始ステートメントを想定します。

```
CALL PGMA.LIB1
```

このプログラムを OS/400 タイプのプログラムとして再作成した場合、オブジェクトが見つからないというメッセージが出されて、プログラムは実行不能になります。

ネットワーク属性: システム/38 からの変更はありませんが、新しいネットワーク属性は、AS/400 コマンドでしか使用できません。2-23ページの『ネットワーク属性』を参照してください。

オブジェクト属性および原始仕様のタイプ:

2-24ページの『オブジェクト属性および原始仕様のタイプ』を参照してください。OS/400 タイプへの変換を行う場合には、システム/38 のタイプのオブジェクトを再作成しなければなりません。

オブジェクト配布: 付録Aで説明するコマンド変更のほかには、システム/38 環境からの変更は必要ありません。

オブジェクト・タイプ: システム/38 からの変更はありません。ただし、ユーザー・プログラムの新しいオブジェクト・タイプについて考慮しなければならない場合があります。

出力ファイル: 付録Aで示すコマンドの変更以外には、システム/38 環境からの変更は必要ありません。ほとんどのコマンドに、出力メンバーの追加または消去を行うための新しいオプションが加わりました。また、DSPOBJAUT および DSPPTF (システム/38 の DSPPGMCHG) に新しい出力ファイルが追加されました。

出力待ち行列: 4-15ページの『スプール』を参照してください。

一時変更: 付録Aで説明するコマンド変更のほかには、システム/38 環境からの変更は必要ありません。コマンドの変更の1つに OVRPRTF があります。この変更により、FILE (*PRTF) を使用して、同じジョブ内のすべての印刷装置ファイルを一時変更できるようになりました。4-15ページの『スプール』を参照してください。

パススルー: 3270 パススルーについては、4-7ページの『エミュレーション (3270)』を参照してください。

5250 パススルーでは、OS/400 コマンドの STRPASTHR により BGNPASTHR コマンドが置き換えられました。STRPASTHR は、APPN をサポートし、また、RMTLOCNAME を指定することにより、パススルーで使用される装置を OS/400 方式で指定することができます。(2-30ページの『遠隔ロケーション名

(RMTLOCNAME)』を参照してください。) パススルーに複数のシステムがあり、一部のシステムしか APPN に変換していない場合には、STRPASTHR は、RMTLOCNAME ではなく、システム/38 インターフェースによる装置の指定をサポートします。

クライアント・アクセス/400: 2-65ページの『知能ワークステーション・サポート (5714-PC1)』を参照してください。

パフォーマンス情報: システム/38 からの変更はありません。

印刷装置

ファイル: 印刷装置ファイルは次のように変更されました。

- FORMSIZE パラメーターは、PAGESIZE パラメーターという名前になりました。
- SCHEDULE パラメーターの省略時値が *JOBEND から *FILEEND に変更されました。
- DRAWER DDS キーワードおよびコマンド・パラメーターでは、値 3 を *E1 に変更してください。OS/400 プログラムでは、DRAWER (3) は、エンベロープ入れではなく、3 番目の用紙入れを選択するために使用されます。
- その他のコマンドの変更については、付録Aを参照してください。4-14ページの『戻りコード』および 2-50ページの『スプール』も参照してください。

印刷イメージ: このサポートは、システム接続印刷装置に対するものであり、AS/400 システムでは使用できません。

問題分析機能: OS/400 プログラムでのみ使用可能です。

問題ログ: OS/400 プログラムでのみ使用可能です。

プログラム: プログラムは、OS/400 プログラムで再作成しなければなりません。次の各節も参照してください。

- 3-1ページの『概要』
- 4-3ページの『プログラム』
- 3-5ページの『言語』
- 4-14ページの『戻りコード』

- 2-24ページの『オブジェクト属性および原始仕様のタイプ』

置換えオプション: プログラムの再作成に関連して、大幅な変更が行われました。この機能は OS/400 のコマンドでのみ使用できます。実働環境で実行されるプログラムの置換えの場合には、この機能を使用する OS/400 の作成コマンドを使用すると、大きな利点が得られます。

OS/400 の CRTxxxPGM コマンドは、新しいオプション REPLACE をサポートしています。*YES が省略時値です。REPLACE (*YES) を要求した場合に、該当のプログラムが存在していない場合、コマンドはシステム/38 の場合と同様に作動します。REPLACE (*YES) を要求した場合に、該当のプログラムが存在していれば、次のことが行われます。

- USRPRF パラメーター値の値が既存のプログラムからコピーされます (CRT コマンドのパラメーター値は無視されて、既存のプログラムの値が使用されます)。既存のプログラムで USRPRF (*OWNER) の借用機能が指定されていれば、それもそのまま置き換わります。
- プログラムは、コンパイルされて内部作業域に入られます。
- 作成ステップが正常に実行されなかった場合 (重大なエラーが起きた場合)、既存のオブジェクトはそのまま残され、作成コマンドはエスケープ・メッセージを出します。したがって、ユーザーは既存のオブジェクトをそのまま使用することができます。
- 作成ステップが正常に実行された場合 (重大なエラーがなかった場合) には、既存のプログラムは特殊ライブラリー (QRPLOBJ) に移され、固有の名前が与えられます。これにより、ほとんどの場合、そのプログラムを使用中のユーザー (活動バージョンとして使用しているユーザー) は、変更気づくことなく、旧バージョンを引き続き使用することができます。
- 作成ステップが正常に実行された場合には、CRT コマンドの PUBAUT パラメーター (AS/400 のコマンドでは AUT) は無視され、既存の権限が新しいオブジェクトにコピーされます。

新しいプログラムが作成されると、そのプログラムに対する新たな呼出しでは、新しいバージョンが使用されます。このサポートでは、同じプログラムを何回でも置き換えることができ、各バージョンは、活動バージョンとして複数のユーザーに使用されている場合があります。旧バージョンは次の IPL まで存続します。

ほとんどの場合、プログラムの再作成時に、置換え機能によってプログラムが正しく置き換えられる間、呼び出されたプログラムではロックが行われません (システム/38 の場合と同じです)。したがって、プログラムの使用中に DLTPGM またはプログラムの復元が可能になり、プログラムの活動ユーザーすべてに、エラー・メッセージが送られることになります。

プログラムの作成: OS/400 のプログラムを作成する場合、作成コマンドの省略時値は REPLACE (*YES) です。

プログラマー・メニューの使用時に、作成オプションを要求したときに該当のプログラムが存在している場合には、メッセージが表示されます。F11 機能キーを押すと、プログラムの条件付き置換えが行われます。システム/38 の場合のようなプログラムの即時削除は行われません。作成が正常に実行されると、既存のプログラムは削除されて、新しいプログラムで置き換えられます。

システム/38 のプログラムを作成する場合には、作成コマンドの省略時値は REPLACE (*NO) です。プログラマー・メニューの F11 を押すと、既存のプログラムは削除され、新しいプログラムが作成されます。(作成が正常に実行されなかった場合には、元のプログラムは削除され、置換えプログラムは作成されません。) PDM を使用した場合にも同様の機能が実行されます。

注: この置換え機能は、プログラム・オブジェクトに対してのみ使用されます。その他のオブジェクト・タイプ (たとえば表示装置ファイル) は、最初に削除しておかなければなりません。

REPLACE (*YES) を要求した場合には、CRT コマンドの 2 つのパラメーター (USRPRF と AUT) だけが無視されます。その他のパラメーター値はすべて CRT コマンドからとられます。したがって、CRTRPGM コマンドの IGNDECERR パラメーターなどのオプションは、指定しなければなりません。

注: 既存のプログラムがあり、その USRPRF 属性を変更したい場合には、CHGPGM コマンドを使用するか、またはプログラムを削除してそれを再作成しなければなりません。同様に、権限を変更したい場合は、GRTOBJAUT コマンドと RVKOBJAUT コマンドを使用するか、またはプログラムを削除してそれを再作成しなければなりません。置き換えられるプログラムが使用するファイルのジャーナル処理を行っている場合は、新しいジャーナル項目に、置き換えられたバージョンの活動ユーザーに関する日付および時刻スタンプ・プログラムが反映されます。

PDM またはプログラマー・メニューを使用している場合には、REPLACE (*NO) の働きが異なります。

REPLACE (*NO) を要求した場合に、そのプログラムが存在していれば、REPLACE (*YES) を指定した場合と同じタイプの処理が行われます。PDM とプログラマー・メニューの両方では、その要求が REPLACE (*YES) に暗黙的に変更されます。

識別情報: CHGPGM コマンドの新しいオプションにより、プログラムの識別情報を除去することができます。これにより、プログラム・テンプレートをプログラムから除去して、目的プログラムのサイズを大幅に縮小することができます。ただし、プログラム・テンプレートが除去されると、次の機能は失われます。

- デバッグのもとでのプログラム変数の表示または変更
- 実行エラーでの定様式ダンプ
- 前のリリースへのプログラムの復元

プログラマー・メニュー: 付録Aで示すコマンドの変更以外には、システム/38 環境からの変更は必要ありません。プログラマー・メニューの代わりに、プログラミング開発管理プログラムを使用することを検討してください。

プログラミングに関する変更: AS/400 システムでは、プログラミング一時修正 (PTF) と呼ばれます。

プロンプター: プロンプター・サポートは OS/400 プログラムでのみ使用可能です。ただし、これを使用して、システム/38 環境のコマンドに関するプロンプトを表示することもできます。

プログラミング一時修正 (PTF): OS/400 プログラムでのみ使用可能です。

RA/DHCF: 付録Aで説明するコマンド変更のほかには、システム/38 環境からの変更は必要ありません。

回復手順: OS/400 プログラムでのみ使用可能です。

遠隔ロケーション名

(RMTLOCNAME): 2-30ページの『遠隔ロケーション名 (RMTLOCNAME)』を参照してください。システム/38 環境では、特定の機能で RMTLOCNAME パラメーターの使用をマスクするサポートがあります。OS/400 プログラムでは、ユーザーが値を指定しなければ

なりません。4-6ページの『分散データ管理機能 (DDM)』を参照してください。

戻りコード: システム/38 のファイル・タイプ CMNF および BSCF で使用されている戻りコードは、新しい ICF ファイルでは大幅に変更されました。

MXDF ファイルは、ICF ファイル・タイプもしくは表示装置ファイルタイプ、あるいはこの両方に変換しなければなりません。MXDF ファイルでは、使用されているファイル・タイプの戻りコードが使用されます。BSC および CMN タイプは大幅に変更されました。表示装置ファイル・タイプはシステム/38 環境の場合と同じです。

その他のシステム/38 ファイル・タイプで使用される戻りコードは、システム/38 とシステム/38 環境の間で若干の変更があります。システム/38 環境と AS/400 システムの間では変更はありません。戻りコードの詳細については、次の項、または資料を参照してください。

- 本書の付録C
- データ管理
- システム間通信機能(ICF)プログラミング

ファイルの保管: 付録Aで示すコマンドの変更以外には、システム/38 環境からの変更は必要ありません。

保管および復元: パラメーターの省略時値が次のように変更されました。

- 復元の際のボリューム識別コード (VOL) が、*SAVVOL から *MOUNTED に変更されました。
- データ消去 (CLEAR) が *NO から *NONE に変更されました。新しい値として *ALL および *AFTER があります。*YES は削除されました。

ディスクットの LOC パラメーターは削除されました。

装置 (DEV) パラメーターは必須です。装置名として *SAVF がサポートされるようになりました。

FILEMBR パラメーターが追加され、選択したメンバーの保管および復元ができるようになりました。

保管および復元コマンドに対するパラメーターの変更の詳細については、付録Aを参照してください。システム上のすべての使用済み記憶域を保管するための新しいコマンド (SAVSTG) があります。SAVSTG コマンドは、障害時の回復を意図して設計されています。

画面の様式設定: システム/38 からの変更はありません。

機密保護

許可: 弊社提供のコマンドに対する権限は、システム/38 環境と OS/400 環境との間で変更はありません。コマンド名がいくつか変更されていますが、権限はそのままです。

AUT パラメーター: CRT コマンドの PUBAUT パラメーターは AUT に変更され、省略時値はコマンドによって異なります。パラメーターの値は、*CHANGE、*USE、または *EXCLUDE になります。実質的な結果は、システム/38 環境の場合の CRT コマンドと同じです。(詳細については、第2章を参照してください。)

CHGOBJOWN の省略時値の変更: CHGOBJOWN コマンドでは、新しいパラメーターの CUROWNAUT がサポートされるようになりました。このパラメーターの省略時解釈では、所有者の権限が取り消されます。システム/38 では、このパラメーターはサポートされておらず、旧所有者の権限が保持されていました。

サービス: OS/400 プログラムでのみ使用可能です。

セッション記述: 付録Aで説明するコマンド変更のほかには、システム/38 環境からの変更は必要ありません。

提供されるオブジェクト: システム/38 からの変更はありません。

サイン・オン: OS/400 プログラムでのみ使用可能です。

SNADS: 付録Aで説明するコマンド変更のほかには、システム/38 環境からの変更は必要ありません。

原始仕様の属性: 2-24ページの『オブジェクト属性および原始仕様のタイプ』を参照してください。

原始ファイル: 付録Aで説明するコマンド変更のほかには、システム/38 環境からの変更は必要ありません。

スペル辞書: 付録Aで説明するコマンド変更のほかには、システム/38 環境からの変更は必要ありません。

スプール

OVRPRTF パラメーター: スプール・ファイルの記述に役立つ、OVRPRTF コマンドの新しいパラメーターは次のとおりです。

- **SPLFNAME** を使用すると、スプール・ファイルの名前を変更することができます。たとえば、プログラムで QPRINT という名前が使用されているとします。この名前を、今後は PAYROLL と呼ぶように変更することができます。これは、外部記述印刷装置を使用しない場合に必要になることがあります。以降の操作 (たとえば WRKSPLF) では、この新しい名前を使用しなければなりません。元の印刷装置ファイルの名前は、WRKSPLFA を使用して表示することができます。
- **USRDTA** を使用すると、スプール・ファイルとともに表示されるテキストを指定することができます。スプール・コマンドでも、USRDTA で選択を行うことができます。プログラムを AS/400 システムで作成した場合、このパラメーターの省略時値には、スプール・ファイルをオープンしたプログラムの名前が使用されます。
- **DUPLEX** を使用すると、スプール・ファイルを、ページの片面にのみ印刷するのか、印刷ページの両面に上部が同じになるように印刷するのか、あるいは印刷ページの両面に上部が逆になるように印刷するのかを指定することができます。

スプール・ファイル名および USRDTA の両方が、出力待ち行列の最初の画面に表示されます。

OVRPRTF ファイル名: システム/38 で次のように指定します。

OVRPRTF QPRINT TOFILE(XYZ)

DSPOUTQ ではこの場合、スプール・ファイルの名前は XYZ になりました。AS/400 システムでは、プログラム名が使用されます。スプール・ファイル名を変更したい場合には、新しい SPLFNAME パラメーターを使用する必要があります。

サブシステム記述: 付録Aで説明するコマンド変更のほかには、システム/38 環境からの変更は必要ありません。

システム応答リスト: 付録Aで説明するコマンド変更のほかには、システム/38 環境からの変更は必要ありません。

システム要求: システム/38 からの変更はありません。

システム保守ツール (SST): OS/400 プログラムでのみ使用可能です。

システム値: 新しいシステム値は、OS/400 コマンドでのみ使用することができます。詳細については、2-58ページの『システム値』を参照してください。

付録Aには、各コマンドの変更に関する説明がありません。

テーブル: 付録Aで説明するコマンド変更のほかには、システム/38 環境からの変更は必要ありません。

テープ: 付録Aで説明するコマンド変更のほかには、システム/38 環境からの変更は必要ありません。

テスト: 4-6ページの『デバッグ』を参照してください。

無停電電源装置: OS/400 プログラムでのみ使用可能です。詳細については、*拡張バックアップおよび回復の手引き*を参照してください。

ユーザー・プロファイル: 4-15ページの『機密保護』を参照してください。

実行管理機能: システム/38 環境で実行管理機能を指定する場合には、次のような変更点に注意してください。

SBMJOB CMD パラメーター: SBMJOB では、新しい CMD パラメーターまたは RQSDTA パラメーターのどちらでも使用することができます。コマンドを投入する場合には、CMD パラメーターを使用します。コマンドが投入される前に、コマンドの構文検査が行われます。F4 キーを押すと、コマンドの投入にプロンプターを使用することができます。パラメーター値では式を使用できますが、コマンド名またはパラメーター値を構成するために使用することはできません。

SBMJOB USER パラメーター: SBMJOB では、*JOBID または *CURRENT に加えて、USER パラメーターを使用して、ユーザー名を指定することができます。特定の名前を使用するためには、そのユーザー・プロファイルに対する *OBJOPR 権限を持っていないとなりません。

SUBMIT JOB の省略時値: SBMJOB の省略時値は次のように変更されました。

- QBATCH の代わりに JOBID (*USRPRF) が使用されます。*USRPRF を指定すると、投入されたジョブに関連するユーザー・プロファイルで指定されている JOBID パラメーターの値が使用されます。
- *JOBID の代わりに INLLIBL (*CURRENT) が使用されます。この *CURRENT を指定すると、ジョブ記述内のライブラリー・リストではなく、現行のライブラリー・リストが使用されます。通常は、この省略時値が最適ですが、特殊な適用業務の場合には、省略時値以外の値に変更しなければなりません。
- *JOBID の代わりに OUTQ (*CURRENT) が使用されます。この値を指定すると、ジョブ記述内の値ではなく、ジョブに割り当てられた現行の出力待ち行列が使用されます。これにより、スプール出力を別の出力待ち行列に出力することができます。
- *JOBID の代わりに RTGDTA (QCMDDB) が使用されます。システム/38 環境のコマンドでは、QCMD38 が省略時値として使用されます。この変更は、バッチ・プログラムで、OS/400 の経路指定ステップ・プログラム (QCMD) にアクセスする場合に必要です。

QBASE サブシステムで操作するユーザーにとっては、これは特に重要な変更です。省略時値が *JOBID であった場合、USER パラメーターの省略時値は *CURRENT であり、通常は、ユーザーがサイン・オンした対話式ジョブ JOBID を使用することになります。JOBID の RTGDTA の省略時値は QCMDI であり、対話式特性を備えたバッチ・ジョブ（たとえば対話式プールの使用）が実行されることになります。
- RQSDTA の省略時値は *JOBID から *CMD に変更されました。
- SBMJOB の MSGQ の省略時値は、*WRKSTN から *USRPRF に変更されました。

表示コマンドと処理コマンド: DSPJOB 機能は 2 つのコマンドに分割されました。WRKJOB は、システム/38 の DSPJOB と同じ機能を実行します。OS/400 の DSPJOB コマンドは、表示のみの機能です。コマンドのいくつかでは、ジョブのオプション・リストを表示し、そこから DSPJOB または WRKJOB のいずれかを指定できます。該当するコマンドに対する権限が必要です。詳細については、*実行管理の手続き*を参照してください。

ジョブ・ストリーム: 4-9ページの『ジョブ・ストリーム』を参照してください。

ワークステーション: 新しいヘルプ機能については、4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。

X.25: 付録Aで説明するコマンド変更のほかには、システム/38 環境からの変更は必要ありません。

ユーティリティーおよびその他のプログラム・プロダクト

ユーティリティーは、この節で説明するもの以外は、すべてシステム/38 環境の場合と同じです。ユーティリティーによっては、コマンドの変更があり、これについては、付録Aで説明されています。形式変換ユーティリティー (OS/400 の分類ユーティリティー) の機能の拡張については、第2章を参照してください。

遠隔ジョブ入力 (RJE):

- READFILE コマンドは、AS/400 システムでのみサポートされます。
- ファイル名に DDM ファイルを使用することができます。
- コマンドの変更については、付録Aに説明があります。

データ・ファイル・ユーティリティー (DFU): システム/38 の DFU から AS/400 の DFU への変換を援助する機能はありません。DFU の再作成が必要です。

システム/38 の DFU の機能には、AS/400 の DFU にはないものがいくつかあります。変換を行う場合には、この点を十分に考慮して、場合によっては、システム/38 環境のバージョンを引き続き使用することを検討してください。除かれた機能には次のものがあります。

- レコード指向に対応する画面指向設計。
- ユーザー指定の画面の流れ (連鎖)。
- 表示レベルの設計上の柔軟性。たとえば、見出しの位置、初期値、フィールドの間隔、編集コード、および複数行など。
- 入力必須、全桁入力、および比較演算などの妥当性検査。
- バッチによる作成。
- 原始仕様の検索。

- 複数のコマンド (CRTDFUDEF および DSNDFUAPP)。適用業務によっては、エンド・ユーザーに有効なファイル名の入力を要求した後で CRTDFUDEF コマンドが使用されていました。これにより、DFU によって処理されるファイルに対する適用業務での機密保護制御が可能でした。

- 削除モード
- 検査モード
- 自動番号付け
- 次の様式の探索

QUERY: システム/38 の QUERY から AS/400 の QUERY への変換を援助する機能はありません。QUERY を入力しなおさなければなりません。

新しい AS/400 の QUERY では、システム/38 の QUERY にいくつかの拡張機能が加えられ、さらに便利になりました。拡張機能には次のようなものがあります。

- RUNQRY コマンドを使用すると、最初に QUERY のオブジェクトを作成しなくても、任意のデータベース・ファイルを簡単に表示することができます。選択使用にはプロンプトが使用できます。また、ウィンドウ機能を、デバッグおよび問題判別に使用することもできます。
- QUERY の定義中に、報告書のレイアウトまたは報告書のいずれかを表示するための機能があります。
- QUERY の定義の変更は、それを定義したときと同じ方法で行うことができます。
- オンライン・ヘルプおよび情報探索の機能があります。
- 照合順序のサポートがあります。
- 報告書に制御の切れ目のテキストを指定することができます。
- 数値編集機能が拡張されました。
- サブストリングおよび連結を使用した文字結果フィールドを作成できます。

システム/38 の QUERY の機能のいくつかは、AS/400 の QUERY ではありません。変換を行う場合には、この点を十分に考慮に入れてください。除かれた機能には次のものがあります。

- バッチによる作成。
- 原始仕様の検索。

- 複数のコマンド (CRTQRYDEF および DSNQRYAPP)。適用業務によっては、エンド・ユーザーに有効なファイル名の入力を要求した後で、CRTQRYDEF コマンドが使用されています。これにより、QUERY により使用されるファイルに、適用業務レベルの機密保護制御を行うことができました。
- テーブル
- レコードのサンプリング
- 生成された結果フィールドに使用できる剰余機能
- レコード選択における *OMIT
- 複数様式ファイルのサポート
- DDM サポート (他のシステムのファイルに対する QUERY の実行)

原始仕様入カユーティリティー (SEU): SEU に対する拡張機能には、次のものがあります。

- 次のような行コマンドが追加されました。
 - 除外して表示
 - 切捨てを行う桁移動
 - 行の形式設定とプロンプト・リスト
 - COLS および TABS
 - コピーおよび反復
- プロンプトの改善 (ユーザー定義のプロンプトを含む)
- サービス画面、行コマンド処理、およびメンバー・リストの改善

言語

ここでは、各言語の新しい機能すべてについて説明するわけではありません。各言語に関する解説書を参照してください。この節では、システム/38 環境で実行されているものと同じユーザー・プログラムに対する、原始仕様およびコマンドの変更について考慮しなければならない点を説明します。

修飾名が使用できる言語で修飾名を使用している場合、たとえば、COBOL の COPY ステートメントや RPG の /COPY ステートメントなどで、修飾名を OS/400 の構文に変換する必要があります。プログラムに影響を及ぼすコマンドの変更およびパラメーターの相違点などもあります。コマンドの変更に関する詳細については、付録Aを参照してください。

BASIC: 修飾オブジェクト名は OS/400 の構文でなければなりません。

COBOL: システム/38 の COBOL のレベルは ANSI 74 です。AS/400 の COBOL は ANSI 85 です。相違点は次のとおりです。

- 索引名は、長さが 4 バイトのコンパイラー生成の記憶域です。
- 次の場合に、識別コードが 1 つだけ指定された場合には、コンパイラーにより、一時的な結果フィールドが生成されます。
 - ADD ステートメントの FORMAT 1 で TO キーワードの前に指定された場合。
 - SUBTRACT ステートメントの FORMAT 1 で FROM キーワードの前に指定された場合。
 - MULTIPLY ステートメントおよび DIVIDE ステートメントの FORMAT 1 で指定された場合。
- カード固有の言語機能はサポートされません。
- SPECIAL-NAMES 段落の英字名文節内の英字名の前には、ALPHABET キーワードがなければなりません。
- RELATIVE KEY 句内に指定される相対キー・データ項目には、PICTURE 記号 'P' が含まれていません。
- ALPHABETIC クラス・テストは、大文字、小文字、およびスペース文字の場合に真となります。
- 呼び出されたプログラムに、次に処理すべきステートメントがない場合には、暗黙の指定の EXIT PROGRAM ステートメントが実行されます。
- 1 つの MERGE ステートメントで、SAME AREA または SAME SORT-MERGE AREA 文節の中に 2 つのファイルを指定することはできません。SAME RECORD AREA 文節に指定できるファイルは、GIVING に関連するファイルだけです。
- 次の場合を除いて、READ ステートメントで INTO 句を指定することはできません。(a) 該当のファイルに関連したすべてのレコード、および INTO 句で指定したデータ項目が、グループ項目または基本英数字項目である場合、または、(b) ファイル記述項目に從属するレコード記述が 1 つだけである場合。
- 次の場合を除いて、RETURN ステートメントで INTO 句を指定することはできません。(a) 該当のファイルに関連したすべてのレコード、および

INTO 句で指定したデータ項目が、グループ項目または基本英数字項目である場合、または、(b)ファイル記述項目に從属するレコード記述が 1 つだけである場合。

- ファイル位置標識。現行レコード・ポインタの概念がファイル位置標識に変更されました。
- 新しい予約語が追加されました。
- 新しい入出力状況の値が追加されました。
- COPY ステートメントの擬似テキスト 1 は、全体が区切り文字としてのコンマまたはセミコロン 1 個で構成されてはなりません。
- COPY REPLACING では、テキスト語の規則に従います。
- 処理手順部見出しの USING 句に現れるデータ項目のデータ記述項目に、REDEFINES 文節が含まれてはなりません。
- FOOTING 句を指定しない場合、ページ・オーバーフロー条件とは無関係のページ終了条件は存在しません。
- REEL.UNIT 句のある CLOSE ステートメントには、NO REWIND 句を指定することはできません。
- CANCEL ステートメントは、すべてのオープン・ファイルをクローズします。
- 受入れ項目が可変長のデータ項目であり、DEPENDING ON 句の目的を含んでいる場合には、その項目の最大長が使用されます。
- PERFORM ステートメントの VARYING ...AFTER 内では、識別コード 5 の設定の前に、識別コード 2 が追加されます。
- DIVIDE ステートメントの REMAINDER 句にある識別コード 4 の添字は、DIVIDE 操作の結果が GIVING 句の識別コード 3 に格納されると評価されます。
- ADVANCING PAGE 句および END-OF-PAGE 句の両方を、1 つの WRITE ステートメントで指定することはできません。
- 英字項目のピクチャー文字ストリングには、記号 'A'しか含めることができません。英字データには編集は使用できません。
- 文字 'P'を含む PICTURE により記述されたデータ項目が参照される場合、次の操作では、'P'により指定された数字桁はゼロを含むものと見なされません。

- 数字送出しオペランドを必要とする操作。
- 送出しオペランドが数字で、PICTURE 文字ストリングに 'P'が含まれている MOVE ステートメント。
- 送出しオペランドが数字編集で、PICTURE 文字ストリングに 'P'が含まれていて、しかも受入れオペランドが数字または数字編集である MOVE ステートメント。
- オペランドが両方とも数字である比較演算。
- ACCEPT FROM ATTRIBUTE-DATA を使用するプログラムは変更が必要です。これは、戻されるデータの形式がシステム/38 の COBOL の場合と異なるためです。

PASCAL: OS/400 プログラムでのみ使用可能です。システム/38 の PASCAL は、AS/400 システムでコンパイルしなければなりません。

PL/I: 付録Aに示すコマンドの変更を除いて、システム/38 環境からの変更は必要ありません。

報告書作成プログラム (RPG): システム/38 環境の RPG と RPG/400 との間には次のような相違点があります。

- INFDS のレイアウトが拡張され、POST 命令に対する追加の入出力フィードバックをサポートするようになりました。
特殊な装置（入出力フィードバックをとらない）に POST 命令を使用するプログラムは、変更しなければなりません。これは、RPG/400 において INFDS に返される情報の形式が、システム/38 環境の RPG で使用される形式と異なるためです。
- 数値フィールドの最大長が 15 桁から 30 桁に拡張されました。
- 報告書簡易作成機能の原始メンバー・タイプに変更があります。2-24ページの『オブジェクト属性および原始仕様のタイプ』を参照してください。
- 原始メンバー・タイプが予期しないものであった場合、コンパイラーは警告メッセージを出します。CRTRPGPGM はタイプ RPG を、CRTRPTPGM はタイプ RPT を想定します。
- 原始仕様および再コンパイルを使用して変換を行うためには、COPY ステートメントで使用されるすべての原始メンバーがなければなりません。

- 新しい値 (*SECLVL) を OPTION キーワードに指定すると、第 2 レベルのメッセージ・テキストを印刷することができます。
- INFDS の新しい値 *STATUS に変更が必要な場合があります。

詳細については、付録E、『システム/38 から AS/400 システムへの RPG の変換』, および *RPG/400** 使用者の手引きを参照してください。

第5章 AS/400 システムとの共存

システム/38 から AS/400 システムに（またはその逆に）データを送らなければならない場合があります。つまり、両者の間で媒体を交換したり、あるいは両者を通信回線によって接続する場合があります。この章では、次の事項について説明します。

- システム/38 と AS/400 のシステムとの間で媒体を交換する方法
- 他のシステムと通信するシステム/38 があり、そのシステム/38 を AS/400 で置き換えたい場合に必要なる考慮事項
- システム/38 を AS/400 システムで置き換えた場合に、通信相手のシステムが行う必要がある事項

媒体の交換

OS/400 のオブジェクト形式は、システム/38 のオブジェクト形式とは異なります。したがって、AS/400 でオブジェクトを保管して、それをシステム/38 で復元することはできません。ただし、システム/38 で保管したオブジェクトを AS/400 のシステムで復元することは可能であり、この場合、情報は AS/400 形式にマッピングされます。データ交換はどちらの方向でも行うことができます。この場合、両方のシステムでサポートされる互換性を備えた媒体（たとえば、正しい密度で記録された 1/2 インチ・テープ）を用意しなければなりません。次に、2 つのシステム間での交換を示します。

システム/38		AS/400 システム
保管	→	復元
データ交換	→	コピー
サポートなし	←	保管
コピー	←	データ交換

システム/38 から AS/400 システムへの交換だけが必要な場合には、保管復元形式、またはデータ交換のいずれかを使用することができます。AS/400 システムからシステム/38 に移行したい場合は、データ交換しか使用できません。両方のシステムに、互換性のある同じ密度の媒体（たとえば 1/2 インチ・テープ）を用意しなければなりません。

システム/38 とその他のタイプのシステム（たとえばシステム/370）との間で交換を行っており、システム/38 を AS/400 システムで置き換える場合には、データ交換形式をそのまま使用することができます。両方のシステ

ムでサポートされる互換性のある同じ密度の媒体を用意しておく必要があります。データ交換形式の変更は必要ありません。

保管ファイル・データの交換

保管ファイル・データは復元可能とみなされます。データが保管ファイルに書き込まれる場合には、そのデータをシステムで復元できるかどうかを検査されます。したがって、規則は保管および復元の場合に似ています。

- システム/38 の保管ファイルのデータは、システム/38 または AS/400 システムのいずれかの保管ファイルに書き込むことができます。
- AS/400 の保管ファイル・データは、他の AS/400 システムの保管ファイルに書き込むことができます。
- AS/400 の保管ファイル・データは、システム/38 の保管ファイルに書き込むことはできません。

交換識別コード

交換識別コードは、システムが SNA セッション (5250 パススルー、オブジェクト配布、LU-0、および DDM など) にある場合に使用されます。システム/38 の識別コードの接頭部は 022 です。AS/400 は新しいシステム・タイプであるため、この接頭部は変更されていません。新しい接頭部は 056 です。

システム/38 では、回線記述の EXCHID パラメーターには、*NONE または特定の値を指定することができます。

- *NONE を使用すると、システムは、3 桁の接頭部の後にシステム製造番号を付けた回線記述識別コードを作成します。使用される値は、DSPLIND によって表示することができます。元の値が *NONE であるシステム/38 の回線記述オブジェクトを移行する場合、移行援助ユーティリティにより、識別コードの接頭部は 056 に変更され、製造番号はシステム/38 のものが使用されます。したがって、ユーザーのシステムの交換識別コードは異なります。

注： 製造番号は、新しい AS/400 システムを反映したものにはなりません。

- 特定の値を使用する場合は、最初の 3 桁はシステム接頭部でなければなりません。回線記述オブジェクトを AS/400 システムに移行する場合、接頭部は、移行援助ユーティリティにより 056 に変更されます。したがって、ユーザーのシステムの交換識別コードは異なります。

通信相手のシステム (EXCHID 機能を使用している場合を想定) は、新しい AS/400 システムの交換識別コードに合わせて変更する必要があります。識別コードは、通信を始める前にユーザー独自の値に変更することも、省略時値によって割り当てられた AS/400 の製造番号を使用することもできます。移行援助ユーティリティを使用して装置構成オブジェクトを移行する場合は、回線記述オブジェクトを削除してから再び作成しなければなりません (EXCHID パラメーターは CHG コマンドで変更することはできません)。

通信相手のシステムがシステム/38 または別の AS/400 システムである場合には、そのシステムで変更しなければならない EXCHID は、制御装置記述で指定されません。通信相手のシステム/38 または AS/400 システムの制御装置記述オブジェクトは、一度削除してから再び作成しなければなりません (EXCHID は、CHG コマンドで変更することはできません)。

APPC

APPC では、交換識別コード以外の変更は必要ありません。

パススルー

前述のとおり、交換識別コードを変更しなければなりません。

システム/38 へのパススルーを行っているシステム/38 を、AS/400 システムに置き換える場合、コマンドが使用されていれば、適切な構文を入力しなければなりません。また、操作上の相違がいくつかあります。

オブジェクト配布

SNDNETF, SNDNETMSG, および SNDNETSPLF コマンドは、システム/38 と AS/400 システムとの相互間で使用することができます。ただし、SNDNETSPLF では、システム/38 の既存の属性しかシステム/38 に送ることができません。OS/400 オブジェクト配布機能を使

って、システム/38 のオブジェクトを配布する方法については、第6章の例を参照してください。

SBMNETJOB コマンドを AS/400 システムを使用する場合は、AS/400 の構文に従ったコマンドを、入力ストリームに入れなければなりません。

システム/370 にメッセージ、ファイル、およびジョブ・ストリームを送るための新しいサポートが加わりました。SNA 分散管理サービス および『SNADS』も参照してください。

SNADS

システム/370 との通信に、RSCS/PROFS* ブリッジのための新しいサポートを使用する場合は、システム/370 には、RSCS のバージョン 1.3 以降、および VM 回線ドライバ PRPQ が導入されていなければなりません。

通信ファイルまたは混合ファイルを使用する交換

AS/400 システムの DDS の SECURITY キーワードでは、*PASSWORD 機能はサポートされません。つまり、AS/400 のサポートでは、相手先システムに送るパスワードは検索されません。*PASSWORD 機能を備えたファイルを、AS/400 システムで復元または作成することはできません。現在この方法を使用している場合には、変更を行う必要がありますが、この場合、通信相手のシステムにも影響が及ぶことがあります。パスワードの値をコーディングするか、または EVOKE 機能でパスワードが不要であるようにシステムを構成しなければなりません。

DDM を使用する交換

起動システム: システム/38 を AS/400 システムで置き換えた場合に、それが DDM 要求の起動システムであれば、変更は必要ありません。DDM ファイルには、受動システムの構文でアクセスされるファイルが引き続き正しく指定されます。

受動システム: システム/38 を AS/400 システムで置き換えた場合、それが DDM 要求の受動システムであれば、新しい AS/400 システムと通信する起動システムを変更しなければならないことがあります。起動システム

では、AS/400 システムでアクセスされるファイルがシステム/38 か、OS/400 タイプのファイルであるかに関係なく、AS/400 受動システムの構文を指定しなければなりません。起動システムがシステム/38 または AS/400 システムである場合には、DDM ファイルの RMTFILE の値を見直す必要があります（システム/38 または AS/400 システム以外のシステムの場合もそれに相当する値を見直す必要があります）。DSPFD コマンドを使用すると、システム/38 または AS/400 システムで RMTFILE の値を表示することができます。AS/400 システムでは、DSPDDMF または WRKDDMF を使用して、RMTFILE の値を表示することもできます。

- RMTFILE (FILEX) を指定した場合には、省略時値はライブラリー名を持たず、FILEX という値が相手先のシステムに渡されます。システム/38 または AS/400 システムでは、これは、受動ジョブのライブラリー・リストを使用する FILEX と解釈されます（受動ジョブのライブラリー・リストは、ADDCMNE コマンドに指定されるジョブ記述によって定義されます）。この場合、変更は必要ありません。（ジョブ記述には、そのジョブに関連するユーザー・プロファイル、または初期ライブラリー・リストを使用することができます。）
- FILEX.LIBY や FILEX.*LIBL などの修飾名が使用されている場合は、新しい構文の LIBY/FILEX または *LIBL/FILEX を使用しなければなりません。

注: ライブラリーの省略時値として *LIBL が使用できないという点で、RMTFILE パラメーターの構文は、ほとんどの修飾名と異なります。RMTFILE の省略時値はライブラリー修飾子なしです。省略時値をとった場合は、変更を行う必要はありません。

RMTFILE: 修飾名を指定する必要がある場合は、RMTFILE パラメーターに *NONSTD 項目を使用しなければならないことがあります。

- OS/400 プログラムでは、他の AS/400 システムの遠隔ファイル名は、次のように指定されます。

RMTFILE(LIBY/FILEX)

- OS/400 プログラムでは、システム/38 の遠隔ファイル名は、次のように指定されます。

RMTFILE(*NONSTD 'FILEX.LIBY')

- システム/38 では、AS/400 システムの遠隔ファイル名は、次のように指定されます。

RMTFILE(*NONSTD 'LIBY/FILEX')

- システム/38 環境の AS/400 システムでは、システム/38 の遠隔ファイル名は、次のように指定されません。

RMTFILE(FILEX.LIBY)

- システム/38 環境の AS/400 システムでは、AS/400 システムの遠隔ファイル名は、次のように指定されます。

RMTFILE(*NONSTD 'LIBY/FILEX')

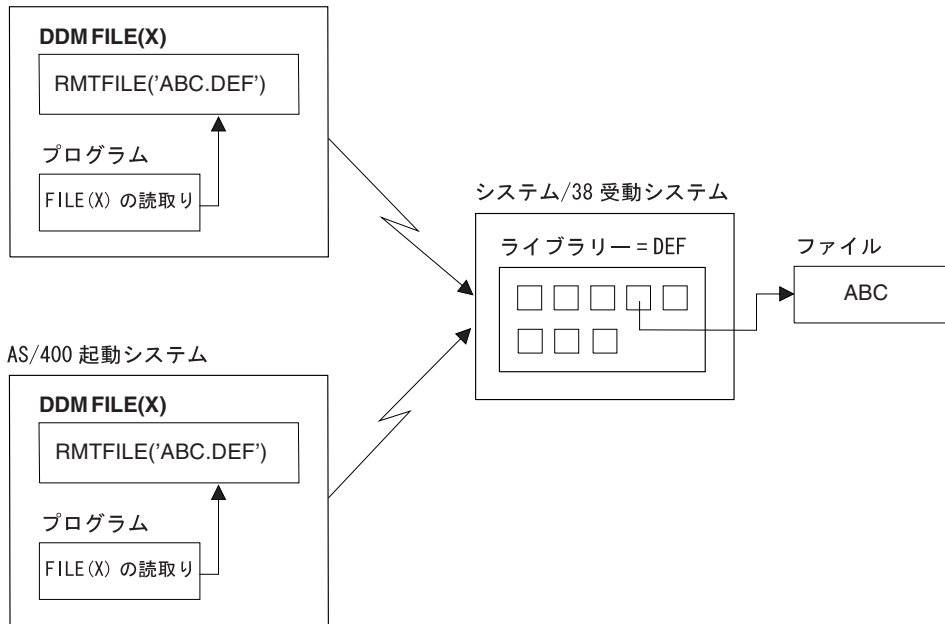
DDM ファイルが表示される場合 (DSPDDMF コマンド)、ファイル名は、次のようにアポストロフィで囲んで表示されます。

RMTFILE 'ABC.DEF'

情報はこの形式でシステムに保管されます。AS/400 システムへの DDM オブジェクトの移行を行う場合、起動システムとしてのシステム/38 に変更を加える必要はありません。

次の図は、起動システムと受動システムに関する考慮事項を示しています。

システム/38 起動システム



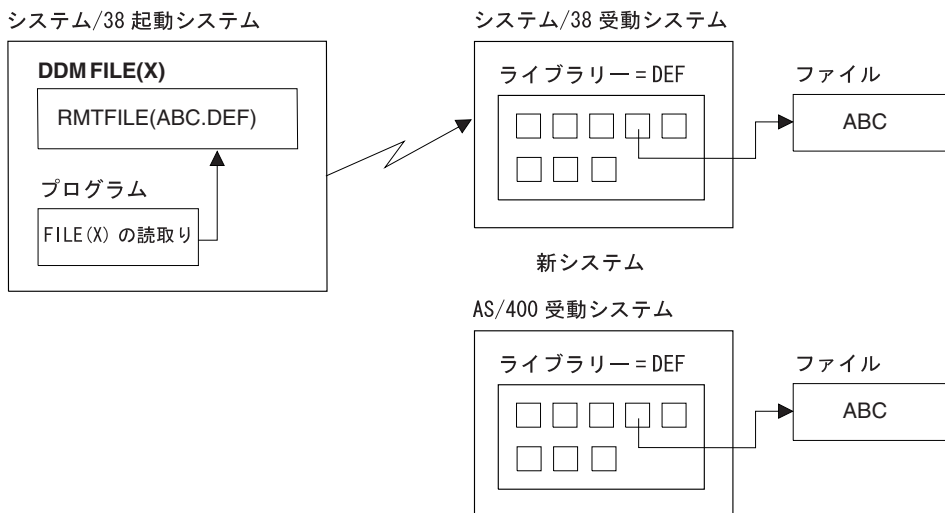
RV2W326-0

受動システムはシステム/38 であるため、どちらの起動システムでも、RMTFILE に同じ指定を使用しています。起動システムのシステム/38 を AS/400 システムで置き換えても、DDM ファイルに対する変更は必要ありません。ただし、AS/400 起動システムで、システム/38

と通信するために新しい DDM ファイルを作成する場合に、修飾名が必要であれば、次のように指定します。

RMTFILE(*NONSTD 'OBJ.LIB')

次の図は、システム/38 受動システムを AS/400 システムで置き換えた場合を示しています。



RV2W327-0

受動システム/38 が AS/400 システムで置き換えられます。起動システムでは、RMTFILE パラメーターの値を

OS/400 の構文に合わせて変更しなければなりません。

起動システムのシステム/38 では、次のように指定します。

RMTFILE(*NONSTD 'DEF/ABC')

注: システム/38 が起動システムと受動システムとしてどのように使用されているかに関係なく、非修飾名の構文は同じです。これは、次のように指定されます。

RMTFILE(FILEX)

AS/400 システムに SBMRMTCMD を使用する場合には、OS/400 の構文を使用しなければなりません。

AS/400 システムとの通信のために DDM を使用するシステム/38 には、互換 PC が適用されていなければなりません。これにより、システム/38 の DDM アーキテクチャーの拡張部分の送受信を行うことができます。

警報

AS/400 システムでは、SNA 管理サービス総称警報が使用されます。システム/370 ホスト・システムには、少なくともリリース 2.0 のネットビューが導入されていなければなりません。

システム/38 が総称警報に変わる前の NMVT 警報を AS/400 システムに送ると、それは受け入れられて、表示することができます。

システム/38 では、警報はジャーナル (QALERT) に記録されていました。これは、AS/400 システムでは、データベース・ファイルに変更されました。ジャーナルは移行されません。警報を表示するための新しい表示コマンドがあります。

ADD/CHGMSGD コマンドでは、付録Aで説明するようにパラメーターが変更されます。

PC データの交換

AS/400 システムでは、PC データは新しいオブジェクト・タイプのフォルダーに保管されます。フォルダーから情報を抽出して、システム/38 で使用できるように仮想ディスクに変換するためのサポートはありません。AS/400 システムには、フォルダー内の文書をデータベース・ファイルにコピーするためのコマンド (CPYFRMPCD) がありますが、このファイルの内部形式は、システム/38 の仮想ディスクに使用されている形式とは異なります。

クライアント・アクセス/400 では、CVTTOFLR コマンドもサポートされています。これにより、システム/38 から AS/400 フォルダーにファイルを変換することができます。このコマンドは、単に移行のために使用することも、今後継続して使用することもできます。

次に、2 つのシステム間での交換を示します。

システム/38		AS/400 システム
仮想ディスク	→	フォルダー (CVTTOFLR を使用)
仮想ディスクへのフォルダー変換はサポートされない	←	フォルダー

ジャーナル・オブジェクトの交換

ジャーナル・オブジェクト (ジャーナルおよびジャーナル・レシーバー) は、保管および復元により、システム/38 から AS/400 システムに移すことができます。システム/38 にある、ジャーナル・オブジェクトを別のシステムに移す場合のジャーナルの制約事項は、ジャーナル・オブジェクトを AS/400 システムに移す場合にも適用されます。

オブジェクト (ジャーナル・オブジェクトを含む) を AS/400 システムで保管して、システム/38 で復元することはできません。

DSPJRN コマンドの出力ファイル様式は、システム/38 でも AS/400 システムでも同じです。したがって、AS/400 システムとシステム/38 の両方を使用するシステム共通のジャーナル処理適用業務を作成して使用することは可能です。

ただし、AS/400 システムからシステム/38 への復元はサポートされていないため、AS/400 システムで保管したファイルを使用して、システム/38 で初期設定 (新規ファイルの置換えまたは追加) を行うことはできません。新しいファイルの置換えまたは追加が必要な場合には、データ交換しか使用できません。データ交換に CPYF を使用しても、相対レコード番号がリセットされてしまうため、必ずしも同じイメージが得られるとは限りません。

ユーザー作成のジャーナルが適用されるプログラムでの処理が、相対レコード番号に基づいて行われている場合には、ファイルをシステム/38 にコピーする前に、ファイルから削除されたレコードの圧縮が (RGZPFM を使用して) 行われていることを確認する必要があります。

第6章 AS/400 システムでのシステム/38 適用業務の保守

業務内容によっては、AS/400 システムを使用しながら、システム/38 で使用する適用業務を保守していかなければならない場合があります。主に次のような場合に、この必要が生じます。

- ある期間、両方のシステムを使用する場合
- 複数のシステムからなるネットワークを保守する中央制御システムの場合
- AS/400 およびシステム/38 の両方のユーザーにソフトウェアを販売する場合

多くの場合、システム/38 の適用業務コードを AS/400 システムで保守し、原始仕様のメンテナンスとほとんどのテストを、AS/400 システムで行うことができます。実際のシステム/38 では、AS/400 システムでサポートされていない特定の機能（たとえば、構成コマンドなど）をテストするだけです。

システム/38 と同じ適用業務を AS/400 システムで使用する場合は、原始仕様のメンテナンス方法に関する方針が必要です。たとえば、両方のシステム用に、原始仕様を 1 組だけ保守するよう計画することができます。これは確かに望ましい方法ですが、移行上の変更や、新しい AS/400 機能の使用の必要性などの理由から、この方法を採用できない場合があります。いうまでもなく、適用業務に AS/400 の新しい機能を追加した場合、それをシステム/38 で使用することはできません。

システム/38 の原始仕様のメンテナンスは、AS/400 システムでプログラマー・メニューまたはプログラミング開発管理プログラムを使用して、簡単に行うことがで

きます。これには、システム/38 タイプの原始仕様を指定しなければなりません（第1章を参照）。AS/400 システムでのプログラムのテストが終わった後で、原始仕様をシステム/38 に移す必要があります。ただし、AS/400 システムで保管したオブジェクトを、システム/38 で復元することはできません。データ交換が使用できるだけです。次に、2 つのシステム間での交換を示します。

システム/38		AS/400 システム
保管	→	復元
データ交換	→	コピー
サポートなし	←	保管
コピー	←	データ交換

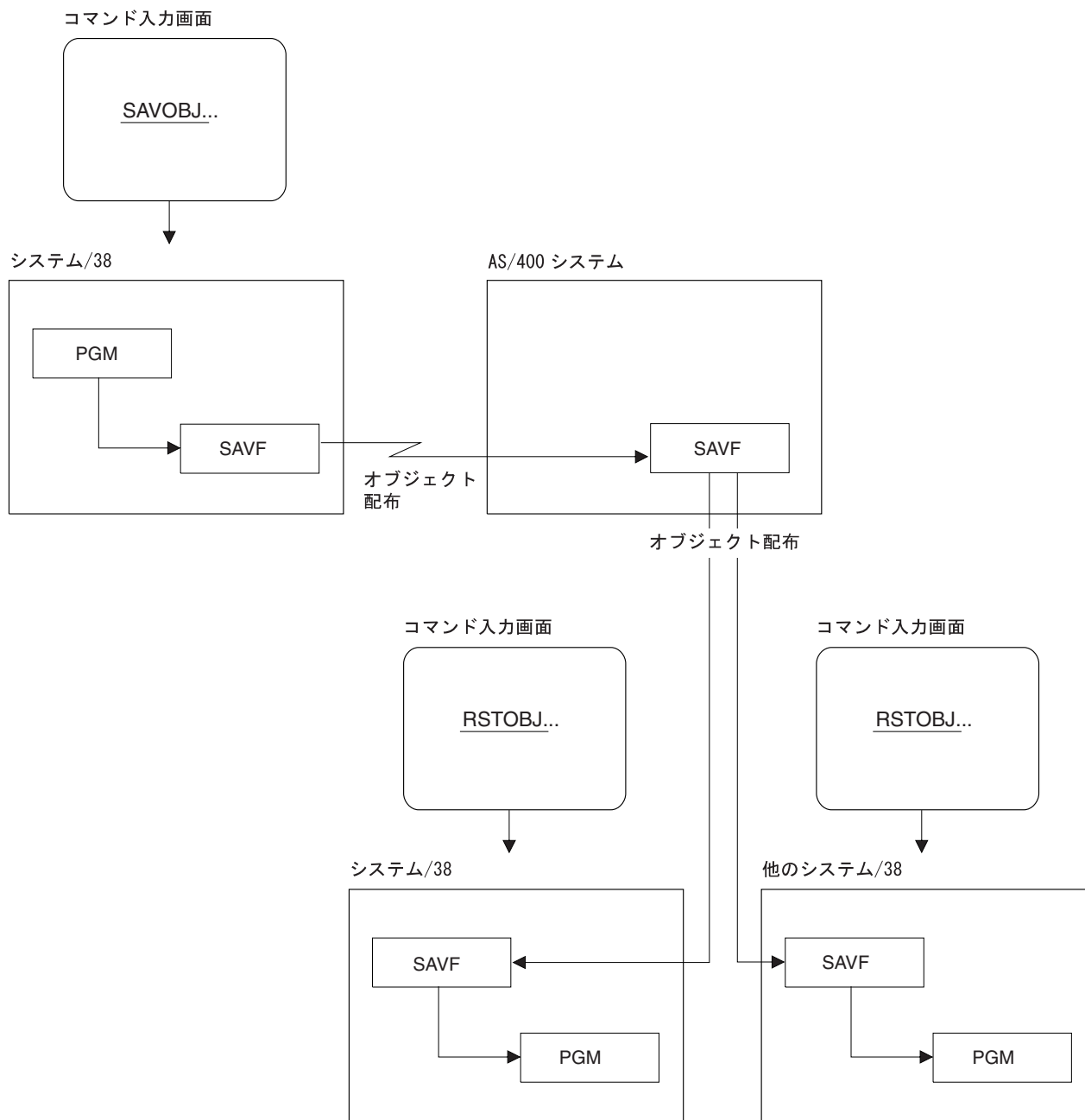
データ交換は、媒体ファイル、DDM ファイル、または通信ファイルのいずれかの形式で行うことができます。原始仕様がシステム/38 に存在する場合、そのオブジェクトを作成して、最終テストを行うことができます。そこで、オブジェクトまたは原始仕様のいずれの形式でも、保管復元方式により、他のシステム/38 に配布することができます。

オブジェクト配布コマンド (SNDNETF,SNDNETMSG, および SNDNETSPLF) は、AS/400 システムとシステム/38 との間で、どちらの方向にも使用することができます。ただし、SNDNETSPLF では、システム/38 の既存の属性しか交換できません。

これに代わる方法として、両方のシステムに原始仕様を備えて、表示装置パスルーのような機能を使用して、システム/38 の原始仕様を保守することもできます。

AS/400 システムのオブジェクト配布機能を使用して、他のシステム/38 にオブジェクトを配布することもでき

ます。これには、次のようなステップに従うのが一般的です。



RV2W328-0

SAVOBJ コマンドをシステム/38 で使用して、プログラムを保管ファイルに入れます。そのファイルは、オブジェクト配布により AS/400 システムに送られます。次に、やはりオブジェクト配布を使用して、OS/400 プログラムのその保管ファイルが、複数のシステム/38 システムに送られます。各システム/38 で、RSTOBJ コマンドを使用して、プログラム・オブジェクトが作成されます。

注: AS/400 システムでオブジェクト配布が使用されていますが、これは、システム/38 のオブジェクトを他のシステム/38 に渡すためのものです。AS/400 システムではシステム/38 のオブジェクトを復元することができますが、移行が終了すれば、通常これは必要ありません。

保管ファイルの制約事項については、5-1ページの『保管ファイル・データの交換』を参照してください。

AS/400 システムを操作しながらシステム/38 を使用するには、パススルーが最も適しています。たとえば、同じプログラマーに、AS/400 システムでの予備テストとシステム/38 での最終テストを実行させたい場合があります。パススルーを使用すると、プログラマーは、AS/400 システムにサイン・オンしたままで、システム/38 にサイン・オンすることができます。

システム/38 環境サポートを使用すると、SEU を使用して、AS/400 システムでは実行できない特定のコマンドを入力することができます。たとえば、タイプ CLP38 を使用して、SEU で CRTDEVD コマンドを入力すると、プログラムは正しく作成されます。ただし、AS/400 システム（システム/38 環境でも）で CRTDEVD コマンドを使用しようとする、このコマンドは実行不能となり、エラー・メッセージが表示されます。このサポートの目的は、システム/38 で使用したい原始仕様のメンテナンスを、AS/400 システムで行うことができるようにすることです。

これと同じ目的で、システム/38 環境に存在するだけのコマンド（実行不能）については、付録Aを参照してください。

システム/38 の適用業務を保守する目的で、AS/400 システムへの移行を行う場合には、その移行が正しく行われるようにするために、適用業務に何らかの変更を加えなければならない場合があります。移行中に原始仕様を変更した場合は、同じ原始仕様の複数のバージョンを処理しなければなりません。

CVTCLSRC コマンドを使用すると、システム/38 の CL 原始仕様を OS/400 の原始仕様に変換することができます。ただし、この逆はサポートされていません（OS/400 の CL 原始仕様をシステム/38 の原始仕様に変更するためには、ユーザーが変換を行う必要があります）。

システム共存時に、OS/400 の別の機能を使用する場合には、上記のほかに次のような点を考慮する必要があります。

- コマンドによって保守される機能（たとえば、ジョブ記述の変更）用に、ジョブ・ストリームを送る方式が必要です。
- OS/400 の DFU および QUERY の機能をシステム/38 に送ることはできません。システム/38 環境の DFU および QUERY の原始仕様は、

RTVxxxSRC コマンドを使用して抽出し、システム/38 に送ることができます。

- 第1章には、CLP38 タイプのプログラムに OS/400 のコマンドを組み込む方法を説明してあります。たとえば、CLP38 プログラムで OS/400 のコマンド WRKOUTQ を使用することができますが、これは、システム/38 の構文規則に従って入力しなければなりません。この原始仕様は、システム/38 に配布してはなりません。このために、原始仕様システム/38 のコマンドしかないことを確認するためのプログラムを書くことができます。QUSRTOOL ライブラリーには、このタイプのプログラムの例が入っています。ツールの CHKS38CMD を参照してください。

大部分の処理の自動化

一般に、原始仕様は AS/400 システムで保守し、AS/400 システムである程度のテストを行い、残りの処理をできるだけ自動化すると便利です。この処理には、システム/38 への原始仕様の配布（すなわち原始ファイルに対する DDM の使用）、オブジェクトの作成、最終テストの実行、実働システムへの新オブジェクトの組込み、および他のシステム/38 へのオブジェクト形式の配布があります。

適用業務を保守するために、どの原始ファイルおよびデータ・ファイルを送る必要があるかを決定したら、データを処理しやすい形式でシステム/38 に送るためのパッケージ化方式が必要になります（DDM 原始ファイルを使用していない場合）。

たとえば、複数の原始メンバーおよびデータ・ファイルを、1 つのメンバーにコピーできるようなユーザー・コマンドを作成することができます。このメンバーは、オブジェクト配布、DDM、通信ファイル、または媒体（ディスクまたはテープ）を使用して、システム/38 に送ることができます。

システム/38 でデータを受け取った時点で、上記と同じようなユーザー作成のコマンドによって、個々のメンバーを抽出して、それらを元のファイルとメンバー名に戻すことができます。このタイプのコマンドの例は、QUSRTOOL ライブラリーに入っています。ツールの SAVICHDTA を参照してください。

ユーザー作成の機能により、必要な CRT コマンドをスケジューリングして、必要なオブジェクト形式を作成することができます。この代わりに、コンパイル要求をシ

システム/38 に送り、システム/38 の DDM ファイルを使用して、AS/400 システムの原始仕様にアクセスすることもできます。オブジェクトを作成したら、パススルーを使用して、システム/38 での最終テストによる確認を行うことができます。オブジェクトが使用可能な状態になったら、ユーザー作成コマンドをシステム/38 で使用して、オブジェクトを保管し、他のシステム/38 への配布のための準備をすることができます。

機能別リスト

次の機能別リストは、AS/400 システムおよびシステム/38 の両方で使用する予定の原始仕様から除外する必要のある主な要素を示しています。当然のことながら、OS/400 の新しいコマンド、パラメーター、または値を指定することはできません。コマンドおよびコマンド定義ステートメントの相違点については、付録Aで説明します。DDS キーワードについては、付録Bで説明します。

APF

システム/38 の APF ファイルには AS/400 システムとの互換性がありますが、AS/400 システムの APF ファイルをシステム/38 に戻すことはできません。

CL

新しい修飾名の構文および拡張名は、AS/400 システムでのみ使用することができます。

CL プログラム

新しいコマンド、パラメーター、および値は、OS/400 プログラムでのみ使用することができます。付録Aを参照してください。

コマンド定義

PARM ステートメントの新しいキーワード PMTCTL は、AS/400 システムでのみ使用することができます。

注： これらの新しい機能をシステム/38 環境で入力することはできますが、システム/38 で同じコマンド定義ソースを使用することはできません。

コミットメント制御

サポートされるレコード・ロックの数は、AS/400 システムでは 4096、システム/38 では 1024 です。

データ記述仕様 (DDS)

ICF ファイルは、AS/400 システムでのみ有効です。

AS/400 システムでサポートされないか、または変更される DDS キーワードのリストについては、付録Bを参照してください。

データベース

OPNQRYP コマンドでは、修飾ファイル名および修飾フィールド名の両方を使用できます。いずれも正しい構文に従っていなければなりません。

OS/400 の新しい機能である OPNQRYP %DIGITS は、10 進データを文字データに変換するためのものであり、AS/400 システムでしか実行できません。システム/38 での、ゾーン形式に変換してから文字データに変換するという方式は、両方のシステムの間で互換性を持ちます。

メッセージ処理

AS/400 システムのユーザー・メッセージ待ち行列サポートは、ユーザー作成の待ち行列、および特定のメッセージ送信コマンドを使用して、システム/38 でも部分的に利用することができます。

第 2 レベル・テキストの長さが拡張され、様式設定の特殊文字が使用できるようになりましたが、これは AS/400 システムでのみサポートされます。

プログラム

システム/38 で使用するプログラムを作成する場合には、QCMDEXC の代わりに、QCAEXEC のような機能を使用するようにしなければなりません。QCAEXEC でコマンド・ストリングを作成する場合は、システム/38 の構文を使用しなければなりません。

6-4ページの『戻りコード』を参照してください。

戻りコード

システム/38、システム/38 環境、および OS/400 プログラムには、それぞれ相違点があります。2-36ページの『戻りコード』および4-14ページの『戻りコード』を参照してください。

言語

新しい修飾名の構文は、AS/400 システムでのみ有効です。

COBOL

ANSI レベルが変更され、新しい言語要素が加わりました。変換上の相違点については、第4章に説明してあります。原始仕様の共用を予定している場合には、使用するレベル ANSI 74 に限定する必要があります。

報告書作成プログラム (RPG)

30 桁の数値フィールドは、RPG/400 でのみ使用できません。STATUS の値および POST 命令の INFDS の構造に変更があります。原始仕様の共用を予定している場合には、RPG の使用を、システム/38 互換 RPG に限定する必要があります。

第7章 移行に関する詳細の要約

この章では、次の事項の要約を示します。

- 移行の前にシステム/38 で行うべきこと
- システム/38 オブジェクトを AS/400 システムに移行する前に、AS/400 で行うべきこと
- システム/38 オブジェクトの移行後に行うべきこと

移行の前にシステム/38 で行うべきこと

移行の前に、システム/38 で行うべき事項がいくつかあります。

保管および復元に関する制約: AS/400 システムで復元することができるのは、リリース 5 またはそれ移行のシステム/38 で保管されたオブジェクトだけです。それ以前のリリースで保管された活動記録情報のうち、AS/400 システムで復元したい情報がある場合には、それをシステム/38 で復元したうえで、再び保管する必要があります。

AS/400 システムで復元するために保管する記憶媒体のタイプおよび密度は、AS/400 システムでの保管復元装置と、互換性があるものでなければなりません。たとえば、9347 テープ装置の場合、唯一互換性のある密度は 1600 bpi です。

待ち行列および保管ファイルのオブジェクト記述: 移行援助ユーティリティを使用すると、ジョブ待ち行列、出力待ち行列、データ待ち行列、および保管ファイルのオブジェクト記述を移行することができます。ただし、これらのオブジェクト内のデータは移行されません。移行の前に、これらのオブジェクトに重要なデータが含まれていないことを確認してください。

ネットワーク属性: ネットワーク属性は移行されません。ユーザーは、AS/400 システムで再入力しなければなりません。DSPNETA コマンドを使用して、その値の印刷出力をとるか、または値を記録しておいてください。削除または変更されたネットワーク属性については、第2章を参照してください。

システム応答リスト: システム応答リストは、移行援助ユーティリティでは移行されません。次のコマンドを使用してください。

```
DSPRPYL OUTPUT(*LIST)
```

さらに、印刷出力を保管しておくか、または値を記録しておいてください。AS/400 システムの出荷時の値は、システム/38 の出荷時の値と同じです。ただし、ユーザーが値を変更している可能性もあります。

システム値: 移行援助ユーティリティによって移行されないシステム値がいくつかあります。2-58ページの『システム値』を参照してください。次のシステム値は、AS/400 システムで再指定できるように、印刷しておくか、または記録しておいてください。

```
QACGLVL
QCTLSBSD
QUPSMGQ
QSYSLIBL
QMAXSIGN
QAUXSTGTH
```

ジョブ会計: ジョブ会計を使用している場合には、AS/400 システムの QSYS 内に QACGJRN ジャーナルを再作成するか、またはオブジェクトを保管して AS/400 システムで復元しなければなりません。ジョブ会計ジャーナルは、移行援助ユーティリティでは移行されません。

QSYSMSG メッセージ待ち行列: QSYSMSG メッセージ待ち行列機能を使用している場合には、システム/38 でメッセージ待ち行列を保管し、AS/400 システムでそれを復元してください。メッセージ待ち行列は、移行援助ユーティリティでは保管されません。

QSYS ライブラリー: 通常、QSYS ライブラリーには、ユーザー・オブジェクトを入れてはなりません。入れた場合には、移行援助ユーティリティによって移行されます。付録Dのサンプル・コマンド (CHKLIBOWN) には、弊社提供のオブジェクト以外のオブジェクトが QSYS にあるかどうかを調べる方法が示されています。

ライセンス・プログラム・ライブラリー: QRPB などのライブラリーに、ユーザー独自のオブジェクトまたはメンバーがある場合には、それらをユーザー・ライブラリーに移すか、または保管復元により移行しなければなりません。ほとんどのライセンス・プログラム・ライブラリーには、メンバーの保管に使用できる原始ファイルが含まれています。

- 次のようなコマンドを使用して、各ライセンス・プログラム・ライブラリーを検査し、弊社提供のファ

イルに原始メンバーが含まれていないかどうかを調べてください。

DSPFD QRPGRSRC.QRPG TYPE(*MBRLIST)

- 付録Dのサンプル・コマンド (CHKLIBOWN) を使用すると、ライセンス・プログラム・ライブラリーに弊社提供のオブジェクト以外のオブジェクトが入っているかどうかを調べることができます。通常、弊社提供のオブジェクトは、QSECOFR によって所有されています。したがって、次のようにコマンドを指定する必要があります。

CHKLIBOWN LIB(QRPG) EXCLUDE(QSECOFR)

ライセンス・プログラム・ライブラリーに QSECOFR により所有されるオブジェクトを作成した場合には、DSPLIB コマンドを使用して、それらのオブジェクトを見つけてください。

QGPL ライブラリー: システム/38 の QGPL ライブラリーは、AS/400 システムで直接復元しないでください。これを行うと、AS/400 システムの操作に必要な弊社提供のオブジェクトがオーバーレーされてしまいます。移行援助ユーティリティを使用すると、QGPL が保管され、QGPL38 に復元されます。(7-5ページの『QGPL の処理』の説明を参照してください。) 移行援助ユーティリティを使用しない場合には、同じような方法を考える必要があります

オブジェクトの中には、別のライブラリーに復元できないものがあります (たとえば、ジャーナルやジャーナル・レシーバーなど)。したがって、ジャーナルやジャーナル・レシーバーが QGPL にある場合は、これらを保管して、AS/400 システムの QGPL に直接復元する必要があります。

その他の Q ライブラリー: 移行援助ユーティリティでは、QGPL ライブラリー以外の Q で始まるライブラリーは移行されません。Q で始まるライブラリーを作成した場合には、保管と復元を使用して、それらのライブラリーを移行しなければなりません。

ユーザー・ライブラリー: ライブラリー内のすべてのオブジェクトを移行する場合には、まず内容を検討して、AS/400 システムでは必要のないオブジェクトを削除してください。

移行援助ユーティリティは、オブジェクトを保管して、AS/400 システムで復元します。これには、媒体が関与するため、移行するオブジェクトのバックアップをとっておいてください。これは、システム/38 から AS/400 システムに同じ記憶装置を移設する場合には、

特に重要です。移行するオブジェクトの保管媒体を複数作成しておくことを勧めます。

装置構成オブジェクト: 移行援助ユーティリティを使用して、装置構成オブジェクトを移行する場合には、リリース 8 を使用していません。

装置構成オブジェクトは、移行援助ユーティリティによって、システム/38 から AS/400 システムに移行されます。ただし、移行の前に、装置構成に関する情報を記録しておくことが重要です。付録Dに、構成情報を原始メンバーにコピーするためのサンプル・プログラムを示してあります。このメンバーは、移行機能により保管されます。これにより、問題が生じたときに、SEU によって、そのメンバーを AS/400 システムで使用することができます。

ユーザー・プロファイル: 弊社提供のユーザー・プロファイル (QSECOFR など) は移行されず、その権限も移行されません。AS/400 システムの新しいユーザー・プロファイルが基礎として使用されるため、それに修正を加えなければなりません。したがって、弊社提供のユーザー・プロファイルに変更を加えた場合は、その印刷出力を作成しておいて、AS/400 システムでユーザー・プロファイルに同じ変更を加えられるようにしなければなりません。

次のユーザー・プロファイルについては、システム/38 で OUTPUT (*LIST) 機能を使用した DSPUSRPRF コマンドを使用してください。

QPGMR
QSYSOPR
QSECOFR
QUSER

AS/400 システムでは、QPSR および QCE のプロファイルは、QSRV および QSRVBAS プロファイルで置き換えられます。新しいユーザー・プロファイルによって実行される機能は異なるため、QCE および QPSR の情報をコピーするのではなく、これらのユーザー・プロファイルの用途について再検討する必要があります。

編集記述: QSYS の編集記述オブジェクトは、移行援助ユーティリティでは移行されません。システム/38 で使用されていたのと同じ省略時値が、AS/400 システムでも使用されますが、省略時値がユーザーによって変更されている場合もあります。編集記述を変更した場合には、変更した記述のそれぞれに対して、DSPEDTD コマンドを使用する必要があります。

SNADS: SNADS を使用している場合、SNADS オブジェクトは移行援助ユーティリティでは移行されません。SNADS 構成は、AS/400 システムで再入力しなければなりません。AS/400 システムでは様式が異なるため、システム/38 の QUSRSYS に SNADS を保管しないでください。

次のコマンドを使用して、システム/38 の SNADS 構成の印刷出力を作成する必要があります。

DSPDSTSRV OUTPUT(*LIST)

2-49ページの『SNADS』で説明したように、遠隔ロケーション名は、AS/400 システムで変更する必要があります。

システム/38 オブジェクトの復元の前

AS/400 システムの配列方法には 2 つあり、選択した方法にしたがって、次のステップを完了する必要があります。

1. 合計システム・パッケージ

これは、ハードウェア項目およびソフトウェア項目の両方を配列するための便利な方法です。システムは、ソフトウェアがロードされた状態で導入されますが、これは、システム/36 の操作に構成されています。たとえば、QDEVNAMING システム値には、省略時値 (*NORMAL) ではなく、*S36 という値が含まれています。したがって、この方法を使用する場合は、次のステップを実行してから、システム/38 で保管されたオブジェクトを復元する必要があります。

以下のステップは、OS/400 プログラムとシステム/38 環境を使用して操作を行うことを前提としています。システム/36 環境を使用する場合は、システム/36 環境 解説書を参照して、この節で説明するシステム値の指定方法を定める必要があります

機密保護担当者としてサイン・オンします。

- QSPCENV システム値を *S36 から *NONE に変更します。これにより、追加されたユーザー・プロファイルはすべて、OS/400 の機能を使用して操作されるようになります。

CHGSYSVAL SYSVAL(QSPCENV) VALUE(*NONE)

- システム値 QDEVNAMING を *S36 から *NORMAL に変更します。これにより、装置構成オブジェクトにシステム/36 の命名規則が使用されなくなります。

CHGSYSVAL SYSVAL(QDEVNAMING)
VALUE(*NORMAL)

- システム/36 環境に関連するプログラムを削除します。これにより、ディスク・スペースを大幅に節約できます。

DLTLICPGM LICPGM(5763SS1) OPTION (5)
DLTLICPGM LICPGM(5763RG1) OPTION (1)
DLTLICPGM LICPGM(5763CB1) OPTION (1)

その他のシステム値はすべて、CL (制御言語) プログラミングで説明されている省略時値を設定した状態で出荷されます。システムに存在する装置記述は、検討することができます。これらは、システム/36 の命名規則に従って名前が付けられています。これらを削除してから再作成することもできます。

2. カスタマイズされたシステム

カスタマイズされたシステムの様式は、システム/38 に従っています。ハードウェアおよびソフトウェアを注文すると、別の配布場所から出荷されます。ライセンス内部コードはすでにシステムにロードされています。OS/400 プログラムを注文した場合も、これはシステムにロードされています。導入の指示に従って、注文した各ライセンス・プログラムを導入してください。ソフトウェアの導入を参照してください。

システム値はすべて、出荷の時点で CL (制御言語) プログラミングで説明されている省略時値が設定されています。

システム値: 移行援助ユーティリティの一部として復元を実行する前に、いくつかのシステム値を設定する必要があります。2-58ページの『システム値』の説明、および 実行管理の手続きを参照してください。

- QSECURITY。これは、機密保護レベルの設定であり、省略時値のレベルは 10 です。レベル 30 は、システム/38 の機密保護レベルと類似しています。レベル 30 を変更するには、次のコマンドを使用します。

CHGSYSVAL SYSVAL(QSECURITY) VALUE('30')

- QCTLSBSD。このシステム値は、移行援助ユーティリティでは移行されません。したがって、この時点で、制御サブシステムに関する方針を反映させて、このシステム値を設定します。AS/400 システムの QCTLSBSD の省略時値は QBASE です。つまり、1 つのサブシステムが、対話式処理およびバッチ処理の両方に使用されます。QINTER, QBATCH, QCTL の各サブシステムを使用することもできます。2-54ページの『サブシステム記述』

を参照してください。この方法を変更するには、次のコマンドを使用してください。

```
CHGSYSVAL SYSVAL(QCTLSBSD)
           VALUE('QCTL QSYS')
```

- **QAUTOCFG**。この値は、構内装置の構成を自動的に行うかどうかを決定します。2-7ページの『装置構成』を参照してください。省略時値の 1（システムによる自動構成）を、ユーザー制御の構成に変更するには、次のように指定します。

```
CHGSYSVAL SYSVAL(QAUTOCFG) VALUE('0')
```

- **QPRTDEV**。これは、2-50ページの『スプール』で説明したように、省略時のスプーリングに使用される印刷装置です。通常は、システムの印刷装置の名前を入力します。この値は、ユーザーが使用する印刷装置のいずれかでなければなりません。

```
CHGSYSVAL SYSVAL(QPRTDEV) VALUE(xxxxxx)
```

- **QSTRUPPGM**。これは、2-54ページの『サブシステム記述』で説明した始動プログラムです。自動始動ジョブの使用に関する方針を考慮に入れてください。
- **QPFRAJ**。これは、システムが、主記憶域プールおよび活動レベルに関するパフォーマンス調整を行うかどうかを決定します。2-54ページの『サブシステム記述』を参照してください。この機能に関する方針を考慮に入れてください。

- **QSYSLIBL**。システム/38 で印刷した情報を使用して、この値を設定してください。AS/400 システムでは、次のライブラリーが必要です。

```
QSYS
QHLPSYS
QUSRSYS
```

これ以外のライブラリーがある場合には、**QSYSLIBL** を変更しなければなりません。

```
CHGSYSVAL SYSVAL(QSYSLIBL) VALUE('...')
```

- **QMAXSIGN**。この値は、すべてのワークステーション (IPL 装置を含む) でのサイン・オンの試行回数を指定するものになりました。システム/38 の情報を使用して、この値を設定してください。

```
CHGSYSVAL SYSVAL(QMAXSIGN) VALUE('...')
```

- その他のシステム値を設定することができますが、システム/38 に存在しているシステム値は設定しないでください。これらのシステム値を設定すると、移行機能を実行したときに、その多くがオーバーレーされてしまいます。

システム応答リスト: 現行のシステム応答リストを、移行前のステップで印刷した情報と比較して検査してください。弊社の出荷時の値はシステム/38 の場合と同じです (PL/I が追加されています) が、変更を加えた場合は、AS/400 システムにもそれを反映させなければなりません。

ジョブ会計: システム/38 でジョブ会計を使用していた場合には、システム/38 で保管した会計ジャーナル (QSYS の QACGJRN) を再作成または復元してください。QACGLVL システム値は、移行援助ユーティリティーにより移行されます。しかし、移行援助ユーティリティーの実行時に、QACGJRN ジャーナルが AS/400 システムになれば、システム値は *NONE に設定されます。

QSYSMSG メッセージ待ち行列: QSYSMSG メッセージ待ち行列をシステム/38 で使用していた場合は、システム/38 で保管したオブジェクトを復元してください。

IPL: システムの最初の IPL が行われると、システムは、操作卓用に使用されるワークステーション制御装置および表示装置の記述を暗黙指定で作成します。これらの装置には次のような名前が付けられます。

```
QCTL      ワークステーション制御装置
QCONSOLE  表示装置のみ
```

これらの記述を削除することもできますが、システムは、次の IPL 時に、これらの名前で作成します。

QAUXSTGTH: システム/38 の QAUXSTGTH システム値は、移行援助ユーティリティーでは移行されません。システム/38 では、このシステム値が、補助記憶域の使用量に基づいて、システムからメッセージが出される時点を指定します。QAUXSTGTH の値は、移行前のステップで記録してあるはずですが、この値が 10% 以外である場合、または新たに 10% 以外の値を指定したい場合は、SST を使用して新しい値を設定する必要があります。この値の指定は、残量のパーセンテージから使用済みのパーセンテージに変更されています。省略時値は 90% です。

チェックサムおよび補助記憶域プール (ASP): チェックサムおよび ASP を使用している場合には、専用保守ツール (DST) に適した構成を指定しなければなりません。

システムの保管: 導入処理の一環として AS/400 システムを保管していない場合は、SAVSYS コマンドによってシステムを保管してから、システム/38 オブジェクトを移行してください。

は、システム/38-AS/400 移行援助プログラム使用者の手引きを参照してください。

『QGPL38』の説明も参照してください。

システム/38 オブジェクトの移行

これは通常、移行援助ユーティリティの一部として実行されます。移行援助ユーティリティの項で説明したステップに従って、プロファイル、装置構成オブジェクト、およびその他のオブジェクトの復元などの機能を実行してください。

移行援助ユーティリティは、QGPL を QGPL38 に復元します。RSTAUT コマンドを実行する前に、ユーザー・オブジェクトを QGPL38 から QGPL に移す必要があります。『QGPL の処理』を参照してください。

移行が完了すると、オブジェクトはシステムに復元されます。オブジェクトは正しく復元されない場合があるため、移行援助ユーティリティの実行結果を確認する必要があります。

QGPL の処理

システム/38 の QGPL 内の弊社提供のオブジェクトが、同じ名前の AS/400 オブジェクトの上に復元されないようにしてください。移行援助ユーティリティは、QGPL を QGPL38 に復元します。

オブジェクトの中には、別のライブラリーに復元できないものがあります（たとえば、ジャーナルやジャーナル・レシーバーなど）。移行前のステップでこれらのオブジェクトを保管してある場合には、それらを QGPL に復元してください。

AS/400 システムでは、ユーザー作成オブジェクト（Q で始まらないオブジェクト）を QGPL38 から QGPL に移す必要があります。これには、次のいずれかを行うことができます。

- MOVOBJ コマンドを使用する。
- MOVOBJ コマンドのキー入力を簡素化するために、新しいプログラミング開発管理プログラムを使用する。
- MOVOBJ コマンドを実行するためのプログラムを使用する。付録Dにサンプル・プログラムを示しています。

ユーザー・オブジェクトを QGPL38 から QGPL に移してから、オブジェクトに権限を復元する方法について

移行後に行うべきこと

システム値: システム/38 オブジェクトを移行すると、システム値 QMCHPOOL および QBASACTLVL がリセットされ、装置構成オブジェクトが作成されます。この2つのシステム値は、ユーザーの AS/400 システムに適切ではない場合があります。この場合には、ここでその2つのシステム値を設定してください。IPL のパフォーマンス調整機能を使用している場合には、IPL を再び行うことによって、システムにこれらの値を設定させることができます。移行援助ユーティリティがシステム値を移行した時点で、QACGJRN が AS/400 システム上になかったときには、QACGLVL システム値をリセットしなければならない場合があります。

ユーザー・プロファイル: ユーザー・プロファイル QSECOFR、QPGMR、および QSYSOPR (7-1 ページの『移行の前にシステム/38 で行うべきこと』を参照) の印刷出力を、AS/400 のプロファイルとして検討して、プロファイルを変更する必要があるかどうかを決めなければなりません。

QGPL38: QGPL38 に残っているオブジェクト（Q で始まるもの）について考慮する必要があります。このようなオブジェクトには、システム/38 の CPF で使用されていたサブシステム記述やジョブ記述があります。

次に、QGPL38 でどのような項目を見つけて、どのような検討を行わなければならないかを説明します。各オブジェクトについて検討したうえで、それぞれ削除するか、または別のライブラリーに移してください（たとえば、QGPL38OLD などのライブラリーを作成することができます）。別のライブラリーにオブジェクトを移すと、AS/400 システムで操作が正しく行われることを確認するまで、その情報を保持しておくことができます。

このステップでは、システム/38 で弊社提供のオブジェクトに変更を加えたかどうかについても考慮する必要があります。これには、リリース 8 の IBM システム/38 環境プログラミングの付録 A の説明と、各オブジェクトの属性を比較する必要があります。

弊社提供のオブジェクト（たとえばサブシステム記述）に大幅な変更を加えた場合は、AS/400 で提供されるパ

ージョンを変更するよりも、既存のオブジェクトに変更を加えた方が簡単な場合もあります。

- 次のオブジェクトは、サポートされない機能が指定されているため、AS/400 システムでは復元されません。

QCARD96 *FILE
QCRDSRC *FILE
QPUNCH *FILE

- 次のオブジェクトは、AS/400 システムでは不要であるため、QGPL38 から削除することができます。

QSPLCRDR *JOB
QSPLCRDW *JOB
QPUNCH *OUTQ

- QGPL38 の原始ファイルには、データが含まれている場合があります。この場合には、QGPL ライブラリーにメンバーを移動またはコピーすることによって、データを保持することができます。たとえば、QGPL の次の原始ファイルを調べて、そこにメンバーがなければ、それらのファイルを削除することができます。さらに、同じ名前のオブジェクトを QGPL38 から QGPL に移します。

QCLSRC *FILE
QCMSRC *FILE
QTBLSRC *FILE

QGPL の QDDSSRC ファイルには、AS/400 システムの新しい QDSIGNON 画面の原始仕様が含まれています。これは、QGPL38 のバージョンと置き換えてはなりません。次のことを行うことができます。

1. QGPL38/QDDSSRC の QDSIGNON メンバーを除去する。
2. QGPL/QDDSSRC にその他のメンバーがないことを確認する。
3. その他のメンバーを QGPL38 からコピーする。

- 次の原始ファイルは、印刷イメージを保存するためにのみ使用されていたのであれば、QGPL38 から削除することができます（印刷イメージは、システム/38のシステム接続印刷装置で使用されていたものであり、AS/400 システムではサポートされません）。

QIMGSRC *FILE

- AS/400 システムにディスク装置がない場合は、次のオブジェクトを QGPL38 から削除するこ

とができます。ただし、今後ディスク装置を導入する可能性を考えて、該当のオブジェクトを QGPL に残しておくことをお勧めします。AS/400 システムにディスク装置があり、QGPL38 オブジェクトに変更を加えた場合は、QGPL オブジェクトに同様の変更を加える必要があります。

QDKT *FILE
QDKTSRC *FILE
QSPLDKTR *JOB
QSPLDKTW *JOB
QDKT *OUTQ

- QGPL38 の次のクラス・オブジェクトには、QGPL に対応するクラス・オブジェクトがなければなりません。QGPL38 オブジェクトに変更を加えた場合は、QGPL オブジェクトにも同様の変更を行う必要があります。

QBATCH *CLS
QCTL *CLS
QDIALLOCAL *CLS
QFNC *CLS
QINTER *CLS
QPGMR *CLS
QSNADS *CLS
QSPL2 *CLS

注： QSPL のクラス優先度は 15 のままにする必要があります。QSPL のクラス優先度は、QGPL38 に合わせて変更してはなりません。

OS/400 の CRTCLS コマンドの WAIT パラメーターの新しい省略時値は 30 です。クラス・オブジェクトを変換する際は、この点を考慮してください。

- QGPL38 の次のジョブ記述オブジェクトには、QGPL にそれぞれ対応するジョブ記述オブジェクトがなければなりません。QGPL38 オブジェクトに変更を加えた場合は、QGPL オブジェクトにも同様の変更を行う必要があります。

QBATCH *JOB
QCTL *JOB
QDIA *JOB
QFNC *JOB
QHOSTPRT *JOB
QINTER *JOB
QNFTP *JOB
QPGMR *JOB
QSNADS *JOB
QSPLDBR *JOB
QSPLERROR *JOB

QSPLPRTW *JOBID

- QGPL38 の次のジョブ待ち行列オブジェクトには、QGPL の対応するジョブ待ち行列オブジェクトがなければなりません。QGPL38 オブジェクトに変更を加えた場合は、QGPL オブジェクトにも同様の変更を加える必要があります。

QCTL *JOBQ
QBATCH *JOBQ
QFNC *JOBQ
QINTER *JOBQ
QPGMR *JOBQ
QSNADS *JOBQ
QSPL *JOBQ

- QGPL38 の次の出力待ち行列オブジェクトには、QGPL に対応する出力待ち行列オブジェクトがなければなりません。QGPL38 オブジェクトに変更を加えた場合は、QGPL オブジェクトにも同様の変更を行う必要があります。

QPRINT *OUTQ
QPRINT2 *OUTQ
QPRINTS *OUTQ

- QGPL38 の次の印刷装置ファイル・オブジェクトには、QGPL に対応する印刷装置ファイル・オブジェクトがなければなりません。QGPL38 オブジェクトに変更を加えた場合は、QGPL オブジェクトにも同様の変更を行う必要があります。

QPRINT *FILE
QPRINT2 *FILE
QPRINTS *FILE

- QGPL38 の次のサブシステム記述オブジェクトには、QGPL または QSYS に対応するサブシステム記述オブジェクトがなければなりません。QGPL38 オブジェクトに変更を加えた場合は、QGPL または QSYS の対応するオブジェクトに、同様の変更を加える必要があります。

QINTER *SBSD
QBATCH *SBSD
QFNC *SBSD
QSPL *SBSD
QPGMR *SBSD
QSNADS *SBSD

経路指定項目の QCMD および QCMD38 は、両方とも必要です。QGPL の弊社提供バージョンも、これと同じです。2-54ページの『サブシステム記述』を参照してください。

対話式サブシステムのワークステーション項目に指定された JOBID の値を判別する際には、よく注意する必要があります。AS/400 システムでは、ユーザー・プロファイルに関連する JOBID が、省略時値として使用されます。したがって、異なるジョブ記述が割り当てられることがあります。

システム/38 の QCTL サブシステムは、出荷時に QSYS ライブラリーに入っていました。このオブジェクトは変更しない方がよいため、もし変更が必要であれば、独自の制御サブシステムを作成するようお勧めしていました。たとえば、QGPL に QCTL2 という名前のサブシステムが作成されている場合があります。このサブシステムでは、変更が必要かどうかを検討しなければなりません。

- この時点で、QGPL38 ライブラリーには、リリース 8 の CPF で使用されていなかったオブジェクト、またはユーザーが作成した文字 Q で始まるオブジェクトだけが残っているはずですが、これらのオブジェクトを QGPL に移すかどうかを検討してください。これらのオブジェクトに関する処置が終了したら、QGPL38 を削除することができます。

QSYS オブジェクト: 新しいリリースで QSYS オブジェクト（たとえば、印刷ファイル、コマンド権限など）に変更を加えた場合は、ここで同じ変更を行う必要があります。場合によっては、印刷ファイルまたはコマンド名が変更されている場合もあります。

サイン・オン画面: ユーザー定義のサイン・オン画面（たとえば、導入先の要件に合わせた画面）がある場合には、弊社提供のサイン・オン画面での新しい入力フィールドを考慮に入れて、それを変更しなければなりません。詳細については、*実行管理の手続き*を参照してください。

コマンドの許可: システム/38 で、弊社提供のコマンド（たとえば、CRTPF）の権限を特定のユーザーに与えた場合は、機密保護の方針を考慮する必要があります。システム/38 では共通認可の対象ではなかったコマンドの多くが、AS/400 システムでは共通認可になっています。ユーザー別に権限の付与を取り消すこともできます。

弊社提供コマンドのユーザー・バージョン: 弊社提供コマンドのユーザー独自のバージョンを作成した場合は、QUSER38 ライブラリーを作成および使用して、システム/38 バージョンのユーザー作成コマンドを、そのライブラリーに入れることができます。第1章を参照してください。OS/400 のコマンドでも、システム/38 の場合と同じ方式を使用することができますが、パラメーター・リストへ変更されている場合があります。妥当性

検査プログラムを作成していた場合には、それと同様の変更について考慮する必要があります。

SNADS 構成: SNADS を使用している場合には、SNADS 構成を再入力しなければなりません。印刷した情報と CFGDSTSRV コマンドを前述の説明に従って使用してください。2-49ページの『SNADS』も参照してください。

警報: 警報を使用している場合には、警報を制御するネットワーク属性を入力する必要があります。7-1ページの『移行の前にシステム/38 で行うべきこと』のステップで印刷した値を使用してください。AS/400 システムのシステム名を入力してください。

ディスク装置名: ディスク装置がある場合は、QDKT の名前でディスク装置を作成する必要があります。2-10ページの『ディスク』を参照してください。

テープ装置名: 自動装置構成を使用していて、TAP01 以外の名前をテープ装置に付けたい場合は、2-60ページの『テープ』を参照してください。

交換識別コード: 他のシステムとの通信に SNA を使用している場合には、交換識別コードとして使用したい名前を考えてください。5-1ページの『交換識別コード』を参照してください。

移行援助ユーティリティー: 移行援助ユーティリティーは削除してください。システム/38-AS/400 移行援助プログラム 使用者の手引き の説明を参照してください。

付録A. システム/38 のコマンドおよびコマンド定義

この付録では、システム/38 のコマンド、およびその変更と追加について説明します。OS/400 の新しいコマンドについては説明しません。説明する事項は次のとおりです。

- コマンド名の変更
- パラメーター名の変更と新しいパラメーター
- パラメーター値の変更と新しい値
- 省略時値の変更

OS/400 プログラムには、定位置パラメーターの最大数 (MAXPOS) の値が、システム/38 環境よりも小さいコマンドがいくつかあります。CVTCLSRC コマンドでは、これらの変更がすべて検出されるわけではありません。変更は、変換されたプログラムがコンパイルされると検出されます。

この章では、本書の他の項、または *CL (制御言語) 解説書* を参照する場合があります。

次に、図 A-1 の各欄について説明します。

- リストの最初の欄には、システム/38 のコマンドがすべて示されています。

注: OS/400 コマンドのすべては含まれていません。

システム/38 のコマンドは、原始仕様入力ユーティリティー (SEU) を使用して、システム/38 環境に入力することができます。しかし、すべてのコマンドをシステム/38 環境で実行できるわけではありません。次の欄を参照してください。

- システム/38 環境での実行の欄に X のあるコマンドは、システム/38 環境で実行することができます。

この欄が空白のコマンドは、CL38 と CLP38 のシステム/38 原始タイプでのみ、SEU によって入力することができます。このサポートは、システム/38 のプログラムとジョブ・ストリームを、AS/400 システムでメンテナンスするためのものです。

CL を実行するには、システム/38 に移さなければなりません。この欄が空白のコマンドを

AS/400 システム (システム/38 環境、または OS/400 プログラム) で実行しようとする、この機能はサポートされていないというエスケープ・メッセージが出されます。

- OS/400 の新しいコマンドの欄には、OS/400 プログラムでも同じコマンド名で実行できる場合には X が、異なる場合にはシステム/38 のコマンドに対応する OS/400 プログラムの新しいコマンド名が示されています。
- 注記の欄には、相違点についての説明が示されています。変更点の詳細については、*CL (制御言語) 解説書* を参照してください。

OS/400 の新しいコマンドの欄が空白のコマンドは、OS/400 プログラムでは実行できません。該当の機能は別の方法で処理されるか、または新しい方法が使用されます。

各コマンドで説明されていない機能がいくつかありますが、これは、これらの機能が多くのコマンドに適用されるためです。

*CURLIB の値は、OS/400 プログラムの大部分のコマンドに、ライブラリー修飾名を指定できるパラメーターの値として、指定することができます。特に指示のないかぎり、省略時値は同じです。

コマンド定義ステートメント

システム/38 環境と OS/400 プログラムのコマンド定義原始仕様には、区別はありません。CRTCMD コマンドは、システム/38 環境でも OS/400 プログラムでも、同じ形式のオブジェクトを作成します (コマンド定義オブジェクトには TYPE がありません)。2-2ページの『コマンド定義』および4-3ページの『コマンド定義』を参照してください。

層構造プロンプトを定義するために、新しいコマンド定義ステートメントの PMPTCTL だけでなく、PARM コマンドもあります。

図 A-1 (1/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境 での実行	OS/400 の 新しい コマンド	注記
ADDACC	X	X	
ADDAJE	X	X	
ADDBKP	X	X	
ADDBSCDEVE	X		混合、通信、BSC ファイルは、OS/400 プログラムでは、ICF ファイルに置き換わります。4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。
ADDCMNDEVE	X		混合、通信、BSC ファイルは、OS/400 プログラムでは、ICF ファイルに置き換わります。4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。
ADDCMNE	X	X	システム/38 環境では DEV パラメーターは変更されます。OS/400 プログラムでは RMTLOCNAME パラメーターが追加されます。
ADDDEVMODE			装置モード機能が変更されました。装置モード用に新しいオブジェクト・タイプがあります。2-7ページの『装置構成』を参照してください。
ADDDSPDEVE	X		混合、通信、BSC ファイルは、OS/400 プログラムでは、ICF ファイルに置き換わります。4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。
ADDFCTE	X	X	
ADDJOBQE	X	X	ジョブ待ち行列が変更されて、OS/400 プログラムで新しいパラメーターの MAXPTYn を指定することができます。
ADDLFM	X	X	システム/38 環境では ACCPTHMBR パラメーターは無視され、OS/400 プログラムではサポートされません。
ADDLIBL	X	X	
ADDMSGD	X	X	システム/38 環境では PDPCODE および LOG パラメーターは無視され、OS/400 プログラムではサポートされません。OS/400 プログラムのコマンドは LOGPRB パラメーターをサポートします。ALRID キーワードは、OS/400 プログラムでは ALROPT という名前に変更されました。このキーワードの値は、どちらの環境でも変更されています。SECLVL キーワードは、OS/400 プログラムでは最大 3000 文字（システム/38 環境では 1435 文字）をサポートします。どちらの環境でも、様式設定を行うための特殊制御文字をメッセージ・テキストに入れることができます。
ADDNETJOBE	X	X	
ADDPFM	X	X	
ADDPGM	X	X	プログラムをデバッグするには、ユーザーに、システム/38 の読取り権ではなく、*CHANGE 権限が必要です。
ADDRJECMNE	X	X	
ADDRJERDRE	X	X	
ADDRJEWTR	X	X	
ADDRPYLE	X	X	
ADDRTGE	X	X	
ADDTRC	X	X	
ADDWSE	X	X	OS/400 プログラムの省略時値は JOBD (*USRPRF) に変更されます。2-54ページの『サブシステム記述』を参照してください。WRKSTNTYPE の有効な値が変更されました。
ADDXDMNK	X	ADDCRSDMNK	
ALCOBJ	X	X	オブジェクト・タイプの新しい値（たとえば *MENU など）が、OS/400 コマンドで有効になります。新しい値は、システム/38 環境のコマンドには有効ではありません。

図 A-1 (2/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
ANSLIN	X	X	
APYJRNCHG	X	X	
APYPGMCHG		APYPTF	PGMID パラメーターは LICPGM に変更されており、必須です。PGM はサポートされません。新しいパラメーターの IPLAPY は、次の不在 IPL において、遅延 PTF を自動的に適用するためのものです。LIB パラメーターは、OS/400 プログラムではサポートされません。
BGNBAS	X	STRBAS	
BGNCMTCTL	X	STRCMTCTL	
BGNIWSSRV			BGNIWSSRV コマンドは、APPN/ICF サポートに置き換わります。EXITPGM キーワードは、ネットワーク属性の PCSACC に置き換わります。
BGNPASTHR	X	STRPASTHR	OS/400 プログラムでは、MODE,RMTLOCNAME,LCLLOCNAME、および RMTNETID のパラメーターが新しく加わります。OS/400 プログラムでは、STRPASTHR コマンドの MODE パラメーターの省略値は *NETATR になります。システム/38 環境では、BGNPASTHR コマンドは、各装置の最初のモードを使用します。VRTCTLU パラメーターは、OS/400 プログラムでは、VRTCTL に変更されます。VRTCTL および VRTDEV パラメーターは、OS/400 プログラムでは指定する必要がありません（これらのパラメーターのうちの 1 つは引き続き指定することができます）。 OS/400 のコマンドでは、新しいパラメーターの RMTUSER, RMPWD, RMTINLPGM, RMTINLMNU, RMTCURLIB、および PASTHRSCN がサポートされます。
BRWPFM	X	DSPPFM	
CALL	X	X	
CFGDSTSRV	X	X	システム/38 環境のコマンドでは NDEID パラメーターは無視され、OS/400 のコマンドではサポートされません。
CHGACGCDE	X	X	
CHGAJE	X	X	
CHGBSCF	X		混合、通信、BSC ファイルは、OS/400 プログラムでは、ICF ファイルに置き換わります。CHGICFF と CHGICFDEVE の両方のコマンドが必要です。4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。
CHGCMD	X	X	OS/400 プログラム・バージョンのコマンドでは、新しいパラメーターの ALWLMTUSR,CURLIB、および PRDLIB がサポートされます。 CHGCMD コマンドを使用して、QSYS38 または QUSER38 のコマンドを変更したい場合には、それぞれ QSYS38 または QUSER38 ライブラリーを明示的に指定しなければなりません。
CHGCMDDFT	X	X	システム/38 環境のコマンドを変更するには、コマンドを修飾しなければなりません（たとえば QSYS38/CHGJOB）。
CHGCMNE	X	X	システム/38 環境では DEV パラメーターは変更されます。OS/400 プログラムでは RMTLOCNAME パラメーターが追加されます。
CHGCMNF	X		混合、通信、BSC ファイルは、OS/400 プログラムでは、ICF ファイルに置き換わります。CHGICFF と CHGICFDEVE の両方のコマンドが必要です。4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。
CHGCNPA			CSNAP 機能は、OS/400 プログラムには存在しません。同様の機能は、装置構成の THRESHOLD パラメーターによってある程度処理できます。
CHGCRDF			カード装置は AS/400 システムではサポートされません。

図 A-1 (3/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
CHGCUD			装置構成コマンドの CHG が変更されました。CHGCTLxxxx を使用しますが、xxxx は制御装置のクラス、またはタイプを示します。たとえば、APPC には CHGCTLAPPC を使用します。2-7ページの『装置構成』を参照してください。
CHGDBG	X	X	
CHGDDMF	X	X	OS/400 プログラムでは、MODE パラメーターの値 *FIRST は *NETATR に変更されます。OS/400 プログラムでは、MODE パラメーターの値 *BLANK は BLANK に変更されます。 4-6ページの『分散データ管理機能 (DDM)』の DDM ファイルの説明を参照してください。
CHGDEVD			装置構成コマンドの CHG が変更されました。CHGDEVxxxx を使用しますが、xxxx は装置クラスまたはタイプを示します。たとえば、印刷装置には CHGDEVPRT を使用します。2-7ページの『装置構成』を参照してください。
CHGDEVMODE			装置モード機能が変更されました。装置モードの新しいオブジェクト・タイプがあります。2-7ページの『装置構成』を参照してください。
CHGDFUDEF	X		システム/38 の DFU プロダクトは、システム/38 環境でのみ使用できます。第4章の DFU/38 の説明を参照してください。
CHGDKTF	X	X	システム/38 環境では LOC パラメーターは無視され、OS/400 コマンドではサポートされません。システム/38 環境での QDKT 装置記述の必要性については、2-10ページの『ディスクット』を参照してください。 OS/400 プログラムでは、OUTPTY と USRDTA パラメーターが新しく加わります。
CHGDOCOWN		CHGDLOWN	文書は、オブジェクト・タイプの *DOC に同様に記憶されます。フォルダーの新しいオブジェクト・タイプ (*FLR) により、文書のみを対象にしていたいくつかのコマンドが、文書とフォルダーの両方に機能するようになります。 DOC パラメーターは、OS/400 プログラムでは DLO に変更されます。DLO は文書ライブラリー・オブジェクトの省略形で、両方のタイプをカバーします。
CHGDSPF	X	X	
CHGDTA	X		システム/38 の DFU プロダクトは、システム/38 環境でのみ使用できます。第4章の DFU/38 の説明を参照してください。 システム/38 の IDU プロダクトの CHGDTA コマンドは、システム/38 環境でサポートされます。OS/400 の CHGDTA コマンドは、OS/400 の DFU に対応しています。この 2 つは同じ機能ではありません。OS/400 プログラムで CHGDTA を使用すると、AS/400 の DFU オブジェクトを探すこととなります。第2章および第4章の DFU に関する説明を参照してください。
CHGDTAARA	X	X	
CHGFCT	X	X	
CHGFCTE	X	X	システム/38 環境では STACKER および PRTIMG パラメーターは無視され、OS/400 プログラムではサポートされません。
CHGGRPA	X	X	
CHGHLLPTR	X	X	OS/400 プログラムでは、INVLVL パラメーターの名前は RCRLVL に変更されます。

図 A-1 (4/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
CHGJOB	X	X	システム/38 環境の CHGJOB は変更されません。OS/400 プログラムの CHGJOB は、PRTDEV,DATFMT, および DATSEP のための新しいキーワードをサポートします。キーワードの EXCPTY は RUNPTY に変更されます。OUTQ パラメーターの値として、*DEV および *USRPRF が新しくサポートされます。JOBPTY パラメーターには 0 も指定できます。
CHGJOBDD	X	X	OS/400 プログラムのジョブ記述オブジェクトが変更されました。新しいパラメーターの PRTDEV があります。CNLSEV パラメーターの名前は、ENDSEV に変更されます。OUTQ パラメーターの値には、新しい値の *DEV および *USRPRF がサポートされます。
CHGJOBQE	X	X	ジョブ待ち行列が変更されて、OS/400 プログラムで新しいパラメーターの MAXPTYn を指定することができます。
CHGJRN	X	X	
CHGKBDMAP	X	X	OS/400 の PFnn から PA2PFnn までのキーワードの値が *CFnn から *Fnn に変更されます。
CHGLF	X	X	RECOVER パラメーターの値が、OS/400 のコマンドで変更されました。*AFTSTRCPF が *AFTIPL,*STRCPF が *IPL になります。
CHGLFM	X	X	
CHGLIB	X	X	
CHGLIND			装置構成コマンドの CHG が変更されました。CHGLINxxxx を使用しますが、xxxx は回線クラスまたはタイプを示します。たとえば、トークンリング・ネットワークには CHGLINTRN を使用します。2-7ページの『装置構成』を参照してください。
CHGMSGD	X	X	システム/38 環境では PDPCODE および LOG パラメーターは無視され、OS/400 プログラムではコマンドから除去されます。OS/400 コマンドは、LOGPRB パラメーターをサポートします。ALRID キーワードは、OS/400 プログラムでは ALROPT という名前に変更されました。このキーワードの値は、どちらの環境でも変更されています。SECLVL キーワードは、OS/400 プログラムでは最大 3000 文字（システム/38 環境では 1435 文字）をサポートします。どちらの環境でも、様式設定を行うための特殊制御文字をメッセージ・テキストに入れることができます。
CHGMSGQ	X	X	
CHGMSTK	X	X	
CHGMXDF	X		混合、通信、BSC ファイルは、OS/400 プログラムでは、ICF ファイルに置き換わります。4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。
CHGNETA	X	X	2-23ページの『ネットワーク属性』の説明を参照してください。警報ネットワーク属性は大幅に変更されました。OS/400 コマンドからしかアクセスできない新しい属性があります。 SYSNAM パラメーターは、OS/400 プログラムでは SYSNAME になります。
CHGNETJOBE	X	X	
CHGOBJD	X	X	オブジェクト・タイプの新しい値（たとえば *MENU など）が、OS/400 コマンドで有効になります。新しい値は、システム/38 環境のコマンドには有効ではありません。
CHGOBJOWN	X	X	オブジェクト・タイプの新しい値（たとえば *MENU など）が、OS/400 コマンドで有効になります。新しい値は、システム/38 環境のコマンドには有効ではありません。
CHGOUTQ	X	X	OS/400 プログラムでは、新しい AUTCHK キーワードがサポートされます。

図 A-1 (5/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
CHGPF	X	X	OS/400 コマンドでは、RECOVER パラメーターの値が変更されました。 *AFTSTRCPF が *AFTIPL,*STRCPF が *IPL になります。
CHGPFM	X	X	
CHGPGM	X	X	新しいパラメーターの RMVOBS が、OS/400 プログラムに追加されました。
CHGPGMVAR	X	X	OS/400 プログラムでは、INVLVL パラメーターの名前は RCRLVL に変更されます。
CHGPRTF	X	X	パラメーター TRNTBL および PRTIMG は、システム/38 環境のコマンドでは無視されます。これらのパラメーターは、OS/400 コマンドではサポートされません。 システム/38 のパラメーター FORMSIZE の名前は、OS/400 コマンドでは PAGESIZE に変更されます。 OS/400 コマンドでは、次のパラメーターにも変更がありました。 <ul style="list-style-type: none"> • DEV は、新しい値の *SYSVAL および *JOB をサポートします。 *NONE は使用できません。 • PRTQLTY は、新しい値の *DEVD をサポートします。 • FONT は新しい値の *CPI をサポートします。 • COPIES は、最大 255 のコピー (99 に代わって) をサポートします。 • 漢字印刷装置でのみ、CPI,IGCCPI, および LPI パラメーターに新しい値がサポートされます。 OS/400 プログラムでは、新しいパラメーターの DUPLEX,JUSTIFY,OUTPTY, および USRDTA がサポートされます。 OS/400 プログラムでは、システム/38 の DRAWER (3) の値が DRAWER (*E1) に置き換わり、DRAWER (3) は 3 番目の用紙入れを選択するために使用されます。
CHGPTR	X	X	オブジェクト・タイプの新しい値 (たとえば *MENU など) が、OS/400 コマンドで有効になります。新しい値は、システム/38 環境のコマンドには有効ではありません。 OS/400 プログラムでは、INVLVL パラメーターの名前は RCRLVL に変更されます。
CHGQRYDEF	X		システム/38 の QUERY プロダクトは、システム/38 環境でのみサポートされます。4-17ページの『QUERY』を参照してください。
CHGRJECMNE	X	X	
CHGRJERDRE	X	X	
CHGRJEWTR	X	X	
CHGRPYLE	X	X	
CHGRTGE	X	X	
CHGSAVF	X	X	
CHGSBSD	X	X	プール・サイズの最小値は、システム/38 の場合の 16K ではなく、32K になります。

図 A-1 (6/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
CHGSPLFA	X	X	<p>パラメーター TRNTBL および PRTIMG は、システム/38 環境のコマンドでは無視されます。これらのパラメーターは、OS/400 のコマンドではサポートされません。</p> <p>OS/400 のコマンドは、新しいキーワードの SELECT, DEV, PRTSEQ, OUTPTY, USRDTA, および ALIGN をサポートします。新しいキーワードと値の OUTQ (*DEV) ,FILE (*SELECT) , および PRTQLTY (*DEV) がサポートされます。</p> <p>新しいパラメーターの DUPLEX が、OS/400 プログラムで追加されます。</p>
CHGSRCPF	X	X	<p>RECOVER パラメーターの値は、OS/400 のコマンドでは変更されました。 *AFTSTRCPF が *AFTIPL,*STRCPF が *IPL になります。</p>
CHGSSND	X	X	
CHGSSNMAX	X	X	<p>OS/400 プログラムには、新しいパラメーターの RMTLOCNAME, LLCLOCNAME, および RMTNETID があります。OS/400 プログラムでは必須ではありませんが、MODE パラメーターは *NETATR に、DEV パラメーターは *LOC に省略時設定されます。</p>
CHGSTGCFG			<p>構成作業は、DST により専用方式で行われます。2-2ページの『チェックサム』を参照してください。</p>
CHGYSLIBL	X	X	
CHGYSVAL	X	X	<p>システム値のリストが変更されました。システム/38 の値には、削除されたものも定義が変更されたものもあり、新しく追加されたシステム値もあります。OS/400 のコマンドだけが、この新しいシステム値にアクセスできます。システム値の詳細については、2-58ページの『システム値』および AS/400 実行管理の手続きを参照してください。</p>
CHGTAPF	X	X	<p>OS/400 コマンドの DENSITY パラメーターの省略時値は、1600 から *DEVTYPE に変更されました。新しい密度の値がサポートされます。ただし、DENSITY パラメーターの値 800 はサポートされません。</p> <p>OS/400 プログラムでは、SEQNBR の新しい値として *END および *NEXT がサポートされます。</p> <p>OS/400 プログラムでは、新しいパラメーターの USRLBLPGM がサポートされます。</p>
CHGUSRPRF	X	X	<p>OS/400 のコマンドでは新しいキーワードと値が使用されます。2-38ページの『機密保護』を参照してください。</p> <p>GRPAUT の値 *NORMAL は、OS/400 プログラムでは *CHANGE に変更されます。</p> <p>OS/400 プログラムでは、新しいパラメーターがサポートされます。</p>
CHGVAR	X	X	
CHGWSE	X	X	<p>WRKSTNTYPE の有効な値はシステム/38 とは異なります。</p>
CHGWTR	X	X	<p>OS/400 の CHGWTR コマンドに、FILESEP パラメーター、および OUTQ (*DEV) ,FORMTYPE (*FORMS) , および WTR (*SYSVAL) の値が追加されます。</p>
CHGXDMNK	X	CHGCRSDMNK	

図 A-1 (7/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
CHKDKT	X	X	システム/38 環境では LOC パラメーターは無視され、OS/400 コマンドではサポートされません。*LOC は、システム/38 環境の VOL パラメーターでは *MOUNTED として扱われます。OS/400 プログラムでは、VOL パラメーターの値として *LOC をサポートしません。システム/38 環境での QDKT 装置記述の必要性については、2-10ページの『ディスクット』を参照してください。 システム/38 環境の DEV パラメーターは QDKT に省略時設定されます。OS/400 の DEV パラメーターの値は、ユーザーが指定する必要があります。
CHKIGCTBL	X	X	
CHKOBJ	X	X	オブジェクト・タイプの新しい値 (たとえば *MENU) が OS/400 のコマンドで有効になります。新しい値は、システム/38 環境のコマンドでは無効です。AUT キーワードは *OPER から *USE に、*NORMAL は *CHANGE に変更されました。
CHKTAP	X	X	OS/400 プログラムの CHKTAP は、SEQNBR の新しい値として *NEXT および *FIRST をサポートします。
CLCSTGCFG			記憶域構成コマンドは AS/400 システムでは作動しません。計算機能は DST または SST により使用することができます。2-2ページの『チェックサム』を参照してください。
CLNPRT			CLNPRT コマンドはサポートされません。このコマンドは、システム/38 でシステムに接続された印刷装置だけを参照します。AS/400 システムでは、ワークステーションに接続された印刷装置しか使用できません。
CLOF	X	X	
CLRDKT	X	X	システム/38 環境では LOC パラメーターは無視され、OS/400 コマンドではサポートされません。*LOC は、システム/38 環境の VOL パラメーターでは *MOUNTED として扱われます。OS/400 プログラムの VOL パラメーターの値として *LOC をサポートしません。システム/38 環境での QDKT 装置記述の必要性については、2-10ページの『ディスクット』を参照してください。 システム/38 環境の DEV パラメーターは QDKT に省略時設定されます。OS/400 の DEV パラメーターの値は、ユーザーが指定する必要があります。OS/400 プログラムでは SUFFIX パラメーターはサポートされません。
CLRJOBQ	X	X	
CLRLIB	X	X	
CLROUTQ	X	X	
CLRPFM	X	X	
CLRSVAVF	X	X	
CLRTRCDTA	X	X	
CMPJRNIMG	X	X	
CNLJOB	X	ENDJOB	システム/38 環境のコマンド CNLJOB は、OS/400 のコマンドの ENDJOB になります。ENDJOB という名前のシステム/38 環境のコマンドがありますが、これは、AS/400 システムでは ENDBCHJOB になります。
CNLJOBABN	X	ENDJOBABN	
CNLNETF	X	DLTNETF	
CNLRCV	X	ENDRCV	
CNLRDR	X	ENDRDR	
CNLRJERDR	X	X	動詞の CNL は、OS/400 プログラムでも、システム/370 の用語と同様に使用されます。

図 A-1 (8/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
CNLRJEWTR	X	X	動詞の CNL は、OS/400 プログラムでも、システム/370 の用語と同様に使用されます。
CNLRQS	X	ENDRQS	
CNLSPLF	X	DLTSPLF	OS/400 のプログラムでは、SELECT パラメーターが追加され、FILE (*SELECT) がサポートされます。
CNLWTR	X	ENDWTR	OS/400 プログラムでは、WTR (*ALL) および WTR (*SYSVAL) が追加されます。
COMMIT	X	X	
CPHDTA	X	X	
CPYF	X	X	<p>PRTFMT キーワードの名前は、OS/400 プログラムでは OUTFMT に変更されます。TOFILE の値の *LIST は、*PRINT に変更されました。</p> <p>漢字フィールドの FMTOPT (*MAP) の結果が変更されました。これらのフィールドの詳細については、2-4ページの『ファイル・コピー (CPYF)』を参照してください。</p> <p>DDM ファイルは、FROMFILE および TOFILE として指定することができます。ファイル・コピーにより、DDM を使用して遠隔ファイルを作成することができます。</p>
CPYFRMDKT	X	X	<p>システム/38 環境では FROMLOC パラメーターは無視され、OS/400 コマンドではサポートされません。システム/38 環境での QDKT 装置記述の必要性については、2-10ページの『ディスクット』を参照してください。</p> <p>OS/400 プログラムには新しいパラメーターの FROMDEV があります。</p> <p>PRTFMT キーワードの名前は、OS/400 プログラムでは OUTFMT に変更されます。TOFILE の値の *LIST は、*PRINT に変更されました。</p>
CPYFRMTAP	X	X	<p>PRTFMT キーワードの名前は、OS/400 プログラムでは OUTFMT に変更されます。TOFILE の値の *LIST は、*PRINT に変更されました。</p> <p>OS/400 プログラムの FROMSEQNBR は、新しい値の *NEXT をサポートします。</p>
CPYFRMVDSK		CPYFRMPCD	フォルダー・サポートに置き換わります。
CPYIGCTBL	X	X	システム/38 環境では LOC パラメーターは無視され、OS/400 コマンドではサポートされません。システム/38 環境での QDKT 装置記述の必要性については、2-10ページの『ディスクット』を参照してください。
CPYSPLF	X	X	OS/400 の CPYSPLF コマンドは、新しいキーワードと値の CTLCHAR (*S36FMT) をサポートします。
CPYSRCF	X	X	<p>TOFILE の値の *LIST は、*PRINT に変更されました。</p> <p>DDM ファイルは、FROMFILE および TOFILE として指定することができます。</p>
CPYTODKT	X	X	<p>TOLOC パラメーターは、システム/38 環境では無視され、OS/400 のコマンドではサポートされません。システム/38 環境での QDKT 装置記述の必要性については、2-10ページの『ディスクット』を参照してください。</p> <p>OS/400 のプログラムには、新しい値の TODEV があります。</p>
CPYTOTAP	X	X	<p>TORCDLEN パラメーターの省略値は、*TAPF から *FROMFILE に変更されました。</p> <p>OS/400 プログラムの TOSEQNBR は、新しい値の *END をサポートします。</p>
CPYTOVDSK		CPYTOPCD	フォルダー・サポートに置き換わります。

図 A-1 (9/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
CRTBASPGM	X	X	<p>OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。</p> <p>REPLACE オプションがサポートされ、OS/400 コマンドの省略時値は *YES になります。REPLACE (*NO) の機能が、システム/38 環境のコマンドによって、暗黙指定で要求されます。</p> <p>OS/400 プログラムの OPTION パラメーターは、第 2 レベル・メッセージ・テキストを印刷するかどうかを選択するための新しい値をサポートします。</p>
CRTBSCF	X		<p>混合、通信、BSC ファイルは、OS/400 プログラムでは、ICF ファイルに置き換わります。CRTICFF および ADDICFDEVE の両方のコマンドが必要です。4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。</p>
CRTCBLPGM	X	X	<p>OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。</p> <p>REPLACE オプションがサポートされ、OS/400 コマンドの省略時値は *YES になります。REPLACE (*NO) の機能が、システム/38 環境のコマンドによって、暗黙指定で要求されます。</p> <p>OS/400 プログラムの OPTION パラメーターは、第 2 レベル・メッセージ・テキストを印刷するかどうかを選択するための新しい値をサポートします。</p> <p>OS/400 プログラムの FIPS パラメーターは FLAGSTD に変更され、その値も新しい FIPS の 1986 基準に従った値に変更されました。</p> <p>OS/400 プログラムでは、新しいパラメーターの TGTRLS がサポートされます。</p>
CRTCLPGM	X	X	<p>OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。</p> <p>REPLACE オプションがサポートされ、OS/400 コマンドでは *YES に省略時設定されます。REPLACE (*NO) の機能が、システム/38 環境のコマンドによって、暗黙指定で要求されます。</p> <p>OS/400 プログラムの OPTION パラメーターは、第 2 レベル・メッセージ・テキストを印刷するかどうかを選択するための新しい値をサポートします。</p> <p>OS/400 プログラムでは、新しいパラメーターの TGTRLS がサポートされます。</p>
CRTCLS	X	X	<p>OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。</p> <p>OS/400 コマンドの DFTWAIT の CLASS オブジェクトの省略時値が、120 から 30 に変更されます。OS/400 プログラムでは、EXCPTY キーワードの名前が RUNPTY に変更されます。</p>

図 A-1 (10/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
CRTCMD	X	X	<p>OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。</p> <p>OS/400 プログラムのバージョンのコマンドは、新しいパラメーターの ALWLMTUSR,CURLIB, および PRDLIB をサポートします。</p> <p>CRTCMD コマンドを使用して QSYS38 または QUSER38 のコマンドを作成したい場合は、QSYS38 または QUSER38 ライブラリーを明示的に指定しなければなりません。</p>
CRTC MNF	X		<p>混合、通信、BSC ファイルは、OS/400 プログラムでは、ICF ファイルに置き換わります。CRTICFF および ADDICFDEVE の両方のコマンドが必要です。4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。</p>
CRTC RDF			<p>カード装置は AS/400 システムではサポートされません。</p>
CRTC UD			<p>装置構成コマンドの CRT が変更されました。CRTCTLxxxx を使用しますが、xxxx は制御装置クラスまたはタイプを示します。たとえば、APPC には CRTCTLAPPC を使用します。2-7ページの『装置構成』を参照してください。</p>
CRTDDMF	X	X	<p>4-6ページの『分散データ管理機能 (DDM)』の DDM ファイルの説明を参照してください。</p> <p>OS/400 プログラムでは、MODE パラメーターの値 *FIRST は *NETATR に変更されます。OS/400 プログラムでは、MODE パラメーターの値 *BLANK は BLANK に変更されます。</p> <p>OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。</p>
CRTDEVD			<p>装置構成コマンドの CRT が変更されました。CRTDEVXXXX を使用しますが、XXXX は装置クラスまたはタイプを示します。たとえば、印刷装置には CRTDEVPRPT を使用します。2-7ページの『装置構成』を参照してください。</p>
CRTDFUAPP	X		<p>システム/38 の DFU プロダクトは、システム/38 環境でのみ使用できます。4-17ページの『データ・ファイル・ユーティリティ (DFU)』を参照してください。</p>
CRTDFUDEF	X		<p>システム/38 の DFU プロダクトは、システム/38 環境でのみ使用できます。4-17ページの『データ・ファイル・ユーティリティ (DFU)』を参照してください。</p>

図 A-1 (11/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記									
CRTDKTF	X	X	<p>システム/38 環境では LOC パラメーターは無視され、OS/400 コマンドではサポートされません。システム/38 環境での QDKT 装置記述の必要性については、2-10ページの『ディスクット』を参照してください。</p> <p>OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。</p> <p>次の省略時値が変更されました。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>キーワード</th> <th>システム/38 環境の省略時値</th> <th>OS/400 プログラムの省略時値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MAXRCDS</td> <td>20000</td> <td>100000</td> </tr> <tr> <td>SCHEDULE</td> <td>*JOBEND</td> <td>*FILEEND</td> </tr> </tbody> </table> <p>OS/400 プログラムでは、OUTPTY と USRDTA パラメーターが新しく加わります。</p>	キーワード	システム/38 環境の省略時値	OS/400 プログラムの省略時値	MAXRCDS	20000	100000	SCHEDULE	*JOBEND	*FILEEND
キーワード	システム/38 環境の省略時値	OS/400 プログラムの省略時値										
MAXRCDS	20000	100000										
SCHEDULE	*JOBEND	*FILEEND										
CRTDSPF	X	X	<p>OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。</p> <p>OS/400 プログラムの OPTION パラメーターは、第 2 レベル・メッセージ・テキストを印刷するかどうかを選択するための新しい値をサポートします。</p>									
CRTDTAARA	X	X	<p>OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。</p>									
CRTDTAQ	X	X	<p>OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。</p>									
CRTDUPOBJ	X	X	<p>オブジェクト・タイプの新しい値（たとえば *MENU）が OS/400 のコマンドで有効になります。新しい値は、システム/38 環境のコマンドでは無効です。*SPADCT オブジェクト・タイプは、システム/38 環境でも OS/400 プログラムでもサポートされません。</p> <p>システム/38 環境では、オブジェクト・タイプの *PRTIMG を指定してもサポートされません。これは、原始仕様をシステム/38 に移動するためのものです。OS/400 プログラムではオブジェクト・タイプの *PRTIMG は指定できません。</p>									
CRTEDTD	X	X	<p>OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。</p>									
CRTFCT	X	X	<p>OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。</p>									
CRTGSS	X	X	<p>OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。</p>									

図 A-1 (12/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境 での実行	OS/400 の 新しい コマンド	注記
CRTIGCDCT	X	X	OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。
CRTJOB D	X	X	OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。 次のパラメーターの省略時値は、OS/400 プログラムでは変更されません。 LOG(4 0 *NOLIST) RTGDTA(QCMDI) OUTQ(*USRPRF) OS/400 プログラムでは、新しいパラメーターの PRTDEV をサポートします。CNLSEV パラメーターは ENDSEV に変更され、OUTQ パラメーターの値には、新しい値の *DEV および *USRPRF がサポートされます。
CRTJOBQ	X	X	OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。新しいパラメーターの AUTCHK が追加されました。
CRTJRN	X	X	OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。
CRTJRNRCV	X	X	OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。
CRTL F	X	X	OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。 システム/38 環境では ACCPTHMBR パラメーターは無視され、OS/400 プログラムではサポートされません。 RECOVER パラメーターの値は、AS/400 のコマンドでは変更されました。*AFTSTRCPF が *AFTIPL,*STRCPF が *IPL になります。 OS/400 プログラムの OPTION パラメーターは、第 2 レベル・メッセージ・テキストを印刷するかどうかを選択するための新しい値をサポートします。 OS/400 プログラムでは、システムの場所を指定するための SYSTEM パラメーターが追加されました。
CRTL B	X	X	OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。
CRTLIND			装置構成コマンドの CRT が変更されました。CRTLINxxxx を使用しますが、xxxx は回線クラスまたはタイプを示します。たとえば、IBM トークンリング・ネットワークには CRTLINTRN を使用します。2-7ページの『装置構成』を参照してください。

図 A-1 (13/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
CRTMSGF	X	X	OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。
CRTMSGQ	X	X	OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。 SENDER パラメーターはシステム/38 環境では無視されます。すべてのメッセージ待ち行列は、SENDER (*JOB *PGM *DTS) として扱われます。このパラメーターは、OS/400 プログラムではサポートされません。 OS/400 プログラムでは、CRTMSGQ SIZE パラメーターは、(3 1 3) ではなく (3 1 *NOMAX) を省略時値として使用します。
CRTMXDF	X		混合、通信、BSC ファイルは、OS/400 プログラムでは、ICF ファイルに置き換わります。4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。
CRTOUTQ	X	X	OS/400 コマンドの CRTOUTQ JOBSEP の省略時値は、1 から 0 に、SEQ の省略時値は *JOBNBR から *FIFO に変更されます。 OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。新しいパラメーターの AUTCHK が追加されました。
CRTPF	X	X	OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。 RECOVER パラメーターの値は、OS/400 のコマンドでは変更されました。*AFTSTRCPF が *AFTIPL,*STRCPF が *IPL になります。 OS/400 プログラムでは、新しいパラメーターの ALWUPD,ALWDLT, および SYSTEM が追加されました。 OS/400 プログラムの OPTION パラメーターは、第 2 レベル・メッセージ・テキストを印刷するかどうかを選択するための新しい値をサポートします。
CRTPLIPGM	X	X	OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。 REPLACE オプションがサポートされ、OS/400 コマンドの省略時値には *YES が使用されます。REPLACE (*NO) の機能が、システム/38 環境のコマンドによって、暗黙指定で要求されます。 OS/400 プログラムの OPTION パラメーターは、第 2 レベル・メッセージ・テキストを印刷するかどうかを選択するための新しい値をサポートします。

図 A-1 (14/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記																		
CRTPRTF	X	X	<p>パラメーター TRNTBL および PRTIMG は、システム/38 環境のコマンドでは無視されます。これらのパラメーターは、OS/400 コマンドではサポートされません。</p> <p>OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。</p> <p>OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。</p> <p>システム/38 のパラメーター FORMSIZE の名前は、OS/400 のコマンドでは PAGESIZE に変更されました。</p> <p>CRT コマンドでは、次の省略時値が変更されました。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>キーワード</th> <th>システム/38 環境の省略時値</th> <th>OS/400 プログラムの省略時値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>DEV</td> <td>*NONE</td> <td>*JOB</td> </tr> <tr> <td>OUTQ</td> <td>*JOB</td> <td>*JOB</td> </tr> <tr> <td>FONT</td> <td>*DEVD</td> <td>*CPI</td> </tr> <tr> <td>MAXRCDS</td> <td>20000</td> <td>100000</td> </tr> <tr> <td>SCHEDULE</td> <td>*JOBEND</td> <td>*FILEEND</td> </tr> </tbody> </table> <p>OS/400 コマンドでは、次のパラメーターにも変更がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> DEV は、新しい値の *SYSVAL および *JOB をサポートします。 *NONE は使用できません。 PRTQLTY は、新しい値の *DEVD をサポートします。 FONT は新しい値の *CPI をサポートします。 COPIES は、最大 255 のコピー (99 に代わって) をサポートします。 漢字印刷装置でのみ、CPI,IGCCPI, および LPI パラメーターに新しい値がサポートされます。 <p>OS/400 プログラムでは、新しいパラメーターの DUPLEX,JUSTIFY,OUTPTY, および USRDTA がサポートされます。</p> <p>OS/400 プログラムの OPTION パラメーターは、第 2 レベル・メッセージ・テキストを印刷するかどうかを選択するための新しい値をサポートします。</p> <p>OS/400 プログラムでは、システム/38 の DRAWER (3) の値が DRAWER (*E1) に置き換わり、DRAWER (3) は 3 番目の用紙入れを選択するために使用されます。</p>	キーワード	システム/38 環境の省略時値	OS/400 プログラムの省略時値	DEV	*NONE	*JOB	OUTQ	*JOB	*JOB	FONT	*DEVD	*CPI	MAXRCDS	20000	100000	SCHEDULE	*JOBEND	*FILEEND
キーワード	システム/38 環境の省略時値	OS/400 プログラムの省略時値																			
DEV	*NONE	*JOB																			
OUTQ	*JOB	*JOB																			
FONT	*DEVD	*CPI																			
MAXRCDS	20000	100000																			
SCHEDULE	*JOBEND	*FILEEND																			
CRTPRTIMG			<p>このコマンドは、システム/38 でシステムに接続された印刷装置だけを参照します。AS/400 システムでは、ワークステーションに接続された印刷装置しか使用できません。</p>																		
CRTQRYAPP	X		<p>システム/38 の QUERY プロダクトは、システム/38 環境でのみサポートされます。4-17ページの『QUERY』を参照してください。</p>																		
CRTQRYDEF	X		<p>システム/38 の QUERY プロダクトは、システム/38 環境でのみサポートされます。4-17ページの『QUERY』を参照してください。</p>																		
CRTRJECFG	X	X																			

図 A-1 (15/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
CRTRPGPGM	X	X	<p>OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。</p> <p>REPLACE オプションがサポートされ、OS/400 コマンドでは *YES に省略時設定されます。REPLACE (*NO) の機能が、システム/38 環境のコマンドによって、暗黙指定で要求されます。</p> <p>OS/400 プログラムの OPTION パラメーターは、第 2 レベル・メッセージ・テキストを印刷するかどうかを選択するための新しい値をサポートします。</p> <p>OS/400 プログラムでは、新しいパラメーターの TGTRLS がサポートされます。</p>
CRTRPTPGM	X	X	<p>OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。</p> <p>REPLACE オプションがサポートされ、OS/400 コマンドでは *YES に省略時設定されます。REPLACE (*NO) の機能が、システム/38 環境のコマンドによって、暗黙指定で要求されます。</p> <p>OS/400 プログラムの OPTION パラメーターは、第 2 レベル・メッセージ・テキストを印刷するかどうかを選択するための新しい値をサポートします。</p>
CRTSAVF	X	X	<p>OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。</p>
CRTSBSD	X	X	<p>OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。</p> <p>プール・サイズの最小値は、システム/38 の場合の 16K ではなく、32K になります。</p>
CRTSPADCT	X	X	<p>OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。OS/400 のコマンドはシステム/38 のコマンドに似ています。DCT パラメーターは SPADCT に変更されました。2-64ページの『ディクショナリー (5714-DCT)』を参照してください。</p> <p>BASDCT パラメーターは、システム/38 環境および OS/400 プログラムでは BASEDCT に変更されます。</p> <p>CL (制御言語) 解説書に詳細が説明されています。DCT パラメーターは、OS/400 プログラムでは SPADCT に変更されます。</p>
CRTSRCPF	X	X	<p>OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。</p> <p>RECOVER パラメーターの値は、AS/400 のコマンドでは変更されました。*AFTSTRCPF が *AFTIPL,*STRCPF が *IPL になります。</p> <p>OS/400 プログラムでは、新しいパラメーターの ALWUPD,ALWDLT, および SYSTEM が追加されました。</p>

図 A-1 (16/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境 での実行	OS/400 の 新しい コマンド	注記
CRTSSND	X	X	OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。
CRTTAPF	X	X	OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。 OS/400 コマンドの DENSITY パラメーターの省略時値は、1600 から *DEVTYPE に変更されました。新しい密度の値がサポートされます。800 という値はサポートされません。 RCDBLKfmt パラメーターの省略時値が *F から *FB に変更されました。OS/400 プログラムでは、SEQNBR の新しい値として *END および *NEXT がサポートされます。
CRTTBL	X	X	OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。OS/400 プログラムの省略時のライブラリー修飾子は *CURLIB に変更されました。4-10ページの『ライブラリー』を参照してください。
CRTUSRPRF	X	X	システム/38 環境のパラメーターには、省略時値が AS/400 の値と異なるものがあります。OS/400 のコマンドには新しいキーワードと値があります。2-38ページの『機密保護』を参照してください。 OS/400 プログラムでは、PUBAUT キーワードは AUT に変更され、その値も変更されました。2-38ページの『機密保護』を参照してください。 OS/400 プログラムでは、新しいパラメーターがサポートされます。
CRTVDSK			フォルダー・サポートに置き換わります。
CVTDAT	X	X	OS/400 の CVTDAT コマンドは、FROMfmt,TOfmt, および TOSEP パラメーターの値として *JOB をサポートします。これは省略時値になります。4-2ページの『CL』を参照してください。
CVTTOVDSK			仮想ディスクはサポートされません。データはフォルダーの文書に変換しなければなりません。
DATA	X	X	
DCL	X	X	
DCLDTAARA	X		DCLDTAARA コマンドは、OS/400 プログラムではサポートされません。
DCLF	X	X	RTGDTA キーワードは、OS/400 プログラムではサポートされません。
DFNKBDMAP	X	SETKBDMAP	
DLCOBJ	X	X	オブジェクト・タイプの新しい値 (たとえば *MENU) が OS/400 のコマンドで有効になります。新しい値は、システム/38 環境のコマンドでは無効です。
DLTCHTFMT	X	X	
DLTCLS	X	X	
DLTCMD	X	X	DLTCMD コマンドを使用して、QSYS38 または QUSER38 のコマンドを削除したい場合は、QSYS38 または QUSER38 ライブラリーを明示的に指定しなければなりません。
DLTCUD	X	DLTCTLD	CUD パラメーターは、OS/400 プログラムでは CTLD になります。
DLTDEVD	X	X	

図 A-1 (17/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境 での実行	OS/400 の 新しい コマンド	注記
DLTDFUAPP	X		システム/38 の DFU プロダクトは、システム/38 環境でのみ使用できます。4-17ページの『データ・ファイル・ユーティリティ (DFU)』を参照してください。
DLTDKTLBL	X		システム/38 環境では LOC パラメーターは無視され、OS/400 コマンドではサポートされません。*LOC は、システム/38 環境では *MOUNTED として扱われます。OS/400 プログラムでは、TOVOL パラメーターの値として *LOC はサポートされません。システム/38 環境での QDKT 装置記述の必要性については、2-10ページの『ディスク』を参照してください。 システム/38 環境の DEV パラメーターは QDKT に省略時設定されます。OS/400 の DEV パラメーターの値は、ユーザーが指定する必要があります。OS/400 プログラムでは SUFFIX パラメーターはサポートされません。
DLTDOC		DLTDLO	文書は、オブジェクト・タイプの *DOC に同様に記憶されます。フォルダーの新しいオブジェクト・タイプ (*FLR) により、文書のみを対象としていたいくつかのコマンドが、文書とフォルダーの両方に機能するようになります。DOC パラメーターは、OS/400 プログラムでは DLO に変更されます。DLO は文書ライブラリー・オブジェクトの省略形で、両方のタイプをカバーします。OS/400 プログラムでは、PERIOD パラメーターは CRTDATE に変更されます。
DLTDOCL	X	X	
DLTDTAARA	X	X	
DLTDTAQ	X	X	
DLTEDTD	X	X	
DLTF	X	X	OS/400 プログラムでは、システムの場所を指定するための SYSTEM パラメーターが追加されました。
DLTFCT	X	X	
DLTGSS	X	X	
DLTIGCDCT	X	X	
DLTIGCTBL	X	X	
DLTJOB	X	X	
DLTJOBQ	X	X	
DLTJRN	X	X	
DLTJRNRCV	X	X	
DLTLIB	X	X	
DLTLIND	X	X	
DLTMSGF	X	X	
DLTMSGQ	X	X	
DLTOUTQ	X	X	
DLTOVR	X	X	OS/400 プログラムでは、FILE (*PRTF) がサポートされます。
DLTPGM	X	X	
DLTPRTIMG			このコマンドは、システム/38 でシステムに接続された印刷装置だけを参照しました。AS/400 システムでは、ワークステーションに接続された印刷装置しか使用できません。
DLTQRYAPP	X		システム/38 の QUERY プロダクトは、システム/38 環境でのみサポートされます。4-17ページの『QUERY』を参照してください。

図 A-1 (18/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
DLTRJECFG	X	X	
DLTSBSD	X	X	
DLTSPADCT	X	X	OS/400 のコマンド DLTSPADCT は、システム/38 のコマンドに似ています。DCT パラメーターは SPADCT に変更されました。2-64ページの『ディクショナリー (5714-DCT)』を参照してください。CL (制御言語) 解説書に詳細が説明されています。DCT パラメーターは、OS/400 プログラムでは SPADCT に変更されます。
DLTSSND	X	X	
DLTTBL	X	X	
DLTUSRPRF	X	X	
DLYJOB	X	X	
DMPCLPGM	X	X	
DMPJOB	X	X	
DMPJOBINT	X	X	
DMPOBJ	X	X	オブジェクト・タイプの新しい値 (たとえば *MENU) が OS/400 のコマンドで有効になります。新しい値は、システム/38 環境のコマンドでは無効です。 オブジェクト・タイプの *PRTIMG は、OS/400 プログラムではサポートされません。
DMPSYSOBJ	X	X	オブジェクト・タイプの新しい値 (たとえば *MENU) が OS/400 のコマンドで有効になります。新しい値は、システム/38 環境のコマンドでは無効です。
DMPTAP	X	X	
DO	X	X	
DSNAPF	X	STRAPF	
DSNDFUAPP	X		システム/38 の DFU プロダクトは、システム/38 環境でのみサポートされます。4-17ページの『データ・ファイル・ユーティリティ (DFU)』を参照してください。
DSNFMT	X	STRSDA	
DSNQRYAPP	X		システム/38 の QUERY プロダクトは、システム/38 環境でのみサポートされます。4-17ページの『QUERY』を参照してください。
DSPACC	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPACCAUT	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPACTJOB	X	WRKACTJOB	コマンド名は WRK に変更されましたが、機能は OS/400 プログラムの場合と同じです。OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPAUTUSR	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPBKP	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPCHLSTS			X.25 状況情報は、AS/400 システムでは利用できません。
DSPCHT	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。

図 A-1 (19/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
DSPCLS	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPCMD	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。 DSPCMD コマンドを使用して、QSYS38 または QUSER38 のコマンドを表示したい場合には、それぞれ QSYS38 または QUSER38 ライブラリーを明示的に指定しなければなりません。
DSPCNPA			CSNAP 機能は、AS/400 システムにはありません。同様の機能は、装置構成の THRESHOLD パラメーターによってある程度処理できます。
DSPCRPHLP			ヘルプ・サポートは、コマンドとしてではなく、機能キーによって使用できません。
DSPCTLSTS	X	WRKCFGSTS	WRKCFGSTS コマンドは DSPCTLSTS に置き換わります。この機能は、OUTPUT パラメーターがサポートされないという点を除いて、OS/400 プログラムでも同じです。CTLU パラメーターは、OS/400 プログラムでは CFGD に変更されます。 CFGTYPE パラメーターが OS/400 に新たに加わっており、必須です。
DSPCUD	X	DSPCTLD	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。CUD キーワードは、OS/400 プログラムでは CTLD に変更されます。
DSPDBG	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPDBR	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。 OUTPUT の値 *NONE は、AS/400 コマンドでは *OUTFILE に変更されます。OUTFILE の値 *NONE は、OS/400 プログラムではサポートされません。 OS/400 のコマンドは、OUTMBR パラメーターに新しいオプションが加わり、メンバーの追加や置換を行うことができます。システム/38 環境のコマンドは、暗黙指定で置換を行います。 OS/400 プログラムでは、システム/38 環境の *USRLIBL ではなく、*LIBL が省略時値として使用されます。
DSPDEVCFG			DSPDEVCFG コマンドは、AS/400 システムではサポートされません。これに代わる方法については、2-7ページの『装置構成』を参照してください。
DSPDEVD	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPDEVSTS	X	WRKCFGSTS	WRKCFGSTS コマンドは DSPDEVSTS に置き換わります。この機能は、OUTPUT パラメーターがサポートされないという点を除いて、OS/400 プログラムでも同じです。 CFGTYPE パラメーターが新しく加わっており、OS/400 プログラムでは必須です。DEV パラメーターは、OS/400 プログラムでは CFGD に変更されます。
DSPDIR		X	DSPDIR コマンドは、OS/400 プログラムでは、同じ名前の同様のコマンドに置き換わります。パラメーターが追加されています。システム/38 のプログラムに DSPDIR がある場合は、OS/400 プログラム・バージョンでは、DSPDIR.QSYS を指定し、プロンプトを要求しなければなりません。OUTPUT パラメーターの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されます。

図 A-1 (20/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
DSPDKT	X	X	<p>システム/38 環境では LOC パラメーターは無視され、OS/400 コマンドではサポートされません。システム/38 環境での QDKT 装置記述の必要性については、2-10ページの『ディスクット』を参照してください。</p> <p>システム/38 環境の DEV パラメーターは QDKT に省略時設定されます。OS/400 の DEV パラメーターの値は、ユーザーが指定する必要があります。</p> <p>OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。</p>
DSPDOCAUT		DSPUSRPMN	<p>OUTPUT パラメーターの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されます。</p>
DSPDSTLOG	X	X	<p>OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。</p> <p>システム/38 環境では ENTTYPE パラメーターの値 *NST がサポートされます。OS/400 プログラムでは *DSQ に変更されます。</p>
DSPDSTSRV	X	X	<p>OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。</p> <p>NDEID パラメーターは、システム/38 環境では無視され、OS/400 コマンドではサポートされません。</p>
DSPDSTSTS	X	WRKDSTQ	<p>コマンド名は WRK に変更されましたが、機能は OS/400 プログラムの場合と同じです。OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。</p> <p>NDEID パラメーターは、システム/38 環境では無視され、OS/400 コマンドではサポートされません。</p>
DSPDTA	X		<p>システム/38 の DFU プロダクトは、システム/38 環境でのみ使用できます。4-17ページの『データ・ファイル・ユーティリティ (DFU)』を参照してください。</p> <p>システム/38 の IDU プロダクトの DSPDTA コマンドは、システム/38 環境でサポートされます。OS/400 の DSPDTA コマンドは、OS/400 の DFU と対応しています。この 2 つは同じ機能ではありません。OS/400 プログラムで DSPDTA を使用すると、OS/400 の DFU オブジェクトが探索されます。2-65ページの『IDU - DFU (データ・ファイル・ユーティリティ) (5714-UT1)』および4-17ページの『データ・ファイル・ユーティリティ (DFU)』を参照してください。</p>
DSPDTAARA	X	X	<p>OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。</p>
DSPEDTD	X	X	<p>OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。</p>
DSPFCT	X	WRKFCT	<p>コマンド名は WRK に変更されましたが、機能は OS/400 プログラムの場合と同じです。OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。</p>

図 A-1 (21/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
DSPFD	X	X	<p>OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。</p> <p>カード装置は AS/400 システムではサポートされません。</p> <p>*CURLIB の値が、ライブラリー・パラメーターとして有効になります。</p> <p>OUTPUT の値 *NONE は、AS/400 コマンドでは *OUTFILE に変更されません。OUTFILE の値 *NONE は、OS/400 プログラムではサポートされません。</p> <p>OS/400 のコマンドは、OUTMBR パラメーターに新しいオプションが加わり、メンバーの追加や置換を行うことができます。システム/38 環境のコマンドは、暗黙指定で置換を行います。</p> <p>OS/400 プログラムでは、システム/38 環境の *USRLIBL ではなく、*LIBL が省略時値として使用されます。</p> <p>OS/400 のコマンドでは、ファイル属性 (FILEATR) キーワードに、新しい原始仕様とオブジェクト・タイプに対応する値が新たにサポートされます。</p> <p>フィールド値の中に変更されているものがあります。詳細については、2-5 ページの『相互参照』を参照してください。</p>
DSPFFD	X	X	<p>OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。</p> <p>OUTPUT の値 *NONE は、OS/400 コマンドでは *OUTFILE に変更されません。OUTFILE の値 *NONE は、OS/400 プログラムではサポートされません。</p> <p>*CURLIB の値が、ライブラリー・パラメーターとして有効になります。</p> <p>OS/400 のコマンドは、OUTMBR パラメーターに新しいオプションが加わり、メンバーの追加や置換を行うことができます。システム/38 環境のコマンドは、暗黙指定で置換を行います。</p> <p>OS/400 プログラムでは、システム/38 環境の *USRLIBL ではなく、*LIBL が省略時値として使用されます。</p>
DSPFNCHLP			ヘルプ・サポートは、コマンドとしてではなく、機能キーによって使用できます。
DSPGDF	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPIGDCT	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPJOB	X	X	<p>OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。</p> <p>システム/38 環境の DSPJOB は、システム/38 の場合と同じ機能を実行します（変更は可能です）。OS/400 プログラムでは、このコマンドは表示機能だけを実行します。新しいコマンドの WRKJOB は同じ機能を実行しますが、変更することもできます。</p>
DSPJOBBD	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPJOBLOG	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPJOBQ	X	WRKJOBQ	コマンド名は WRK に変更されましたが、機能は OS/400 プログラムの場合と同じです。OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。

図 A-1 (22/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
DSPJRN	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。システム/38 環境の OUTPUT (*NONE) は、OS/400 プログラムでは OUTPUT (*OUTFILE) に変更されます。OUTFILE の値 *NONE は、OS/400 プログラムではサポートされません。
DSPJRNA	X	WRKJRNA	コマンド名は WRK に変更されましたが、機能は OS/400 プログラムの場合と同じです。OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPJRNMNU	X	WRKJRN	コマンド名は WRK に変更されましたが、機能は OS/400 プログラムの場合と同じです。
DSPJRNRCVA	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPKBDMAP	X	X	
DSPLIB	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPLIBL	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPLIND	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPLINSTS	X	WRKCFGSTS	WRKCFGSTS コマンドが DSPLINSTS に置き換わります。この機能は、OUTPUT パラメーターがサポートされないという点を除いて、OS/400 プログラムでも同じです。
DSPLNKSTS			X.25 状況情報は、AS/400 システムでは利用できません。
DSPLOG	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。 DSPLOG コマンドは、QCHG および QSRV ログをサポートしません。2-19 ページの『ログ』を参照してください。
DSPMNU		GO	DSPMNU コマンドは、主に GO コマンドと CMDxxx メニューに置き換わります。OS/400 のコマンドのみがメニューに現われます。2-19 ページの『メニュー』を参照してください。
DSPMODSTS	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPMSG	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。 DSPMSG の省略時値では、ワークステーション・メッセージ待ち行列（メッセージがある場合）とユーザー・メッセージ待ち行列が表示されます。OS/400 のコマンドでは、MSGQ パラメーターの値として、*WRKUSR と *SYSOPR がサポートされます。
DSPMSGD	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。 MSGID キーワードは、OS/400 プログラムから除去されます。MSGF キーワードは、OS/400 プログラムでは、QCPFMSG に省略時設定されます。 OS/400 プログラムでは、DETAIL キーワードが追加されます。 OS/400 プログラムでは、MSGID パラメーターが除去されて、RANGE パラメーターの値に *ALL が追加されます。

図 A-1 (23/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
DSPMSGF	X	WRKMSGF	OUTPUT キーワードはサポートされません。 OS/400 コマンドの WRKMSGD の省略時値は QCPFMSG です。これは、システム/38 環境の DSPMSGF コマンドよりも多くのオプションをサポートしますが、これにはユーザーがメッセージ・ファイル名を指定する必要があります。
DSPNETA	X	X	2-23ページの『ネットワーク属性』の説明を参照してください。警報ネットワーク属性は大幅に変更されました。新しい属性のいくつかは、OS/400 コマンドからしかアクセスできません。 OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPNETF	X	WRKNETF	コマンド名は WRK に変更されましたが、機能は OS/400 プログラムの場合と同じです。OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。 OUTPUT の値 *NONE は、OS/400 コマンドでは *OUTFILE に変更されません。
DSPNETJOBE	X	WRKNETJOBE	コマンド名は WRK に変更されましたが、機能は OS/400 プログラムの場合と同じです。OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPOBJAUT	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。 オブジェクト・タイプの新しい値（たとえば *MENU）が OS/400 のコマンドで有効になります。新しい値は、システム/38 環境のコマンドでは無効です。 OS/400 プログラムでは、DSP コマンドは表示機能だけを実行します。変更を行うためには、EDTOBJAUT コマンドは使用しなければなりません。 OS/400 プログラムでは、出力ファイルのサポートが追加されます。
DSPOBJD	X	X	OUTPUT の値 *LIST は、OS/400 コマンドでは *PRINT に変更されます。 OUTPUT の値 *NONE は、OS/400 コマンドでは *OUTFILE に変更されます。これにより、システム/38 環境の同じコマンドでサポートされていた表示とファイル出力の両方が行われなくなります。 オブジェクト・タイプの新しい値（たとえば *MENU）が OS/400 のコマンドで有効になります。新しい値は、システム/38 環境のコマンドでは無効です。 OBJTYPE (*ALL) を指定すると、新しいオブジェクト・タイプが表示されません。 OS/400 プログラムでは、DSP コマンドは表示機能だけを実行します。変更を行うためには、WRKOBJ コマンドを使用しなければなりません。 OS/400 のコマンドは、OUTMBR パラメーターに新しいオプションが加わり、メンバーの追加や置換を行うことができます。システム/38 環境のコマンドは、暗黙指定で置換を行います。 OBJ のライブラリー修飾子は *LIBL です。 システム/38 環境では、オブジェクト・タイプの *PRTIMG を指定してもサポートされません。これは、原始仕様をシステム/38 に移すためのものです。 OS/400 プログラムではオブジェクト・タイプの *PRTIMG は指定できません。
DSPOBJLCK	X	WRKOBJLCK	コマンド名は WRK に変更されましたが、機能は OS/400 プログラムの場合と同じです。OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。 オブジェクト・タイプの新しい値（たとえば *MENU）が OS/400 のコマンドで有効になります。新しい値は、システム/38 環境のコマンドでは無効です。

図 A-1 (24/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
DSPOUTQ	X	WRKOUTQ	コマンド名は WRK に変更されましたが、機能は OS/400 プログラムの場合と同じです。OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPOUTQD	X	WRKOUTQD	コマンド名は WRK に変更されましたが、機能は OS/400 プログラムの場合と同じです。OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPOVR	X	X	OS/400 プログラムでは、INVNBR パラメーターの名前が LVL に変更され、パラメーター値の *CURRENT が * に変更されました。 OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPPGM	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPPGMADP	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。 OUTPUT の値 *NONE は、OS/400 コマンドでは *OUTFILE に変更されません。OUTFILE の値 *NONE は、OS/400 プログラムではサポートされません。
DSPPGMCHG		DSPPTF	新しいパラメーターの OUTFILE がサポートされます。OUTPUT の値 *LIST が、OS/400 プログラムでは *PRINT に変更されます。 OS/400 プログラムでは、新しいパラメーターの OUTMBR がサポートされません。LIB パラメーターは、OS/400 プログラムではサポートされません。PGMID パラメーターは、OS/400 プログラムでは LICPGM に変更されます。
DSPPGMMNU	X	STRPGMMNU	LOGRQS パラメーターは、システム/38 では無視されますが、ロギングは常に行われます。JOBID パラメーターの省略値は *USRPRF になります。メニューの操作に関するその他の変更については、2-28ページの『プログラマー・メニュー』を参照してください。
DSPPGMREF	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。 OUTPUT の値 *NONE は、OS/400 コマンドでは *OUTFILE に変更されません。OUTFILE の値 *NONE は、OS/400 プログラムではサポートされません。 OS/400 のコマンドは、OUTMBR パラメーターに新しいオプションが加わり、メンバーの追加や置換を行うことができます。システム/38 環境のコマンドは、暗黙指定で置換を行います。 OS/400 プログラムでは、システム/38 環境の *USRLIBL ではなく、*LIBL が省略値として使用されます。
DSPPGMVAR	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。 OS/400 プログラムでは、INVLVL パラメーターの名前は RCRLVL に変更されます。
DSPRCDLCK	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPRDR	X	WRKRDR	コマンド名は WRK に変更されましたが、機能は OS/400 プログラムの場合と同じです。OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPRJECFG	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。

図 A-1 (25/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
DSPRJESSN	X	WRKRJESSN	コマンド名は WRK に変更されましたが、機能は OS/400 プログラムの場合と同じです。OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPRPYL	X	WRKRPYLE	コマンド名は WRK に変更されましたが、機能は OS/400 プログラムの場合と同じです。OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPSAVF	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPSBMJOB	X	WRKSBMJOB	コマンド名は WRK に変更されましたが、機能は OS/400 プログラムの場合と同じです。OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。 OS/400 コマンドの SBMFROM の省略時値が *JOB から *USER に変更されます。
DSPSBS	X	WRKSBSJOB	コマンド名は WRK に変更されましたが、機能は OS/400 プログラムの場合と同じです。OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPSBSD	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPSPLF	X	X	
DSPSPLFA	X	WRKSPLFA	コマンド名は WRK に変更されましたが、機能は OS/400 プログラムの場合と同じです。OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPSRVSTS	X	X	
DSPSSND	X	WRKSSND	コマンド名は WRK に変更されましたが、機能は OS/400 プログラムの場合と同じです。OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPSTGCFG			表示機能は、DST または SST のいずれかによって使用可能です。2-2ページの『チェックサム』を参照してください。
DSPSYS	X	WRKSBS	コマンド名は WRK に変更されましたが、機能は OS/400 プログラムの場合と同じです。OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPSYSSTS	X	WRKSYSSTS	コマンド名は WRK に変更されましたが、機能は OS/400 プログラムの場合と同じです。OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPSYSVAL	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。 システム値のリストが変更されました。システム/38 の値には、削除されたものも定義が変更されたものもあり、新しく追加されたシステム値もあります。新しいシステム値には、OS/400 のコマンドだけがアクセスできます。2-58ページの『システム値』を参照してください。
DSPTAP	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPTRC	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。
DSPTRCDTA	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。

図 A-1 (26/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
DSPUSRPRF	X	X	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。 OS/400 プログラムには DSPUSRPRF コマンドがありますが、変更を行うための機能キーはありません。WRKUSRPRF コマンドを使用すると、類似の機能を実行することができます。 OS/400 プログラムでは、新しいパラメーターがサポートされます。
DSPUSRPWD			DSPUSRPWD は、パスワードが暗号化されていない場合にのみ有効であるため、AS/400 ではサポートされません。2-38 ページの『機密保護』を参照してください。
DSPWTR	X	WRKWTR	コマンド名は WRK に変更されましたが、機能は OS/400 プログラムの場合と同じです。OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。 OS/400 の WRKWTR コマンドは、新しいキーワードの DSPFMT をサポートし、WTR パラメーターは新しい値の *PRT をサポートします。
DUPDKT	X	X	TOLOC および FROMLOC パラメーターは、システム/38 環境では無視され、OS/400 のコマンドではサポートされません。FROMDEV, TODEV, および COPIES は、OS/400 プログラムの新しいキーワードです。RGZVOL だけが、OS/400 プログラムおよびシステム/38 環境のどちらでも変更されません。 システム/38 環境での QDKT 装置記述の必要性については、2-10 ページの『ディスクット』を参照してください。 システム/38 環境の DEV パラメーターは QDKT に省略時設定されます。OS/400 の DEV パラメーターの値は、ユーザーが指定する必要があります。
EDTDOC			システム/38 の EDTDOC コマンドは、システム/38 環境では実行されません。OS/400 プログラムにある同じ名前のコマンドは、オフィス編集プログラムにアクセスするためのものです。このコマンドのサポート方法については、2-67 ページの『テキスト管理 (5714-WP2)』を参照してください。
EDTIGCDCT	X	X	
EDTIGCTBL	X	STRCGU	
EDTSRC	X	STRSEU	
EDTTXT	X		このコマンドのサポート方法については、2-67 ページの『テキスト管理 (5714-WP2)』を参照してください。
EJTEMLOUT	X	X	OS/400 プログラムには、新しいパラメーターの EMLLOC と PRTDEV があります。
ELSE	X	X	
EMLPRTKEY	X	X	OS/400 プログラムには、新しいパラメーターの EMLLOC と PRTDEV があります。

図 A-1 (27/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記												
EML3270	X	STREML3270	<p>OS/400 プログラムでは、KBDTYP 項目が変更されました。2-12ページの『エミュレーション (3270)』を参照してください。次のキーワード名が変更されました。</p> <p>システム/38 環境 OS/400 のキーワード</p> <table> <tr><td>EMLCTLU</td><td>EMLCTL</td></tr> <tr><td>WAITHOST</td><td>INZWAIT</td></tr> <tr><td>KBDTYP</td><td>KBDTYPE</td></tr> <tr><td>ROLLUP</td><td>PAGEDOWN</td></tr> <tr><td>ROLLDOWN</td><td>PAGEUP</td></tr> <tr><td>WRKSTN</td><td>DSPDEV</td></tr> </table> <p>PAGEDOWN および PAGEUP キーワードの *PF1 から *PF24 の値が、OS/400 プログラムでは、*F1 から *F24 に変更されました。</p> <p>システム/38 環境の EML3270 コマンドが変更されました。KBDTYP パラメーターには、BLB,SFB, および SGB の値を指定することができません。これらの値は、次のキーボードから取り除かれます。</p> <p>BLB ベルギー国内特定コード・ページ</p> <p>SFB スイス (フランス語) 国内特定コード・ページ</p> <p>SGB スイス (ドイツ語) 国内特定コード・ページ</p>	EMLCTLU	EMLCTL	WAITHOST	INZWAIT	KBDTYP	KBDTYPE	ROLLUP	PAGEDOWN	ROLLDOWN	PAGEUP	WRKSTN	DSPDEV
EMLCTLU	EMLCTL														
WAITHOST	INZWAIT														
KBDTYP	KBDTYPE														
ROLLUP	PAGEDOWN														
ROLLDOWN	PAGEUP														
WRKSTN	DSPDEV														
ENCCPHK	X	X													
ENCFRMMSTK	X	X	<p>パラメーター名が次のように変更されました。</p> <p>システム/38 環境 OS/400 のキーワード</p> <table> <tr><td>XDMNK1</td><td>CRSDMNK1</td></tr> <tr><td>XDMNK2</td><td>CRSDMNK2</td></tr> </table>	XDMNK1	CRSDMNK1	XDMNK2	CRSDMNK2								
XDMNK1	CRSDMNK1														
XDMNK2	CRSDMNK2														
ENCTOMSTK	X	X	<p>パラメーター名が次のように変更されました。</p> <p>システム/38 環境 OS/400 のキーワード</p> <table> <tr><td>XDMNK</td><td>CRSDMNK</td></tr> </table>	XDMNK	CRSDMNK										
XDMNK	CRSDMNK														
ENDCBLDBG	X	X													
ENDCMTCTL	X	X													
ENDDBG	X	X													
ENDDO	X	X													
ENDINP	X	X													
ENDJOB	X	ENDBCHJOB	<p>OS/400 プログラムで ENDJOB を指定すると、システム/38 の CNLJOB 機能を使用されます。</p> <p>OS/400 コマンドの ENDBCHJOB では、パラメーター ADLINTJOBS がサポートされます。</p>												
ENDJRNAP	X	X													
ENDJRNPF	X	X													
ENDPASTHR	X	X													
ENDPGM	X	X													
ENDSRV	X	ENDSRVJOB													
ENTADM			管理機能は、AS/400 システムではサポートされません。												

図 A-1 (28/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境 での実行	OS/400 の 新しい コマンド	注記
ENTBGU	X	STRBGU	
ENTCBLDBG	X	STRCBLDBG	
ENTDBG	X	STRDBG	プログラムをデバッグするには、ユーザーに、システム/38 の読取り権ではなく、*CHANGE 権限が必要です。
ENTPS	X	STROFC	
EXCBASPRC	X	STRBASPRC	
FMTDTA	X	X	OS/400 プログラムの OPTION パラメーターは、第 2 レベル・メッセージ・テキストを印刷するかどうかを選択するための新しい値をサポートします。 OS/400 プログラムでは、省略時のライブラリー修飾子が CURLIB に変更されました。
FMTRJEDTA	X	CVTRJEDTA	
GENCPHK	X	X	パラメーター名が次のように変更されました。 システム/38 環境 OS/400 のキーワード SNDXDMNK SNDCRSDMNK RCVXDMNK RCVCRSDMNK
GENMAC	X	X	
GENPIN	X	X	
GENXDMNK	X	GENCRSDMNK	パラメーター名が次のように変更されました。 システム/38 環境 OS/400 のキーワード XDMNK CRSDMNK
GOTO	X	X	
GRTACCAUT	X	X	
GRTDOCAUT		GRTUSRPMN	
GRTOBJAUT	X	X	オブジェクト・タイプの新しい値 (たとえば *MENU) が OS/400 のコマンドで有効になります。新しい値は、システム/38 環境のコマンドでは無効です。 OS/400 プログラムでは、AUTL パラメーターが追加されます。 OS/400 プログラムでは、AUT パラメーターに新しい値が追加されます。2-38 ページの『機密保護』を参照してください。 システム/38 環境では、オブジェクト・タイプの *PRTIMG を指定してもサポートされません。これは、原始仕様をシステム/38 に移動するためのものです。OS/400 プログラムではオブジェクト・タイプの *PRTIMG は指定できません。
GRTUSRAUT	X	X	
HLDCMNDEV	X	X	
HLDJOB	X	X	
HLDJOBQ	X	X	
HLDOUTQ	X	X	
HLDRDR	X	X	
HLDSPLF	X	X	OS/400 プログラムでは、SELECT パラメーターが追加され、FILE (*SELECT) がサポートされます。
HLDWTR	X	X	

図 A-1 (29/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
IF	X	X	
INZDKT	X	X	システム/38 環境では LOC パラメーターは無視され、OS/400 コマンドではサポートされません。システム/38 環境での QDKT 装置記述の必要性については、2-10ページの『ディスクレット』を参照してください。 システム/38 環境の DEV パラメーターは QDKT に省略時設定されます。OS/400 の DEV パラメーターの値は、ユーザーが指定する必要があります。OS/400 プログラムでは SUFFIX パラメーターはサポートされません。
INZPFM	X	X	
INZTAP	X	X	システム/38 で指定できるテープ密度は、システム/38 環境でもサポートされます。OS/400 プログラムでは、省略時値は *DEVTYPE であり、AS/400 の密度がサポートされます。
JOB	X	BCHJOB	システム/38 とシステム/38 環境では、RTGDTA パラメーターに相違があります。システム/38 での省略時値は *JOBID です。システム/38 環境での省略時値は QCMD38 です。OS/400 プログラムでの省略時値は QCMDDB です。 OS/400 の BCHJOB コマンドは、新しいキーワードの PRTDEV,DATFMT、および DATSEP をサポートします。CNLSEV パラメーターの名前は ENDSEV に変更されました。OUTQ パラメーターの値として、*DEV および *USRPRF が新しくサポートされます。
JRNAP	X	STRJRNAP	
JRNPF	X	STRJRNPF	
LODPGMCHG		LODPTF	VOL および LOC パラメーターはサポートされません。DEV パラメーターは、PTF ロード用の媒体のタイプを指定するために使用されるようになります。PTF は、テープまたはディスクレット、保管ファイルに保存されている場合もあれば、電子的に受け取る場合もあります。PGMID パラメーターは、OS/400 プログラムでは LICPGM に変更されます。LIB パラメーターは、OS/400 プログラムではサポートされません。
LSTCMDUSG	X	PRTCMDUSG	
LSTCNPDTA			CSNAP 機能は、AS/400 システムにはありません。同様の機能は、装置構成の THRESHOLD パラメーターによってある程度処理できます。
LSTCNPBST			CSNAP 機能は、AS/400 システムにはありません。同様の機能は、装置構成の THRESHOLD パラメーターによってある程度処理できます。
LSTERRLOG		PRTERRLOG	この機能は PRTERRLOG コマンドに置き換わります。これは、LSTERRLOG に似ていますが、新たに ERRLOGID および RSRNAME パラメーターをサポートします。TYPE パラメーターの値は、OS/400 プログラムでは、*VSDR から *VOLSTAT に変更されます。VSDR パラメーターは、OS/400 プログラムでは VOLSTAT に変更されます。
LSTINTDTA	X	PRTINTDTA	TYPE (*ECLOG) の機能はサポートされません。TYPE (*MTR) は、OS/400 プログラムでは TYPE (*INTCFG) に変更されました。
MNGDEVTBL	X	WRKDEVTBL	
MNGDIR		WRKDIR	WRKDIR および WRKSTL コマンドには、パラメーターが追加されていません。
MNGSTL		WRKSTL	WRKDIR および WRKSTL コマンドには、パラメーターが追加されていません。
MNGPGMTBL	X	WRKPGMTBL	
MNGUSRTBL	X	WRKUSRTBL	
MONMSG	X	X	

図 A-1 (30/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境 での実行	OS/400 の 新しい コマンド	注記
MOVOBJ	X	X	オブジェクト・タイプの新しい値 (たとえば *MENU) が OS/400 のコマンドで有効になります。新しい値は、システム/38 環境のコマンドでは無効です。 システム/38 環境では、オブジェクト・タイプの *PRTIMG を指定してもサポートされません。これは、原始仕様をシステム/38 に移動するためのものです。OS/400 プログラムではオブジェクト・タイプの *PRTIMG は指定できません。
MRGFORMD	X	X	
MRGMSGF	X	X	
OPNDBF	X	X	
OPNQRYF	X	X	OS/400 コマンドは、新しい機能の %DIGITS をサポートします。 OS/400 プログラムでは、新しいパラメーターの IGNDECERR がサポートされます。FILE パラメーターのメンバー部分には、新しい値の *LAST を指定することができます。
OVRBSCF	X		混合、通信、BSC ファイルは、OS/400 プログラムでは、ICF ファイルに置き換わります。4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。
OVRCMNF	X		混合、通信、BSC ファイルは、OS/400 プログラムでは、ICF ファイルに置き換わります。4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。
OVRCRDF			カード装置は AS/400 システムではサポートされません。
OVRDBF	X	X	OS/400 コマンドは、MBR パラメーターの新しい値として、*FIRST および *LAST をサポートします。
OVRDKTF	X	X	システム/38 環境では LOC パラメーターは無視され、OS/400 コマンドではサポートされません。システム/38 環境での QDKT 装置記述の必要性については、2-10ページの『ディスクット』を参照してください。 OS/400 プログラムでは、OUTPTY および USRDТА パラメーターが追加されました。
OVRDSPF	X	X	
OVRMSGF	X	X	
OVRMXDF	X		混合、通信、BSC ファイルは、OS/400 プログラムでは、ICF ファイルに置き換わります。4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。

図 A-1 (31/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
OVRPRTF	X	X	<p>パラメーター TRNTBL および PRTIMG は、システム/38 環境のコマンドでは無視されます。これらのパラメーターは、OS/400 コマンドではサポートされません。</p> <p>システム/38 のパラメーター FORMSIZE の名前は、OS/400 コマンドでは PAGESIZE に変更されます。</p> <p>OS/400 コマンドでは、次のパラメーターにも変更がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> DEV は、新しい値の *SYSVAL および *JOB をサポートします。 *NONE は使用できません。 PRTQLTY は、新しい値の *DEV D をサポートします。 FONT は新しい値の *CPI をサポートします。 COPIES は、最大 255 のコピー (99 に代わって) をサポートします。 漢字印刷装置でのみ、CPI,IGCCPI, および LPI パラメーターに新しい値がサポートされます。 FILE は、新しい値の *PRTF をサポートします。 <p>OS/400 プログラムでは、新しいパラメーターの SPLFNAME,OUTPTY,JUSTIFY, および USRDTA が追加されました。</p> <p>新しいパラメーターの DUPLEX が、OS/400 プログラムで追加されます。</p> <p>OS/400 プログラムでは、システム/38 の DRAWER (3) の値が DRAWER (*E1) に置き換わり、DRAWER (3) は、3 番目の用紙入れを選択するために使用されます。</p>
OVRSAVF	X	X	
OVRTAPF	X	X	<p>OS/400 プログラムでは、EXTEND パラメーターはリストです。2 番目の要素として *CHECK と *NOCHECK をサポートします。</p> <p>OS/400 プログラムでは、SEQNBR は新しい値の *NEXT をサポートします。</p>
PCHPGM			PCHPGM コマンドはサポートされません。PTF が使用されます。
PGM	X	X	
PRPAPAR		CRTAPAR	<p>INCMTR パラメーターの機能は、OS/400 コマンドでは INTCFG パラメーターによってサポートされます。OS/400 プログラムでは、LOC パラメーターはサポートされず、システム/38 環境では無視されます。</p> <p>OS/400 コマンドの CRTAPAR の機能とキーワードは、大幅に変更されています。使用されるキーワードは、報告された問題によって異なります。</p>
PRTDOC			<p>システム/38 の PRTDOC コマンドは、システム/38 環境では実行されません。OS/400 プログラムにある同じ名前のコマンドは、オフィス編集プログラムにアクセスするためのものです。このコマンドを PRPQ でサポートする方法については、2-67ページの『テキスト管理 (5714-WP2)』を参照してください。</p>
PWRCTLU			制御装置と装置に対する PWR コマンドは、AS/400 システムではサポートされません。
PWRDEV			制御装置と装置に対する PWR コマンドは、AS/400 システムではサポートされません。
PWRDWN SYS	X	X	<p>PWRDWN SYS コマンドのパラメーター ADRRGN および CFGSTG は、システム/38 環境のコマンドでは無視され、OS/400 のコマンドではサポートされません。アドレスの再生成は、AS/400 システムでは IPL 時に行われます。ディスク装置構成機能は DST によって行われます。OS/400 コマンドの DELAY パラメーターの省略時値は、*NOLIMIT から 3600 (1 時間) に変更されます。</p>

図 A-1 (32/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境 での実行	OS/400 の 新しい コマンド	注記
QRYDTA	X		システム/38 の QUERY プロダクトは、システム/38 環境でのみサポートされます。4-17ページの『QUERY』を参照してください。
RCLDDMCNV	X	X	
RCLRSC	X	X	
RCLSTG	X	X	
RCVDTAARA	X		RCVDTAARA コマンドは、OS/400 プログラムではサポートされません。RTVDTAARA に変換しなければなりません。
RCVF	X	X	
RCVJRNE	X	X	
RCVMSG	X	X	PDPCODE パラメーターは、システム/38 環境では無視され、OS/400 プログラムではサポートされません。SECLVL キーワードは、OS/400 プログラムでは最大 3000 文字（システム/38 環境では 1435 文字）をサポートします。システム/38 環境および OS/400 プログラムのどちらでも、特殊な制御文字をメッセージ・テキストに入れて、様式設定を行うことができます。
RCVNETF	X	X	
RETURN	X	X	
RGZPFM	X	X	
RLSCMNDEV	X	X	
RLSJOB	X	X	
RLSJOBQ	X	X	
RLSOUTQ	X	X	
RLSRDR	X	X	
RLSSPLF	X	X	OS/400 のプログラムでは、SELECT パラメーターが追加され、FILE (*SELECT) がサポートされます。
RLSWTR	X	X	
RMVACC	X	X	
RMVAJE	X	X	
RMVBKP	X	X	
RMVBSCDEVE	X		混合、通信、BSC ファイルは、OS/400 プログラムでは、ICF ファイルに置き換わります。4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。
RMVCMNDEVE	X		混合、通信、BSC ファイルは、OS/400 プログラムでは、ICF ファイルに置き換わります。4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。
RMVCMNE	X	X	システム/38 環境では DEV パラメーターは変更されます。OS/400 プログラムでは RMTLOCNAME パラメーターが追加されます。
RMVDEVMODE			装置モード機能が変更されました。装置モード用に新しいオブジェクト・タイプがあります。2-7ページの『装置構成』を参照してください。
RMVDSPEVE	X		混合、通信、BSC ファイルは、OS/400 プログラムでは、ICF ファイルに置き換わります。4-5ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。
RMVFCTE	X	X	
RMVJOBQE	X	X	
RMVJRNCHG	X	X	
RMVLIBLE	X	X	

図 A-1 (33/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
RMVM	X	X	
RMVMSG	X	X	
RMVMSGD	X	X	
RMVNETJOBE	X	X	
RMVPGM	X	X	
RMVPGMCHG		RMVPTF	PGMID パラメーターが LICPGM に変更されて、必須です。PGM はサポートされません。LIB キーワードは、OS/400 プログラムではサポートされません。
RMVRJECMNE	X	X	
RMVRJERDRE	X	X	
RMVRJEWTR	X	X	
RMVRPYLE	X	X	
RMVRTGE	X	X	
RMVTRC	X	X	
RMVWSE	X	X	
RMVXDMNK	X	RMVCRSDMNK	パラメーター名が次のように変更されました。 システム/38 環境 OS/400 のキーワード XDMNK CRSDMNK
RNMDKT	X	X	システム/38 環境では LOC パラメーターは無視され、OS/400 コマンドではサポートされません。OS/400 プログラムでは、VOL パラメーターの値として *LOC をサポートしません。システム/38 環境での QDKT 装置記述の必要性については、2-10ページの『ディスクレット』を参照してください。 システム/38 環境の DEV パラメーターは QDKT に省略時設定されます。OS/400 の DEV パラメーターの値は、ユーザーが指定する必要があります。OS/400 プログラムでは SUFFIX パラメーターはサポートされません。
RNMM	X	X	
RNMOBJ	X	X	オブジェクト・タイプの新しい値 (たとえば *MENU) が OS/400 のコマンドで有効になります。新しい値は、システム/38 環境のコマンドでは無効です。 OS/400 プログラムでは、システムの場所を指定するための SYSTEM パラメーターが追加されました。 システム/38 環境では、オブジェクト・タイプの *PRTIMG を指定してもサポートされません。これは、原始仕様をシステム/38 に移動するためのものです。OS/400 プログラムではオブジェクト・タイプの *PRTIMG は指定できません。
ROLLBACK	X	X	
RPLLIBL	X	CHGLIBL	RPLLIBL コマンドは、システム/38 環境では変更されません。OS/400 の CHGLIBL コマンドは、RPLLIBL に CURLIBL パラメーターを指定したものと同じです。EDTLIBL コマンドは OS/400 プログラムにも存在し、これを使用するとライブラリー・リストを対話式方法で簡単に変更することができます。
RRTJOB	X	X	
RSMBKP	X	X	
RSMCTLR	X	X	OS/400 プログラムでは、CTLU キーワードの名前が CTL に変更されました。

図 A-1 (34/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境 での実行	OS/400 の 新しい コマンド	注記
RSMDEVRCY	X	X	
RSMLINRCY	X	X	
RSTAUT	X	X	
RSTDOC		RSTDLO	<p>文書は、オブジェクト・タイプの *DOC に同様に記憶されます。フォルダーの新しいオブジェクト・タイプ (*FLR) により、文書のみを対象としていたいくつかのコマンドが、文書とフォルダーの両方に機能するようになります。</p> <p>DOC パラメーターは、OS/400 プログラムでは DLO に変更されます。DLO は文書ライブラリー・オブジェクトの省略形で、両方のタイプをカバーします。OUTPUT パラメーターの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されます。NAMOPT パラメーターは、OS/400 プログラムでは NEWOBJ に変更されます。LOC パラメーターは、OS/400 プログラムではサポートされません。</p> <p>OS/400 コマンドで LABEL パラメーターを使用すると、媒体上のデータ・ファイル識別コードを指定することができます。</p> <p>OS/400 プログラムでは、VOL (*MOUNTED) は省略時値であり、DEV は必須パラメーターです。保管ファイルを復元する場合は、DEV (*SAVE) を使用する必要があります。</p> <p>OS/400 プログラムでは、OVERRIDE コマンドがサポートされます。</p>
RSTLIB	X	X	<p>システム/38 環境では LOC パラメーターは無視され、OS/400 コマンドではサポートされません。</p> <p>OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。</p> <p>OS/400 コマンドで LABEL パラメーターを使用すると、媒体上のデータ・ファイル識別コードを指定することができます。</p> <p>OS/400 プログラムでは、VOL (*MOUNTED) は省略時値であり、DEV は必須パラメーターです。保管ファイルを復元する場合は、DEV (*SAVE) を使用する必要があります。</p> <p>OS/400 プログラムでは ALWOBJDIF パラメーターがサポートされます。</p>
RSTOBJ	X	X	<p>システム/38 環境では LOC パラメーターは無視され、OS/400 コマンドではサポートされません。</p> <p>OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。</p> <p>オブジェクト・タイプの新しい値 (たとえば *MENU) が OS/400 のコマンドで有効になります。新しい値は、システム/38 環境のコマンドでは無効です。</p> <p>OS/400 のコマンドは、個々のメンバーを復元するために、FILEMBR パラメーターをサポートします。</p> <p>OS/400 コマンドで LABEL パラメーターを使用すると、媒体上のデータ・ファイル識別コードを指定することができます。</p> <p>OS/400 プログラムでは ALWOBJDIF パラメーターがサポートされます。</p> <p>OS/400 プログラムでは、VOL (*MOUNTED) は省略時値であり、DEV は必須パラメーターです。保管ファイルを復元する場合は、DEV (*SAVE) を使用する必要があります。</p> <p>システム/38 環境では、オブジェクト・タイプの *PRTIMG を指定してもサポートされません。これは、原始仕様をシステム/38 に移動するためのものです。OS/400 プログラムではオブジェクト・タイプの *PRTIMG は指定できません。</p>

図 A-1 (35/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
RSTPGMPRD		RSTLICPGM	OUTPUT キーワードの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されました。 LOC パラメーターは、OS/400 プログラムではサポートされません。 RSTPGMPRD コマンドは、システム/38 環境では実行されません。OS/400 のコマンドでは、テープだけがサポートされ、大幅な変更が行われています。CL (制御言語) 解説書に詳細が説明されています。
RSTUSRPRF	X	X	システム/38 環境では LOC パラメーターは無視され、OS/400 コマンドではサポートされません。 DEV は、OS/400 プログラムの必須パラメーターです。 OS/400 プログラムでは、ALWBJDIF パラメーターと MAIL キーワードがサポートされます。
RTVCLSRC	X	X	
RTVDFUSRC	X		システム/38 の DFU プロダクトは、システム/38 環境でのみ使用できます。4-17ページの『データ・ファイル・ユーティリティ (DFU)』を参照してください。
RTVDTAARA	X	X	DTAARA キーワードには、新しいオプションの *ADT がサポートされません。
RTVGRPA	X	X	
RTVJOBA	X	X	OS/400 プログラムには、新しいパラメーターの DATFMT,DATSEP,CURLIB,PRTDEV,SYSLIBL,CURUSER, および SUBTYPE があります。EXCPTY パラメーターの名前は RUNPTY に変更されます。CNLSTS キーワードは、OS/400 プログラムでは ENDSTS に変更されます。
RTVJRNE	X	X	
RTVMSG	X	X	PDPCODE パラメーターは、システム/38 環境では無視され、OS/400 プログラムではサポートされません。ALRID キーワードは、OS/400 プログラムでは ALROPT という名前に変更されました。このキーワードの値は、システム/38 環境でも OS/400 プログラムでも変更されました。SECLVL キーワードは、OS/400 プログラムでは最大 3000 文字 (システム/38 環境では 1435 文字) をサポートします。システム/38 環境および OS/400 プログラムのどちらでも、特殊な制御文字をメッセージ・テキストに入れて、様式設定を行うことができます。
RTVNETA	X	X	2-23ページの『ネットワーク属性』の説明を参照してください。警報ネットワーク属性は大幅に変更されました。OS/400 のコマンドからしかアクセスできない、新しい属性もあります。SYSNAM パラメーターは、OS/400 プログラムでは SYSNAME になります。
RTVQRYSRC	X		システム/38 の QUERY プロダクトは、システム/38 環境でのみサポートされます。4-17ページの『QUERY』を参照してください。
RTVSYSVAL	X	X	システム値のリストが変更されました。システム/38 の値には、削除されたものも定義が変更されたものもあり、新しく追加されたシステム値もあります。新しいシステム値には、OS/400 のコマンドしかアクセスできません。システム値の詳細については、2-58ページの『システム値』および 実行管理の手続きを参照してください。パラメーター SYSVAL (QAUTOIMPL) は、OS/400 プログラムでは、SYSVAL (QIPLSTS) に変更されます。
RTVUSRPRF	X	X	OS/400 のコマンドには新しいキーワードと値があります。2-38ページの『機密保護』を参照してください。 OS/400 プログラムでは、新しいパラメーターがサポートされます。
RVKACCAUT	X	X	

図 A-1 (36/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境 での実行	OS/400 の 新しい コマンド	注記
RVKDOCAUT		RVKUSRPMN	
RVKOBJAUT	X	X	<p>オブジェクト・タイプの新しい値 (たとえば *MENU) が OS/400 のコマンドで有効になります。新しい値は、システム/38 環境のコマンドでは無効です。</p> <p>システム/38 環境では、オブジェクト・タイプの *PRTIMG を指定してもサポートされません。これは、原始仕様をシステム/38 に移動するためのものです。OS/400 プログラムではオブジェクト・タイプの *PRTIMG は指定できません。</p> <p>OS/400 プログラムでは、AUT パラメーターに新しい値が追加されます。2-38ページの『機密保護』を参照してください。</p> <p>OS/400 プログラムでは、AUT パラメーターの値の *NORMAL は *CHANGE に、*OPER は *USE に変更されます。</p> <p>OS/400 プログラムでは、AUTL パラメーターが追加されます。</p>
SAVCHGOBJ	X	X	<p>システム/38 環境では LOC パラメーターは無視され、OS/400 コマンドではサポートされません。</p> <p>オブジェクト・タイプの新しい値 (たとえば *MENU) が OS/400 のコマンドで有効になります。新しい値は、システム/38 環境のコマンドでは無効です。</p> <p>OS/400 コマンドで LABEL パラメーターを使用すると、媒体上のデータ・ファイル識別コードを指定することができます。</p> <p>DEV は必須パラメーターです。保管ファイルに保管する場合は、DEV (*SAVF) を指定する必要があります。</p> <p>システム/38 環境では、オブジェクト・タイプの *PRTIMG を指定してもサポートされません。これは、原始仕様をシステム/38 に移動するためのものです。OS/400 プログラムではオブジェクト・タイプの *PRTIMG は指定できません。</p> <p>OS/400 プログラムでは、新しいパラメーターの TGTRLS がサポートされません。</p> <p>CLEAR パラメーターの値の *YES は、OS/400 プログラムでは *ALL に変更されます。CLEAR パラメーターの値の *NO は、OS/400 プログラムでは *NONE に変更されます。</p>

図 A-1 (37/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
SAVDOC		SAVDLO	<p>文書は、オブジェクト・タイプの *DOC に同様に記憶されます。フォルダーの新しいオブジェクト・タイプ(*FLR)により、文書のみを対象としていたいくつかのコマンドが、文書とフォルダーの両方に機能するようになります。</p> <p>LOC パラメーターは、OS/400 プログラムではサポートされません。</p> <p>OUTPUT パラメーターの値は、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されます。</p> <p>DOC パラメーターは、OS/400 プログラムでは、DLO および *SYSOBJNAM になります。DLO は文書ライブラリー・オブジェクトの省略形で、両方のタイプをカバーします。</p> <p>PERIOD パラメーターは、OS/400 プログラムでは CRTDATE になります。</p> <p>CLEAR パラメーターの値の *YES と *NO は、OS/400 プログラムではサポートされません。</p> <p>OS/400 コマンドで LABEL パラメーターを使用すると、媒体上のデータ・ファイル識別コードを指定することができます。</p> <p>OS/400 プログラムでは、DEV は必須パラメーターです。保管ファイルに保管する場合は、DEV (*SAVF) を指定する必要があります。</p> <p>OS/400 プログラムでは、新しいパラメーターの TGTRLS がサポートされません。</p> <p>OS/400 プログラムでは、DLO キーワードに特殊値の *MAIL を指定することができます。</p>
SAVLIB	X	X	<p>システム/38 環境では LOC パラメーターは無視され、OS/400 コマンドではサポートされません。システム/38 環境での QDKT 装置記述の必要性については、2-10ページの『ディスクット』を参照してください。</p> <p>OS/400 コマンドで LABEL パラメーターを使用すると、媒体上のデータ・ファイル識別コードを指定することができます。</p> <p>OS/400 プログラムでは、DEV は必須パラメーターです。保管ファイルに保管する場合は、DEV (*SAVF) を指定する必要があります。</p> <p>OS/400 プログラムでは、新しいパラメーターの TGTRLS がサポートされません。</p> <p>CLEAR パラメーターの値の *YES は、OS/400 プログラムでは *ALL に変更されます。CLEAR パラメーターの値の *NO は、OS/400 プログラムでは *NONE に変更されます。</p>

図 A-1 (38/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境 での実行	OS/400 の 新しい コマンド	注記
SAVOBJ	X	X	<p>システム/38 環境では LOC パラメーターは無視され、OS/400 コマンドではサポートされません。</p> <p>オブジェクト・タイプの新しい値（たとえば *MENU）が OS/400 のコマンドで有効になります。新しい値は、システム/38 環境のコマンドでは無効です。</p> <p>システム/38 環境では、オブジェクト・タイプの *PRTIMG を指定してもサポートされません。これは、原始仕様をシステム/38 に移動するためのものです。OS/400 プログラムではオブジェクト・タイプの *PRTIMG は指定できません。</p> <p>OS/400 のコマンドは、個々のメンバーを保管するための FILEMBR パラメーターをサポートします。</p> <p>OS/400 コマンドで LABEL パラメーターを使用すると、媒体上のデータ・ファイル識別コードを指定することができます。</p> <p>OS/400 プログラムでは、DEV は必須パラメーターです。保管ファイルに保管する場合は、DEV (*SAVF) を使用する必要があります。</p> <p>CLEAR パラメーターの値の *YES は、OS/400 プログラムでは *ALL に変更されます。CLEAR パラメーターの値の *NO は、OS/400 プログラムでは *NONE に変更されます。</p> <p>OS/400 プログラムでは、新しいパラメーターの TGTRLS がサポートされません。</p>
SAVSAVFDTA	X	X	<p>システム/38 環境では LOC パラメーターは無視され、OS/400 コマンドではサポートされません。</p> <p>OS/400 プログラムでは、DEV は必須パラメーターです。保管ファイルに保管する場合は、DEV (*SAVF) を使用する必要があります。</p> <p>OS/400 プログラムでは DTACPR パラメーターがサポートされます。</p>
SAVSYS	X	X	<p>AS/400 システムでは、SAVSYS はテープにのみ出力します。システム/38 環境では LOC パラメーターは無視され、OS/400 コマンドではサポートされません。</p> <p>OS/400 プログラムでは、DEV は必須パラメーターです。</p> <p>CLEAR パラメーターの値の *YES は、OS/400 プログラムでは *ALL に変更されます。CLEAR パラメーターの値の *NO は、OS/400 プログラムでは *NONE に変更されます。</p>
SBMCRDJOB			<p>カード装置は AS/400 システムではサポートされません。</p>
SBMDBJOB	X	X	
SBMDKTJOB	X	X	<p>システム/38 環境では LOC パラメーターは無視され、OS/400 コマンドではサポートされません。システム/38 環境での QDKT 装置記述の必要性については、2-10ページの『ディスクット』を参照してください。</p>
SBMFNCJOB	X	X	

図 A-1 (39/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記																					
SBMJOB	X	X	OS/400 の SBJOB コマンドの省略時値は、次のように変更されています。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>キーワード</th> <th>システム/38 環境の省略時値</th> <th>OS/400 プログラムの省略時値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JOB</td> <td>QBATCH.QGPL</td> <td>*USRPRF</td> </tr> <tr> <td>RTGDTA</td> <td>*JOB</td> <td>QCMD</td> </tr> <tr> <td>INLLIBL</td> <td>*JOB</td> <td>*CURRENT</td> </tr> <tr> <td>OUTQ</td> <td>*JOB</td> <td>*CURRENT</td> </tr> <tr> <td>MSGQ</td> <td>*WRKSTN</td> <td>*USRPRF</td> </tr> <tr> <td>RQSDTA</td> <td>*JOB</td> <td>*CMD</td> </tr> </tbody> </table> <p>OS/400 プログラムには、新しいパラメーターの CURLIB,SYSLIBL, および PRTDEV があります。</p> <p>システム/38 とシステム/38 環境では、RTGDTA パラメーターに相違があります。システム/38 での省略時値は *JOB です。システム/38 環境での省略時値は QCMD38 です。</p>	キーワード	システム/38 環境の省略時値	OS/400 プログラムの省略時値	JOB	QBATCH.QGPL	*USRPRF	RTGDTA	*JOB	QCMD	INLLIBL	*JOB	*CURRENT	OUTQ	*JOB	*CURRENT	MSGQ	*WRKSTN	*USRPRF	RQSDTA	*JOB	*CMD
キーワード	システム/38 環境の省略時値	OS/400 プログラムの省略時値																						
JOB	QBATCH.QGPL	*USRPRF																						
RTGDTA	*JOB	QCMD																						
INLLIBL	*JOB	*CURRENT																						
OUTQ	*JOB	*CURRENT																						
MSGQ	*WRKSTN	*USRPRF																						
RQSDTA	*JOB	*CMD																						
SBMNETJOB	X	X																						
SBMRJEJOB	X	X																						
SBMRMTCMD	X	X																						
SETATNPGM	X	X																						
SETMSTK	X	X																						
SIGNOFF	X	X																						
SNDBRKMSG	X	X	OS/400 プログラムでは、SNDBRKMSG の TOMSGQ パラメーターは必須項目です。*ALLWS も引き続きサポートされますが、指定しなければなりません。システム/38 環境での省略時値は *ALLWS になります。																					
SNDDTAARA	X		SNDDTAARA コマンドは、OS/400 プログラムではサポートされません。CHGDTAARA に変換する必要があります。																					
SNDF	X	X																						
SNDJRNE	X	X																						
SNDMSG	X	X	OS/400 のコマンドは、ユーザー・メッセージ待ち行列に新しいパラメーターの TOUSR をサポートします。これには、すべての活動（サイン・オンされている）ワークステーションに送るためのオプションもあります。																					
SNDNETF	X	X																						
SNDNETMSG	X	X																						
SNDNETSPLF	X	X																						
SNDPGMMSG	X	X	OS/400 のコマンドは、ユーザー・メッセージ待ち行列に新しいパラメーターの TOUSR をサポートします。これには、すべての活動（サイン・オンされている）ワークステーションに送るためのオプションもあります。																					
SNDRCVF	X	X																						
SNDRPY	X	X																						
SNDUSRMSG	X	X	OS/400 のコマンドは、ユーザー・メッセージ待ち行列に新しいパラメーターの TOUSR をサポートします。これには、すべての活動（サイン・オンされている）ワークステーションに送るためのオプションもあります。																					
SRVJOB	X	STRSRVJOB																						
STPCTLRCY	X	ENDCTLRCY	OS/400 プログラムでは、CTLU キーワードの名前が CTL に変更されました。																					

図 A-1 (40/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
STPDEVRCY	X	ENDDEVRCY	
STPLINRCY	X	ENDLINRCY	
STRCNFCHK			問題が起きた場合には、ANZPRB コマンドを使用してください。
STRCRDRDR			カード装置は AS/400 システムではサポートされません。
STRCRDWTR			カード装置は AS/400 システムではサポートされません。
STRDBRDR	X	X	
STRDKTRDR	X	X	システム/38 環境では LOC パラメーターは無視され、OS/400 コマンドではサポートされません。システム/38 環境での QDKT 装置記述の必要性については、2-10ページの『ディスクット』を参照してください。
STRDKTWTR	X	X	システム/38 環境では LOC パラメーターは無視され、OS/400 コマンドではサポートされません。システム/38 環境での QDKT 装置記述の必要性については、2-10ページの『ディスクット』を参照してください。 OS/400 プログラムでは、AUTOTRM パラメーターの名前が AUTOEND に変更されます。
STRPDP			問題判別機能に変更されました。2-46ページの『サービス』を参照してください。 問題が起きた場合には、ANZPRB コマンドを使用してください。
STRPRTEML	X	X	OS/400 プログラムの STRPRTEML コマンドは、新しいパラメーターの EMLLOC,PRTDEV,DFRPRTOUT,NUMCOL,NUMLIN,SPOOL, および TRNTBLOUTB をサポートします。CHRSET キーワードの値は、システム/38 環境および OS/400 プログラムのどちらでも、2-12ページの『エミュレーション (3270)』に説明したように変更されました。 EMLCTLU パラメーターは、OS/400 プログラムでは EMLCTL に変更されます。MSGQ パラメーターの値の *WRKSTN は、OS/400 プログラムでは *DSPDEV に変更されます。 システム/38 環境の STRPRTEML コマンドが変更されました。CHRSET パラメーターには、BLB,SFB, および SGB の値を指定できません。これらの値は、次のキーボードから取り除かれます。 BLB ベルギー国内特定コード・ページ SFB スイス (フランス語) 国内特定コード・ページ SGB スイス (ドイツ語) 国内特定コード・ページ
STRPRTWTR	X	X	OS/400 のコマンドは、新しいキーワードの FILESEP と ALIGN をサポートします。新しいキーワードとその値の DEV (*ALL),DEV (*SYSVAL),FORMTYPE (*FORMS), および OUTQ (*DEV) がサポートされます。 AUTOTRM キーワードの名前は AUTOEND に変更されました。 OS/400 プログラムでは、WTR (*ALL) および WTR (*SYSVAL) が追加されます。
STRRJECSL	X	X	
STRRJERDR	X	X	
STRRJESSN	X	X	
STRRJEWTR	X	X	
STRSBS	X	X	
TFRBCHJOB	X	X	
TFRCTL	X	X	

図 A-1 (41/41). システム/38 のコマンド

システム/38 のコマンド	システム/38 環境での実行	OS/400 の新しいコマンド	注記
TFRGRPJOB	X	X	
TFRJOB	X	X	
TFRSECJOB	X	X	
TRCINT	X	X	システム/38 環境では LOC パラメーターは無視され、OS/400 コマンドではサポートされません。システム/38 環境での QDKT 装置記述の必要性については、2-10ページの『ディスクット』を参照してください。 SET パラメーターの値の *CNL が、OS/400 プログラムでは *END に変更されました。 OS/400 プログラムでは、新しいパラメーターの SIZE がサポートされます。
TRCJOB	X	X	OUTPUT キーワードの値が、OS/400 プログラムでは、*LIST から *PRINT に変更されます。 SET パラメーターの値の *CNL が、OS/400 プログラムでは *END に変更されます。 OUTPUT の値 *NONE は、OS/400 コマンドでは *OUTFILE に変更されます。OUTFILE パラメーターの値の *NONE は、OS/400 プログラムではサポートされません。
TRMCPF	X	ENDSYS	
TRMGRPJOB	X	ENDGRPJOB	
TRMPRTEML	X	ENDPRTEML	OS/400 プログラムには、新しいパラメーターの EMLLOC と PRTDEV があります。
TRMRJESSN	X	ENDRJESSN	
TRMSBS	X	ENDSBS	
TRNPIN	X	X	
VFYMSTK	X	X	
VFYPIN	X	X	
VFYPRT	X	X	
VRYCTLU	X	VRYCFG	VRYCFG コマンドでは、CTLU キーワードの名前が CFGOBJ に変更され、50 ではなく最大 256 の名前を含むリストがサポートされます。新しいパラメーターの CFGTYPE,RESET, および RANGE があります。RESET は、システム/38 環境の VRYCTLU には有効ではありません。
VRYDEV	X	VRYCFG	VRYCFG コマンドでは、DEV キーワードの名前が CFGOBJ に変更され、50 ではなく最大 256 の名前を含むリストがサポートされます。新しいパラメーターの CFGTYPE,RESET, および RANGE があります。RESET は、システム/38 環境の VRYDEV には有効ではありません。
VRYLIN	X	VRYCFG	VRYCFG コマンドでは、LINE キーワードの名前が CFGOBJ に変更され、50 ではなく最大 256 の名前を含むリストがサポートされます。新しいパラメーターの CFGTYPE,RESET, および RANGE があります。RESET は、システム/38 環境の VRYLIN には有効ではありません。
WAIT	X	X	

付録B. DDS キーワードの変更

以下の DDS キーワードに関する制約事項は、システム/38 環境と OS/400 プログラムの両方に適用されます。

- 物理ファイルでは、論理ファイルを FORMAT キーワードで指定することができません。FORMAT キーワードの詳細については、2-6ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。
- SECURITY キーワードでは、特殊値 *PASSWORD をパスワード・パラメーターに指定することができません。また、機密保護情報の最大長は 11 文字から 10 文字になりました。
- DSPSIZ キーワードでは、16x64 (*DS1) と 12x80 (*DS2) の表示画面に対応する値は無効です。DSPSIZ キーワードの詳細については、2-6ページの『データ記述仕様 (DDS)』を参照してください。

以下の経路指定キーワードは、システム/38 環境にはありますが、OS/400 プログラムにはありません。

RTGAID
RTGCON
RTGDEV
RTGDEVCLS
RTGFIRST
RTGFLD
RTGFMT
RTGPOS

キーワードの RTGDEV,RTGDEVCLS, および RTGFMT によって返される情報は、共通入出力フィールドバック域 (それぞれオフセット 32,30, および 20) にあります。RTGAID キーワードによって返される情報は、装置依存入出力フィールドバック (オフセット 2), または対応する DDS キーワードで指定した応答標識の使用によって使用することができます。入出力フィールドバック域の詳細については、データ管理の付録 A を参照してください。キーワードの RTGCON,RTGFIRST,RTGFLD および RTGPOS は、データおよび固定情報を、経路指定プログラムに渡すためのみ使用されたため、AS/400プログラムでは使用されません。

DDS 原始仕様を OS/400 プログラムに変換するためには、修飾名を LIBRARY/OBJECT という OS/400 の構文に変換しなければなりません。システム/38 の次のキ

ーワードを使用すると、修飾名をパラメーター値として指定することができます。

ALTSEQ
ERRMSGID
EVOKE
FORMAT
JFILE
JOIN
JREF

MSGCON
PFILE
PRINT
REF
REFFLD
SFLMSGID
TRNTBL

システム/38 の REFFLD キーワードを使用すると、修飾フィールド名を指定することができます。OS/400 プログラムでは、修飾フィールドメッセージの構文は、RECORD/FIELD です。

OS/400 プログラムでは、2 つのキーワードの名前が変更されていますが、機能に変更はありません。

システム/38 環境	OS/400 プログラム
RCVCFM	RCVCONFIRM
TRNRND	RCVTRNRND

ACCPH キーワードは、OS/400 プログラムでは REFACCPH キーワードに置き換わりました。システム/38 では、ACCPH キーワードは、明示的にアクセス・パスの共用を記述するものでした。システム/38 環境の ACCPTH キーワードと OS/400 プログラムの REFACCPH キーワードは、キー、選択/除外仕様、および DYNSTL,FIFO,LIFO,FCFO,UNIQUE, そして ALTSEQ キーワードの値を、作成する論理ファイルにコピーするためにのみ使用されます。これらのキーワードの詳細については、2-5ページの『データベース』を参照してください。

データベース・ファイルでは、J (漢字専用) と E (漢字択一) という新しい 2 つの漢字データ・タイプが、OS/400 プログラムでサポートされます。これらのデータ・タイプはシステム/38 環境では使用できません。REFSHIFT キーワードは、OS/400 プログラムの漢字可

能フィールドには指定できませんが、システム/38 環境の漢字混用フィールドには使用できます。漢字フィールドの詳細については、2-5ページの『データベース』を参照してください。

印刷装置ファイルの DRAWER (3) キーワードの意味は、システム/38 環境と OS/400 プログラムでは異なります。エンベロープ入れから用紙を選択する場合、システム/38 環境では DRAWER (3) を、OS/400 プログラムでは DRAWER (*E1) を指定します。特殊値の *E1 は、システム/38 環境の DRAWER キーワードではサポートされません。OS/400 プログラムでは、DRAWER (3) キーワードは、3 番目の用紙入れから、単票用紙を選択するために使用されます。

次の拡張機能は、システム/38 環境では使用できますが、システム/38 では無効です。

- 16 進メッセージ識別コードが、DDS メッセージ・キーワードで使用できます。
- OS/400 データベース・キーワードの FIFO は使用できますが、ファイルの作成時に警告メッセージが出されます。このキーワードの詳細については、2-5ページの『データベース』を参照してください。
- 論理ファイルの漢字可能フィールドは、CONCAT キーワードで指定することができます。漢字の詳細

については、2-5ページの『データベース』を参照してください。

- 表示装置ファイルでは、レコードに SLNO (*VAR) が指定されていると、フィールドを画面の最初の桁から開始することができます。
- 表示装置ファイルでは、フィールドを画面の最終桁で終了することができます。
- 漢字システムの表示装置ファイルでは、ファイルおよびレコード・レベルの CHGINPDFT (FE) キーワードは、漢字専用、漢字混用、および漢字択一の各フィールドに適用されます。
- 漢字システムの表示装置ファイルでは、ファイルおよびレコード・レベルの CHGINPDFT (LC) キーワードは、漢字混用および漢字択一のフィールドに適用されます。また、LOWER,CHECK (LC) , および CHGINPDFT (LC) の各キーワードは、IGCDTA (*YES) が指定されていれば、IGCALTTYP フィールドに適用されます。この機能を使用すると、システム/38 では 2 バイト文字、大文字の英数字、およびカタカナしか入力できなかったフィールドに、小文字の英数字も入力できるようになります。
- 印刷装置ファイルでは、CHRSIZ キーワードは、BLKFOLD,CPI, および DFNCHR の各キーワードを指定したレコード様式に指定することができます。

付録C. 表示装置ファイルおよび印刷装置ファイルの戻りコード

次の表は、表示装置ファイルおよび印刷装置ファイルに使用されている戻りコードのリストです。戻りコードは、大部分変更されています。

高水準言語プログラムでこれらの戻りコードをコーディングしている場合に、システム/38 環境に正しく移行するには、変更を行う必要があります。

AS/400 システムで使用されている表示装置ファイルおよび印刷装置ファイルの戻りコードは、システム/38 環境でも OS/400 プログラムでも同じです。システム/38 環境で正しく実行されていれば、OS/400 プログラムへの移行時に、戻りコードの処理を変更する必要はありません。

注: 新しいメジャー戻りコードの 02 は、ENDJOB や ENDSBS などのコマンドによって、ジョブを終了するように要求されていることを示します。戻りコードの 02 が返されても、エスケープ・メッセージは、高水準言語プログラムでは出されません。

メジャーおよびマイナー戻りコードの一覧表 (表示装置および印刷装置)

図 C-1 (1/7). 戻りコード

システム/38	AS/400 システ ム	メッセ ージ	表示	印刷
0000	0000	-----	x	x
0000	0000	CPF4019	x	
0000	0000	CPF4032		x
0000	0000	CPF4033		x
0000	0000	CPF4054	x	
0000	0000	CPF4056		x
0000	0000	CPF4057		x
0000	0000	CPF4082	x	
0000	0000	CPF4410	x	
0000	0000	CPF4420		x
0000	0000	CPF4421		x
0000	0000	CPF4905		x
0000	0000	CPF4913		x

図 C-1 (1/7). 戻りコード

システム/38	AS/400 システ ム	メッセ ージ	表示	印刷
0000	0000	CPF4914		x
0000	0000	CPF4916		x
0000	0000	CPF4918		x
0000	0000	CPF4919		x
0000	0000	CPF5003	x	
0000	0200	-----	x	
0001	0001	-----	x	
0300	0300	-----	x	
0300	0300	CPF5037	x	
0309	0309	CPF4741	x	
0310	0310	CPF4742	x	
0310	0310	CPF4743	x	
0400	0412	CPF4737	x	
0400	0412	CPF5044	x	
0401	8319	-----	x	
0402	80EB	CPF4062	x	
0402	831D	CPF4912	x	
0402	831D	CPF5002	x	
0402	831D	CPF5012	x	
0402	831D	CPF5014	x	
0402	831D	CPF5021	x	
0402	831E	CPF5005	x	
0402	831E	CPF5039	x	
0402	831E	CPF5045	x	
0402	831F	CPF5117	x	
0402	83E0	CPF5053	x	
0402	83E0	CPF5054	x	
0402	83E0	CPF5186		x
0402	83E0	CPF5187		x
0402	83F6	CPF5216	x	
0403	0000	CPA4073		x

図 C-1 (2/7). 戻りコード

システム/38	AS/400 システム	メッセ ージ	表示	印刷
0403	0000	CPA4074		x
0403	0000	CPA4075		x
0403	0000	CPA4076		x
0403	3431	CPF5062	x	
0403	80EB	CPF4219		x
0403	80EB	CPF4637		x
0403	8181	CPF4725	x	
0403	830B	CPF5217	x	
0403	831E	CPF5056	x	
0403	831E	CPF5059	x	
0403	831F	CPF5048	x	
0403	831F	CPF5160		x
0403	8322	CPF5060	x	
0403	83F6	CPF4591		x
0403	83F6	CPF4634		x
0403	83F6	CPF4636		x
0403	83F6	CPF5063	x	
0403	83F6	CPF5075		x
0403	83F6	CPF5215		x
0403	83F6	CPF5216	x	
0403	83F6	CPF5234		x
0403	83F6	CPF5261		x
0403	83F6	CPF5364		x
0403	83F6	CPF5369		x
0405	831D	CPF5008	x	
0405	831E	CPF5011	x	
0405	831E	CPF5051	x	
0405	8322	CPF5013	x	
0405	832D	CPF5052	x	
0411	831F	CPF4906		x
0412	831D	CPF4909		X
0414	0000	CPA4072		x
0414	8082	CPF5116		x
0414	8343	CPF5043	x	

図 C-1 (2/7). 戻りコード

システム/38	AS/400 システム	メッセ ージ	表示	印刷
0415	831E	CPF4915		x
0416	80EB	CPF4191	x	
0416	831D	CPD4016		x
0416	831D	CPD4017		x
0416	831D	CPF5108		x
0416	831D	CPF5273		x
0416	831D	CPF5275		x
0416	831D	CPF5276		x
0416	831D	CPF5288		x
0416	831D	CPF5289		x
0416	831D	CPF5302	x	
0416	831D	CPF5303	x	
0416	831D	CPF5324		x
0416	831D	CPF5359		x
0416	831D	CPF5363		x
0416	831E	CPD4015		x
0416	831E	CPD4018		x
0416	831E	CPF5055	x	
0416	831E	CPF5245		x
0416	831E	CPF5290		x
0416	831E	CPF5320		x
0416	831E	CPF5321		x
0416	831E	CPF5322		x
0416	831E	CPF5323		x
0416	831E	CPF5325		x
0416	831E	CPF5362		x
0416	83F6	CPD4014		x
0416	83F6	CPF5297		x
0417	831E	CPF5185		x
0418	8343	CPF5004		x
0423	831E	CPF5066	x	
0800	0800	CPD4077	x	
0800	0800	CPF50A0	x	
1100	1100	CPF4740	x	

図 C-1 (3/7). 戻りコード

システム/38	AS/400 システム	メッセ ージ	表示	印刷
3400	3431	-----	x	
3400	831E	CPF5055	x	
3400	831F	CPF4010	x	
3400	831F	CPF4078	x	
3401	8197	CPF5047	x	
3401	8319	CPF4158		x
3401	8319	CPF4531		x
3401	8319	CPF5050	x	x
3402	0300	CPF5020	x	
3402	831E	CPF5045	x	
3402	83E0	CPF5022	x	
3402	83E0	CPF5023	x	
3402	83E0	CPF5053	x	
3402	83E0	CPF5054	x	
3402	83F6	CPF5216	x	
3402	83F6	CPF5301	x	
3420	831E	CPF5049	x	
3420	831E	CPF5056	x	
3421	0300	CPF5017	x	
3421	8322	CPF5013	x	
3421	83E8	CPF4910	x	
3422	832D	CPF5052	x	
8000	0000	CPA4251		x
8000	80B3	CPF4128		x
8000	80B3	CPF9808		x
8000	80EB	CPD4012		x
8000	80EB	CPD4013		x
8000	80EB	CPD4020		x
8000	80EB	CPD4021		x
8000	80EB	CPD4024		x
8000	80EB	CPD4025		x
8000	80EB	CPD4033		x
8000	80EB	CPD4034		x
8000	80EB	CPD4036		x

図 C-1 (3/7). 戻りコード

システム/38	AS/400 システム	メッセ ージ	表示	印刷
8000	80EB	CPD4037		x
8000	80EB	CPD4038		x
8000	80EB	CPF4129	x	
8000	80EB	CPF4133		x
8000	80EB	CPF4138		x
8000	80EB	CPF4139		x
8000	80EB	CPF4142		x
8000	80EB	CPF4143		x
8000	80EB	CPF4148	x	x
8000	80EB	CPF4156	x	x
8000	80EB	CPF4157		x
8000	80EB	CPF4159		x
8000	80EB	CPF4162		x
8000	80EB	CPF4169	x	
8000	80EB	CPF4181		x
8000	80EB	CPF4196		x
8000	80EB	CPF4206		x
8000	80EB	CPF4209		x
8000	80EB	CPF4214		x
8000	80EB	CPF4217		x
8000	80EB	CPF4222		x
8000	80EB	CPF4224		x
8000	80EB	CPF4237		x
8000	80EB	CPF4238	x	x
8000	80EB	CPF4263		x
8000	80EB	CPF4264		x
8000	80EB	CPF4295		x
8000	80EB	CPF4296		x
8000	80EB	CPF4335		x
8000	80EB	CPF4336		x
8000	80EB	CPF4337		x
8000	80EB	CPF4338		x
8000	80EB	CPF4339		x
8000	80EB	CPF4340		x

図 C-1 (4/7). 戻りコード

システム/38	AS/400 システム	メッセ ージ	表示	印刷
8000	80EB	CPF4352		x
8000	80ED	CPF4131	x	x
8000	8282	CPF4171	x	
8000	82AA	CPF4103	x	x
8000	82B3	CPF4130	x	
8000	82EE	CPF4105	x	x
8000	830B	CPF5070	x	x
8000	831D	CPD4027		x
8000	831D	CPD4028		x
8000	831D	CPD4029		x
8000	831D	CPD4030		x
8000	831D	CPD4041		x
8000	831D	CPF5148		x
8000	831D	CPF5366		x
8000	831D	CPF5367		x
8000	831D	CPF5368		x
8000	831E	CPD4031		x
8000	83F6	CPD4022		x
8000	83F6	CPD4026		x
8000	83F6	CPD4035		x
8001	8181	CPF5507		x
8001	82A6	CPF4527		x
8001	82A6	CPF5103		x
8001	83F6	CPF4516		x
8001	83F6	CPF5246		x
8001	8181	CPF5254	x	
8001	8191	CPF4551	x	
8001	8197	CPF4192		x
8001	8197	CPF4216		x
8001	8197	CPF4533	x	x
8001	8197	CPF4583		x
8001	8197	CPF5143		x
8001	8197	CPF5268		x
8001	8281	CPF4168	x	x

図 C-1 (4/7). 戻りコード

システム/38	AS/400 システム	メッセ ージ	表示	印刷
8001	8282	CPF4354	x	
8001	83F6	CPF4190		x
8002	8081	CPF4182	x	x
8002	8081	CPF4510	x	x
8002	8081	CPF5192	x	
8002	8081	CPF5196		x
8002	8081	CPF5257	x	x
8002	8081	CPF5257	x	x
8002	8081	CPF5262		x
8002	8081	CPF5401		x
8002	8081	CPF5403	x	
8002	8081	CPF5404	x	
8002	8081	CPF5405	x	
8002	8081	CPF5408	x	x
8002	8081	CPF5409	x	x
8002	8081	CPF5410	x	x
8002	8081	CPF5411	x	x
8002	8081	CPF5414	x	
8002	8081	CPF5416	x	x
8002	8081	CPF5418	x	x
8002	8081	CPF5423	x	x
8002	8081	CPF5429	x	x
8002	8081	CPF5431	x	x
8002	8081	CPF5433	x	x
8002	8081	CPF5434	x	x
8002	8081	CPF5441	x	
8002	8081	CPF5447	x	x
8002	8081	CPF5456	x	
8002	8081	CPF5507	x	
8002	8082	CPF4354	x	
8002	80A6	CPF4527	x	
8002	80C0	CPF5412	x	x
8002	80C0	CPF5413	x	x
8002	80C0	CPF5419	x	x

図 C-1 (5/7). 戻りコード

システム/38	AS/400 システム	メッセ ージ	表示	印刷
8002	80C0	CPF5420	x	x
8002	80C0	CPF5421	x	
8002	80C0	CPF5430	x	
8002	80F8	CPF5427	x	x
8002	81C2	CPF5170	x	
8002	81C2	CPF5422	x	
8002	8281	CPF4182	x	
8002	8281	CPF5257		x
8002	8281	CPF5424	x	
8002	82A6	CPF4190	x	
8002	82A6	CPF5453		x
8004	8291	CPF4179	x	x
8005	8082	CPF5269		x
8005	8282	CPF4298		x
8101	0000	CPD4069		x
8101	8081	CPF5414	x	x
8101	8082	CPF4502		x
8101	80A6	CPF4527	x	
8101	80B3	CPF4128	x	x
8101	80C0	CPF4262		x
8101	80C0	CPF4509		x
8101	80C0	CPF5103	x	
8101	80C0	CPF5192	x	
8101	80C0	CPF5247		x
8101	80C0	CPF5439	x	
8101	80EB	CPF4163	x	
8101	80EB	CPF4345	x	x
8101	80EF	CPF4104	x	x
8101	80EF	CPF5279	x	
8101	80F8	CPF4132	x	x
8101	80F8	CPF4213	x	
8101	80F8	CPF4550	x	
8101	80F8	CPF5129	x	x
8101	80F8	CPF5263	x	

図 C-1 (5/7). 戻りコード

システム/38	AS/400 システム	メッセ ージ	表示	印刷
8101	8181	CPF4289		x
8101	8181	CPF4552		x
8101	8181	CPF4553	x	x
8101	8181	CPF5105	x	x
8101	8181	CPF5159		x
8101	8181	CPF5189	x	
8101	8197	CPF4197	x	x
8101	8197	CPF4524	x	x
8101	8197	CPF4533	x	x
8101	8197	CPF5106	x	x
8101	8197	CPF5143	x	x
8101	8197	CPF5201		x
8101	8281	CPF4221	x	x
8101	8282	CPF4110		x
8101	8291	CPF4193	x	
8101	8291	CPF4291	x	x
8101	82A6	CPF4124	x	x
8101	82A6	CPF4190	x	x
8101	82A6	CPF4527		x
8101	82A6	CPF5103		x
8101	82AB	CPF4285	x	
8101	82B3	CPF4106		x
8101	82B3	CPF4109	x	
8101	82B3	CPF4282	x	
8101	82EF	CPF4104	x	x
8101	82EF	CPF4186	x	x
8101	82F0	CPF4324	x	
8101	831D	CPF5218	x	
8101	831E	CPF4564	x	
8101	831E	CPF5149	x	
8101	831E	CPF5179	x	
8101	83F8	CPF5293	x	x
8102	8081	CPF5415	x	
8102	8081	CPF5455	x	

図 C-1 (6/7). 戻りコード

システム/38	AS/400 システム	メッセ ージ	表示	印刷
8102	8082	CPF5269	x	
8102	80A6	CPF4527	x	
8102	80C0	CPF5103	x	x
8102	80C0	CPF5437	x	x
8102	80F8	CPF5144	x	
8102	8191	CPF4146		x
8102	8191	CPF4193		x
8102	8191	CPF4526	x	x
8102	8191	CPF4542	x	x
8102	8191	CPF5128	x	x
8102	8191	CPF5198	x	x
8102	8197	CPF4149	x	
8102	8197	CPF4192	x	x
8102	8197	CPF4197	x	x
8102	8197	CPF4524	x	x
8102	8197	CPF4533	x	x
8102	8197	CPF4538	x	x
8102	8197	CPF5106	x	x
8102	8197	CPF5140	x	
8102	8197	CPF5143	x	x
8102	8197	CPF5199	x	x
8102	8197	CPA5201		x
8102	8197	CPF5360		x
8102	81C2	CPF5170	x	x
8102	81C2	CPF5422	x	x
8102	8281	CPF4168	x	
8102	8291	CPF4146	x	
8102	8291	CPF4193	x	
8102	8297	CPF4192	x	
8102	8297	CPF5047	x	
8102	82A6	CPF4124		x
8102	82A6	CPF4190	x	x
8102	82A6	CPF4527		x
8200	8281	CPF5254	x	

図 C-1 (6/7). 戻りコード

システム/38	AS/400 システム	メッセ ージ	表示	印刷
8200	8282	CPF5548	x	
8200	82EF	CPF5278	x	
8201	0000	CPF5508	x	
8201	8081	CPF5414	x	x
8201	80C0	CPF5439	x	
8201	80EB	CPF5151	x	
8201	80EB	CPF5552	x	
8201	80F8	CPF4132	x	
8201	80F8	CPF5129	x	x
8201	8197	CPF5265	x	
8201	8281	CPF4168	x	
8201	8281	CPF5105	x	
8201	8281	CPF5257	x	
8201	8291	CPF5260	x	
8201	8297	CPF5106	x	
8201	8297	CPF5143	x	
8201	82A6	CPF5103	x	
8201	82A6	CPF5517	x	
8201	82AB	CPF5333	x	
8201	82B3	CPF5217	x	
8201	82B3	CPF5332	x	
8201	82B3	CPF5355	x	
8201	82EF	CPF4104	x	x
8201	82EF	CPF5279	x	x
8201	831E	CPF5149		x
8202	0000	CPF5508	x	
8202	8081	CPF5414	x	
8202	8081	CPF5415	x	
8202	80C0	CPF5437	x	x
8202	80EB	CPF5511	x	
8202	8191	CPF5128	x	
8202	81C2	CPF5170	x	
8202	8281	CPF5410	x	
8202	8281	CPF5411	x	

図 C-1 (7/7). 戻りコード

システム/38	AS/400 システ ム	メッセ ージ	表示	印刷
8202	8281	CPF5447	x	
8202	8281	CPF5455	x	
8202	8282	CPF4354	x	x
8202	8291	CPF5198	x	
8202	8297	CPF5106	x	
8202	8297	CPF5140	x	
8202	8297	CPF5143	x	
8202	8297	CPF5199	x	
8202	82A6	CPF4124	x	
8202	82A6	CPF5103	x	
8204	80EB	CPF5510	x	
8204	80EB	CPF5512	x	
8204	80EB	CPF5513	x	
8204	82A9	CPF4366	x	
8204	82A9	CPF5381	x	
8204	82AA	CPF4747	x	
8204	82EE	CPF4760	x	
8204	82EE	CPF5038	x	
8204	830B	CPF5068	x	
8206	8191	CPF5128	x	
8307	830B	CPF5067	x	
8308	830B	CPD4079	x	
8308	830B	CPF4739	x	
8308	830B	CPF5068	x	

付録D. サンプル・プログラム

この付録では、装置構成印刷プログラム、およびライブラリー・オブジェクトの移動コマンドとライブラリー所有者の検査コマンドについて説明します。

1. 装置構成印刷プログラム

次のCLプログラムは、システム/38 で作動します。このプログラムでは、装置構成オブジェクトのコピーが印刷され、その内容が標準原始ファイルの原始メンバーにコピーされます。構成の詳細すべてを印刷する場合には膨大なページ数が必要となりますが、このプログラムによりこれを避けることができます。原始仕様入力ユーティリティー (SEU) を使用すると (たとえば走査機能)、ある特定の構成オブジェクトを探すことができます。

制御装置のオブジェクト・タイプが変更されたため、このプログラムをそのままシステム/38 環境で実行することはできません。ただし、QUSRTOOL ライブラリーに

は類似のコマンドがあります。ツールの PRTDEVCFG を参照してください。

プログラムを使用するには、次の処理が必要です。

- DEVCFG という名前の原始ファイルを作成します。規模の大きな構成では、レコード数も多くなるため、SIZE の値を大きくしてファイルを作成する必要があります。

```
CRTSRCPF  FILE (DEVCFG.xxxx)
           SIZE (50000 5000 10)
           TEXT ('装置構成を入れる原始ファイル)
ADDPFM    FILE (DEVCFG.xxxx)
           MBR (DEVCFG)
```

- 次に示す原始仕様から、CL プログラムの PRTDEVCFG を作成します。
- PRTDEVCFG プログラムに対する CALL コマンドを、バッチ処理として投入します。

次に CL 原始仕様を示します。

```
SEQNBR *... .. 1 ... .. 2 ... .. 3 ... .. 4 ... .. 5 ... .. 6 ... .. 7
1.00 /* PRTDEVCFG - Prints device configuration - CPP for PRTDEVCFG */
2.00          PGM
3.00          DCLF          QADSPOBJ
4.00          CHKOBJ      OBJ (DEVCFG) OBJTYPE (*FILE) MBR (DEVCFG)
5.00          CRTPF          DEVCFG.QTEMP RCDLEN (80)
6.00          DSPOBJD      OBJ (*ALL.QSYS) OBJTYPE (*LIND) OUTPUT (*NONE) +
7.00                      OUTFILE (DSPOBJD.QTEMP)
8.00          DSPOBJD      OBJ (*ALL.QSYS) OBJTYPE (*CUD) OUTPUT (*NONE) +
9.00                      OUTFILE (DSPOBJD2.QTEMP)
10.00         CPYF          FROMFILE (DSPOBJD2.QTEMP) +
11.00                      TOFILE (DSPOBJD.QTEMP) MBROPT (*ADD)
12.00         DSPOBJD      OBJ (*ALL.QSYS) OBJTYPE (*DEVD) OUTPUT (*NONE) +
13.00                      OUTFILE (DSPOBJD2.QTEMP)
14.00         CPYF          FROMFILE (DSPOBJD2.QTEMP) +
15.00                      TOFILE (DSPOBJD.QTEMP) MBROPT (*ADD)
16.00         OVRDBF      QADSPOBJ TOFILE (DSPOBJD.QTEMP)
17.00         OVRPRTF     QPDCLINE HOLD (*YES)
18.00         OVRPRTF     QPDCCTLU HOLD (*YES)
19.00         OVRPRTF     QPDCDEVD HOLD (*YES)
20.00 READ:          RCVF          /* Read an object */
21.00          MONMSG      MSGID (CPF0864) EXEC (GOTO ENDPGM) /* EOF */
22.00          IF          (&ODOBTP *EQ '*LIND') DO /* Line */
23.00          DSPLIND      LIND (&ODOBNM) OUTPUT (*LIST)
24.00          CPYSPLF      FILE (QPDCLINE) TOFILE (DEVCFG.QTEMP) +
25.00                      SPLNBR (*LAST) MBROPT (*ADD)
26.00          CNLSPLF      FILE (QPDCLINE)
27.00          ENDDO          /* Line */
28.00          IF          (&ODOBTP *EQ '*CUD ') DO /* Control unit */
29.00          DSPCUD          CUD (&ODOBNM) OUTPUT (*LIST)
30.00          CPYSPLF      FILE (QPDCCTLU) TOFILE (DEVCFG.QTEMP) +
31.00                      SPLNBR (*LAST) MBROPT (*ADD)
32.00          CNLSPLF      FILE (QPDCCTLU)
33.00          ENDDO          /* Control unit */
34.00          IF          (&ODOBTP *EQ '*DEVD') DO /* Device */
35.00          DSPDEVD      DEVD (&ODOBNM) OUTPUT (*LIST)
36.00          CPYSPLF      FILE (QPDCDEVD) TOFILE (DEVCFG.QTEMP) +
37.00                      SPLNBR (*LAST) MBROPT (*ADD)
38.00          CNLSPLF      FILE (QPDCDEVD)
39.00          ENDDO          /* Device */
40.00          GOTO          READ
41.00 ENDPGM:
42.00          CPYF          FROMFILE (DEVCFG) TOFILE (DEVCFG) +
43.00                      MBROPT (*ADD) FMOPT (*CVTSRC)
44.00          ENDPGM
```

2. あるライブラリーから別のライブラリーへのユーザー・オブジェクトの移動

ライブラリー・オブジェクトの移動 (MOVLIBOBJ) コマンドでは、あるライブラリーから別のライブラリーに、オブジェクトの一部または全部を移すことができます。これは、オブジェクトを大量に移行する場合に便利です。

このコマンドの一般的な形式は次のとおりです。

```
MOVLIBOBJ FROMLIB(xxx) TOLIB(yyy)
```

このコマンドは、システム/38 でもシステム/38 環境でも作動します。

*JRN および *JRNRCV など、オブジェクト・タイプには移動不可能なものがあります。また、オブジェクトを移動するための権限がなければなりません。

コマンドが完了すると、移動されたオブジェクトの数、バイパスされた数、および移動できなかった（たとえば権限がないために）オブジェクトの数を示す完了メッセージが出されます。

このコマンドには、移動に関連する次のオプションがあります。

- ある特定のオブジェクト・タイプ（たとえば *FILE)
- 総称名オブジェクト。

- Q 以外の文字で始まるオブジェクト。ユーザー・オブジェクトを QGPL から移動する場合に役立ちます。

指定を組み合わせることができます。たとえば、ABC で始まるすべてのファイル・オブジェクトを移す場合は、次のようになります。

```
MOVLIBOBJ FROMLIB (xxx) TOLIB (yyy)
OBJTYPE (*FILE) GENNAME (ABC)
```

Q で始まらないオブジェクトをすべて QGPL から移すには、次のように指定します。

```
MOVLIBOBJ FROMLIB (QGPL) TOLIB (yyy)
EXCLUDE (*QNAMES)
```

このコマンドには、次のパラメーターがあります。

FROMLIB	移動元のライブラリー。
TOLIB	移動先のライブラリー。
OBJTYPE	移動するオブジェクト・タイプ。省略時値は *ALL です。MOVOBJ に指定できるオブジェクト・タイプはすべて指定することができます。
GENNAME	総称名。省略時値は *NONE です。総称名は * を付けずに指定する必要があります。
EXCLUDE	除外するオブジェクト省略時値は *NONE です。*QNAMES を指定すると、Q で始まるオブジェクトをすべて除外することができます。

このコマンドの OS/400 バージョンも、QUSRTOOL ライブラリーに含まれています。ツールの MOVLIBOBJ を参照してください。

このコマンドの作成には、以下のステップを実行します。

1. MOVLIBOBJ コマンドを示す次のコマンド定義を入力します。

```
1.00 /*PARMS PGM(MOVLIBOBJC) */
2.00 /* */
3.00 /* Moves objects from one library to another. Options exist to */
4.00 /* move only a generic name, only a specific type or those */
5.00 /* that do not begin with a Q. */
6.00 /* */
7.00 /* CPP is MOVLIBOBJC */
8.00 /* */
9.00 CMD PROMPT('Move Library Objects')
10.00 PARM KWD(FROMLIB) TYPE(*NAME) LEN(10) MIN(1) +
11.00 EXPR(*YES) PROMPT('From library:')
12.00 PARM KWD(TOLIB) TYPE(*NAME) LEN(10) MIN(1) +
13.00 EXPR(*YES) PROMPT('To library:')
14.00 PARM KWD(OBJTYPE) TYPE(*CHAR) LEN(8) DFT(*ALL) +
15.00 EXPR(*YES) RSTD(*YES) +
16.00 VALUES(*CHTFMT *CLS *CMD *DTAARA +
17.00 *DTAQ *FCT *FILE *GSS *JOBQ *JOBQ +
18.00 *MSGF *MSGQ *OUTQ *PGM *PRTIMG +
19.00 *SBSD *SPADCT *SSND *TBL *ALL) +
20.00 PROMPT('Object type:')
21.00 PARM KWD(GENNAME) TYPE(*NAME) LEN(10) DFT(*NONE) +
22.00 SPCVAL(*NONE) EXPR(*YES) +
23.00 PROMPT('Generic name (no *) or *NONE:')
24.00 PARM KWD(EXCLUDE) TYPE(*CHAR) LEN(10) DFT(*NONE) +
25.00 RSTD(*YES) EXPR(*YES) +
26.00 VALUES(*NONE *QNAMES) +
27.00 PROMPT('Exclude *NONE or *QNAMES:')
```

2. 次のように指定して MOVLIBOBJ コマンドを作成 PGM(MOVLIBOBJC) します。

3. 次の原始仕様を入力して、CL プログラムの MOVLIBOBJC を作成します。

```

1.00 /* Moves objects from one library to another - CPP for MOVLIBOBJC */
2.00          PGM          PARM(&FROMLIB &TOLIB &OBJTYPE &GENNAME +
3.00              &EXCLUDE)
4.00          DCLF        QADSPOBJ
5.00          DCL          &FROMLIB *CHAR LEN(10)
6.00          DCL          &TOLIB *CHAR LEN(10)
7.00          DCL          &OBJTYPE *CHAR LEN(8)
8.00          DCL          &GENNAME *CHAR LEN(10)
9.00          DCL          &EXCLUDE *CHAR LEN(10)
10.00         DCL          &GOODCNT *DEC LEN(5 0)
11.00         DCL          &BADCNT *DEC LEN(5 0)
12.00         DCL          &BYPCNT *DEC LEN(5 0)
13.00         DCL          &GOODCNTA *CHAR LEN(5)
14.00         DCL          &BADCNTA *CHAR LEN(5)
15.00         DCL          &BYPCNTA *CHAR LEN(5)
16.00         DCL          &GENCNT *DEC LEN(3 0) VALUE(10)
17.00         DCL          &GENCOMP *CHAR LEN(10)
18.00         DCL          &GENCOMP2 *CHAR LEN(10)
19.00         DCL          &TYPE *CHAR LEN(1)
20.00         DCL          &MSGID *CHAR LEN(7)
21.00         DCL          &MSGDTA *CHAR LEN(100)
22.00         DCL          &MSGF *CHAR LEN(10)
23.00         DCL          &MSGFLIB *CHAR LEN(10)
24.00         DCL          &ERRORSW *LGL
25.00         MONMSG      MSGID(CPF0000) EXEC(GOTO ERROR)
26.00         RTVJOBA     TYPE(&TYPE)
27.00         IF          (&TYPE *EQ '0') DO /* Batch job */
28.00             /* Ensure job log if in batch */
29.00             CHGJOB     LOG(4 0 *MSG)
30.00             ENDDO     /* Batch job */
31.00             IF          (&GENNAME *NE '*NONE') DO /* Generic name */
32.00             CHGVAR     &GENCOMP &GENNAME
33.00 GENLOOP:         IF          (%SST(&GENNAME &GENCNT 1) *EQ ' ') DO /* Chr */
34.00             CHGVAR     &GENCNT (&GENCNT - 1)
35.00             GOTO       GENLOOP
36.00             ENDDO     /* Char exists */
37.00             ENDDO     /* Generic name */
38.00             DSPOBJD     OBJ(*ALL.&FROMLIB) OBJTYPE(*ALL) +
39.00                 OUTPUT(*NONE) OUTFILE(DSPOBJP.QTEMP)
40.00             OVRDBF     QADSPOBJ TOFILE(DSPOBJP.QTEMP)
41.00             RMVMSG      CLEAR(*ALL)
42.00 READ:             RCVF          /* Read a record from DSPOBJD out file */
43.00             MONMSG      MSGID(CPF0864) EXEC(GOTO EOF)
44.00             IF          (&OBJTYPE *NE '*ALL') DO /* Not all types */
45.00             IF          (&ODOBTP *NE &OBJTYPE) DO /* Wrong type */
46.00             CHGVAR     &BYPCNT (&BYPCNT + 1)
47.00             GOTO       READ
48.00             ENDDO     /* Wrong type */
49.00             ENDDO     /* Not all types */
50.00             IF          (&GENNAME *NE '*NONE') DO /* Generic name */
51.00             CHGVAR     &GENCOMP2 %SST(&ODOBNM 1 &GENCNT) /* Gen len */
52.00             IF          (&GENCOMP *NE &GENCOMP2) DO /* Not gen val */
53.00             CHGVAR     &BYPCNT (&BYPCNT + 1)
54.00             GOTO       READ

```

```

55.00      ENDDO      /* Not generic value */
56.00      ENDDO      /* Generic name */
57.00      IF        (&EXCLUDE *EQ '*Q NAMES') DO /* Exclude Qs */
58.00      IF        (%SST(&ODOBNM 1 1) *EQ 'Q') DO /* Q obj */
59.00      CHGVAR    &BYPCNT (&BYPCNT + 1)
60.00      GOTO      READ
61.00      ENDDO      /* Q obj */
62.00      ENDDO      /* Exclude Q names */
63.00      MOV OBJ   OBJ(&ODOBNM.&FROMLIB) OBJTYPE(&ODOBTP) +
64.00      TOLIB(&TOLIB)
65.00      MONMSG    MSGID(CPF0000) EXEC(DO) /* MOV OBJ failed */
66.00      /* Resend any messages */
67.00  OBJDIAG:  RCVMSG  MSGTYPE(*DIAG) MSGDTA(&MSGDTA) MSGID(&MSGID) +
68.00      MSGF(&MSGF) MSGFLIB(&MSGFLIB)
69.00      IF        (&MSGID *EQ ' ') GOTO OBJESCAPE
70.00      SNDPGMMMSG MSGID(&MSGID) MSGF(&MSGF.&MSGFLIB) +
71.00      MSGDTA(&MSGDTA) MSGTYPE(*DIAG)
72.00      GOTO      OBJDIAG /* Loop back for addl diagnostics */
73.00  OBJESCAPE: RCVMSG  MSGTYPE(*EXCP) MSGDTA(&MSGDTA) MSGID(&MSGID) +
74.00      MSGF(&MSGF) MSGFLIB(&MSGFLIB)
75.00      SNDPGMMMSG MSGID(&MSGID) MSGF(&MSGF.&MSGFLIB) +
76.00      MSGDTA(&MSGDTA) MSGTYPE(*DIAG)
77.00      CHGVAR    &BADCNT (&BADCNT + 1)
78.00      GOTO      READ
79.00      ENDDO      /* MOV OBJ failed */
80.00      CHGVAR    &GOODCNT (&GOODCNT + 1) /* MOV OBJ successful */
81.00      GOTO      READ
82.00  EOF:      /* Send completion message with counts */
83.00      RCVMSG    MSGTYPE(*EXCP) /* Remove EOF from job log */
84.00      CHGVAR    &GOODCNTA &GOODCNT
85.00      CHGVAR    &BADCNTA &BADCNT
86.00      CHGVAR    &BYPCNTA &BYPCNT
87.00      SNDPGMMMSG MSG('Objs moved-' *CAT &GOODCNTA *CAT +
88.00      ' Objs bypassed-' *CAT &BYPCNTA *CAT +
89.00      ' Objs failed-' *CAT &BADCNTA) +
90.00      MSGTYPE(*COMP)
91.00      RETURN    /* Normal end of program */
92.00  ERROR:    /* Standard error handling routine */
93.00      IF        &ERRORSW SNDPGMMMSG MSGID(CPF9999) +
94.00      MSGF(QCPFMSG) MSGTYPE(*ESCAPE) /* Func chk */
95.00      CHGVAR    &ERRORSW '1'
96.00  ERROR1:  RCVMSG  MSGTYPE(*DIAG) MSGDTA(&MSGDTA) MSGID(&MSGID) +
97.00      MSGF(&MSGF) MSGFLIB(&MSGFLIB)
98.00      IF        (&MSGID *EQ ' ') GOTO ESCAPE
99.00      SNDPGMMMSG MSGID(&MSGID) MSGF(&MSGF.&MSGFLIB) +
100.00      MSGDTA(&MSGDTA) MSGTYPE(*DIAG)
101.00      GOTO      ERROR1 /* Loop back for addl diagnostics */
102.00  ESCAPE:  RCVMSG  MSGTYPE(*EXCP) MSGDTA(&MSGDTA) MSGID(&MSGID) +
103.00      MSGF(&MSGF) MSGFLIB(&MSGFLIB)
104.00      SNDPGMMMSG MSGID(&MSGID) MSGF(&MSGF.&MSGFLIB) +
105.00      MSGDTA(&MSGDTA) MSGTYPE(*ESCAPE)
106.00      ENDPGM

```


3. ライブラリー所有者の検査

ライブラリー所有者の検査 (CHKLIBOWN) コマンドでは、ライブラリーのオブジェクトが検査され、特定の所有者が所有していないすべてのオブジェクトのジョブ・ログ・メッセージが印刷されます。これは、以下の場合を対象としています。

- ライブラリー内のすべてのオブジェクトが、同じユーザーによって所有されていることを確認したい場合。通常、次のようなコマンドを入力します。

```
CHKLIBOWN LIB(xxx) EXCLUDE(QPGMR)
```

ライブラリーに、QPGMR によって所有されていないオブジェクトが見つかるたびに、メッセージが出されます。

- QSYS にユーザー・オブジェクトがないことを確認したい場合。この場合は特殊値の *IBM を使用し、機密保護担当者として、次のコマンドを使用します。

```
CHKLIBOWN LIB(QSYS) EXCLUDE(*IBM)
```

通常、高水準言語で使用されるメッセージ・ファイルなどの、QSYS によって所有されていないオブジェクトが、ジョブ・ログに記録されます。

完了メッセージには、バイパスされたオブジェクトの数、指定のユーザー以外のユーザーの所有されるオブジェクトの数が示されます。

このコマンドは、システム/38 でもシステム/38 環境でも作動します。

このコマンドには、次のパラメーターがあります。

LIB 検査されるライブラリー。
EXCLUDE 除外される所有者名。特殊値の *IBM を使用すると、弊社提供のオブジェクトを除外することができます。これには、ユーザーによって変更されたオブジェクトや、QSYS が所有するオブジェクトが含まれます。

*LIB および *LIND などのオブジェクトは、常にバイパスされず (QSYS ライブラリーにのみ存在します)。

このコマンドは、移行の前にシステム/38 のライブラリーを調べるためのものです。ただし、このコマンドは汎用であり、このコマンドの OS/400 バージョンは QUSRTOOL ライブラリーに含まれています。ツールの CHKLIBOWN を参照してください。

このコマンドの作成には、以下のステップを実行します。

1. CHKLIBOWN コマンドを示す次のコマンド定義を入力してください。

```
SEQNBR *... .. 1 ... .. 2 ... .. 3 ... .. 4 ... .. 5 ... .. 6 ... .. 7
1.00 /*PARMS PGM(CHKLIBOWNC) */
2.00 /* */
3.00 /* Check Library owner checks all objects in a library to see */
4.00 /* if they are owned by the profile named. If not, a message */
5.00 /* is sent to the job log. The object types that are only in */
6.00 /* QSYS (eg *LIND) are bypassed. If the library is QSYS, */
7.00 /* message queue objects are bypassed if the name is the same */
8.00 /* as a device description. The special value *IBM excludes */
9.00 /* QSYS and other names beginning with Q except for QSECOFR, */
10.00 /* QPGMR, QCE, QPSR, and QSYSOPR. */
11.00 /* */
12.00 /* The CPP is CHKLIBOWNC */
13.00 /* */
14.00 CMD PROMPT('Check Library Owner')
15.00 PARM KWD(LIB) TYPE(*NAME) LEN(10) MIN(1) +
16.00 EXPR(*YES) +
17.00 PROMPT('Library to check:')
18.00 PARM KWD(EXCLUDE) TYPE(*NAME) LEN(10) MIN(1) +
19.00 EXPR(*YES) SPCVAL(*IBM) +
20.00 PROMPT('Exclude owner name or *IBM:')
```

2. 次のように指定して、CHKLIBOWN コマンドを作成します。

```
PGM(CHKLIBOWNC)
```

3. 次の原始仕様を入力して、CL プログラムの CHKLIBOWNC を作成します。

```

SEQNBR *... .. 1 ... .. 2 ... .. 3 ... .. 4 ... .. 5 ... .. 6 ... .. 7
 1.00 /* CHKLIBOWNC - Check library owner - CPP for CHKLIBOWN */
 2.00      PGM      PARM(&LIB &EXCLUDE)
 3.00      DCLF     QADSPOBJ
 4.00      DCL      &LIB *CHAR LEN(10)
 5.00      DCL      &EXCLUDE *CHAR LEN(10)
 6.00      DCL      &OWNCNT *DEC LEN(5 0)
 7.00      DCL      &OWNCNTA *CHAR LEN(5)
 8.00      DCL      &OTHER *DEC LEN(5 0)
 9.00      DCL      &OTHERA *CHAR LEN(5)
10.00     DCL      &BYPCNT *DEC LEN(5 0)
11.00     DCL      &BYPCNTA *CHAR LEN(5)
12.00     DCL      &TYPE *CHAR LEN(1)
13.00     RTVJOBA   TYPE(&TYPE)
14.00     IF        (&TYPE *EQ '0') DO /* Batch job */
15.00     /* Ensure job log if in batch */
16.00     CHGJOB     LOG(4 0 *MSG)
17.00     ENDDO     /* Batch job */
18.00     DSPOBJD    OBJ(*ALL.&LIB) OBJTYPE(*ALL) DETAIL(*SERVICE) +
19.00     OUTPUT(*NONE) OUTFILE(DSPOBJP.QTEMP)
20.00     OVRDBF    QADSPOBJ TOFILE(DSPOBJP.QTEMP)
21.00     RMVMSG    CLEAR(*ALL)
22.00 LOOP:      RCVF
23.00     MONMSG    MSGID(CPF0864) EXEC(GOTO ENDPGM)
24.00     IF        ((&ODOBTP *EQ '*LIB') *OR +
25.00     (&ODOBTP *EQ '*USRPRF') *OR +
26.00     (&ODOBTP *EQ '*LIND') *OR +
27.00     (&ODOBTP *EQ '*CTLD') *OR +
28.00     (&ODOBTP *EQ '*CUD') *OR +
29.00     (&ODOBTP *EQ '*DEV'D')) DO /* Bypass */
30.00     CHGVAR    &BYPCNT (&BYPCNT + 1)
31.00     GOTO     LOOP
32.00     ENDDO     /* Bypass */
33.00     IF        (&ODOBOW *EQ &EXCLUDE) DO /* Owner excluded */
34.00     CHGVAR    &OWNCNT (&OWNCNT + 1)
35.00     GOTO     LOOP
36.00     ENDDO     /* Owner excluded */
37.00     IF        (&EXCLUDE *EQ '*IBM') DO /* EXCLUDE(*IBM) */
38.00     IF        ((&ODUMOD *NE '1') *OR +
39.00     (&ODOBOW *EQ 'QSYS')) DO /* IBM obj/QSYS */
40.00     CHGVAR    &OWNCNT (&OWNCNT + 1)
41.00     GOTO     LOOP
42.00     ENDDO     /* IBM object or owned by QSYS */
43.00     ENDDO     /* OWNER(*IBM) */
44.00 CHKQSYS:   IF        ((&LIB *EQ 'QSYS') *AND +
45.00     (&ODOBTP *EQ '*MSGQ')) DO /* Chk WS MSGQ */
46.00     CHKOBJ    OBJ(&ODOBNM.QSYS) OBJTYPE(*DEV'D)
47.00     MONMSG    MSGID(CPF9801) EXEC(GOTO RMVMSG) /* Not fnd */
48.00     CHGVAR    &OWNCNT (&OWNCNT + 1)
49.00     GOTO     LOOP
50.00     ENDDO     /* Chk WS MSGQ */

```

```

51.00 RMVMSG:   RCVMSG   MSGTYPE(*EXCP) /* Remove from job log */
52.00           SNDPGMMSG MSG('Object ' *CAT &ODOBNM *TCAT '.' *CAT +
53.00           &ODLBNM *TCAT ' type ' *CAT &ODOBTP *TCAT ' +
54.00           owned by ' *CAT &ODOBOW)
55.00           CHGVAR   &OTHER (&OTHER + 1)
56.00           GOTO     LOOP
57.00 ENDPGM:
58.00           RCVMSG   MSGTYPE(*EXCP) /* Remove EOF from job log */
59.00           CHGVAR   &OWNCNTA &OWNCNT
60.00           CHGVAR   &OTHERA &OTHER
61.00           CHGVAR   &BYPCNTA &BYPCNT
62.00           SNDPGMMSG MSG('Owned by ' *CAT &EXCLUDE *BCAT &OWNCNTA +
63.00           *CAT ' Not owned by ' *CAT &EXCLUDE *BCAT +
64.00           &OTHERA *CAT ' Bypassed objects ' *CAT +
65.00           &BYPCNTA) MSGTYPE(*COMP)
66.00           ENDPGM

```

付録E. システム/38 から AS/400 システムへの RPG の変換

この付録では、システム/38 から AS/400 システムへの RPG の変換について説明します。

システム/38 では実行できない RPG/400 の機能には、次のものがあります。

- システム/38 では、AS/400 のファイル名の命名規則はサポートされません。AS/400 のオブジェクト命名規則は、ライブラリー名/オブジェクト名です。RPG/400 コンパイラーは、システム/38 環境のもとで呼び出された場合にのみ、システム/38 の命名規則 (LIBRARY/OBJECT) を受け入れます。システム/38 環境によって出される実行時のメッセージには、ライブラリー、ファイル、メンバー、およびプログラムの名前が、AS/400 の命名規則 (OBJECT.LIBRARY) で示されます。/COPY ステートメントおよび CALL と FREE の命令コードは、AS/400 システムで使用される場合は AS/400 の命名規則を、システム/38 環境で使用される場合はシステム/38 の命名規則を必要とします。
- RPG/400 は、AS/400 システムでは ICF ファイルをサポートします。
- AS/400 システムでは、RPG/400 の POST フィールドバック域が増えて、241 バイトから 528 バイトまでをカバーします。
- AS/400 システムは、最大 30 桁の数値変数をサポートします。使用できる 10 進数の最大値は引き続き 9 になります。
- AS/400 システムでは、命令コード MOVEA に数値を使用できます。
- AS/400 システムには、3 つの組込みサブルーチン (SUBR23R3, SUBR40R3, および SUBR41R3) があります。これらはシステム/38 では使用できません。
- AS/400 システムには、AS/400 システムにおける値の *STATUS が追加されています。
- AS/400 システムでは、AS/400 システムのパラメーター・キーワードを指定しないで、コマンド行に入力できるパラメーター値の数が 3 つに制限されています。

AS/400 システムへの変換

次の表は、システム/38 の RPG III と AS/400 の RPG/400 の、コンパイラー・オプションの相違を示したものです。各オプションは、そのすぐ前にあるパラメーター・キーワードのパラメーター値です。

RPG/400 のパラメーター	システム/38 のパラメーター	RPG/400 のオプション	システム/38 のオプション	注記
REPLACE	なし			新しいパラメーター
		*YES	なし	新しいオプション
		*NO	なし	新しいオプション
AUT	PUBAUT			PUBAUT は AUT に置き換わります。
		*CHANGE	*NORMAL	*NORMAL は *CHANGE に置き換わります。
		*EXCLUDE	*NONE	*NONE は *EXCLUDE に置き換わります。
		*USE	なし	新しいオプション
		権限 リスト名	なし	新しいオプション
PGM	PGM			既存のパラメーター
		*CURLIB	なし	新しいオプション/新しい省略時値
SRCFILE	SRCFILE			既存のパラメーター
		*CURLIB	なし	新しいオプション
PRTFILE	PRTFILE			既存のパラメーター
		*CURLIB	なし	新しいオプション
OPTION	OPTION			既存のパラメーター
		*SECLVL	なし	新しいオプション
		*NOSECLVL	なし	新しいオプション

用語集

アクセス・パス (access path). (1) プログラムによる処理を目的とした、データベース・ファイル内のレコードの編成順序。*到着順序アクセス・パス (arrival sequence access path)* および *キー順アクセス・パス (keyed sequence access path)* を参照。(2) (SQL) SQL ステートメントに指定されたデータを見つけるために使用されるパス。アクセス・パスは、索引付き、順次、またはこの組合せにすることができます。

拡張分散ネットワーク機能 (advanced peer-to-peer networking (APPN)). ネットワーク内のデータを、必ずしも隣接するわけではない複数の APPC システム間で経路指定するデータ通信サポート。

拡張印刷機能 (advanced printer function). AS/400 システムの適用業務開発ツール・ライセンス・プログラムの機能の 1 つで、これを使用すると、ユーザーは、ビジネスまたはデータ処理適用業務用の記号、ロゴ、特殊文字、大型文字、および書式を設計することができる。また、5224 または 5225 ドット・マトリックス印刷装置に、任意のデザインを印刷することができる。

拡張プログラム間通信機能 (advanced program-to-program communications (APPC)). AS/400 のプログラムが、互換性のある通信サポートを備えた他のシステムと通信できるようにするデータ通信サポート。AS/400 の APPC は、SNA LU セッション・タイプの 6.2 プロトコルを使用する。

警報 (alert). フォーカル・ポイントに送られるレコードで、問題が起こったか、あるいは問題が起こる可能性があることを示す。

警報制御装置記述 (alert controller description). 制御装置警報セッションで、警報の送り先となるシステムを定義した制御装置記述。

制御装置警報セッション (alert controller session). SSCP-PU セッションの 1 タイプであり、警報フォーカル・ポイントとして指定されたシステムに、警報を送信することができる。

全権限 (all authority). オブジェクトの所有者だけに制限されている操作、または権限リストの管理者により制御される操作を除く、すべての操作をオブジェクトに対して行うことができるようにするオブジェクト権限。ユーザーは、オブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更することができる。*除外権限 (exclude authority)* と対比。

全オブジェクト権限 (all object authority). ユーザーが、資源に関する個別の権限を持たなくても、すべてのシステム資源を使用できるようにする特殊な権限。*システム保管権限 (save system authority)*、*ジョブ制御権限 (job control authority)*、*機密保護管理者権限 (security administrator authority)*、*保守権*

限 (service authority)、および *スプール制御権限 (spool control authority)* も参照。

情報交換米国標準コード (American National Standard Code for Information Interchange (ASCII)). 米国企画協会が、データ処理システム、データ通信システム、およびこれらの関連機器の間の情報交換のために開発したコード。ASCII 文字セットは、7 ビットの制御文字と記号文字および 1 ビットのパリティ検査ビットから構成される。

API. *適用業務プログラム・インターフェース (application program interface (API))* を参照。

APPC. *拡張プログラム間通信機能 (advanced program-to-program communications (APPC))* を参照。

適用業務プログラム (application program). 在庫管理業務や給与計算業務などの特定のデータ処理タスクを実行するために使用されるプログラム。

適用業務プログラム・インターフェース (application program interface (API)). オペレーティング・システムまたは個別に注文可能なライセンス・プログラムによって提供される機能インターフェース。これによって、高水準言語で作成された適用業務プログラムは、オペレーティング・システムまたはそのライセンス・プログラムの特定のデータまたは機能を使用することができる。

APPN. *拡張分散ネットワーク機能 (advanced peer-to-peer networking (APPN))* を参照。

特定区域ヘルプ (area-specific help). 適用業務プログラムで、プログラマーが画面上の特定の区域に提供するヘルプ情報で、そのプログラムのユーザーが、その区域にカーソルを置いてヘルプ・キーを押すと、そのヘルプ情報が表示される。

到着順アクセス・パス (arrival sequence access path). レコードが物理ファイルに入れられた順番に従って配列されたデータベースへのアクセス・パス。*キー順アクセス・パス (keyed sequence access path)* および *アクセス・パス (access path)* も参照。

ASCII. *情報交換米国標準コード (American National Standard Code for Information Interchange (ASCII))* を参照。

ASP. *補助記憶域プール (auxiliary storage pool (ASP))* を参照。

属性 (attribute). (1) 1 つまたは複数のオブジェクトの特性または性質。(2) SQL のデータベースの設計では、エンティティの特性。たとえば、社員の電話番号は、その社員の属性の 1 つである。(3) BGU では、図表様式を構成する特性。

属性文字 (attribute character). 表示装置ファイルのレコード様式のフィールドに関連する文字で、そのフィールドの表示方法を定義する。

自動開始ジョブ項目 (automatically started job entry). サブシステムを開始するたびに自動的に実行されるジョブを指定する、サブシステム記述内の実行処理項目。

補助記憶装置 (auxiliary storage). 主記憶装置以外のアドレス指定可能なすべてのディスク装置。

補助記憶域プール (auxiliary storage pool (ASP)). ディスク装置のグループ。システム ASP (system ASP) およびユーザー ASP (user ASP) も参照。

基本データ交換 (basic data exchange). システム間または装置間で、ディスクまたはテープ上のデータを交換するためのファイル形式。

2 進データ同期通信 (binary synchronous communications (BSC)). データ通信回線プロトコルの 1 つで、標準セットの伝送制御文字と制御文字列を使用して、2 進コードのデータを通信回線で送信する。*同期データ・リンク制御 (synchronous data link control (SDLC))* も参照。

BSC. 2 進データ同期通信 (binary synchronous communications (BSC)) を参照。

文字作成ユーティリティ (character generator utility (CGU)). 適用業務開発ツールの機能で、ユーザー定義の漢字および関連する分類情報の定義および保守に使用する。

チェックサム保護 (checksum protection). システム補助記憶域プールに保存したデータが、ディスクの障害のために失われることがないように保護する機能。チェックサム保護が働いているときにディスクの障害が起こった場合は、装置が修理された後、システム・プログラムをロードするときに、システムによりデータが自動的に再構成される。

チェックサム・セット (checksum set). チェックサム保護が働いていて、ディスクの障害が起こった場合に、システムがデータを回復する方法を提供するために、グループとして定義される補助記憶装置の単位数。

CL. 制御言語 (control language (CL)) を参照。

クラス属性 (class attributes). ジョブ内の経路指定ステップの処理を制御する、ジョブ変更 (CHGJOB) コマンドの値。この値には、実行優先順位、タイム・スライス、削除、および省略時の待ち時間などのパラメーターがある。

コマンド定義 (command definition). コマンドの定義 (コマンド名、パラメーター記述、および妥当性検査情報を含む) が含まれるオブジェクトで、コマンドの要求する機能を実行するプログラムを識別する。このオブジェクト・タイプのシステム認識識別コードは *CMD である。

コマンド・ファイル (command file). ホスト・システム・コマンド、ジョブ制御言語 (JCL)、データ、および RJE 制御ステートメント (READFILE または EOF) を含めることができる遠隔ジョブ入力ストリーム。データ・ファイル (data file) と対比。

コミット (commit). (1) 最後に行ったコミットまたはロールバック操作以降の、1 つまたは複数のデータベースに対するすべての変更を永続的なものとして、変更したレコードを他のユーザーにも使用できるようにすること。(2) SQL において、1 つの適用業務またはユーザーによって変更されたデータを、他の適用業務またはユーザーに使用できるようにする処理。コミット操作が行われると、ロックは解除されて、他の適用業務が、変更されたデータを使用できるようになります。

コミットメント制御 (commitment control). データベース・ファイル操作をグループ化して、一連のデータベースの変更をコミット・コマンドによって 1 単位として処理するか、または一連のデータベース変更の除去をロールバック・コマンドによって 1 単位として行う方法。

制御言語 (control language (CL)). ユーザーが OS/400 の機能を要求するためのコマンドの集合。

制御言語 (CL) プログラム (control language (CL) program). 制御言語コマンドだけからなる原始システムによって作成されるプログラム。

制御装置構成 (controller configuration). データ処理システムを構成する構内 (装置構成) および遠隔 (通信構成) 制御装置の構成記述を作成する処理。

相互参照表 (cross-reference listing). ファイル、フィールド、および標識が、プログラム内のどこで定義、参照、または変更されるかを示す、コンパイラー・リストの部分。

暗号 (cryptography). その意味を隠すためにデータを変形すること。秘密コード。

現行ライブラリー (current library). ユーザーが指定したオブジェクトを探す場合に、最初に探索されるユーザー・ライブラリーとして指定されたライブラリー。現行ライブラリーの名前は、サイン・オン画面またはユーザー・プロファイルで指定できる。コマンドでオブジェクト名 (たとえば、ファイル名またはプログラム名) を指定し、ライブラリー名を指定しないと、システムはライブラリー・リストのシステム部分を探索し、現行ライブラリーを探索してから、ライブラリー・リストのユーザー部分を探索する。現行ライブラリーは、ライブラリー名が指定されていない場合に、新しいオブジェクトを作成するときにも使用される。

データ域 (data area). ジョブ内のプログラム間およびジョブ間で、CL 変数値などのデータを受渡するために使用される記憶域。データ域のシステム認識識別コードは *DTAARA である。

データ記述仕様 (data description specifications (DDS)). ユーザーのデータベース・ファイルまたは装置ファイルに関する

記述で、固定形式でシステムに入力される。この記述に基づいてファイルが作成される。

データ・ファイル (data file). (1) 特定の順序で編成された関連するデータ・レコードの集り。(2) 作成コマンドで FILETYPE (*DATA) を指定することによって作成されたファイル。原始ファイル (source file) と対比。(3) BASIC では、プログラムの DATA ステートメントの値を含むテーブル。(4) RJE では、データだけでなく、ホスト・システム・コマンドとジョブ制御言語を含めることができる遠隔ジョブ入力カストリーム。コマンド・ファイル (command file) と対比。

データ待ち行列 (data queue). 1 つのジョブ内のいくつかのプログラム、または複数のジョブ間で使用されるデータを、転送および保管するために使用されるオブジェクト。システム認識識別コードは *DTAQ である。

DDM. 分散データ管理 (distributed data management (DDM)) を参照。

DDS. データ記述仕様 (data description specifications (DDS)) を参照。

専用保守ツール (dedicated service tools (DST)). オペレーティング・システムが作動しないときに、システムを保守するために使用するサービス機能の一部。

装置構成 (device configuration). 表示装置や印刷装置などの物理的な配置、およびシステムに対して物理構成を記述し、システムによる構成の使用方法を記述する構成記述。回線構成 (line configuration) および制御装置構成 (controller configuration) も参照。

装置ファイル (device file). 装置からプログラムへのデータの表示方法、またはプログラムから装置へのデータの表示方法を示す記述を含むファイル。装置には、表示装置、印刷装置、ディスク装置、テープ装置、または遠隔システムがある。

表示装置パススルー (display station pass-through). 通信機能の 1 つで、ユーザーが 1 つのシステム (AS/400 システム、システム/38、またはシステム/36) へ別のシステム (AS/400 システム、システム/38、またはシステム/36) からサイン・オンし、そのシステムのプログラムとデータを使用できるようにする。パススルーとも呼ばれる。

分散データ管理機能 (distributed data management (DDM)). オペレーティング・システムの機能の 1 つで、あるシステムの適用業務プログラムまたはユーザーが、遠隔システムに保管されたデータ・ファイルを使用できるようにする。両方のシステムが通信ネットワークで接続されていなければならない。遠隔システムでも DDM を使用していなければならない。

文書ライブラリー (document library). すべての文書およびフォルダーが入っている QDOC という名前のシステム・ライブラリー。

DST. 専用保守ツール (dedicated service tools (DST)) を参照。

エンド・ノード (end node). APPN ネットワーク内で、原始ノードまたは目的ノードにはなるが、他のノードに対して、経路指定またはセッション・サービスを行うことのないノード。

除外権限 (exclude authority). ユーザーがオブジェクトまたはその内容を使用できないようにするオブジェクト権限。全権限 (all authority) と対比。

フォルダー (folder). 文書用登録簿。(フォルダーとは、関連する文書をグループ化して、各文書を名前で検索するために使用される。このオブジェクト・タイプのシステム認識識別コードは *FLR である。ライブラリー (library) と対比。

初期設定済みディスク (formatted diskette). 制御情報が書き込まれているディスク。ただし、データは含まれている場合も、含まれていない場合もある。

GDDM. グラフィック・データ表示管理プログラム (graphical data display manager (GDDM)) を参照。

汎用ライブラリー (general-purpose library). システムとともに提供されるライブラリー。多くのシステム機能に必要な IBM 提供オブジェクト、および作成時に明示的に別のライブラリーに入れられたものではないユーザー作成オブジェクトが含まれる。名前は QGPL。

図形文字セット (graphic character set). コード・ページ内の図形文字セット

グラフィック・データ表示管理プログラム (graphical data display manager (GDDM)). オペレーティング・システムの機能の 1 つで、表示装置、印刷装置、または作図装置上への出力用に、テキストと図形の両方を処理する。

図形記号セット (graphics symbol set). 行またはイメージのいずれかを含めることができるオブジェクト。このオブジェクト・タイプのシステム認識識別コードは *GSS である。

グループ・ジョブ (group job). 同じワークステーション装置とユーザーのグループに関連付けられた 16 個の対話式ジョブの 1 つ。

独立ワークステーション (independent work station). プログラム式のワークステーションで、ホスト・システムに依存しないで作動するが、ホスト・システムと通信を行って、指定のシステム・サービスを使用できるもの。パーソナルシステム/55 (Personal System/55*) は、独立ワークステーションの 1 例である。

初期プログラム・ロード (initial program load (IPL)). システム・プログラムをシステム補助記憶装置からロードし、システム・ハードウェアを検査し、システムをユーザーの操作のために準備するプロセスのこと。

IPL. 初期プログラム・ロード (initial program load (IPL)) を参照。

ジョブ会計 (job accounting). ジョブによるシステム資源の使用情報を収集し、その情報をジャーナルに記録するシステム機能の 1 つ。

ジョブ制御権限 (job control authority). ユーザーが、出力待ち行列上のすべてのファイルの変更、削除、表示、保留、および解放、ジョブ待ち行列および出力待ち行列の保留、解放、および消去、出力待ち行列への書出しプログラムの開始、他のユーザー・ジョブの保留、解放、変更、および終了、ジョブのクラス属性の変更、サブシステムの終了、そして、システムの開始 (IPL) を行えるようにする特別な権限。全オブジェクト権限 (*all object authority*)、システム保管権限 (*save system authority*)、機密保護管理者権限 (*security administrator authority*)、保守権限 (*service authority*)、およびスプール制御権限 (*spool control authority*) も参照。

ジョブ記述 (job description). ジョブの処理方法を定義するシステム・オブジェクト。オブジェクト名は *JOBDD。

ジョブ名 (job name). システムに対して示されるジョブの名前。対話式ジョブでは、ジョブを開始するワークステーションの名前がジョブに割り当てられる。バッチ・ジョブでは、ジョブの投入に使用したコマンドで名前を識別される。修飾ジョブ名 (*qualified job name*) と対比。

ジョブ待ち行列 (job queue). システムによって開始または処理されるのを待っているバッチ・ジョブのリスト。このオブジェクト・タイプのシステム認識識別コードは *JOBQ である。

ジャーナル (journal). ジャーナルに関連するデータベース・ファイルに変更を加えたときに、ジャーナル・レシーバーに項目を記録するために使用されるシステム・オブジェクト。このオブジェクトのタイプは *JRN である。ジャーナル・レシーバー (*journal receiver*) も参照。

ジャーナル・レシーバー (journal receiver). データベース・ファイルのデータ、またはそのデータベース・ファイルと関連したアクセス・パスに変更が加えられたときに記録されたジャーナル項目を含む、システム・オブジェクト。このオブジェクトのタイプは *JRNRCV である。ジャーナル (*journal*) も参照。

K. 1024 バイトの記憶域。

キー順アクセス・パス (keyed sequence access path). 個々のレコード内のキー・フィールドの内容に従って順序付けされるデータベース・ファイルへのアクセス・パス。到着順アクセス・パス (*arrival sequence access path*) およびアクセス・パス (*access path*) も参照。

ライブラリー (library). (1) 他のオブジェクトの登録簿としての役割を果たす、ディスク上のオブジェクト。ライブラリーでは、関連するオブジェクトがグループ化されており、ユーザーが名前によってオブジェクトを見つけることができる。フォルダー (*folder*) と対比。(2) システムに関する参考資料の集り。

ライセンス・プログラム (licensed program). ユーザー・データの処理に関連した機能を実行する、IBM 提供のプログラム。

回線構成 (line configuration). データ処理システムを構成する回線の構成記述を作成する処理。制御装置構成 (*controller configuration*) および装置構成 (*device configuration*) も参照。

構内ワークステーション (local work station). データ伝送機構を必要としないで、システムに直接されているワークステーション。遠隔ワークステーション (*remote work station*) と対比。

論理装置 (logical unit (LU)). ユーザーが通信ネットワークにアクセスするためのポートとして機能する、ネットワーク・アドレス指定可能装置の 1 つのタイプのうちの 1 つ。物理装置 (*physical unit*)、およびシステム・サービス制御点 (*system services control point (SSCP)*) も参照。

LU. 論理装置 (logical unit (LU)) を参照。

モード (mode). 遠隔ロケーションで 1 単位として管理されている拡張プログラム間通信 (APPC) 装置に関連するセッションのセッション限度と共通特性。

モード記述 (mode description). 拡張プログラム間通信 (APPC) 装置用に作成されるシステム・オブジェクトで、使用できるセッションの最大数、使用できる会話の最大数、受信および送信要求/応答単位の歩調合せ値、およびその他のセッション制御情報など、セッションの限界値やセッションの特性を記述する。

ネットワーク (network). 端末間で情報を交換するために、通信回線で接続されたデータ処理プロダクトの集り。

ネットワーク・ノード (network node). APPN の経路の定義、経路選択の制御、および登録簿サービスを行うことのできるノード。

ノード (node). (1) ネットワーク内のシステムまたは装置の 1 つ。(2) ホスト処理サービスを提供する通信ネットワーク内の 1 つのロケーション。(3) (X.25) パケットを受信および記憶し、ネットワークに定義された経路指定方法に従って、別のロケーション (またはデータ端末装置) に送信する点。(4) (APPN) ネットワーク・ノード (*network node*) および終りノード (*end node*) を参照。

通常待ち行列 (normal queue). ネクスト・システムのための配布項目のリスト (各ネクスト・システム用の待ち行列) であり、送信の優先順位が低いもの。各ネクスト・システムに 1 つの通常待ち行列がある。優先待ち行列の通常待ち行列の両方で、送信時刻と送信待ち行列内項目数が同時に満たされた場合は、優先待ち行列が先に送られる。優先待ち行列 (*priority queue*) と対比。

オブジェクト (object). (1) それ自体を記述する特性の集合、および場合によってはデータからなる名前の付いた記憶域。オブジェクトとは、記憶域内に存在して、そのスペースを占有し、それに対して操作を実行できるすべてのものをいう。オブジェクトの例としては、プログラム、ファイル、ライブラリー、およびフォルダーがある。(2) (SQL) データベース、テーブル、ビュー、または索引など、SQL ステートメントによって作成あるいは操作できるものすべて。

オブジェクト権限 (object authority). システム・ユーザーがオブジェクト全体に対して行うことができる処理を決める特殊権限。たとえば、オブジェクト権限には、オブジェクトの削除、移動、または名前変更がある。オブジェクト権限には、オブジェクト操作権限、オブジェクト管理権限、およびオブジェクト存在権限の 3 つのタイプがある。

オブジェクト配布 (object distribution). ユーザーが、構内または SNADS ネットワーク内の別のユーザーに対して、原始ファイル、データ・ファイル、保管ファイル、ジョブ・ストリーム、スプール・ファイル、およびメッセージを送れるようにする機能。

オブジェクト存在権限 (object existence authority). オブジェクトの削除、オブジェクトの記憶域の解放、オブジェクトの保管と復元、オブジェクトの所有権の移動、および権限所有者によって名前の指定されたオブジェクトの作成を行うことができるオブジェクト権限。

オブジェクト管理権限 (object management authority). オブジェクトに対する権限の指定、オブジェクトの移動または名前変更、およびデータベース・ファイルへのメンバーの追加を行うことができるオブジェクト権限。

オブジェクト名 (object name). オブジェクトの名前。修飾名 (*qualified name*) と対比。

出力待ち行列 (output queue). 印刷装置などの出力装置に書き出されるスプール・ファイルのリストを含むオブジェクト。

一時変更 (override). 以前の値を置き換える値。

パススルー (pass-through). 表示装置パススルー (*display station pass-through*) を参照。

物理装置 (physical unit). ネットワーク・アドレス指定可能装置の 3 つのタイプのうちの 1 つ。物理装置は、SNA ネットワークの各ノードに存在し、システム・サービス制御点論理装置 (SSCP-LU) セッションによって要求されたときに、ノードの資源 (接続されたリンク端末および隣接のリンク端末) を管理し、監視する。

図形表示ルーチン (presentation graphics routines (PGR)). オペレーティング・システム内のルーチンのグループの 1 つで、機能ルーチンによって、業務上の図表を手順よく定義し表示することができる。グラフィック・データ表示管理プログラム (*graphical data display manager (GDDM)*) と対比。

優先待ち行列 (priority queue). 高速、状況、または高速データのサービス・レベルを備えた、配布用の配布待ち行列項目が入っている待ち行列。優先待ち行列と通常待ち行列の両方で、送信時刻と送信待ち行列内項目数が同時に満たされた場合は、優先待ち行列が先にサービスを受ける。通常待ち行列 (*normal queue*) と対比。

問題分析 (problem analysis). 問題の原因を見つける処理。たとえば、プログラム・エラー、装置のエラー、またはユーザー・エラーがある。

問題ログ (problem log). 問題のレコード、およびこれらの問題の分析状況を示すレコード。

プログラム・メッセージ待ち行列 (program message queue). 1 つの経路指定ステップのプログラム呼出し間でやりとりされるメッセージを保持するために使用されるオブジェクト。プログラム・メッセージ待ち行列は、ジョブ・メッセージ待ち行列の一部である。

プログラム一時修正 (program temporary fix (PTF)). ライセンス・プログラムの現行のリリースにある欠陥を一時的に訂正したり、回避したりすること。

PTF. プログラム一時修正 (*program temporary fix (PTF)*) を参照。

QGPL. 汎用ライブラリー (*general-purpose library*) を参照。

修飾ジョブ名 (qualified job name). ジョブ名とそれに関連するユーザー名、およびシステムによって割り当てられたジョブ番号。ジョブ名 (*job name*) と対比。

修飾名 (qualified name). オブジェクトが含まれるライブラリーの名前とオブジェクトの名前。オブジェクト名 (*object name*) と対比。

遠隔ジョブ入力 (remote job entry (RJE)). AS/400 通信ユーザーリティー・ライセンス・プログラムの機能の 1 つで、ユーザーが AS/400 システムの表示装置から、システム/370 タイプのホスト・システムにジョブを投入できるようにする。

遠隔ワークステーション (remote work station). データ通信によってシステムに接続されたワークステーション。構内ワークステーション (*local work station*) と対比。

戻りコード (return code). データ通信において、システムによってプログラムに送られる値。そのプログラムによる操作の結果を示す。

RJE. 遠隔ジョブ入力 (*remote job entry (RJE)*) を参照。

RPG. 報告書作成プログラム。事務用のデータ処理要件を満たす適用業務プログラムの作成用に設計されたプログラミング言語。この適用業務プログラムの範囲は、報告書作成や照会から給与計算、受入力や生産管理にまで及ぶ。

システム保管権限 (save system authority). ユーザーが、システム上にあるすべてのオブジェクトを保管および復元して、システムのすべてのオブジェクトの記憶域を解放できるようにする特殊な権限。全オブジェクト権限 (all object authority)、ジョブ制御権限 (job control authority)、機密保護管理者権限 (security administrator authority)、保守権限 (service authority)、およびスプール制御権限 (spool control authority) も参照。

SDLC. 同期データ・リンク制御 (synchronous data link control (SDLC)) を参照。

機密保護管理者権限 (security administrator authority). ユーザーがシステム配布登録簿へのユーザーの追加、ユーザー・プロファイルの作成と変更、アクセス・コードの追加と除去、オフィスでの仕事 (文書、フォルダー、および文書リストの削除、他のユーザーの配布リストの変更など) を実行できるようにする特殊な権限。全オブジェクト権限 (all object authority)、システム保管権限 (save system authority)、ジョブ制御権限 (job control authority)、保守権限 (service authority)、およびスプール制御権限 (spool control authority) も参照。

保守権限 (service authority). ユーザーが、保守機能のうちの変更機能を実行できるようにする特殊な権限。全オブジェクト権限 (all object authority)、システム保管権限 (save system authority)、ジョブ制御権限 (job control authority)、機密保護管理者権限 (security administrator authority)、およびスプール制御権限 (spool control authority) も参照。

SEU. 原始仕様入力ユーティリティ (source entry utility (SEU)) を参照。

SNA. システム・ネットワーク体系 (Systems Network Architecture (SNA)) を参照。

SNA 配布サービス (SNA distribution services (SNADS)). システムのネットワークで電子メールを受信、経路指定、および送信する場合の一連の規則を定義する IBM の非同期配布サービス。

SNADS. SNA 配布サービス (SNA distribution services (SNADS)) を参照。

原始仕様入力ユーティリティ (source entry utility (SEU)). 原始メンバーの作成と変更のために仕様される AS/400 適用業務開発ツール・ライセンス・プログラムの機能の 1 つ。

原始ファイル (source file). (1) 機械語にコンパイルされていないプログラミング・コードのファイル。データ・ファイル (data file) と対比。(2) 作成コマンドに FILETYPE (*SRC) を指定して作成できるファイル。原始ファイルには、高水準言語プログラムおよびデータ記述仕様などに関する原始ステートメントを入れることができる。

起動システム (source system). 他のシステムとの通信の確立を要求するシステム。DDM において、適用業務が遠隔ファイ

ルを使用するように要求するシステム。受動システム (target system) と対比。

スプール (spool). 印刷または処理を待つために、記憶域にジョブを入れるシステム機能。

スプール制御権限 (spool control authority). ユーザーが、スプーリング機能 (たとえば、ユーザー自身および他のユーザーのための出力待ち行列にあるスプール・ファイルの表示、削除、保留、および解放) を実行できるようにする特殊な権限。この権限があると、ユーザーは、ファイルの印刷に使用される印刷装置などの、スプール・ファイル属性を変更することもできる。全オブジェクト権限 (all object authority)、システム保管権限 (save system authority)、ジョブ制御権限 (job control authority)、機密保護管理者権限 (security administrator authority)、および保守権限 (service authority) も参照。

構造化照会言語/400 (Structured Query Language/400 (SQL/400)). SQL の SAA バージョンである IBM ライセンス・プログラム。

SSCP. システム・サービス制御点 (system services control point (SSCP)) を参照。

同期データ・リンク制御 (synchronous data link control (SDLC)). (1) コマンドを使って、通信回線によるデータの転送の制御を行う通信回線制御の形式。(2) 通信回線による同期、コード透過性、ビット直列情報の転送に関して、米国規格協会 (ANSI) の拡張データ通信制御手順 (ADCCP) のサブセット、および国際標準化機構 (ISO) の高水準データ・リンク制御 (HDLC) に合致している通信規則。伝送交換は、交換回線または非交換回線で全 2 重でも半 2 重でも行うことができる。接続の構成は、2 地点間、分岐、またはループとすることができる。2 進データ同期通信 (binary synchronous communications (BSC)) と対比。

システム ASP (system ASP). システム・プログラムとデータが存在する補助記憶域プール。ユーザーによって記憶域プールが定義されていない場合に使用される記憶域プール。補助記憶域プール (auxiliary storage pool) およびユーザー ASP (user ASP) も参照。

システム構成リスト (system configuration list). システムとともに提供される装置のリスト。

システム配布登録簿 (system distribution directory). 配布の送信に使用される、ユーザー識別コードおよび識別情報 (ネットワーク・アドレス) のリスト。

システム・サービス制御点 (system services control point (SSCP)). SNA ネットワーク内のフォーカル・ポイントの 1 つで、他のシステムおよび装置を管理し、ネットワーク操作員の要求および問題分析要求を調整し、登録簿経路指定やネットワーク・ユーザーのためのその他のセッション・サービスを提供する。

システム時刻 (system time). システムが開始された時点から現在までに経過した時間。システムの開始時にシステム時刻がその地域の時間に変更された場合には、現行システム時刻はその地域の時刻となる。

システム/36 環境 (System/36 environment). オペレーティング・システムの機能の 1 つで、システム/36 操作制御言語 (OCL) ステートメントとプロシーチャー・ステートメントのほとんどを処理して、システム/36 の適用業務プログラムを実行し、ユーザーが制御言語 (CL) コマンドを処理できるようにする。システム/38 環境 (System/38 environment) と対比。

システム/38 環境 (System/38 environment). オペレーティング・システムの機能の 1 つで、システム/38 の制御言語 (CL) ステートメントとプログラムのほとんどを処理して、システム/38 の適用業務プログラムを実行する。システム/36 環境 (System/36 environment) と対比。

システム・ネットワーク体系 (Systems Network Architecture (SNA)). ネットワークの構成および操作を制御するとともに、ネットワークを通して情報単位を伝送するために使用される論理構造、様式、プロトコル、および操作手順の記述。

システム・ネットワーク体系配布サービス (Systems Network Architecture distribution services). SNA 配布サービス (SNA distribution services (SNADS)) を参照。

受動システム (target system). 配布データ管理 (DDM) ネットワークにおいて、別のシステムの適用業務プログラムから、受動システムにある 1 つまたは複数のファイルの使用要求を受け取るシステム。起動システム (source system) と対比。

一時ライブラリー (temporary library). ジョブごとに自動的に作成されるライブラリーで、システムがそのジョブのために作成する一時オブジェクトを含む。一時ライブラリー内のオブ

ジェクトは、ジョブ終了時に削除される。一時ライブラリーの名前は QTEMP。

無停電電源装置 (uninterruptible power supply). 電力会社の電源とシステムとの間に設置した電源で、停電が起こった場合にもシステムを動かして続けて、システムの処理を整然と終わることができるようにするもの。

ユーザー ASP (user ASP). ジャーナル、ジャーナル・レシーバー、および保管ファイルを、システム ASP に保管される他のシステム・オブジェクトから独立して保管するための 1 つまたは複数の補助記憶域プール。補助記憶域プール (auxiliary storage pool) およびシステム ASP (system ASP) も参照。

ユーザー・プロファイル (user profile). 固有の名前を持つオブジェクトで、ユーザーのパスワード、ユーザーに割り当てられた特殊な権限のリスト、およびユーザーの所有するオブジェクトを含む。

ベクトル記号セット (vector symbol set (VSS)). それぞれが 1 つの画像として扱われ、一連の線と弧によって描かれる文字のセット。ベクトル記号セット内の文字は、縮小拡大したり、回転したり、正確に位置づけることができる。イメージ記号セット (image symbol set (ISS)) と対比。図形記号セット (graphics symbol set) も参照。

ワークステーション (work station). コンピューターに情報を送ったり、コンピューターから情報を受け取るための装置。たとえば、表示装置や印刷装置など。

ワークステーション・ユーザー・プロファイル (work station user profile). ワークステーション操作員に必要な権限を持つ、システム提供のユーザー・プロファイル。名前は QUSER。

X.25. データ通信において、X.25 (パケット交換) ネットワークに対するインターフェースを定義した CCITT の仕様。

参照文献

以下の資料は、正式な資料名と資料番号によって示されています。

- ネットワークおよびシステム管理 (SC88-5291)。遠隔管理サポート (分散ホスト・コマンド機能)、変更管理サポート (分散システム・ノード管理機能)、および問題管理サポート (警報) を使用するためのAS/400システムの構成に関する情報を記載してあります。
- 分散データ管理 (SC88-5273)。適用業務プログラマーおよびシステム・プログラマーを対象として、遠隔ファイル処理に関する情報を記載してあります。
- SNA 分散管理サービス (SC88-5292)。システム操作員またはシステム管理者を対象として、AS/400システムでのデータ通信適用業務の管理に関する情報を記載してあります。
- システム間通信機能 (ICF) プログラミング (SC88-5303)。AS/400通信およびOS/400-ICFファイルを使用する適用業務プログラムの作成に必要な情報を記載してあります。
- 通信構成解説書 (SC88-5283)。通信構成の例を記載してあります。
- 通信管理 (SC88-5288)。通信、特定の実行管理機能、通信エラー処理、およびパフォーマンスに関する管理情報を記載してあります。
- 装置構成 (SC88-5239)。システム操作員またはシステム管理者を対象として、初期構成の方法および構成の変更方法に関する情報を記載してあります。また、装置構成の概念に関する情報も示されています。
- RPG/400 解説書 (SC88-5204)。適用業務プログラマーを対象として、RPG/400のプログラミング言語を使用してAS/400システム用プログラムを作成するために必要な情報を記載してあります。
- システム/38 移行計画 V3 (SC88-5243)。適用業務プログラマー、システム管理者、またはデータ処理管理者を対象として、プロダクトおよび適用業務をシステム/38移行援助ユーティリティによって移行するために役立つ情報を記載してあります。
- Using OfficeVision/400 (SH21-0697)。オフィス・システムのユーザーを対象として、オフィスビジョン/400システムの使用法に関する情報を記載してあります。これには、参照情報だけでなく手順に関する情報も示されており、オフィス・システムのオンライン情報とともに使用することができます。
- Getting Started with OfficeVision/400 (SH21-0732)。オフィス・システムのユーザーを対象として、オフィスビジョン/400のワード処理機能の使用法を習得するために役立つ情報を記載してあります。
- Using OfficeVision/400 Word Processing (SH21-0701)。オフィス・システムのユーザーを対象として、オフィスビジョン/400システムのワード処理機能の使用法に関する詳しい情報を記載してあります。
- 拡張バックアップおよび回復の手引き (SC88-5271)。システム・プログラマーを対象として、データベース・ファイルに対する変更およびその情報をシステム回復と活動報告書の情報として使用する方法に関する説明とともに、システム・データの保管と保護のために使用できる異なる媒体に関する情報を記載してあります。
- プログラミング解説書 (SX88-5024)。システム操作員、システム・プログラマー、またはシステム管理者を対象として、AS/400 コマンドの構造に関する一覧情報を記載してあります。
- CL (制御言語) プログラミング (SC88-5338)。適用業務プログラマーまたはシステム・プログラマーを対象として、AS/400のプログラミングに関する広範囲にわたる説明を記載してあります。
- CL (制御言語) 解説書 (SC88-5339)。適用業務プログラマーまたはシステム・プログラマーを対象として、AS/400の制御言語(CL)およびそのコマンドに関する説明を記載してあります。
- Cryptographic Support/400 (SC41-3342)。システム操作員またはシステム・プログラマーを対象として、AS/400の暗号サポートのもつデータ保護機能に関する説明を記載してあります。
- DB2/400* データベース プログラミング (SC88-5326)。適用業務プログラマーまたはシステム・プログラマーを対象として、システムでのデータベース・ファイルの作成、記述、および操作に関する情報など、AS/400のデータベース構造についての詳しい情報を記載してあります。
- データ記述仕様書 (SC88-5332)。AS/400のDDS コーディング用紙での、データベース・ファイル (論理および物理) の記述、およびユーザー・プログラムの外部にある装置ファイル (表示装置ファイルと印刷装置ファイル) の記述のために必要な項目とキーワードの説明を記載してあります。
- データ管理 (SC88-5330)。適用業務プログラマーまたはシステム・プログラマーを対象として、システムの重要な局面の管理に関する情報を記載してあります。
- パフォーマンス測定ツール/400の手引き (SC88-5279)。システム・プログラマーを対象として、AS/400パフォーマンス・ツールの概要、およびシステム・パフォーマンスを管理するためのツールの使用方法を記載してあります。
- 実行管理の手続き (SC88-5272)。システム・プログラマーを対象として、初期実行管理環境の設定および変更の方法に関する情報を記載してあります。
- システム/38 無停電電源装置計画の手引き (N:GA21-9421)。基本無停電電源装置(UPS)に関する情報を記載してあります。

- システム/38 互換:DFU/38 使用者の手引きと参照 (N:SC09-1217)。ワークステーション操作員、適用業務プログラマー、システム・プログラマー、およびデータ処理管理者を対象として、AS/400システムでのDFU/38の使用に関する情報を記載してあります。
- システム/38 互換:QUERY/38 使用者の手引きと参照 (N:SC09-1218)。ワークステーション操作員、適用業務プログラマー、システム・プログラマー、およびデータ処理管理者を対象として、AS/400システムのQUERY/38の使用に関する情報を記載してあります。
- *Text Management/38 User's Guide and Reference* (SC21-9759)。ワークステーション操作員、適用業務プログラマー、システム・プログラマー、およびデータ処理管理者を対象として、AS/400システムのテキスト管理/38に関する情報を記載してあります。
- システム/38-AS/400 移行援助プログラム使用者の手引きと参照 (N:SC09-1165)。システム操作員、適用業務プログラマー、システム・プログラマー、およびデータ処理管理者を対象として、システム/38移行援助ユーティリティーを使用して、システム/38のオブジェクトをAS/400システムに移す際の、メニューおよび画面、またはコマンドの使用に関する情報を記載してあります。
- システム操作 (SC88-5168)。システム操作員またはシステム管理者を対象として、システム装置操作員パネルの使用、メッセージの送受信、エラー・メッセージへの応答、システムの起動と終了、表示装置の機能キーの使用、各装置の制御、およびシステムでのジョブの処理と管理に関する情報を記載してあります。

索引

日本語、英字、数字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

〔ア行〕

アクセス・パス

- 共用 4-4
- 再作成 4-2
- システム/38 から 2-1
- 選択仕様 4-4
- 定義 G-1
- 復元 1-3

アドレスの再生成 2-1

暗号 G-2

暗号化機能 (CRP) 2-63

移行

- 援助ユーティリティ 1-2
- 権限に関する情報 1-3
- システム・オブジェクト 7-5
- システム値 7-4
- 装置構成 1-3
- 媒体の互換性 7-1
- 複数のシステム 1-15
- リリース要件 7-1

一時変更

- コマンド (OVRPRTF) 4-12
- 定義 G-5

一時ライブラリー

- 定義 G-7

印刷装置

- イメージ 2-27
- サポートされる 2-27
- 出力待ち行列 2-51
- ファイル 2-27, 3-4
- ファイル属性 2-53
- ユーザー・プロファイルでの指定 2-50
- QGPL ファイル 7-7

エミュレーション (3270)

- アテンション・キー 2-12
- パススルー 4-7
- KBDTYP 項目 2-12
- 3274 制御装置 2-12

エラー処理 2-12

遠隔ジョブ入力 (RJE)

- 定義 G-5

遠隔ワークステーション G-5

エンド・ノード G-3

オブジェクト

- 移行 D-3
- 構文 1-1
- 出荷される 2-47
- 定義 G-5
- 保管と復元 1-12

オブジェクト・タイプ 2-26

オブジェクト管理権限 G-5

オブジェクト権限 2-44, G-5

オブジェクト属性

- 原始仕様タイプ
 - 原始仕様入力ユーティリティ (SEU) 2-24
 - システム/38 から AS/400 システムへの復元 2-24
 - 説明 2-25
 - OS/400 4-12

- 作成コマンド 1-10, 1-11

- DSPLIB コマンド 1-11

- DSPOBJD コマンド 1-11

オブジェクト存在権限 G-5

オブジェクト配布

- 機能 6-2
- コマンド 6-1
- 定義 G-5

オブジェクト名 G-5

オペレーティング・システム/400

- アクセス・パス 4-2
- 一時変更 4-12
- 印刷装置 4-12
- エミュレーション (3270) 4-7
- 遠隔ロケーション名 4-14
- オブジェクト属性および原始仕様のタイプ 4-12
- カード 4-2
- 拡張プログラム間通信機能 (APPC) 4-2
- 機密保護 4-15
- 金融機関 4-7
- クラス・オブジェクト 4-3
- グラフィック・データ表示管理プログラム (GDMM) 4-7
- グループ・ジョブ 4-7
- 警報 4-2
- 経路指定キーワード 4-5
- 原始仕様の属性 4-15
- コマンド定義 4-3
- コミットメント制御 4-3
- システム間通信機能 (ICF) 4-8
- システム保守ツール (SST) 4-16
- システム/38 のコマンド名 4-1
- 実行管理機能 4-16
- ジャーナル 4-10

オペレーティング・システム/400 (続き)

- 初期プログラム・ロード (IPL) 4-8
- ジョブ 4-8
- ジョブ会計 4-8
- ジョブ記述 4-8
- ジョブ待ち行列 4-9
- 図形記号セット 4-7
- 図表様式 4-2
- スプール 4-15
- 専用保守ツール (DST) 4-6
- 装置構成 4-6
- 装置ファイル 4-6
- チェックサム 4-2
- 通信 4-3
- データ記述仕様 (DDS) 4-5
- データベース 4-4
- データ待ち行列 4-6
- ディスクレット 4-6
- デバッグ 4-6
- 導入 4-8
- バススルー 4-12
- パラメーターの構文 4-2
- プログラマー・メニュー 4-14
- プログラミング時修正 (PTF) 4-14
- プログラム 4-12
- プロダクト・ライブラリー 4-10
- 分散データ管理機能 (DDM) 4-6
- 弊社提供のプログラム 4-7
- ヘルプ 4-7
- ヘルプ・キー 4-5
- 方式の例 1-14
- 保管および復元 4-14
- 命名規則 4-11
- メッセージ処理 4-11
- メニュー 4-11
- 戻りコード 4-14
- 問題分析機能 4-12
- ユーザー・プロファイル 4-16
- 有効な注記の構文 4-2
- ライブラリー 4-10
- ログ 4-10
- 論理装置 1 (LU-1) 4-10
- ワークステーション 4-17
- ASP (補助記憶域プール) 4-2
- CL (制御言語) プログラム 4-2, 4-3
- CRT コマンド 4-1
- CVTCLSRC コマンド 4-3
- ICFF ファイル・タイプ 4-5
- PC サポート 4-8, 4-12
- SNA 配布サービス (SNADS) 4-15
- X.25 パラメーター 4-17

オペレーティング・システム/400 (続き)

- 2 進データ同期通信 (BSC) 4-2

〔力行〕

- カード 2-2, 4-2
- 回線構成 G-4
- 回復手順 2-30
- 拡張印刷機能 (APF)
 - 定義 G-1
- 拡張対等通信ネットワークキング (APPN) 2-33, G-1
- 拡張プログラム間通信機能 (APPC)
 - 拡張対等通信ネットワークキング (APPN) との比較 2-31
 - 確立 2-30
 - 共存 5-2
 - 構内名 2-32
 - 装置構成 4-2
 - 装置構成オブジェクト 2-2
 - 定義 G-1
 - AS/400 システム 4-5
- カスケード式構成変更
 - 定義 2-10
- 画面の様式設定
 - オプション番号 2-11
 - 機能キー 2-11
 - 修飾名 2-11
 - ヘルプ 2-11
- 関連資料 H-1
- キー順アクセス・パス G-4
- キーワード
 - ALTSEQ B-1
 - ERRMSGID B-1
 - EVOKE B-1
 - FORMAT B-1
 - JFILE B-1
 - JOIN B-1
 - JREF B-1
 - MSGCON B-1
 - PFILE B-1
 - PRINT B-1
 - RCVCFM B-1
 - RCVCONFIRM B-1
 - RCVTRNRND B-1
 - REF B-1
 - REFFLD B-1
 - SFLMSGID B-1
 - TRNRND B-1
 - TRNTBL B-1
- 起動システム G-6
- 機能キー 2-11

基本データ交換 G-2

機密保護

- オブジェクト権限 2-44
- キーワード 2-39
- 共通認可の権限 2-45
- 権限リスト 2-46
- コマンド 2-43
- サイン・オン画面 2-48
- サイン・オンの試行 7-4
- 省略時パスワード 2-45
- 単一レベルのサイン・オン 2-38
- データ権限 2-45
- パスワード 2-38
- パラメーター 2-43
- プログラムの変更 1-5
- プロファイル 2-45
- プロファイル、ユーザー 2-39
- レベル 2-38
- OS/400 プログラム 4-15
- *EXCLUDE 権限 2-44

機密保護管理者権限 G-6

共存

- 拡張プログラム間通信機能 (APPC) 5-2
- 警報 5-5
- 原始仕様のテスト 1-10
- 交換ID 5-1
- 混合ファイル 5-2
- システム・ネットワーク体系配布サービス (SNADS) 5-2
- ジャーナル・オブジェクト 5-5
- 通信 5-2
- 媒体 5-1
- バススルー 5-2
- 分散データ管理機能 (DDM) 5-2
- 保管ファイル・データ 5-1
- PC データ 5-5

共通認可の権限 2-41, 2-42

金融機関通信 2-12

クラス・オブジェクト

- 変更点 2-2, 4-3
- QGPL 7-6

クラス属性 G-2

グラフィック・データ表示管理プログラム (GDDM)

- 定義 G-3

グループ・ジョブ

- 定義 G-3

グループ・プロファイル権限 2-42

警報

- 新しいコマンド 4-2
- 制御装置記述
 - 定義 G-1
- 制御装置セッション
 - 定義 G-1

警報 (続き)

- 定義 G-1
- ネットワーク属性 7-8
- 様式 2-1

経路指定キーワード

- RTGAID B-1
- RTGCON B-1
- RTGDEV B-1
- RTGDEVCLS B-1
- RTGFIRST B-1
- RTGFLD B-1
- RTGFMT B-1
- RTGPOS B-1

権限

- 共通認可の 2-42, 2-45
- グループ 2-42
- 私用 2-42
- 復元機能 (RSTAUT) 2-46
- プログラム借用 2-42
- *EXCLUDE キーワード 2-43
- *SPLCTL キーワード 2-54

権限リスト 2-46

言語

- 新しい機能 4-18
- 構文 6-5
- 変換 3-5
- BASIC 4-18
- COBOL 4-18
- PASCAL 4-19
- PL/I 4-19
- RPG 4-19

現行ライブラリー

- 作成コマンドの省略時値
 - 新しいサポート 1-14
 - QGPL から変更された 4-10
 - QGPL の置換え 3-3
- 定義 G-2
- プロダクト
 - コマンドの実行中 4-10

原始仕様

- 構文 1-13
- 属性 1-13, 2-50
- ファイル 2-50
- 複数のバージョン 6-3
- 保管と復元 1-12

原始仕様入力キューティリティー (SEU)

- 機能 1-13
- 原始仕様タイプ 2-3, 2-24
- 再作成された原始仕様 3-2
- システム/38 環境におけるシステム/38 のコマンド 6-3
- 走査 3-4
- タイプ 1-13

原始仕様入力ユーティリティー (SEU) (続き)

定義 G-6

プロダクト、コマンド定義でのサポート 2-3

プロンプト 1-7

原始ファイル G-6

原始ファイル・メンバー

タイプ 1-12

DSPFD TYPE (*MBRLIST) ステートメント 1-12

交換

混合ファイル 5-2

ジャーナル・オブジェクト 5-5

通信 5-2

媒体 5-1

保管ファイル・データ 5-1

DDM 5-2

PC データ 5-5

交換識別コード

接頭部 2-12

交換ID

共存 5-1

構成

メニュー 2-14

SNA 配布サービス (SNADS) 7-8

構成変更

カスケード 2-10

DSPDEVCFG コマンド 2-10

VRYCFG コマンド 2-10

構成リスト

遠隔ロケーション 2-32

構内ロケーション 2-33

構造化照会言語/400 (SQL/400) G-6

構内名 2-32

構内ワークステーション G-4

構文

規則 1-6

相違点 2-3

パラメーターの 4-2

非修飾名 5-5

有効な注記の 4-2

ライセンス・プログラム 1-6

コマンド

共通認可の 7-7

構文 1-6

システム/38

ENDJOB C-1

ENDSBS C-1

省略時値 1-1, 1-4

定義 4-3

名前の変換 1-1, 3-1

パラメーター 2-2

表示画面 1-4

プロンプター 1-13

コマンド (続き)

分析プログラム 1-7

ライブラリー修飾 1-9

ライブラリー修飾子 1-9

ライブラリー探索 1-7

コマンド・ファイル G-2

コマンド定義 G-2

コミット G-2

コミットメント制御

定義 G-2

混合ファイル 2-23

〔サ行〕

サービス・クラス 2-34

サービス機能

サポートされないシステム/38 2-47

システム保守ツール (SST) 2-46

専用保守ツール (DST) 2-46

サイン・オフ 2-48

サイン・オン

画面 2-49

経路指定項目 2-49

経路指定プログラム 2-47

任意指定の値 2-47

パスワードによる保護 1-4

ユーザー・プロファイル 2-47

2 レベル 2-47

サブシステム

活動レベル 2-57

省略時値 2-55

制御サブシステム 2-56

単一サブシステム方式 2-55

パフォーマンス調整 2-55

複数サブシステム方式 2-55

ユーザー・プロファイル 2-56

QCTL サブシステム 7-7

QGPL 記述オブジェクト 7-7

参考文献 H-1

サンプル・プログラム D-1

システム ASP (補助記憶域プール)

定義 G-6

システム・サービス制御点 (SSCP) G-6

システム・サポート 2-58

システム・ネットワーク体系 (SNA) G-7

システム・ネットワーク体系配布サービス (SNADS)

定義 G-7

システム値

移行 1-5, 7-4

移行されない 2-59

サポートされなくなった 2-59

自動装置構成 2-58

システム値 (続き)

- 省略時値 2-59
- 日付および時刻 2-59
- 変更された 2-59
- CHGSYSVAL コマンド 7-3

システム応答リスト 2-57

システム間通信機能 (ICF)

- 新しいコマンド 4-8
- 様式名 4-5

システム構成

- カスタマイズされた 7-3
- 機密保護の設定 7-3
- 合計システム・パッケージ 7-3
- 自動開始ジョブ 7-4
- 装置 7-4

システム構成リスト G-6

システム時刻 G-7

システム配布登録簿 G-6

システム保管権限 G-6

システム保守ツール (SST) 2-46, 2-54

システム要求 2-57

システム/36 環境 G-7

システム/38 環境

- 原始仕様 1-13
- コマンド名 4-1
- 相違点 (または変更点)
 - 操作上の 1-1, 1-4
 - ハードウェア 1-3
 - プログラミング 1-4
- 定義 1-5, 1-6, G-7
- 方式の例 1-14, 1-15
- ライセンス・プログラム 2-37
- OS/400 プログラムの CL (制御言語) 原始仕様 1-13

システム/38 のコマンド

- OS/400 の新しいコマンド A-2—A-42

実行管理機能 2-62, 4-16

自動開始ジョブ

- 構成メニュー 2-14
- 在席 IPL 2-14
- システム構成 7-4
- 初期プログラム・ロード (IPL) 2-56
- ジョブ記述 2-55
- 制御サブシステム 2-14

自動開始ジョブ項目 G-2

ジャーナル

- 定義 G-4

ジャーナル・レシーバー G-4

修飾ジョブ名 G-5

修飾名

- 構文 3-5, 4-11
- コマンド定義 1-7
- 定義 G-5

修飾名 (続き)

- プログラム 2-56
- 変換 3-1
- 例 2-11
- OS/400 の構文 4-3
- RMTFILE パラメーター 5-3

出力ファイル 2-26

出力待ち行列

- 定義 G-5

受動システム

- 定義 G-7

私用権限 2-42

情報交換用米国標準コード (ASCII) G-1

除外権限 G-3

初期設定済みディスクセット G-3

初期プログラム・ロード (IPL)

- アドレスの再生成 2-1
- システム・オブジェクト 7-5
- システム値 2-56
- 省略時値 2-14
- 専用保守ツール (DST) 2-46
- 操作卓装置 2-58
- 定義 G-3
- ディスクセット 2-37
- OS/400 4-8

ジョブ

会計

- ジャーナル 2-15
- ジャーナルの作成 7-1
- 変更点 4-8

記述 4-8

省略時値 2-15

処理 4-8

ストリーム 3-1, 6-3

属性値 2-51

待ち行列 2-16, 4-9

待ち行列の変更 2-39

命名規則 2-15

ユーザー・プロファイル 2-57

CHGJOBQE コマンド 2-16

DSPJOBQ コマンド 2-16

DSPSBSD コマンド 2-16

QGPL 記述オブジェクト 7-6

QGPL 待ち行列オブジェクト 7-7

QSYSJOBQD キーワード 2-16

ジョブ会計 G-4

ジョブ記述 G-4

ジョブ制御権限 G-4

ジョブ待ち行列 G-4

ジョブ名 G-4

図形記号セット
定義 G-3
図形表示ルーチン G-5
図形文字セット
定義 G-3
スプール
印刷装置 2-51
印刷ファイル属性 2-53
省略時値 2-41, 2-50, 2-51
ジョブ記述 2-51
定義 G-6
パラメーター 2-50, 4-15
ファイル名 2-50, 2-54
待ち行列 2-50
ユーザー・プロファイル 2-50
スプール制御権限 G-6
スペル援助辞書 2-50
制御言語 G-2
制御言語 (CL) プログラム G-2
制御装置構成 G-2
セッション記述 2-47
全オブジェクト権限 G-1
全権限 G-1
専用保守ツール (DST)
サービス機能 2-46
初期プログラム・ロード (IPL) 2-7
チェックサム 4-2
定義 G-3
補助記憶域プール (ASP) 2-2
OS/400 オペレーティング・システム 4-6
相違点
操作上の 1-4
ハードウェア 1-3
プログラミング 1-4
相互参照
DSPFD コマンド 2-5
相互参照表 G-2
操作上の相違点 1-1
操作上の変更 1-4
操作卓 2-4
装置記述 2-33
装置構成
オブジェクト 1-2
異なるコマンド 2-8
コマンド 1-4
システム構成 7-4
自動構成 2-8
省略時値 2-9
定義 G-3
ワークステーションの割振り 2-9
ADDWSE コマンド 2-9
CRTAUD コマンド 2-8

装置構成 (続き)
CRTDEVD コマンド 2-8
CRTLIND コマンド 2-8
OS/400 プログラム 4-6
QAUTOCFG パラメーター 2-8
装置ファイル
定義 G-3
属性 G-1
属性文字 G-2

〔夕行〕

対話式データ・ユーティリティ (IDU)
画面設計補助ユーティリティ (SDA) 2-65
原始仕様入力ユーティリティ (SEU) 2-65
データ・ファイル・ユーティリティ (DFU) 2-65
独立ワークステーション・サポート 2-65
QUERY 2-65
チェックサム
移行 2-2, 7-4
専用保守ツール (DST) 4-2
チェックサム・セット G-2
チェックサム保護 G-2
通常待ち行列 G-4
通信
参照項目 4-3
装置構成 2-4
ファイル 3-4
データ・ファイル・ユーティリティ (DFU)
機能 4-17
原始仕様 6-3
システム/38 環境において 1-2, 3-3
対話式データ・ユーティリティ (IDU) 2-65
パラメーター 2-29
変換 3-5
データ域 2-5, G-2
データ管理の変更 3-3
データ記述仕様 (DDS)
キーワード 2-7, 4-5
キーワードの変更 B-1
原始仕様タイプ 2-6
構文 4-4
修飾名 4-5
スプール・ファイル 2-7
定義 G-2
表示装置ファイル 2-7
ファイル 6-4
データ交換 1-10, 6-1
データベース
機能 2-5, 6-4
構文 2-5, 6-4

データ待ち行列
定義 G-3
テープ
装置 2-37, 2-60
SAVSYS コマンド 1-3
テーブル 2-60
ディクショナリー 2-64
ディスク装置 1-3
ディスケット
移行援助ユーティリティ 1-2
省略時値 2-11
スプーリング 2-54
テキスト管理 1-5, 2-67
適用業務開発ツール 1-13, 2-64
適用業務プログラム G-1
適用業務プログラム・インターフェース G-1
テスト 2-61
デバッグ権限 2-7, 4-6
同期データ・リンク制御 (SDLC)
定義 G-6
到着順アクセス・パス G-1
導入機能
装置構成の復元 2-15
テープによる導入 2-15
OS/400 4-8
特殊権限 2-40
特定区域ヘルプ G-1
独立ワークステーション
定義 G-3
参照: PC サポート

〔ナ行〕

ネットワーク G-4
ネットワーク・ノード G-4
ネットワーク属性
移行 2-23, 7-1
警報 2-23
変更点 1-5, 2-23
ノード G-4

〔ハ行〕

パーソナル・コンピューター・サポート (PCS) 2-14
パーソナル・サービス 2-67
ハードウェアの相違点 1-3
パススルー
拡張対等通信ネットワーク (APPN) 4-12
共存 5-2
サイン・オン 6-3
システム/38 でのテスト 6-4
定義 G-5

パススルー (続き)
モード 2-27
RMTLOCNAME パラメーター 4-12
3270 4-12
5250 4-12
パスワード
暗号化 2-39
機密保護レベル 2-38
サイン・オン 1-4
パフォーマンス・ツール 2-66
パフォーマンス情報 2-27
汎用ライブラリー
定義 G-3
ビジネス・グラフィックス・ユーティリティ (BGU) 2-63
表示コマンド
新しいコマンド 2-11
ユーザーによる変更の防止 2-11
DSPLIB コマンド 2-11
表示装置パススルー G-3
表示装置ファイル 2-11, 3-4
ファイル・コピー 2-4
ファイルの変更 3-3
フォルダー G-3
複数のシステムの移行 1-15
物理装置 G-5
物理ファイル 3-4
プログラマー・メニュー
省略時値 2-29
属性の指定 1-13
代替 1-14
データ・ファイル・ユーティリティ (DFU) 2-29
QUERY 2-29
プログラミング開発管理プログラム (PDM) 1-6, 1-13
プログラミング上の相違点 1-1
プログラミングに関する変更 4-14
プログラム
機能 6-4
構文の規則 1-5
作成オプション 1-13, 4-13
参照項目 2-28
テンプレート 2-37
プログラム・オブジェクトの復元 1-3
メッセージ待ち行列 G-5
QSYS38/CRTCLPGM コマンド、作成オプション 1-14
REPLACE (*YES) パラメーター 4-13
1.装置構成印刷 D-1
プログラム
テンプレート
移行援助ユーティリティ 1-2
プログラム一時修正 (PTF)
新しいコマンド 2-29
定義 G-5

プログラム一時修正 (PTF) (続き)

ライセンス内部コード 2-38

プロファイル 2-45, 7-2

プロンプター・キーワード 2-6

DSPFD コマンド 2-6

分散データ管理機能 (DDM)

移行 5-3

共存 5-2

修飾名 5-4

通信 4-6

定義 G-3

ファイル名 5-3

分散データ管理機能 (DDM) 2-12

ライセンス・プログラム 2-63

RMTLOCNAME パラメーターの省略時値 4-7

文書パスワード 2-40

文書ライブラリー G-3

分類ユーティリティ 2-67

弊社提供のプログラム

オブジェクトの変更 7-5

サポートされている 2-13

サポートされない 2-13

AS/400 システム 4-7

ベクトル記号セット (VSS) G-7

ヘルプ

画面様式 4-6

データ記述仕様 (DDS) 機能 2-13, 4-5

テキスト 4-7

弊社提供の画面 2-11

QHLPSYS ライブラリー 2-13

変換

環境 3-1

キーワード名 3-1

詳細 4-1

有効な注記 3-2

変更点

操作上の 1-4

ハードウェア 1-3

プログラミング 1-4

編集記述 2-12

報告書作成プログラム 2-69

報告書作成プログラム (RPG)

定義 G-5

保管および復元

スペース使用量 2-38

データ交換 2-37

テープ装置 2-37

変更点 4-14

リリース 5 2-37

SAVSYS コマンド 2-38

保管ファイル 2-36

保守権限 G-6

補助記憶域プール (ASP)

移行 7-4

指定 4-2

専用保守ツール (DST) 2-2

定義 G-2

補助記憶装置 G-2

〔マ行〕

無停電電源装置

定義 G-7

命名規則 2-23, 4-11

メッセージ処理

重大度設定 2-21

中断モード 2-21

変更点 4-11

メッセージ・ヘルプ 2-22

メッセージ待ち行列 2-21

問題判別 (PDP) コード 2-22

問題分析機能 2-22

ユーザー・プロファイルの省略時値 2-21

AS/400 システムでのサポート 6-4

DSPMSG コマンド 2-21

ID 2-20

OS/400 4-11

PCS 2-23

QSYSOPR メッセージ待ち行列 2-21

SNDPGMMSG コマンド 2-22

メッセージ待ち行列 2-41

メニュー

機密保護 2-20

メッセージ 2-22

DSPMNU コマンド 2-19

GO コマンド 2-19

OS/400 4-11

QCALLMENU 2-20

QOPRMENU 2-20

QUSER プロファイル 2-20

モード G-4

モード記述 G-4

文字作成ユーティリティ (CGU) 2-64, G-2

戻りコード

印刷装置ファイル C-1

画面 C-1

定義 G-5

ファイル・タイプ 2-36, 4-14

変更点 6-4

AS/400 システム 4-14

問題判別 2-28
問題分析 G-5
問題分析機能 2-28, 4-12
問題ログ
定義 G-5

〔ヤ行〕

ユーザー ASP (補助記憶域プール) G-7
ユーザー・プロファイル
移行 2-39
印刷装置の指定 2-50
権限 2-42
考慮事項 3-3
サイン・オン 2-47
定義 G-7
QPGMR 2-56
優先待ち行列 G-5

〔ラ行〕

ライセンス・プログラム
移行 1-2, 7-2
構文 1-6
定義 G-4
ライブラリー
現行の 4-10
現行の、新しい機能 2-45
コマンド 1-7
出荷 2-16
探索 1-7, 2-17
定義 G-4
復元 1-3
プロダクト
新しい機能 2-45
導入 2-17
プロダクト・ライブラリー 2-19
ライブラリー・リスト 2-19
CURLIB パラメーター 2-16
DSPLIB コマンド 2-19
DSPOBJD コマンド 2-19
PRDLIB パラメーター 2-17
QGPL 2-17, 7-2
QSYS 2-17
QSYSLIBL 2-59
QSYS38 1-7
QUSER38 1-7
ライブラリー・オブジェクトの移動コマンド
(MOVLBOBJ) D-3
ライブラリー所有者の検査コマンド (CHKLIBOWN) D-7
ログ
配布 2-19

ログ (続き)
問題 2-28
OS/400 4-10
論理装置 1 (LU-1)
サポート 2-19
システム間通信機能 (ICF) の使用 4-10
戻りコード 2-36
論理装置 (LU) G-4
論理ファイル 3-4

〔ワ行〕

ワークステーション 2-63, G-7
ワークステーション・ユーザー・プロファイル G-7

A

ALTSEQ キーワード B-1
APF (拡張印刷機能)
定義 G-1
API (適用業務プログラム・インターフェース) G-1
APPC (拡張プログラム間通信機能)
拡張対等通信ネットワーク (APPN) との比較 2-31
確立 2-30
共存 5-2
構内名 2-32
装置構成 4-2
装置構成オブジェクト 2-2
定義 G-1
AS/400 システム 4-5
APPN (拡張対等通信ネットワーク) 2-33, G-1
ASCII (情報交換用米国標準コード) G-1
ASP (補助記憶域プール)
移行 7-4
指定 4-2
定義 G-2
ASP (補助記憶域プール)
専用保守ツール (DST) 2-2

B

BASIC 2-68, 4-18
BGU (ビジネス・グラフィックス・ユーティリティ)
2-63
BSC (2 進データ同期通信)
オペレーティング・システム/400 プログラムでのサポート
2-2, 4-2
使用される戻りコード 2-36
定義 G-2
BSCF38 ファイル・タイプ 4-5

C

CGU (文字作成ユーティリティ) 2-64, G-2

CL (制御言語) G-2

CL (制御言語) プログラム

新しい様式 2-37

移行 2-4

構文 2-3, 6-4

修飾名 4-3

定義 G-2

変換 3-1

変更点 4-2

OS/400 プログラム 6-4

CLNPRT コマンド 1-4

CMNF38 ファイル・タイプ 4-5

COBOL

相違点 4-18

変換 6-5

ライセンス・プログラム 2-68

ANSI 74 3-5, 4-18

ANSI 85 3-5, 4-18

CPYF コマンド 2-4

CPYSPLF コマンド 1-4

CRP (暗号化機能) 2-63

CRT コマンド 1-15, 4-13

CRTCLPGM コマンド 1-9

CRTDEVD コマンド 6-3

CSNAP コマンド 1-4

CVTCLSRC コマンド

限界 6-3

使用 3-1

省略時値 3-2

D

DDM (分散データ管理機能)

移行 5-3

共存 5-2

修飾名 5-4

通信 4-6

定義 G-3

ファイル名 5-3

分散データ管理機能 (DDM) 2-12

ライセンス・プログラム 2-63

RMTLOCNAME パラメーターの省略時値 4-7

DDS (データ記述仕様)

キーワード 2-7, 4-5

キーワードの変更 B-1

原始仕様タイプ 2-6

構文 4-4

修飾名 4-5

スプール・ファイル 2-7

DDS (データ記述仕様) (続き)

定義 G-2

表示装置ファイル 2-7

ファイル 6-4

DEV パラメーター値 2-53

DFU (データ・ファイル・ユーティリティ)

機能 4-17

原始仕様 6-3

システム/38 環境において 1-2, 3-3

対話式データ・ユーティリティ (IDU) 2-65

パラメーター 2-29

変換 3-5

DSPF キーワード 2-36

DSPFD コマンド

原始仕様 2-6

出力ファイル・サポート 2-5

マッピング機能 2-6

DSPOBJAUT コマンド 2-43, 2-44

DSPSIZ キーワード B-1

DST (専用保守ツール)

サービス機能 2-46

初期プログラム・ロード (IPL) 2-7

チェックサム 4-2

定義 G-3

補助記憶域プール (ASP) 2-2

OS/400 オペレーティング・システム 4-6

E

ENTCBLDBG コマンド A-29

ERRMSGID キーワード B-1

EVOKE キーワード B-1

F

FIFO (先入れ先出し) 4-4

FORMAT キーワード B-1

FROMFILE パラメーター

分散データ管理 (DDM) ファイル 2-4, A-9

TORCDLEN パラメーターの省略時値 A-9

G

GDDM (グラフィック・データ表示管理プログラム)

定義 G-3

I

ICF (システム間通信機能)

新しいコマンド 4-8

様式名 4-5

ICFF キーワード

定義 2-6
ファイル 4-5

IDU (対話式データ・ユーティリティ)

画面設計補助ユーティリティ (SDA) 2-65
原始仕様入力ユーティリティ (SEU) 2-65
データ・ファイル・ユーティリティ (DFU) 2-65
独立ワークステーション・サポート 2-65
QUERY 2-65

IPL (初期プログラム・ロード)

アドレスの再生成 2-1
システム・オブジェクト 7-5
システム値 2-56
省略時値 2-14
専用保守ツール (DST) 2-46
操作卓装置 2-58
定義 G-3
ディスケット 2-37
OS/400 4-8

J

JFILE キーワード B-1

JOIN キーワード B-1

JREF キーワード B-1

K

K (単位) G-4

L

LU (論理装置) G-4

LU-1 (論理装置 1)

サポート 2-19
システム間通信機能 (ICF) の使用 4-10
戻りコード 2-36

M

MSGCON キーワード B-1

MXDF38 ファイル・タイプ 4-5

O

OPNQRYF コマンド構文 4-4

OS/400 の新しいコマンド

システム/38 のコマンド A-2—A-42

OS/400-ICF

原始仕様タイプ 2-13
ファイルの作成 2-33
論理装置 1 (LU-1) 4-10

P

PASCAL 2-69, 4-19

PC サポート

互換性をもつプロダクト 1-4
ユーティリティ 5-5
ワークステーション 4-8
AS/400 システム 4-12

PCS (パーソナル・コンピューター・サポート) 2-14

PDM (プログラミング開発管理プログラム) 1-6, 1-13

PFILE キーワード B-1

PGR (図形表示ルーチン) G-5

PL/I 2-69, 4-19

PRINT キーワード B-1

PTF (プログラム一時修正)

定義 G-5

PUBAUT キーワード 2-41

Q

QBASE サブシステム 4-16

QCAEXEC プログラム

構文 3-2
OS/400 プログラム 3-2, 3-5
QCMDEXC プログラム 3-5

QCL プログラム 1-9, 1-10

QGPL ライブラリー

印刷装置ファイル 7-7
オブジェクト 7-6
サブシステム記述 7-7
システム 7-5
出力待ち行列 7-7
ジョブ記述 7-6
ジョブ待ち行列 7-7
弊社提供の 7-6
データ・ファイル 7-6
定義 G-5
ユーザー・プロファイル 3-3
QGPL38 の相違点 7-6

QGPL38 ライブラリー

印刷装置ファイル 7-7

QPRTEDEV パラメーター 2-50, 2-51

QSYS ライブラリー 1-6, 7-7

QSYS38 ライブラリー 1-6, 1-7

QUERY

機能 4-17
原始仕様 6-3
システム/38 環境において 1-2, 3-3
分散データ管理機能 (DDM) のサポート 4-18
変換 3-5
AS/400 システム 4-17
OS/400 プログラム 2-29

QUSER38 ライブラリー 1-7
QUSRTOOL ライブラリー 4-10

R

RA/DHCF 2-30
RCVCFM キーワード B-1
RCVCONFIRM キーワード B-1
RCVTRNRND キーワード B-1
REF キーワード B-1
REFFLD キーワード B-1
REPLACE (*NO) パラメーター 4-14
REPLACE (*YES) パラメーター 4-13
RJE (遠隔ジョブ入力)
定義 G-5
RMTLOCNAME パラメーター
拡張プログラム間通信機能 (APPC)
名前 2-32
方式 2-30
リンク 2-31
構成リスト 2-32
省略時値 2-30
装置記述オブジェクト 2-31
登録簿 2-34
内部登録簿 2-32
パススルー 4-12
パラメーター 2-32
非拡張プログラム間通信機能 (APPC) 装置 2-35
分散データ管理機能 (DDM) 4-7
OS/400 プログラム 4-14
RPG (報告書作成プログラム)
定義 G-5
参照: 報告書作成プログラム
RTGAID キーワード B-1
RTGCON キーワード B-1
RTGDEV キーワード B-1
RTGDEVCLS キーワード B-1
RTGFIRST キーワード B-1
RTGFLD キーワード B-1
RTGFMT キーワード B-1
RTGPOS キーワード B-1

S

SAVOBJ コマンド 6-2
SAVSYS コマンド 2-38
SBMJOB コマンド 3-3, 4-16
SDLC (同期データ・リンク制御)
定義 G-6
SECURITY キーワード B-1

SEU (原始仕様入力ユーティリティ)
機能 1-13
原始仕様タイプ 2-3, 2-24
再作成された原始仕様 3-2
システム/38 環境におけるシステム/38 のコマンド 6-3
走査 3-4
タイプ 1-13
定義 G-6
プロダクト、コマンド定義でのサポート 2-3
プロンプト 1-7

SFLMSGID キーワード B-1
SNA (システム・ネットワーク体系) G-7
SNA (システム・ネットワーク体系) 環境、交換ID 5-1
SNA 配布サービス (SNADS)
移行 7-3
オブジェクト 2-49
共存 5-2
構成 7-8
データベース・ファイル様式 2-49
定義 G-6
配布ログ 2-49

SNADS (SNA 配布サービス)
移行 7-3
オブジェクト 2-49
共存 5-2
構成 7-8
データベース・ファイル様式 2-49
定義 G-6
配布ログ 2-49

SPCAUT キーワード 2-40
SQL/400 (構造化照会言語/400) G-6
SSCP (システム・サービス制御点) G-6
定義 G-6
SST (システム保守ツール) 2-46, 2-54
STRCBLDBG コマンド A-29

T

TOFILE パラメーター
値 A-9
TRNRND キーワード B-1
TRNTBL キーワード B-1

V

VSS (ベクトル記号セット) G-7

W

WRKJOB コマンド 4-16

X

X.25 パラメーター

定義 G-7

数字

2 進データ同期通信 (BSC)

オペレーティング・システム/400 プログラムでのサポート

2-2, 4-2

使用される戻りコード 2-36

定義 G-2

特殊文字

***EXCLUDE** キーワード 2-44

***PUBLIC** キーワード 2-44

***SIGNOFF** キーワード 2-48

***SPLCTL** キーワード 2-40



プログラム番号: 5763-SS1

Printed in Japan

日本アイ・ビー・エム株式会社

東京都港区六本木 3-2-12 〒106
TEL (03) 3586-1111



SC88-5342-00